

【御釜神社】 驛の西北半軒、釜前町にある。鹽竈神社の攝社で、玉垣内に海水を湛へた鐵製の火釜が四個ある。口徑何れも約一米、往古鹽土老翁しおつちのおきなが鹽を煮るに使用したものと傳へて居る。毎年八月五日に、水替の神事があつて、この水を取り替へる。

【野田の玉川】 驛の西南二軒、鹽釜街道の北に接する處にあり、古の名所の遺跡で、老松數本あり、玉川碑が立つて居る。

【末松山址】すえのまつやま（一圖わ7） 驛の西南三軒半、多賀城村八幡にあり、宮城電車多賀城驛の西南半軒、丘上に古松が二本存するのみである。往昔は著名なる名所として詠歌多く、觀應年間僧宗久の紀行に見えて居るからその頃尙勝地であつたと思はれる。

夕日さす末の松山霧晴れて
秋風かよふ波の上かな

宗 久

【菖蒲田海水浴場】しやうぶだ（一〇圖た4、一一圖や7） 驛の東南約七軒、途中まで發動機船の便がある。旅館 大東館、翠

岩切を出て東北に向ひ利府りふ四軒二を過ぎ丘陵の間を進み、右に赤沼を望み、右に分れる松島道を横ぎり、尙も東北に進み、東に折れて松島まつしま一軒七に着く。

松島驛（二圖か4、一一圖や1） 宮城縣宮城郡高城村反町

仙臺から二四軒一四哩九 四十五分間

▽松島電車 驛前 松島海岸間 四軒一―二哩五 十七分間

▽乗合自動車 松島海岸行 石巻行 矢本行 吉岡行

【松島】（一一圖） 松島驛から電車または自動車による外、仙臺から宮城電車によれば四十五分間。

▽旅館 白鷗樓 松島ホテル 觀月樓 東洋ホテル

▽名産 竹箸 茶 筍 貝細工 埋木細工 紅蓮煎餅

松島は松島灣の内外に碁布せる百餘の島及灣岸の勝景である。島は地質上第三紀層の凝灰岩から出來たものが多く、一般に甚だ低く、殆ど同じ高さを保ち、海波の浸蝕作用によつて奇形を呈し、水面に接する處深く凹入おうにゆうしたのもあれば、石門になつて居るものもある。島上には松樹が生え、その緑と灰白色の凝灰

119頁-124頁 落丁



に達する。これより海拔四五百米の山頂に登れば、大海祇神社の祠があり、太平洋上の眺めが廣く、その眺望絶佳の地點を無双峰と呼ぶ。

裏廻りは無双峰の傍の急坂を下り、朝日岩、夜光石、黄金石、天狗の三刀石、三日月石、天柱石、御鉢石などの巨岩を眺め、胎内潜りの奇勝を過ぎ、更に開山上人座禪石、山形石、影向石、陰陽石などの奇岩を見て、坂を下り密林の間を進み、芍薬園に至る、これより海岸に出で千疊敷の壯觀を見、千人澤、天狗澤、金波越、銀波越、御船澤、大平、袈裟懸松、御籠岩、御路地崎、宮ヶ崎、黄金崎、大函崎、小函崎などを過ぎる。中にも大函崎は島の東端にあたり、斷崖切るが如く壯觀を極める。小函崎から三幅對の掛圖石、太鼓石、七福神石などを見て賽ノ河原から再び山口に入り、朴の木原を経て阿彌陀峠を越え、山ノ神社、愛宕神社を過ぎ黄金山神社に歸着する。表廻りは往復二時間、裏廻りは往復五時間を要する。

陸羽東線

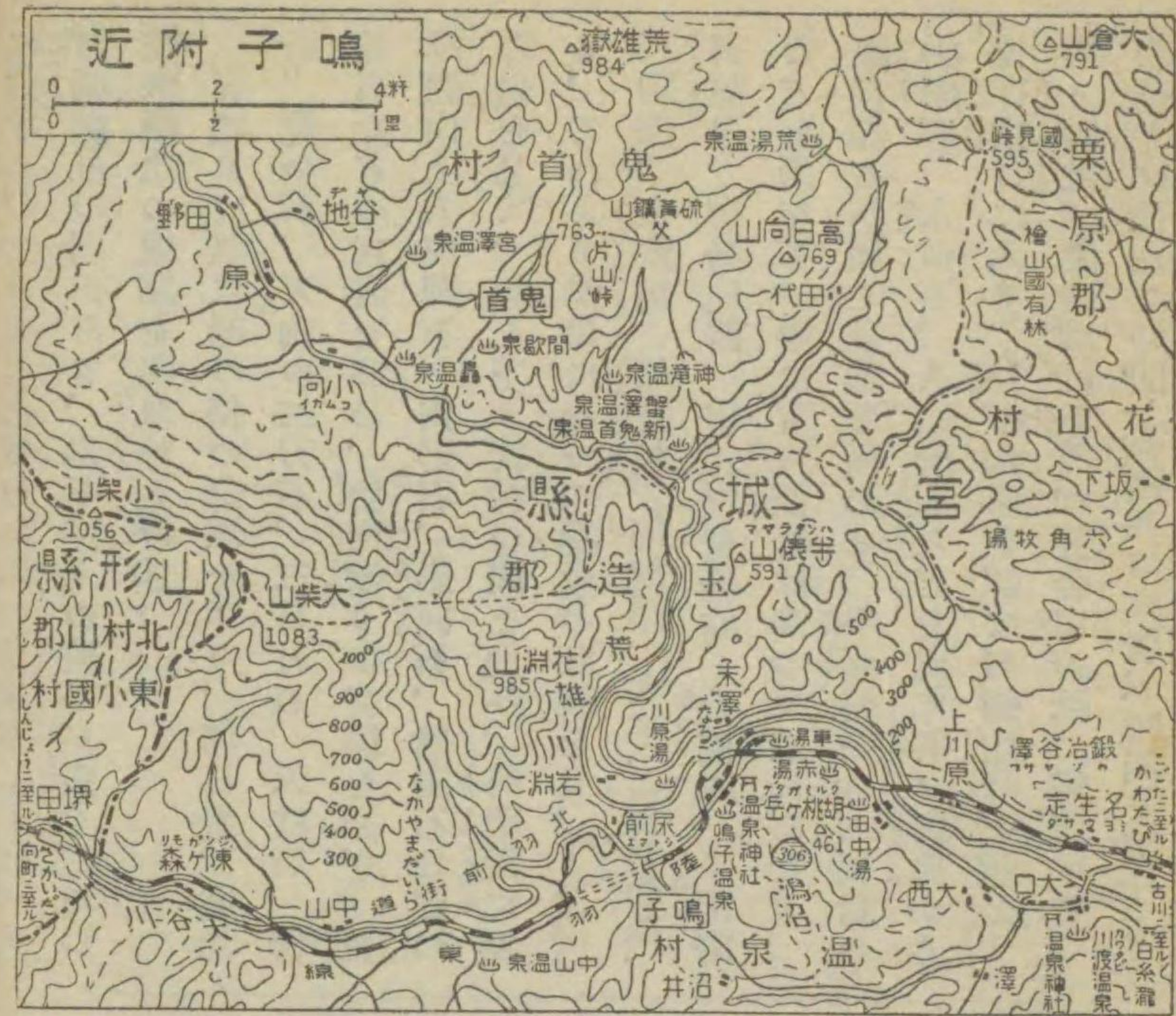
小牛田 新庄間

九四杆一五八哩五

小牛田から東北に向ひ、稻田の間を進み北浦二哩五陸前古川三哩三中新田三哩八を過ぎ北に轉じ荒雄川の谷に入り、岩出山五哩五池月四哩八を経て紅葉に名高い小黒ヶ崎山を右に見て玉造の温泉郷に入る。川渡六杆三 鳴子六杆一を過ぎて山形縣に入り堺田に着く。平三哩二を過ぎ山形縣に入り堺田に着く。

【川渡温泉】(三圖か4) 川渡驛の西南一杆半、自動車の便あり、荒雄川の右岸中森山の山腹に位し、硫黄泉及鹽類泉あり、胃腸病、リウマチス、神經諸病などに効くと云ひ、特に脚氣の名湯として古來知られて居る、附近に紅葉の名所小黒ヶ崎、白絲瀧及美豆の小島などがある。旅館 藤島、川渡ホテル、新湯、桔梗屋、高久。

【田中温泉】 川渡驛の西南二杆、自動車の便あり。旅館 高友、田中湯。



【鳴子温泉】(三圖か4) 鳴子驛所在地、食鹽含有アルカリ泉、硫黄泉、酸性泉あり、皮膚病、腺病、リウマチス、婦人病などに効くと云ふ。旅館 大沼、横屋、鳴子ホテル、遊佐屋、松本外數軒。

【湯沼】 驛の西南一軒半、鳥谷ヶ森山の山中にある。水面は海拔三〇六米、四周環壁を廻らし、火山分類の上からマイルと稱する種類に屬するもので、東北には胡桃ヶ岳(海拔四三米)を仰ぎ風光が美しい。

【河原温泉】 鳴子驛の東北約半軒、弱鹽類泉でリウマチス、婦人病、腺病などに効くと云ふ。旅館 姥の湯、河原湯。

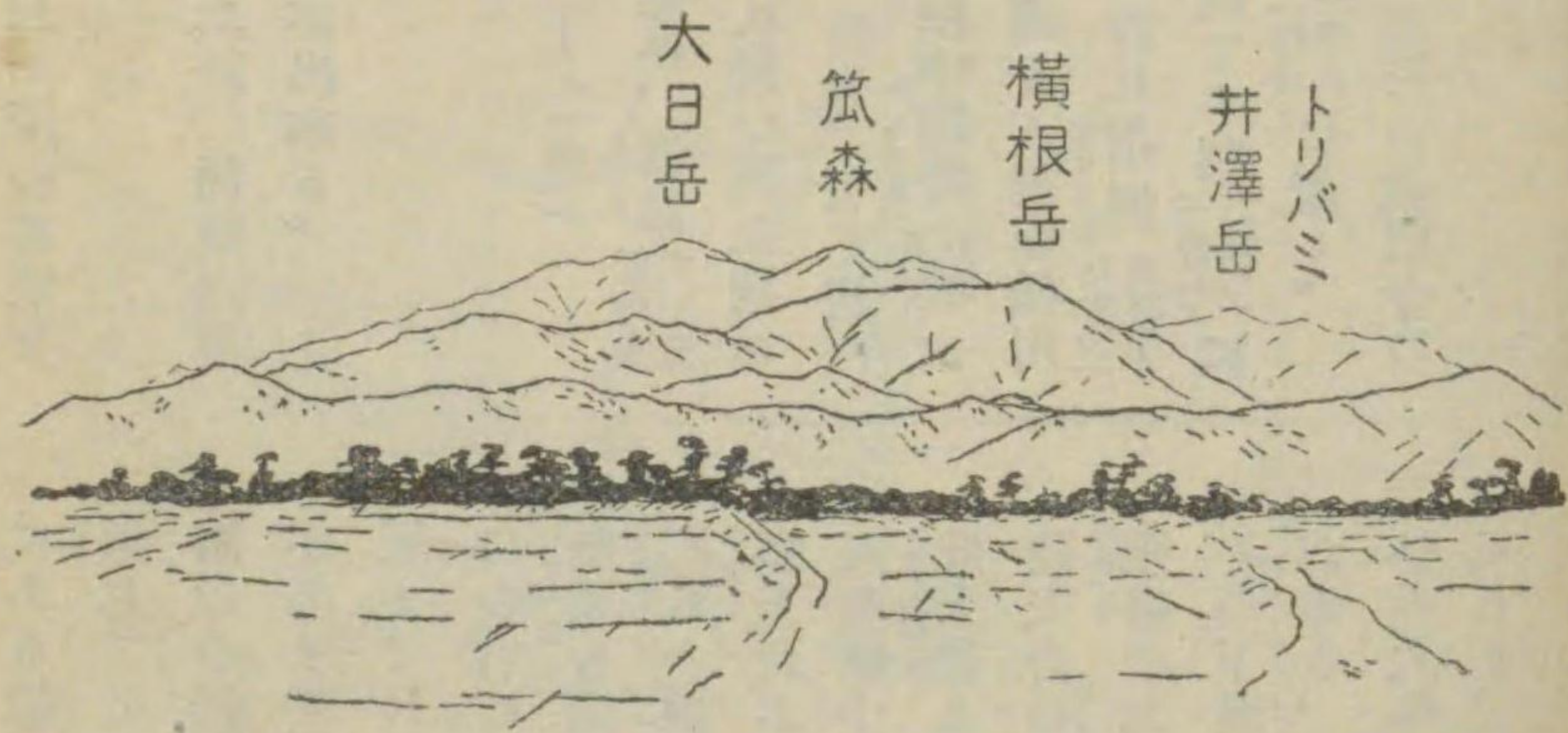
【新車温泉】 鳴子驛の東北約一軒、自動車の便あり、鹽類泉で胃腸病、婦人病、リウマチス、腺病に効くと云ふ。旅館 菅原、高繁。

【元車温泉】 鳴子驛の東北約一軒、自動車の便あり、鹽類泉で胃腸病、婦人病、リウマチスなどに効くと云ふ。旅館 金忠、三階、三塚、鳴子保養院ホテル。

【赤湯温泉】 鳴子驛の東北約二軒、自動車の便あり、

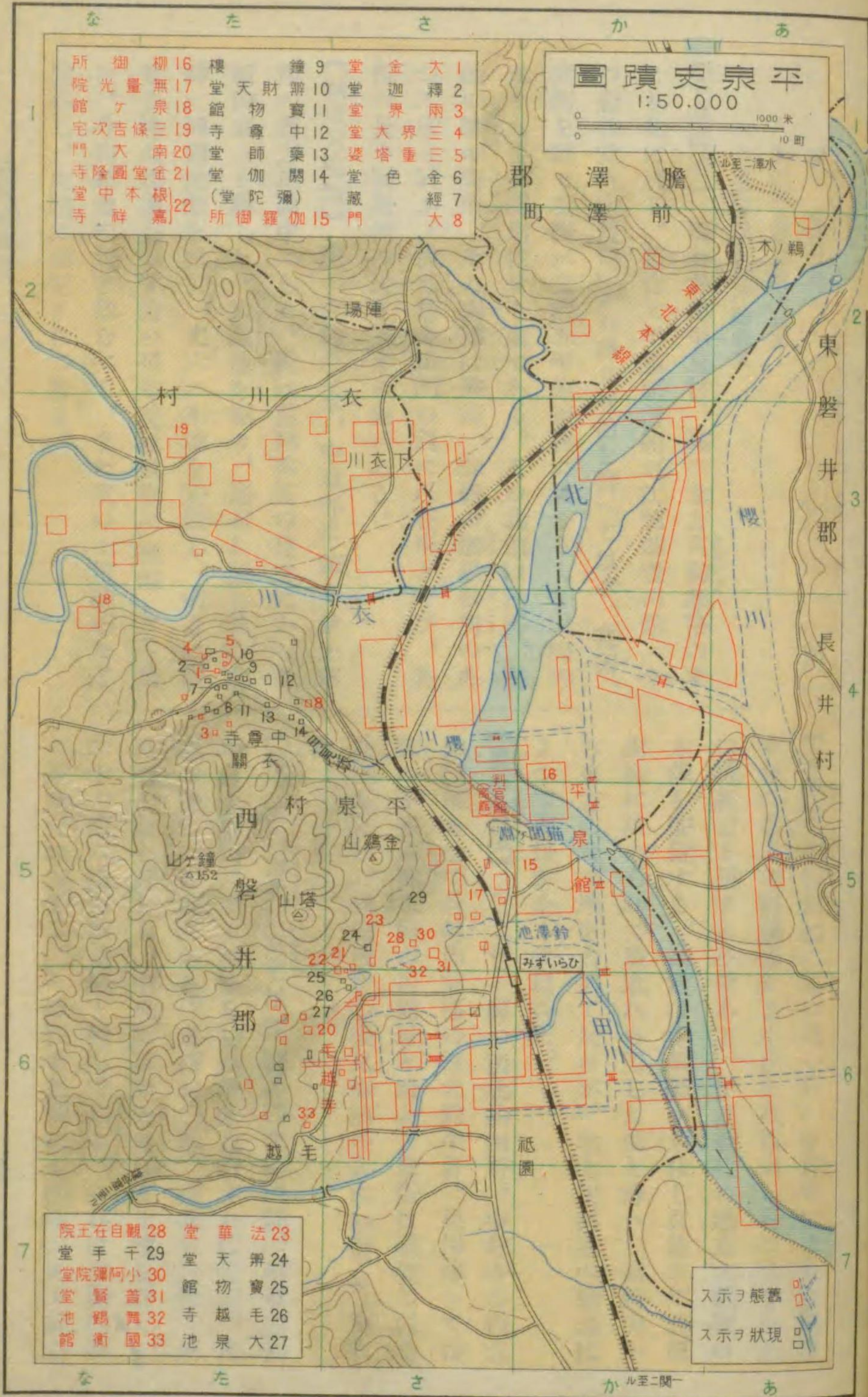
二軒半登れば茶店がある。前面に横根岳の森林が見える、これよりぶなの美林に入つて東桂澤を渡れば急な登りとなつて約三軒で中小屋に達する。六月から九月中はこの小屋に宿泊することが出来る。そこから尙一軒ばかり登ると森林は盡きて谷地に出る、こゝを古谷地と云つて草地に白樺の大木が散見され、前面には笹森が聳え眺望も次第に雄大になつて来る。キヤムピングなどに良い處である。こゝから左手に谷を隔て、栗駒山の裾を見て笹森の右手を三軒ばかり緩やかな登りを行くと栗駒山の鞍部に達する、栗駒の山頂は左手にピラミッド形に聳え、その右に遠く鳥海山の雄姿が現はれて、展望は益々雄大になる、この鞍部から五〇米

仙臺盛岡間



栗駒山

ほど下ると磐井川の源流がある、そこから左手の小徑を辿つて偃松帯と芝生の急な斜面を二軒半ばかり登ると山頂即ち大日岳に達する、山頂は西南にやゝ緩やかな尾根を走らし、西北面は概ね偃松帯で東南は急な草地の面となつて居る。山頂の眺望は東方北上川下流の平野を隔て、太平洋を望み、東北に早池峰山、北方井澤岳の上に岩手山の頂を見、西方は鳥海山、西南は月山を望み、その間、内平野のかたに日本海が見える。南方は船形山及藏玉山に對し、眺望頗る雄大である。頂上より西南に進むこと一軒に駒形神社があり、夏季参拜者が多い。山頂から尾根を西南に進み偃松を切開いた道を右手に下ると三途川の谷



仙臺盛岡間

を右に見、左手に劍山の岩峰を見つゝ二ヶ所の谷地を過ぎると直ぐ酢川温泉に達する。
 酢川温泉から奥羽線湯澤驛まで約四二軒、同院内驛まで四四軒、この方面からも登ることが出来る。

大船渡線

一ノ關 折壁間 五〇軒一三二哩二

一ノ關を出て東に向ひ丘陵の間を進み、眞瀧五軒五を過ぎ北上川を渡る。川はこの上流八軒の間丘陵の間に峽流をなし兩岸秋季紅葉の美がある。暫く川に沿うて下り次に長きトンネルを経て陸中間崎八軒に着く、これより砂鐵川の河谷を北に溯り、陸中松川七六四を過ぎ、狛鼻溪を右に見、東に折れ摺澤五軒八に至る、更に南に向ひ千厩五軒七を経て小梨三軒七に至り東折して矢越四軒二を過ぎ折壁二軒六に着く。
 【布佐窟】 陸中門崎驛の北一軒半、布佐の最明寺の背後にある石灰洞。

にある指定の名勝。砂鐵川が石灰岩の斷層に沿ひ浸蝕して造つた延長二軒餘の峽谷である、水清らかに兩岸の岩壁削るが如く、春は藤山吹、秋は紅葉の美があり、夏は清風を楽しむことが出来る。驛から長坂まで自動車の便がある、船に乗り溪水を溯れば溪口の右に鏡明岩を見る。更に進めば左に凌雲岩が削壁を造る。右には石灰洞がある。その洞内に毘沙門天の像が祀られて居る。それでこの岩窟を毘沙門窟と云ふ。次に右に吐雲峰を望み、更に上つて左に天を摩する岩壁を仰ぐ、これが峽中第一の眺めで、壯夫岩と呼ばれる。これに對して右に少婦岩が立つ、壯夫岩の續きに石灰岩の裂罅を流下する小飛泉、大飛泉の二瀧がある。同じく左に高く馬鬣岩が聳え、その下溪水に接して曲屏岩が立つ、次には歩霄岩がある、これには登ることが出来る、その上からは溪谷の大半が一目に見える、これから上流は船を曳いて上り、右に曲つて行けば右手に二枚屏風を立てたやうな高い岩面が仰がれる。その中ほどに鐘乳石の

願主 權律師賴榮

大檀那左近將監平親家

大檀那當國大將沙彌義慶

【平泉館址】 西磐井郡平泉村、驛の北方高館部落たかたての東より北に亘る。嘉保元年藤原清衡が江刺郡豊田館（今の岩谷堂町字豊田）から移り居館を構へて以來、基衡、秀衡を経て泰衡が文治五年源賴朝に滅さるゝまで四代九十九年の間居住せし處である。その北部は清衡、基衡の柳やなぎの御所ごしよ、その南部は秀衡、泰衡の伽羅御所きゃらごしよのあった所と云ふ。尙毛越寺山門の西に八花形と呼び、秀衡の長子國衡館の址と稱する處がある。

【無量光院址】 驛の北約八〇米、中尊寺に至る途上部落の西方田圃中にある。院は藤原秀衡の建立にかゝり新御堂とも稱した。大苑池たいえんちを掘り、庭石を配し池の北畔に阿彌陀堂を建て、丈六の本尊を安置し、前方に殿堂を連ね規模全く宇治の平等院鳳凰堂に類似して居た。今尙苑池の址を認むべく、また堂の土壇礎石など遺存し、史蹟に指定されて居る。

仙臺盛岡間

【高館址（衣河館）】 驛の北一軒、中尊寺に至る道路の東側にある老杉鬱蒼たる小丘を高館山と名づけ今丘上に義經堂と稱する小堂あり、伊達綱村の建立で義經の本像を安置する。高館は源義經が居住し文治五年藤原泰衡に攻められて戦敗れ自刃した處と傳へ、高館山から東方に及ぶ地を占めて居たが、北上川河道の變遷によつて舊址が全く失はれた。

【泉ヶ館址】 いずみ（二二圖） 驛の西北約四軒。中尊寺の西北山麓にあつて戸河内部落の東北約半軒。里俗傳へて秀衡の子泉三郎忠衡の居館址と云ふ。忠衡は義經の同心なりしたため、義經敗亡の後兄泰衡の兵に襲殺せられた。

【傳、三條吉次信高宅址】 でん 驛の西北約四軒、川東部落から上衣川に至る道路を約三〇米北行すれば道端、民家の後方の田圃にある。東西五〇米、南北三〇米、周圍に土壘を繞らし、中央に草原となれる土壇を存し、二十六個の礎石が整然と列んで居る。これは五間四面の屋舎の址である。その西方數間にも土壇があり礎石

が点在して居る。里俗この地を長者ヶ原と呼び遺蹟を吉次屋敷址と稱へ、藤原氏盛時の頃の金賣商三條吉次信高の宅址と傳へて居る。

【毛越寺址】 驛の西約九〇米の山麓にある。今の毛越寺本堂の東方に南大門址があり礎石が整然として遺存する。これから東方に土壘が連り、今の山門の傍で北折し山際に至り更に西折して居る。この土壘の内部門址の北には東西に長く大泉池があり、中島が僅に水面に現はれて居る。その西北方に山谷の優美なる塔山とうやまがあり、山麓と大泉池の間に二三の堂宇がある。この地域は舊伽藍主要建造物のあつた處である。土壇上に五間四面徑約一米半の大礎石が舊規の儘に残存しこれが金堂圓隆寺址である。今壇上に小堂があり、薬師佛を安置して居る。その前面左右に鼓樓、鐘樓の址があり、何れも礎石点在して金堂の側面からこの兩樓に連つた廻廊の土壇礎石がまだ僅に残つて居る。鼓樓址の西に經藏の址あり、金堂址の西北に講堂の土壇を存し、礎石が皆残つて居る。

衛が歿したのでその遺志を繼いで造立し、また觀自在王院は基衛の妻の建てたものである。更に周圍には總社、日吉、白山、祇園、北野、稻荷など當時都で信仰の盛んであつた神を勸請して鎮守となし、その宏壯なる規模は遙に中尊寺を凌駕した平泉第一の大伽藍で、奥州藤原氏の富榮を示して餘あつたが、爾後次第に衰微を重ね今は僅にその遺址を存し、史蹟に指定されて居る。

觀自在王院址の北に千手院と號する草庵がある。元舞鶴池の中島に建てられた鐵塔の塔身及臺座を所藏する。塔身には文和四年の銘文がある。更に千手院の北金鷄山の東麓に總社金峯山の址がある。その附近に大礎石十數個点在し古瓦の破片を散在する。その礎石古瓦などによつて藤原氏以前に營まれた廢寺の址と察せられるが、草創沿革に就いては何等傳はるものがない。【達谷窟】 驛の西南六軒、嚴美に至る途中で自動車たつごのいわやの便がある。窟内には毘沙門堂あり、前面九間の舞臺造で、側面の高い木階により堂内に達する。こゝは坂

更にその西方に大土壇があり、壇上大礎石が位置を變ぜずして遺留し、五間四面(廻縁付)の大堂宇の址を見るは根本中堂であつた嘉祥寺の址である。金堂の東隣にある桁行梁間共に五間、單層草葺の堂宇は江戸時代再建の常行堂で、その前方に鐘樓の假屋がある。常行堂の東に法華堂があり礎石が点在する。尙常行堂の後方土壘の外側に東面せる辨天堂があり、大泉池の西畔に近年竣工した寶物館がある。この一區劃の東隣道を隔て、老松の繁茂せる土壇は觀自在王院の舊址で、今二字の小堂が前後して存する。元大阿彌陀堂のあつた位置で、その東に小阿彌陀堂の址がある。この遺址の南方の田圃は一段と低く一區劃をなして中に小丘を残して居る。こゝは舞鶴池の址で舊池畔の處々に庭石を遺存する。尙小阿彌陀堂址の北方には基衛の妻の墓と傳ふるものがある。

このやうに舊毛越寺主要伽藍の礎石は殆ど舊規の儘に存し、よくその盛時の壯觀を憶はしめる。寺は主として藤原基衛の建立にかゝり、嘉祥寺は竣工に先ち基上田村磨が山城の鞍馬寺に模して西光寺を建て多聞天像を安置した處と傳へて居る。窟の左方の岩壁には磨崖佛の磨滅して僅に残影を止めて居るものがある。

平泉を過ぎて陸羽街道を横ぎり、右に近く高館山の森を見、左に無量光院址、金鷄山、中尊寺の月見坂を見て櫻川を渡り東北に向つて史上に名高い衣川ころもがわを渡る。このあたり右窓に北上川を隔て、美しき東稻山たはしね(海拔九米)を望みつゝ北進して、更に廣い平野に出で前澤七軒七四哩八を過ぎ、右方北上山地の連嶺を見、前方にその最高峯早池峯山はやちね(海拔九〇米)を仰ぎ、陸中折居おりの三哩三を過ぎ、水澤みずさわ三哩一に着く。

水澤附近

- 水澤驛 (一圖か3) 岩手縣膽澤郡水澤町
- 仙臺から 一一六軒三二七二哩三
- 盛岡から 六五軒二一四〇哩五
- △乗合自動車 姉體行 前澤行 岩谷堂行 出棚行 高橋行
- △旅館 岩井屋

【駒形神社】〔國幣小社〕(二圖か3) 驛の西南一軒、延喜式内の古社で駒形神を祀つて居る。もと駒形山の頂にあつて、こゝはその里宮であつたが、明治三十六年ここに遷座され、山上の社は奥宮となつて居る。古來農産物や馬のために祈願する者が多く、境内及これに接する水澤公園は櫻樹が多く、園内には高野長英の碑がある。長英は水澤の人で、西洋の學問を紹介することに努力して幕府の忌諱に觸れ、獄中の人となり、後獄を脱し、嘉永三年悲壯な最後を遂げた。尙彼の生れた水澤町小路には誕生碑が立つて居る。

【くるす場】 驛の西南約三軒、水澤町の郊外鹽釜にある。慶長年間木挽四郎兵衛が深く天主教を信じ、國禁に觸れて磔刑に處せられた場所と傳へられ、その北半軒に五島壽庵の居館の址と稱する處がある。壽庵は鹽釜の邑首で、天主教を奉じ、慶長年間膽澤川の水を引き膽澤郡東南部の平野に灌漑する壽庵堰を開鑿した人である。また鹽釜の東に接する福島で発見された天主教のメダルが今四箇残つて居る。その二箇は同所菊池

安吉氏の屋敷内にある觀音堂に祕藏されて居たもので今菊池氏が持つて居る。他の二箇は鈴木傳氏の舊宅を壊した時床下から発見されたもので、今同氏が持つて居る。これらのメダルには聖母または十字架上のイエスを拜する圖が鑄出されて居る。

【緯度觀測所】 驛の西南一軒半、北緯三九度八分四秒、東經一四度七分五二秒、海拔六二米。地球回轉軸の位置の變化を知らうとして緯度の變化の量を恒星觀測によつて調べて居る天文臺で、この事業のために列國が共同的に設けた世界の三觀測所の一である。觀測に用ゐる天頂儀は反射望遠鏡でドイツのワンシャツフの製造した極めて精巧なものである。これは廣さ三米平方高さ約二米の室に、地下五米の處から花崗石で積み上げた土臺の上に据ゑられて居る。夏季は午後九時から翌日午前三時まで冬季は午後七時から翌日午前一時までの間に於て天頂に近く通過する六等星位の小さな星の子午線通過の際の赤緯を測る。その觀測は西曆一九〇〇年から始まつて今日に繼續して居る。最初か

近く膽澤城址の森を望み膽澤川を渡つて金ヶ崎(七軒六に着く。

金崎驛 (一圖か3) 岩手縣膽澤郡金崎町

仙臺から 一二三軒九七七哩
盛岡から 五七軒六一三五哩八

ら二十二年間は觀測簿をドイツのポツダムにある萬國測地學協會中央局に集めて計算し極軌道を算出して居たが、一九二二年以降はわが國のこの觀測所が萬國天文同盟會緯度變化委員會の中央局となつてイタリヤのカルロフォルテイ及米國のユキアの二緯度觀測所の觀測簿を毎月集めて計算して居る。理學博士木村榮氏がZ項を發見して世界的の名聲を得たもこの天文臺に於てしたことである。

【岩谷堂城址】 驛の東北約八軒、乗合自動車の便がある。岩谷堂町の東北端の丘上にある。その東北は人首川の絶壁に望み、本丸、二丸枳形の址があり、枳形の所には土壘池などが残つて居る。もと葛西氏の一族江刺氏の居館であつたが、寛文以後は伊達氏の一門岩城氏の居城となり明治維新に及んだ。本丸跡に六面塔の供養碑があり、「延慶四年六月十五日」の願文がある。

水澤を出て、膽澤川の扇狀地を西北に進み、左方に遠く焼石嶽(海拔一、五八米) 經塚山(二、三米)を眺め、右に

【膽澤城址】 驛の東南約三軒、佐倉河村字宇佐にある。今陸羽街道がその西南部を横ぎる。地域は方八町と稱し外側の土壘は破壊せられて道路となり僅に東北隅に残影を見るに止まる。内部は稻田と化したのが、中央部南北一〇米東西三〇米ばかりは一段高くなり、内城の位置が知られる。城内の隨所より當時の古瓦、陶器、土器などの殘片を出土する。延暦二十一年坂上田村麿の築くところ、尋いで多賀城にあつた鎮守府を移されて以來蝦夷經略の根據地となつた。爾來二百數十年を経た天喜年間には源賴義がこゝに居つた事が知られるが、停廢の時は明かでない。遺址は指定の史蹟である。

【鎮守府八幡宮】〔縣社〕膽澤城址の東北隅外にある。本

殿、拜殿及小池を存し、創祀は明かでないが、膽澤城の鎮守であらう。社務所に城址出土の遺物を多數所蔵して居る。

【鳥海柵址】 驛の西南約一軒半、金崎村二ノ宮の丘上にある。東方は斷崖、南北兩側は深き澤の崖に面し、西方は浅き濠とその外側に造られた土壘を以て限られ、大さ南北二五〇米東西三〇〇米に及ぶ。こゝは前九年役の戦場で安倍頼時はこゝに歿し、その子貞任宗任なども陸奥守源頼家に抗して破れた處である。

金ヶ崎から北進し左方遠く鞍掛森山(海拔四三米)前塚見山(九二五米)を望み、北上川の支流和賀川を渡り黒澤尻(九軒七)に着く。

黒澤尻驛 (二圖か3) 岩手縣和賀郡黒澤尻町

仙臺から 一三三軒五八三哩

盛岡から 四七哩九一二九哩八

▽横黒線 黒澤尻 横手間 六〇軒三三七哩五

▽旅館 南部ホテル 野村屋 齊藤屋

の砂岩、凝灰岩、頁岩と花崗岩、石英粗面岩より成り、鑛床はこれらの岩石中に存在する石英銅鑛脈で鑛石は黄銅鑛。精鑛の一部は茨城縣の日立鑛山に、一部は山形縣の永松鑛山に送る。この鑛山は大正八年頃までは數千の坑夫を使役して東北屈指の鑛山であつた。

【夏油温泉】 (三圖か3) 驛の西南一五軒、夏油川の清流に臨む。弱鹽類泉でリウマチス、婦人病に効くと云ふ。旅館 高橋、自炊制を主とする。

岩澤から西に進めば溪谷狭まり、左右に山脚の傾斜急なる處、秋季紅葉を賞することが出来る。仙人製鐵所の廢墟を右に見、和賀仙人(二哩一)を過ぎ、尙も線路は和賀川の溪谷に沿うて蛇行する。仙人峠のトンネルをぬけると大荒澤(二哩三)に着く。

大荒澤驛 (一圖さ3) 岩手縣和賀郡湯田村

黒澤尻から 二五軒三一五哩七

【卯根倉鑛山】 驛の南方一二軒、南本内川の上流に

仙臺盛岡間

横 黒 線

黒澤尻 横手間 六〇軒三三七哩五

黒澤尻を出て西北に向ひ東北本線から左に分れ後西に折れ、平和街道の北に並び和賀川の河谷を遡る。左右の展望廣濶、岩手縣内の最大平野を眺めつ江釣子(五軒三) 藤根(三軒一)を經、尻平川を渡り横川目(六軒七)を過ぎ漸く山間に入り、和賀川を南に渡り右窓に網取鑛山の坑場を眺つ、岩澤(二哩四)に着く。

岩澤驛 (一圖さ3) 岩手縣和賀郡岩崎村

黒澤尻から 四二軒二二六哩二

【網取鑛山】 驛の東北二軒、三菱鑛業會社經營の金銀銅山。地質は第三紀凝灰岩及砂岩の間に石英粗面岩が貫き、角礫質凝灰岩に鑛床を包藏する。精鑛は一部茨城縣の日立鑛山に送り、一部は香川縣の直島製鍊所に送る。

【水澤鑛山】 驛の南方三軒半、水澤川の上流にある古河鑛業會社經營の銅山。地質は主として第三紀層

ある銅山、藤田鑛業會社の經營、地質は第三紀の凝灰岩及頁岩とこれを貫く石英粗面岩及安山岩より成り、鑛床はこれらの岩石の裂罅を充填せるもので、産出價額約三十四萬圓、銅鑛は秋田縣小坂鑛山へ送る。

【本の松鑛山外五鑛山】 驛の西南一四軒、湯田村の東南部に位する銅山、日本製鋼會社の經營。鑛床は第三紀の凝灰岩中に胚胎し、多く黄銅鑛脈をなす。

【當樂の楓林】 (二圖さ3) 驛の東北一軒、

大荒澤を出て西に進み、陸中大石(四軒七)を過ぎ和賀川を北岸に渡り再び西に渡つて陸中川尻(四軒五)に着く。

陸中川尻驛 (一圖さ3) 岩手縣和賀郡湯田村

黒澤尻から 三四軒四一二哩四

【湯川温泉】 (三圖か3) 驛の南五軒、徒歩を要する。鹽類泉。旅館 清風館、外四軒あり、自炊制を主として居る。

仙臺盛岡間

【湯本温泉】(三圖か3) 驛の北四軒、自動車の便あり。鹽類泉で胃腸病、皮膚病に効くと云ふ。旅館 湯本ホテル、吉野館。

【土畑鑛山】 驛の南二軒餘、地質は第三紀層の凝灰岩石英粗面岩より成り、鑛床は石英粗面岩中に輝銅鑛、斑銅鑛、黄鐵鑛の細脈縦横に走り鑛樓をなすものである。銅鑛は茨城縣日立、秋田縣小坂の兩鑛山へ送る。

【赤石鑛山】 驛の北約九軒、湯田村分譯にある。鑛床は第三紀の凝灰岩中に胚胎せる石英鑛脈で、黄銅鑛を主とし微量の金分を伴ふ。茨城縣日立鑛山に送る。

陸中川尻から和賀川の支流鬼瀨川に沿ひ西に進み西南に折れ、奥羽山脈中著しき鞍部を示す分水界(海拔五米)を越えて秋田縣に入り、黒澤(五哩七)を過ぎ溪流に沿ひ三箇のトンネルを潜り相野々(五哩六)を出て旭川を渡ること三回、漸く山地を離れ平野に出

た要害の地である。今城址に小學校大運動場、鳥谷ヶ崎神社などがあり、岩手輕便鐵道は城址を貫通して居る。城はもと種貫氏の居た處で、天正年間南部氏の領となり、利直はその子政直を封じた、その後城代を置いて知行せしめて明治維新に及んだ。

【花卷温泉】(三圖あ3) 驛の西北七軒半、電車の便あり、無色透明の鹽類泉で胃腸病、神經諸病に効くと云ふ。湯は温泉から西方約一軒半距つた臺温泉から引いて居る。臺川に臨み後に萬壽山、堂ヶ澤山、小櫻山などを負ひ、東は廣潤なる平野が見渡される。遊園地その他文化的の施設、娛樂機關が備つて居る。附近に釜淵の瀧、緒ヶ瀨瀧がある。旅館 松雲閣、千秋閣、花盛館、蓬萊館。

【花卷温泉附近スキー場】 十二月から二月まで一米内外の積雪がある、初心者向の小規模な練習場が數箇所ある。入浴を主とするスキー家が盛岡附近から集る。【臺温泉】(三圖あ3) 花卷温泉の西約一軒半、自動車の便がある、單純泉、酸性鹽類泉あり、皮膚病、脚氣に効

仙臺盛岡間

で左窓に鳥海山の秀峰を望み横手(七軒七、四哩八)に入る。

黒澤尻を出て北進し松林の多い處を過ぎ豊澤川を渡り右に花卷川口の市街を見、花卷(七哩八)に着く。

花卷附近

花卷驛(一圖か3) 岩手縣稗貫郡花卷町

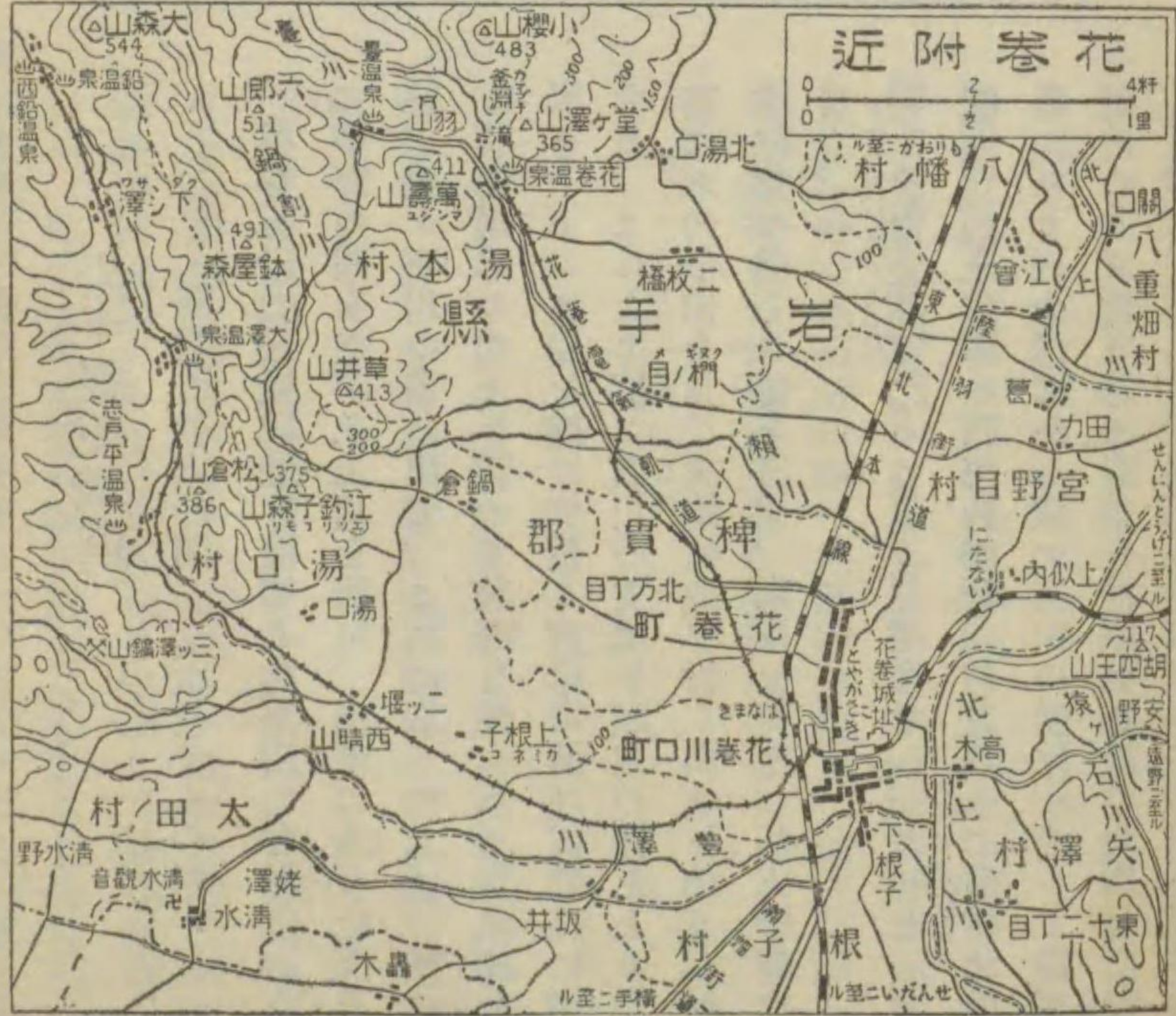
仙臺から 一四六軒一〇九〇哩八 三時間
盛岡から 三五軒四一二哩 一時間

▽岩手輕便鐵道線 花卷 仙人峠間

▽花卷温泉電氣鐵道線 花卷 花卷温泉間
花卷 西鉛温泉間

▽乗合自動車 川口町行

【花卷城址(鳥谷ヶ崎城)】 驛の東方約八百米、丘陵の一角にある。小學校の門のある所が追手門址である。城壁の大半及外濠が所々に残つて居るので、その規模の雄大であつたことが判る。即ち東西五〇米、南北四〇〇米、東は北上川に臨み、南に豊澤川、北に瀨川を控へ



くと云ふ。時宗に屬する光林寺、臺燒製陶場がある。旅館 阿部、金矢ホテル外數軒。

【志戸平温泉】(三圖か3) 驛の西一〇軒、電車の便あり。苦味泉で、リウマチス、皮膚病、胃腸病、婦人病などに効くと云ふ。松鞍山の翠微、豊澤川の清流に臨んで居る、附近に太田清水觀音、薄衣の瀧などがある。旅館 久保田。

【大澤温泉】(三圖あ3) 驛の西北約四軒、電車の便あり。無色透明の鹽類泉で、リウマチス、神経諸病、胃腸病などに効くと云ふ。附近豊澤川の溪流に臨み、秋季は紅葉が美しい。旅館 大澤温泉旅館。

【鉛温泉】(三圖か3) 驛の西北約一九軒、電車の便あり。無色透明の鹽類泉で、溫度攝氏六〇度、神経諸病、皮膚病、胃腸病、リウマチスに効く云ふ。豊澤川に臨む。旅館 藤徳、藤三、藤友、安淨寺。

【西鉛温泉】(三圖か3) 驛の西北約二〇軒、電車の便あり、無色透明の鹽類泉で、リウマチス、皮膚病、胃腸病、婦人病などに効く云ふ。附近諸温泉の最奥に位し

の毘舍門堂があり、中に巨大な木彫の毘舍門天像【國寶】が安置されて居る。高さ約六米(二丈餘)、臺座は床下に没し、光背は屋根裏に達して居る。形相の雄大なる稀に見る所で鎌倉時代のものである。この外に吉祥天と二鬼の木像がある。何れも國寶で特に吉祥天の像は高さ約二米(七尺)、その面貌姿態は極めて優美で平安時代の作である。

【熊野神社の經塚】 北成島毘舍門堂の東隣熊野神社の境内にあり。社殿の後の經塚よりは青銅製經筒、石櫃、壺、和鏡、刀身などを發見した。今東京帝室博物館の所有となつて居る。社殿の西南約一〇〇米の經塚からは壺と和鏡を出し今神社の神寶となつて居る。これらの遺物は何れも平安時代のもので、毘舍門堂の佛像と相俟つて平安朝末期に於けるこの地方の文化を徴すべき貴重なる資料である。

【上閉伊郡寶物館】 花巻から四六軒(二八哩七)遠野驛所在の遠野町にあり、主として南部家の古文書を陳列、公衆の觀覽研究に供して居る。

幽邃である。旅館 秀清館。

岩手輕便鐵道

花巻 仙人峠間 六五軒五十四〇哩七

花巻を出て花巻城址を横切り北上川の右岸に沿うて平野の間を進み北上川を渡り、山地に入り土澤を経て猿ヶ石川の邊に出で、これに沿うて上る。秋は紅葉が兩岸の山々を彩つて美觀を添へる。岩根橋を過ぎ、トンネルを抜けて暫く河岸に沿ひ、遠野に達する。これより猿ヶ石川の支流早瀬川の谷を上り左窓に六角牛山を見て次第に迫り行く山峽を辿り、秋季紅葉の美しき邊を過ぎ、海拔五七米の仙人峠驛に着く。

【北成島毘舍門堂】(二圖か3) 花巻から一二軒七(七哩九)の土澤驛の西南約四軒、和賀郡十二箇村北成島にあり、土澤町から猿ヶ石川の溪流に沿うて通ずる。縣道により北成島に着くと、猿ヶ石川の北岸に御山と稱する小山がある。その山上に二間三面寶形造

【沓掛の石灰洞】 遠野驛の東方早瀬川の岸に沿うて數多の石灰洞がある。觀音窟、錢鑄窟、蝙蝠窟はその主なものである。

【仙人峠】(一圖か3) 仙人峠驛から東に登ること二軒半、海拔八七米。そこから屈曲の多い坂路を下ると二軒餘で釜石鑛山線の大橋驛に着く。仙人峠驛から大橋驛までは駕籠及馬の便がある。

釜石鑛山線

大橋 鈴子間 一六軒一〇哩

大橋から甲子川に沿ひ東に下り、釜石町に達するもので、別に大橋から北方釜石鑛山に至る専用輕便軌道がある。

【釜石鑛山採鑛場】(三圖か8) 大橋驛から西北約三軒半に新山採鑛場があり、これより更に西北一軒に佐比内採鑛場がある。これらを總稱して釜石鑛山と云ふ。地質は古生層の粘板岩、石灰岩などを花崗岩、閃綠岩によつて貫いたもので、石灰岩の大部分は變

質交代作用を受け、拓榴石となり、同時に大小多数の扁豆状鑛體から成る鐵鑛床を生成して居る。

採鑛方法は坑内掘で新山露頭海拔約七〇〇米の處から高距二〇米乃至二五米の間隔を以て下底に向ひ坑道を設け、一番坑から六番坑まであるものを豎入坑道で到達する。採鑛した鑛石は専用鐵道、釜石鐵道などによつて鈴子製鍊場に送る。年産額番、〇〇〇噸。

この鑛山の發見は遠く享保年間にして、確實に採掘を開始したのは嘉永年中にある。その後鈴子の製鍊場が設けられ、漸次改善擴張して今は釜石鑛山會社の經營となつて居る。

【石灰石採掘場】 大橋驛の附近にあつて、採掘の石灰石は斜軌道により鈴子の製鍊場に送り、熔鑛爐で媒熔劑として用ゐられる。

【釜石町】(三三圖か8) 釜石灣に臨み、大波川の河口に近き處に位し、釜石鑛山の製鍊場所在地として繁榮を來し、三陸汽船會社、水産冷蔵會社などがある。人口約二萬三千。釜石鑛山會社の棧橋は三千噸級の

山を望み、松林と稻田を交々見ながら北に向ひ陸羽街道の左に並んで進み、石鳥谷七哩一に着く。こゝは早池峰登山者の下車驛である。

石鳥谷驛 (一圖か3) 岩手縣神戶郡石鳥谷町
仙臺から 一五七軒五九七哩九
盛岡から 二四軒一四哩九

▽乗合自動車 大迫行

【一里塚】 驛の東約半軒、陸羽街道の西に接して居る。塚の上に巨大な槻の木がある。

【早池峯山】(三三圖か7) 東北本線で北上川筋の平野を北行すると水澤驛から仙北町驛までの間右窓に北上山脈の上にこの山の緩かな隆起をなして居るのが望まれる。この山は岩手山に次ぐ岩手縣第二の高峯で、全山斑瀾岩より成つて居る。山開は五月三十日、閉山が十月一日とされて居るが、七、八月が登山者最も多く、年々約五、六千人に達すると云ふ。

登山路 石鳥谷驛から大迫まで二軒、自動車の便があり、これより徒歩岳川に沿うて岳まで一八軒、岳は

汽船數隻を横付けすることが出来る。

▽三陸汽船會社船航路 釜石 鹽釜間 釜石 宮古間

▽釜石鐵道 鈴子 大橋間

▽旅館 鐵屋 八卷

▽乗合自動車 遠野行 大槌行

【釜石鑛山製鍊場】 町の南部鈴子にあり、鐵鑛は石灰石と配合され、コークスと共に捲揚機で熔鑛爐に投入せられ、一方では熱風をこゝに送り込む。かくて熔鑛爐の下部から流出する銑鐵は或は市場に出し或は製鋼の材料に供せられる。熔鑛爐中で第八熔鑛爐が最も大きく、一晝夜の出銑能力二〇〇噸に及ぶ。製鍊場には附帶事業として、製鋼及副産物製造を行つて居る。製鋼のためには鹽基性シーメンズ、マルチン式二五噸爐を備へ、副産物は鑛滓煉瓦及硫酸アンモニアである。製品産額銑鐵約四萬噸、價額二百萬圓、鋼約五萬噸、價額約三百九十萬圓。

花巻を出て左方近く花巻温泉附近の萬壽山、堂ヶ驛

海拔五三米、縣社早池峯神社がある。社務所または民家で宿泊する。岳から北へ三軒の鶏頭山と毛無森の谷間に七折の瀧がある。

岳から早池峯山の頂上までは約九軒、岳川の流に沿うて東へ緩かな登りとなつて居る。ぶなや檜などの森林地を行くと、岳川が處々美しい溪流を見せる。笛貫の瀧附近を過ぐれば河原の坊の小屋がある。こゝから頂上までは約三軒、河原の坊で岳川を渡つて北に向ふ。登路は急坂となつて林も盡き高山らしい眺めとなる。南には薬師岳が望まれ、山麓の大森林が美しく見える。そこからいたどりの繁りが二〇〇米ばかり續く、これをいたどり坂と云ふ。それから俗に石跳七里と云ふ岩場になる。こゝから頂上までは奇岩、怪石の間で霧の時などは迷い易い處である。頂上に近く打石附近から約八〇米ばかりは軽いロッククライミングである。頂上は概ね岩石のみで可なり廣大である。こゝに早池峯神社の奥の院と休泊所があり、この山に特有な高山植物の南部とらのお、南部とらちそう、南部そもそも、早池

峯うすゆきそうなどが見られる。

山頂では南北見渡す限り北上山脈の山々が打續いて山腹には森林が黒く繁り、西方は遙に岩手山の火山圓錐を望み、東には太平洋岸に宮古灣や山田灣が望まれる。

尙早池峯山へは北麓門馬かどまからも登られる、門馬は山田線の區界驛から約一三軒自動車の便がある。こゝから山頂までは約一〇軒、閉伊川の支流御山川おやまに沿うて登り、四軒にして追分に達し、左手の澤を登り大きなとちや桂の林の美しい溪谷を経て青森と松、青森ひばの密林をなす急坂を辿ること二軒ばかり、次第に林も盡きてやつと身の丈位な唐檜や白樺の混生林に入る。道は岩場となつて益々急で偃松地帯に入り、高山らしき眺望も開けて来て頂上に達する。

この登路は早池峯登山路中最も便利で、山田線が門馬まで開通の曉は表口となるべきものである。岳口から登山すれば門馬に下つて盛岡へ、また門馬より登山すれば岳へ降つて石鳥谷へ出るのが興味が多い。別に

曆年間坂上田村麿の築いた斯波城のあつた所と傳へ、後に樋爪館ひづめと稱し、藤原氏の一族樋爪氏の居館を置いた所で、今城山公園が設けられて居る。

【勝源院の櫓】驛の北二軒半、町の北端にある。樹高一三米、地上一米の周圍三米餘。

日詰から北進し、右に城山を仰ぎ、遠く左方に南昌山なんしやう（海拔八六米）、箱ヶ森山あはら（八六米）を見ながら矢幅やはら（八軒四五哩二）に着く。

矢幅驛（二圖か3） 岩手縣紫波郡煙山村

仙臺から 一七二軒二一〇六哩四

盛岡から 一〇軒三六哩四

【南昌山】（二圖か3）驛の西方八軒に位し、夏季登山者が多い。その東方山腹に南昌山神社があり、作物の神として参拜者が集る。山麓に營林署經營の煙山苗圃がある。苗圃は杉、落葉松、けやき、ほうなどの苗木を仕立てる外、桐の造林面積廣く、外國樹種の見本もある。また圃内に櫻が多い。

遠野からの登山路もあるが、頂上まで四〇軒徒歩によらねばならぬので、この登路によるものは少い。

この山は高山植物中北海道その他北地の分子を含み且つこの山特有の種類を産するので、高山植物帯として指定せられ、公益上必要止むを得ざる場合の外これらの採集を許さざることとなつて居る。

石鳥谷から北進して松林の間を過ぎ瀧名川を渡り右に五郎沼を見、日詰ひづめ五軒三に着く。南部富士なんぶふじの稱ある岩手山はこのあたりから左窓前方に雄姿を見せる。また右窓に常に眺められた早池峯山はやちねはこゝで東北本線に最も近よつて直線距離二八軒に過ぎない。

日詰驛（一圖か3） 岩手縣紫波郡赤石村北日詰

仙臺から 一六二軒八一〇一哩二

盛岡から 一八軒七一六哩六

▽乗合自動車 日詰町行 志和行

【日詰町】驛の東北約二軒半、町の北にある城山は北上川を挾んで五ツ森山に對し、山上に城址があり、延

【乙部の枝垂桂】（二圖か3）驛の東方八軒、乙部村大萱おうが生瀧源寺境内にあり、高さ一六米、目通周圍一米七、幹は地上三米の處で三本に分れ、下垂せる枝は四米乃至一〇米、指定の天然記念物である。

【大萱生鑛山】驛の東方一二軒、乙部村にある住友合資會社經營の金山。鑛床は深成岩を貫ける含金石英脈で茨城縣日立鑛山ひたちに送つて製鍊する。

矢幅から北に向ひ灌漑用水の通ずる鹿妻堰かづまぜきを過ぎ、徳田米を産する稲田のたゞ中を直進し、仙北町せんぼくちやう（八軒四五哩二）を過ぎ、西北に析れ雫石川しずくいしを渡り、盛岡もりおか一軒九に着く。

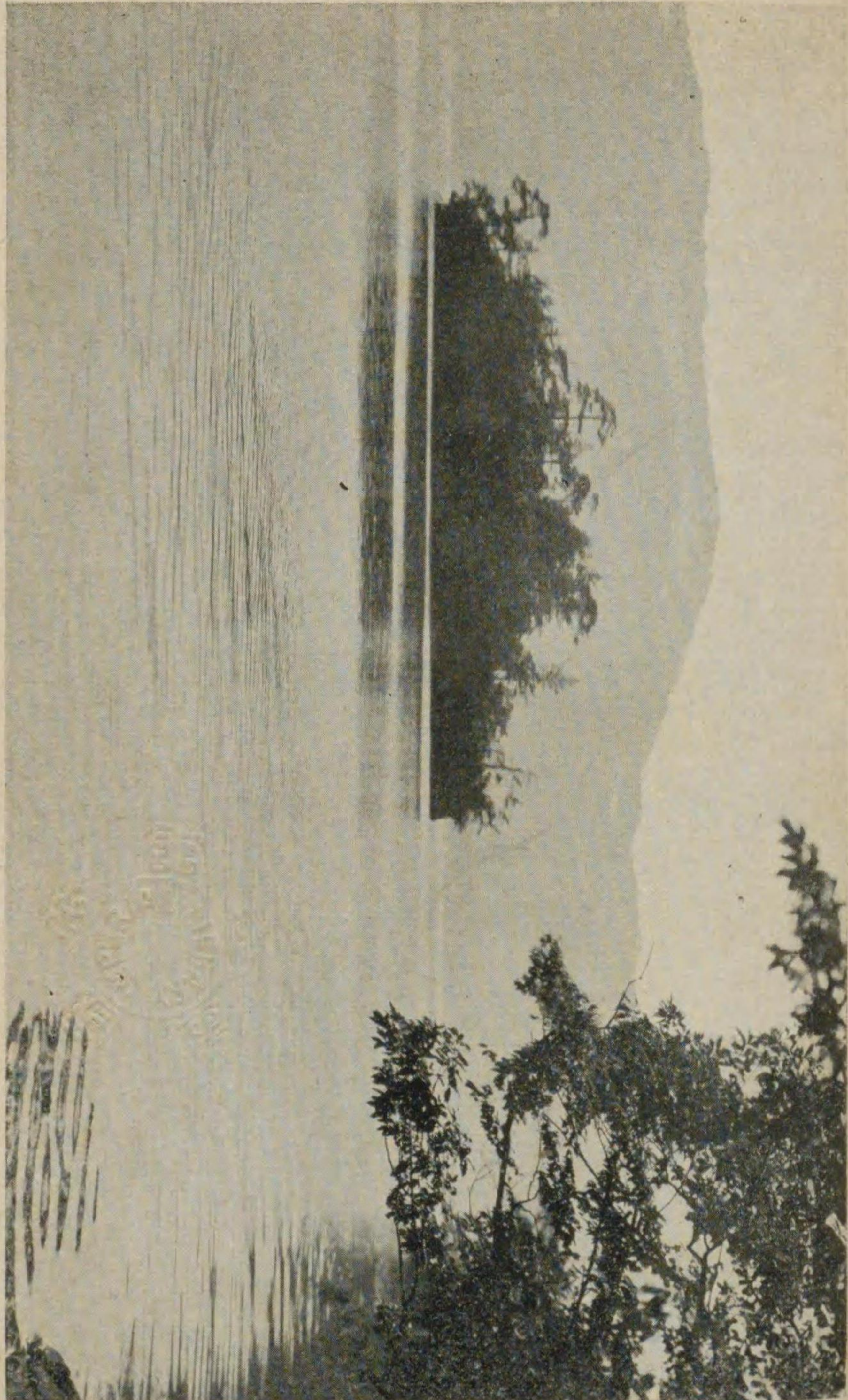
東北地方主要驛乘降人員表

東北地方主要驛乘降人員表(昭和元年度)

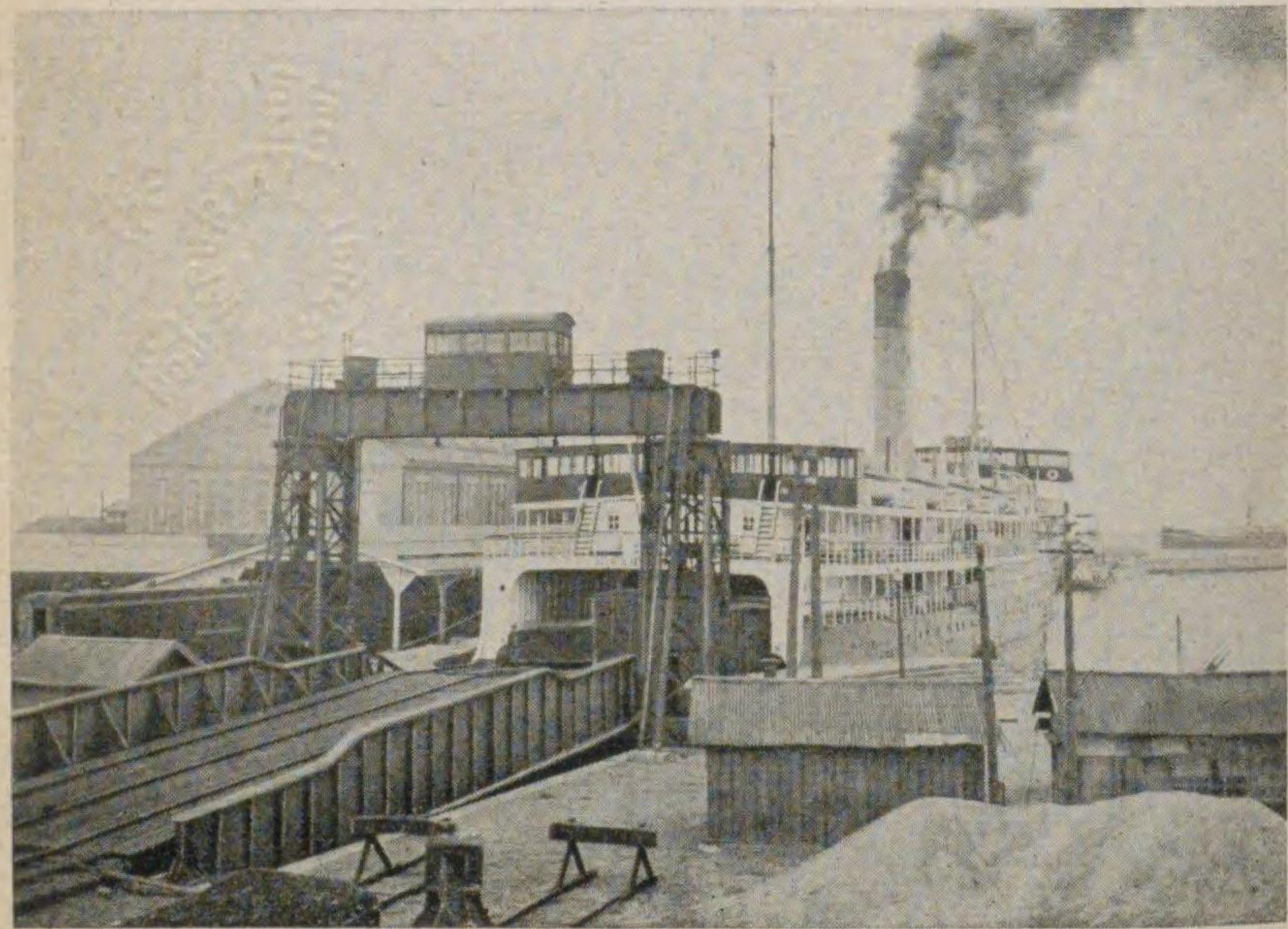
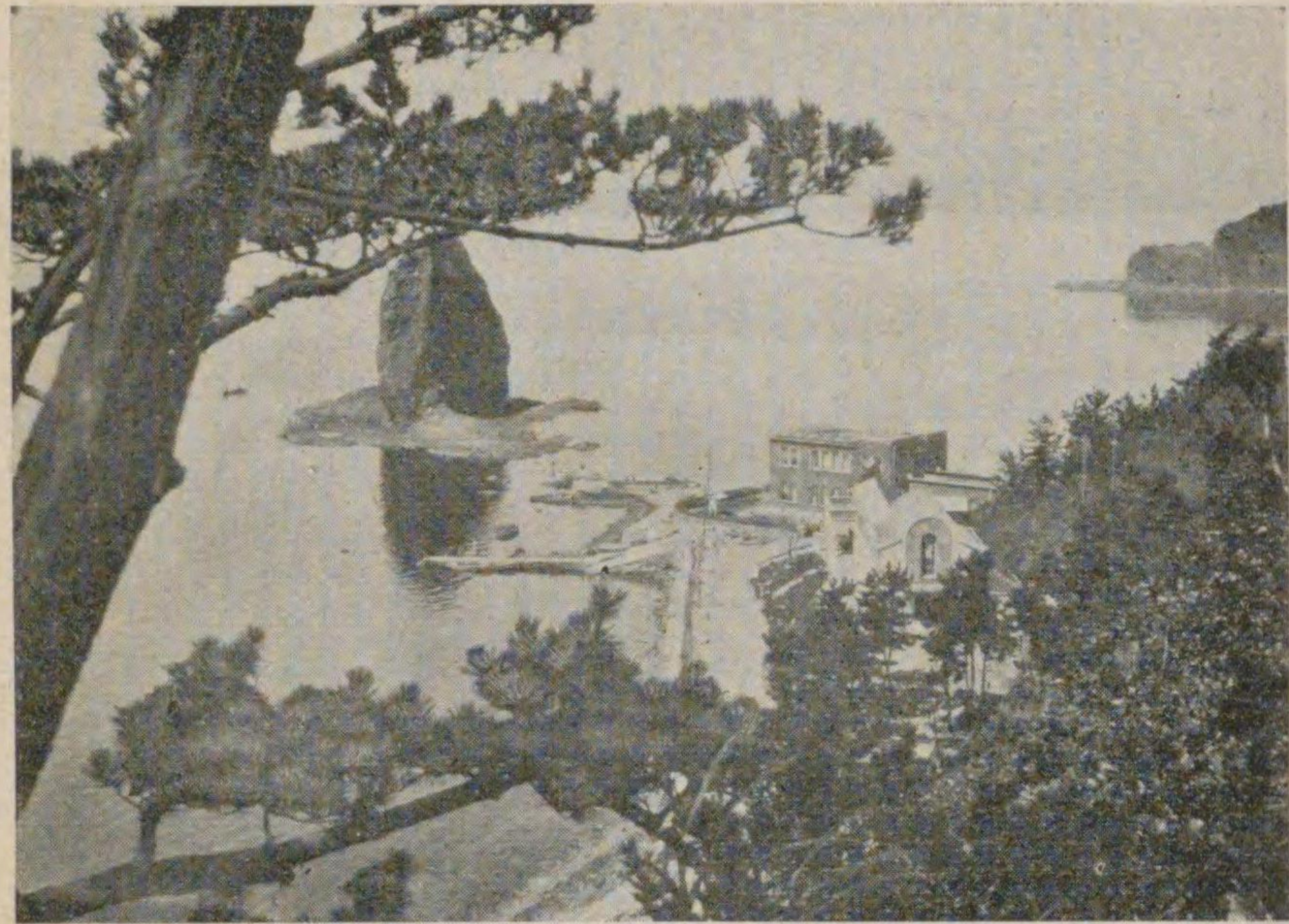
順位	驛名	乘車人員	降車人員	全國順位
23	石大上	一、七五五、四〇五	一、七五五、八六六	充
22	石大上	一、二〇六、〇三六	一、一七九、九一七	九七
21	仙臺	九五〇、七七五	九五九、四一七	九七
20	山形	九三九、五二二	九三三、四六七	一三〇
19	弘前	八九六、八一四	八九一、九七〇	一三四
18	秋田	八八三、四四六	八七八、九七八	一三九
17	福島	八四八、〇一三	八三九、六八三	一四四
16	郡山	六九六、八七三	六八六、七一九	一五二
15	盛岡	六九一、〇五七	六八一、一七三	一七六
14	酒田	六七〇、五四四	六六一、一二二	一八一
13	青森	六五九、九三七	六四一、六一〇	一八四
12	會津若松	六五五、九四九	六四一、六六六	一八九
11	新津	五五一、一三三	五五〇、八二五	二二五
10	新田	五三〇、八五一	五三三、二〇六	二二六
9	八戸	四三三、八六四	四三〇、七四三	二八五
8	一関	三九〇、五五八	三八五、一三五	三〇八
7	花巻	三六四、九六一	三六五、三三六	三三三
6	追分	三五八、一四五	三五三、七七三(以下省略)	三三三
5	陸中	三四六、七五五	三四〇、五九九	
4	横手	三三七、〇〇六	三三三、一五八	
3	上山	三三三、一三九	三二六、五八一	
2	大曲	三三〇、三三九	三二六、六一九	
1	石巻	三二七、七三〇	三二五、〇九三	

24 順位

順位	驛名	乘車人員	降車人員	全國順位
24	新庄	三〇六、六三一	三〇七、二七九	
23	東京	一八、四〇七、七三四	一八、六六一、〇〇二	一
22	新宿	一七、〇五九、九三七	一七、一四八、六五〇	二
21	大塚	一三、八三一、四五一	一三、八五一、六〇九	三
20	上野	一〇、〇六七、二八八	一〇、三〇六、五五五	四
19	大塚	六、四九九、五四八	六、三九九、七三九	五
18	京浜	四、六三〇、四九一	四、八一〇、七八〇	六
17	横濱	四、六三三、五五三	四、五三八、五四九	七
16	名古屋	二、三三八、六三五	二、三三〇、六七二	八
15	博多	二、〇二八、二八六	二、〇三一、七四六	九
14	金澤	二、一三三、〇〇一	二、一三三、七二〇	一〇
13	神戶	一、六四七、五三三	一、六三三、六二三	一一
12	廣島	一、六〇九、三三八	一、五七八、一九五	一二
11	岡山	一、五七三、四九七	一、五五九、九九八	一三
10	長崎	一、三八四、〇七八	一、三七一、六三四	一四
9	下関	一、一〇三、六六五	一、一〇五、一一〇	一五
8	山手	一、〇一五、〇三三	一、二五七、七七二	一六
7	新山	八〇六、三三三	八〇〇、二四一	一七
6	出雲	五八三、七三五	五九三、二三三	一八
5	日出	五二四、四八六	五三〇、九九一	一九
4	琴平	四二五、七三二	四三四、八五〇	二〇



浅虫温泉附近



青森港



盛岡 青森間

盛岡附近

盛岡驛

(一圖か3及二三圖) 岩手縣盛岡市下廚町

上野から(東北本線經由) 五三一杆一三三〇哩

急行 一二時間半 普通 一五時間

同 (常磐線經由) 五四四杆五三三八哩四

急行 一三時間 普通 一五時間半

仙臺から 一八一杆五一一二哩八

急行 四時間 普通 五時間

青森から 二〇四杆二一一二六哩九

急行 四時間半 普通 六時間

▽橋場線 (一圖か3) 盛岡 橋場間 一三杆七一四哩七

▽山田線 (一圖か3) 盛岡 上米内間 八杆二一五哩一

平均一日

乗車人員 一、五〇人 降車人員 一、四〇五人

發送貨物噸數 一〇三噸 到着貨物噸數 三三噸

主要發送貨物 木材 木炭 鐵 馬牛 石材 繭 煙草 米 野菜類

主要到着貨物 木材 石炭 薪 飼料 セメント類 煙草 活鮮魚

盛岡青森間

鹽 繭 米

▽乗合自動車 市内 宮古行

▽旅館 [驛前] 陸奥館 近江屋

[市内] 高興 三島屋 齋藤旅館

【盛岡市】(一三圖) 北上川と中津川の合流點に位し交通の要衝にあたり、江戸時代には南部藩の城下として榮え、爾後岩手縣廳を置かれ、また附近に兵營を設備せられ、鐵道交通の便次第に加はり、商工業盛に行はれ、今や人口五萬を算するに至つて居る。この地は慶長の初南部利直の築城によつて開けた城市で、爾來南部氏の城下となり、明治維新に及んだ。南部氏は文化以降二十萬石以上を領して居た。市内新馬町で二歲駒の糶市が毎年九月中旬に開かれる。その出場の馬數は約二萬頭に達しその價格も二十萬圓以上に及び連日雜沓する。もと馬檢所は舊藩の頃から市内馬町にあつたが、土地狹隘のためこゝに移された。

▽官公廳その他 岩手縣廳(内丸) 市役所(内丸) 地方裁判所

盛岡青森間

(内丸) 警察署(内丸) 帝室林野管理局出張所(内丸) 税務署
(三戸町) 郵便局(吳服町) 測候所(市外浅岸村山王山) 岩手
縣工業試験所(内丸) 商工館陳列所(同上) 盛岡聯隊區司令部
(同上) 騎兵三旅團司令部(市外厨川村) 岩手縣公會堂(内丸)
盛岡高等農林學校(上田與力小路)

▽銀行 盛岡銀行(紺屋町) 九十銀行(吳服町) 農工銀行(同
上) 岩手銀行(同上)

▽會社工場 盛岡電氣工業株式會社(紺屋町) 川口荷札株式會
社(日影國外小路) 吉岡鐵工場(大澤川原小路) 福田鐵工場
(同上) 照亦鐵瓶工場(餌差小路) 片倉製絲場(下厨川) 東北
衝器株式會社(馬場小路)

▽商店 永卯洋品店(肴町) 榊吳服店(同上) 川村吳服店(同
上)

▽新聞社 岩手日報社(内丸) 岩手毎日新聞社(同上)

▽娛樂場 盛岡劇場(松尾前) 藤澤座(紺屋町) 内丸座(内丸)

第一紀念館(生姜町) 第二紀念館(長町) 帝國館(生姜町)

▽料理店 多賀料理店(大清水小路) 三上亭(八幡町) 瀬川屋

(同上) 澤田屋(同上)

▽土産物 南部鐵瓶 豆銀糖

【樺火】^{かはび} 盆の八月十五日を中にする三夜に市内各戸に
薪を束ねこれに樺皮を捲いて夕刻一齊に點火し魂迎魂
送りをする。

【金山踊】^{かなやまおどり} からめ踊りとも云ひ、その仕振は一様の禪
と頬冠りと前掛の粧ひで、小ざるを手にして踊るので
ある。歌詞は、

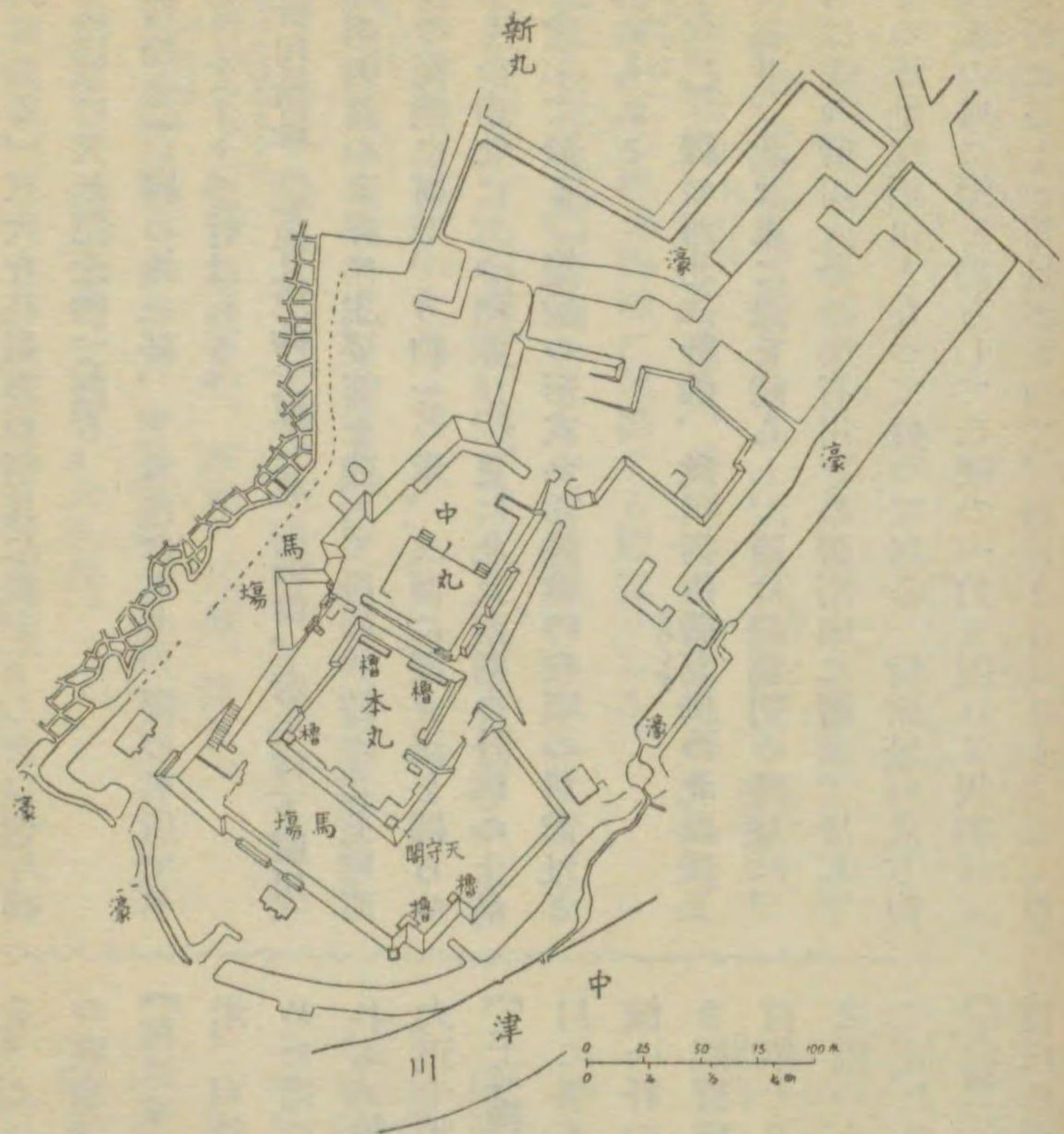
からめからめと親父がせめる なんほからめても
からめたてならぬ ハアからめてからめて
からめて千貫親父の借金年賦ですませ

金のべこに錦の手綱 おらも引きたい引かせたい
ハアからめてからめてしつかりからめて
握った手綱をうっかり放すな

烏アなくなくさこやの屋根で 御山繁昌さなく鳥
ハアぞつこいぞつこいぞつこい
千兩ぞつこい萬兩

【さんさ踊】 盆と八幡祭には市中に數十組の美しい着
附や花笠などを冠つた村の子などからなるさんさ踊が
出て来て、太鼓を叩たい朝から夜更まで踊る。歌詞は

盆の十六日、正月から待ちた 待ちた十六日は



盛岡城址

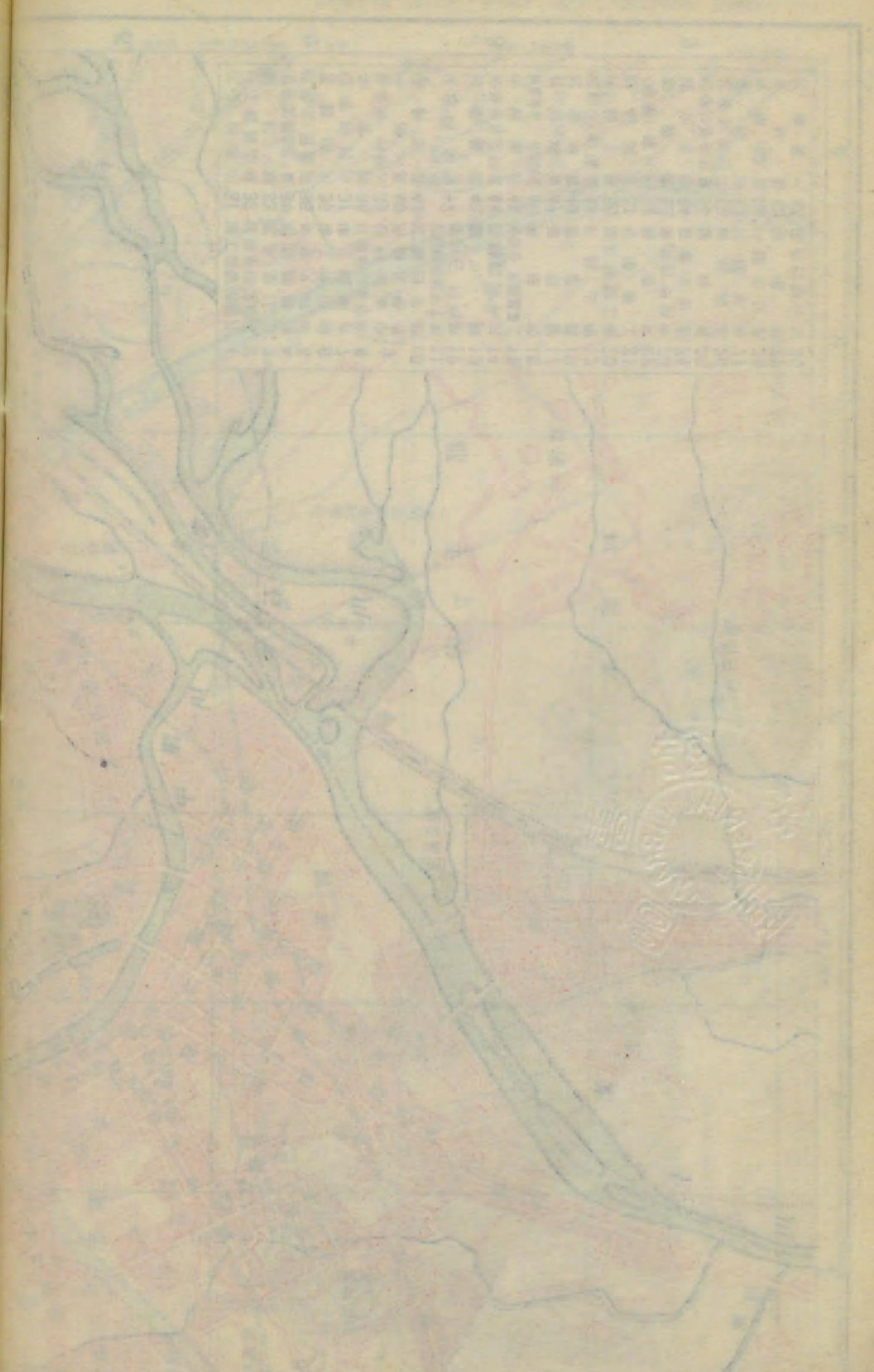
【遊覽順路】

小廻り 盛岡驛—石割櫻—岩手公園—商工館陳列所—肴町通—盛岡驛
 大廻り 盛岡驛—大慈寺—八幡神社—肴町—商工館陳列所—岩手公園—石割櫻—本誓寺—報恩寺—夕顔瀨橋—厨川柵
 址—盛岡驛。

【盛岡城址】驛の東約一軒半、市の中央内丸の丘上にあり、今公園となつて居る本丸二ノ丸などの石垣、濠を残り、規模頗る雄大である。本城は慶長年間南部利直の築城したもので、明治維新まで南部氏の居城であつた。園中には南部家の始祖光行及中興信直を祀つた

今夜ばかり サンサエー
 さんさ踊らほしなよくおごれ

盛岡青森間



しなのよいのをよめにさる サンサエー

奥の三月淡雪あはく

花は咲くやら咲かぬやら サンサエー

雨がさらさら降れどもはれる

わしの心が何時はれる サンサエー

縣社櫻山神社がある。

【石割櫻】(二三圖さち) 驛の東一軒半、地方裁判所の構内にある、巨大な花崗岩の割目に根を下した白彼岸櫻で指定の天然記念物である。

【高松池】 驛の北三軒、上米内にあり、櫻の名所で冬季スケートが行はれる。

【厨川柵址(安倍館)】 驛の北二軒餘、厨川村下厨川、陸羽街道の東側に主要部を残して居る。館は北上川西岸の斷崖に面し、方約一〇〇米、三面に深き濠を繞らせるもの南北に五つ相並び、更に北及西側の外廓の土壘を遺して居る。築城の形式から鎌倉時代の居館址と認められる。

【大館】 驛の西北三軒餘、秋田街道諸葛橋の北丘陵上にあり。北及東に濠を繞らし、西は諸葛川の斷崖に、南は元の厨川(今の雫石川)の舊川床に面して居る。その濠址は稻田となつて残つて居る。尙館址の東方約八米の處に濠を繞らして丘陵の一角を限れる規模ほど大館に等しい館址があつて、里館と呼ばれる。こゝの

兩館址は陸奥話記に書かれた厨川樞戸の二柵に合致しその地勢位置などから大館が厨川柵址に擬せられて居る。この柵は安倍頼時の子貞任の居館で前九年役最後の戦場であつた。

【南部家歴代廟所】(二三圖さち) 北盛岡驛の北方約八〇〇米、市外北山櫻ヶ岡、地藏堂の横手から石段を登りつめた處にあり、藩祖光行及祐政、政行、信長の墓は何れも五輪塔で、もと相模鎌倉舊成就院内にあつたのを大正十年にこゝへ遷したのである。

【上之橋、下之橋】(擬寶珠橋)(二三圖か5さ6) 市内中津川に架る。下之橋は驛の東南一軒三、上之橋はその上流一軒の所にある。この兩橋は木橋にて高欄を附し古き擬寶珠を用ゐて居る。上之橋のものには「慶長十四己酉年十月吉日中津川上之橋源朝臣利直」の銘があり、下之橋のものも慶長十六年のもので、中之橋に用ゐられて居たのをこゝに轉用したのである。

【大慈寺】 市内東中野にあり、驛の東南二軒餘、その境内に原敬の墓がある。

橋場線

盛岡 橋場間

二三軒七―一四哩七

盛岡から西方雫石川の北岸に沿うて西進し、大釜六軒を過ぎ山峡に入り、小岩井二哩九雫石三哩五を経て橋場四哩七に着く。將來この線は奥羽本線より分岐する生保内線に連絡する豫定である。

【小岩井農場】(二圖か3) 小岩井驛の北方三軒半、岩崎家經營の大牧場で、馬、羊、牛などを飼育し、全國各地に供給して居る。

【繋温泉】(三圖あ3) 小岩井驛の南四軒、途中船場まで自動車がある。硫黄泉で胃腸病、リウマチス、皮膚病などに効くと云ふ。旅館 佐藤、村上。

【網張温泉】(三圖あ3) 小岩井驛の西北一六軒、馬車の便あり、硫黄泉。旅館 大久保。

【玄武洞】(二圖さ3) 雫石驛の西北約一二軒、葛根田川の北岸にある。洞は高さ九米、幅五〇米、奥行一五米、柱狀節理を示す玄武岩中に穿たれたものである。

山田線

盛岡 區界間

三五軒六一二二哩一

【鶯宿温泉】(三圖か3) 雫石驛の南約一〇軒、馬車の便あり、鹽類泉。旅館 青山、山口。
【國見温泉】(三圖か3) 驛の西北約一四軒。こゝは駒ヶ岳登山者の宿泊地で、冬季スキーの根據地となる。旅館 石塚。

盛岡驛から出て西北に向ひ東に折れて北上川を渡り上盛岡二哩七を過ぎ米内川に沿うて東北に廻り、上米内四哩四に至る。それより東に進み四個のトンネルを過ぎ大志田九軒三を経て東南に向ひ十二個のトンネルを通過し、淺岸八軒四に着く。やがて南に向ひ三個の飛鳥トンネル(第一の延長三、三七米)をぬけ、右窓に築川の谷を見下し、宮古街道を横ぎり海拔七五〇米の區界五哩に至る。この線は將來宮古を経て山田に通ずる豫定である。

【上米内石器時代遺跡】 上米内驛の東約一軒、米内

川の南岸に突出した丘陵の中腹に石器土器などが散在する。尙こゝから更に東につゞく地域はほぼ方形の區劃を成して約四〇〇平方メートルの平坦な地を存し、四周に深さ四米、幅六米の空濠が確然と認められる。これは天正年中廢滅した米内氏の居館址と傳へられよく舊態を保つて居る。

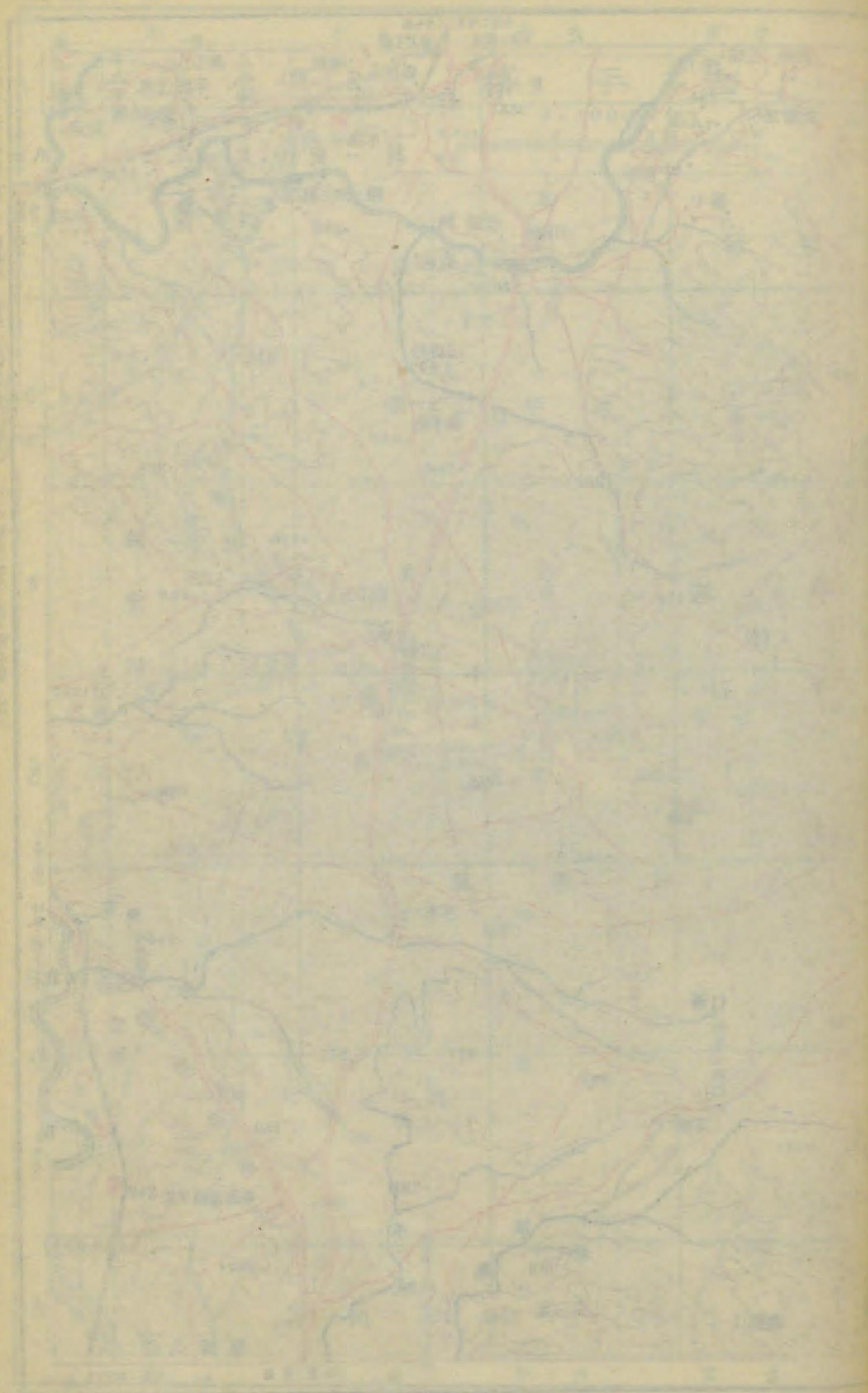
【宮古町】(三三圖か7) 區界驛の東方約七七軒に位し碓泊に便利な宮古灣に臨み、宮古、鉾崎の二部より成り、商業繁盛の地である。區界驛との間に乗合自動車の便があり、その途上閉伊川の峡谷は秋季紅葉の頃美觀を呈する。旅館 澤田屋。

【淨土濱】(二圖あ3) 宮古町の東北部に位する白木山半島に灣入する奇勝である。陸上からよりも船で觀覽する方が趣味が多い。先づ鉾崎町から宮古灣上に船を浮べて龍神崎を巡り袴島を見、更に館ヶ崎を廻つて深く入り込んだ小灣に進む、こゝが淨土濱である。灣内は常に油を流したやうに水が穏で、右側には數隻の船を容れるに足る大きな洞窟が見える。こ

れを八戸穴と名づける。左側には石英粗面岩より成る賽の河原、劍の山など稱する處がある。次に灣外に出て千疊敷と稱する海蝕の岩盤を見、更に右に日出島を望み、左方の海濱に沿うて進めば礫岩の波に浸蝕されて出來た數個のトンネルを見る。こゝを蝟の濱と云ふ。鉾崎よりこゝまでの舟行約五軒、こゝに上陸すれば出發點まで一軒に過ぎない。

【日出島の潮吹孔】(二圖あ3) 宮古町の東北約四軒、崎山村日出島にある。潮吹孔は直徑三〇釐の堅穴で深さは約一〇米、海濱から離れて小高い處にある。海の荒れて白波の立つやうな時はこの孔から潮を高く吹き上げ壯觀を呈する。これは壓縮された空氣の膨張力で水を噴出せしめるので、普通三十秒毎に起り、約四秒間繼續する。

盛岡を出て西北に向ひ右に山田線、左に橋場線の分れるのを見て、騎兵の兵營のあたりで東北に折れ、右に蔚川柵址を見、左に岩手山を望み、蔚川三哩四を過





岩手山ノ首近江伊藤野二下車柳澤ノ岩手山神社ヲ絶テ登リ下山ニハ紙張張温泉ヲ遊キ石壁ニ出ル
 一〇五五至ル 好摩ニ至ル
 二〇五五至ル 好摩ニ至ル

松川温泉
 女武岡峰崎崎温泉ヲ絶テ石壁ニ至ル

ル至ニ間盛 川 ル至ニカサリも

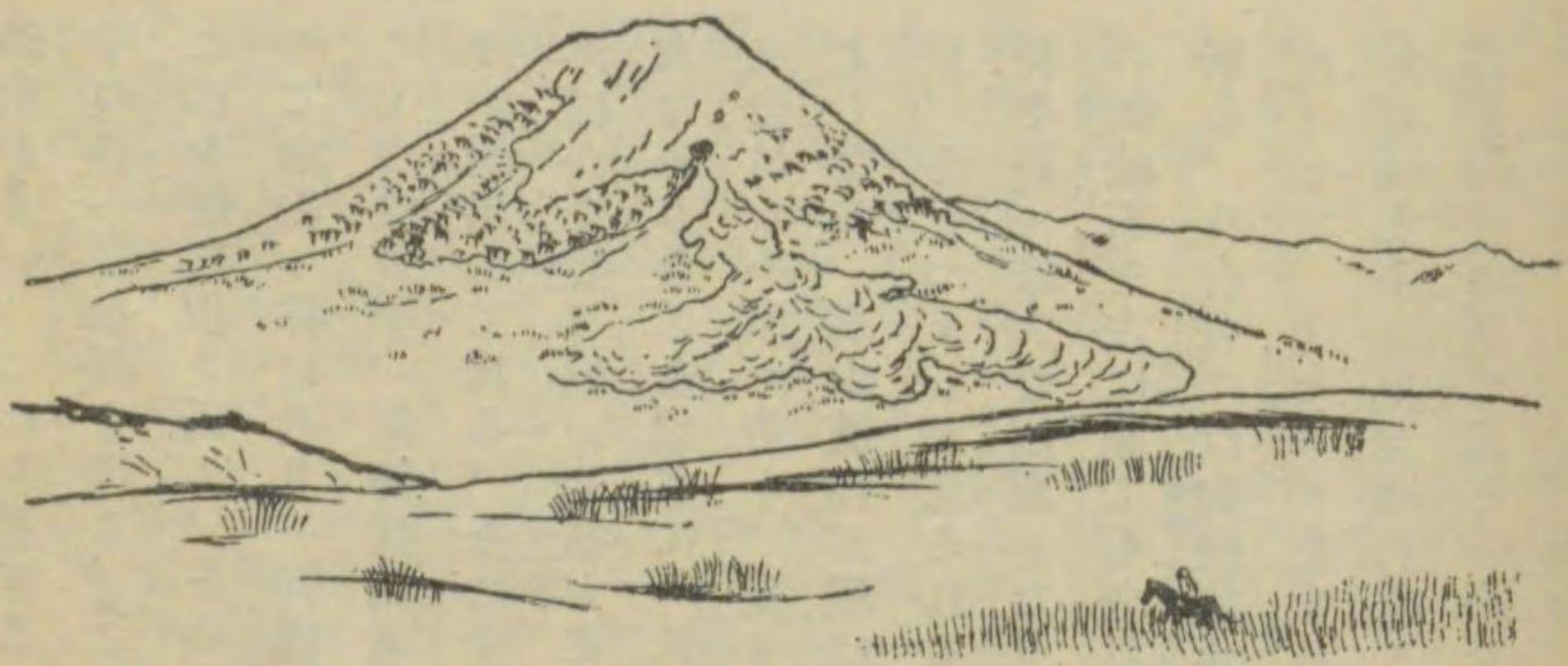
ぎ、松林の間の瀧澤たきざわ六軒四ろくせんしに着く。

瀧澤驛たきざわ（一圖か） 岩手縣岩手郡瀧澤村

盛岡から 一一軒九一七哩四

【岩手山】（一四圖、三二圖さ六） 岩手山は盛岡の西北二四
軒にあり、海拔三、〇四米、東方より望めばその容姿富
士に似て居るので南部富士、岩手富士などと云はれる。
しかし西方には二三小峯が連立して多少形之美を損し
て居るために南部の片富士とも呼ばれる。この山は東
西の二火山圓錐から成り、東方の火山圓錐は二重式火
山で、頂上に圓形の外輪山があり、直徑七〇米、御鉢
と云ふ、中央火口丘妙高ヶ岳の頂上にある火口を御室
と稱し、深さ一八〇米、内壁は懸崖をなして居る。この
山の東麓にある。胎内たない潜岩は輝石安山岩の大塊に生じ
た罅隙かひきである。周囲には狭い環形火口原があり、外輪
山の北部は岩手山中の最高地点で薬師岳と云ふ。山頂
の大部は鑛鏵狀の火山砂礫で樹木を生ぜず、火口壁の
南部にある火山抛出物の中には往々きんせいせき壘青石を含んで居
る。その東北腹に燒走りと云ふ熔岩流あり享保四年山

盛岡青森間



山 手 岩

腹より溢流したも
ので、噴出口から
約三軒流下して三
ッ森山近くに及び
幅は始は數米に過
ぎないが、下方に
行くに従ひ扇形に
擴がり數百米に及
んで居る。

西方の火山圓錐
は頂上に卵形の外
輪山あり、東面三
軒、南北二軒、南
壁を鬼ヶ城山と云
ひ内部に向つて絶
壁をなして居て、
熔岩の好露出があ
る。この東南に火

口壁をついて屹立する大岩脈あり、柱状節理に富み千俵石と稱せられる。

鬼ヶ城山の最高地點を姥ヶ岳うばと云ひ、海拔一、七〇六米、北壁を屏風ヶ岩と稱し、その西北部は火口瀨となり、この川には瀧が多い。

外輪山に圍まれた大火口内に第二の火口が低い截頂圓錐形をなし火口の直徑四〇米、その中に更に中央火口丘と火口原がある。火口丘には御釜湖、火口原には西部に御苗代湖がある。前者は火口湖で、後者は火口原湖である。

登山路には柳澤口、網張口、雫石口、平笠口の四つがある。その中柳澤口を表口と稱し普通登山者はこの口より登山して、網張口へ降る。

瀧澤驛から柳澤まで約一〇軒の間自動車の便がある。柳澤には縣社岩手山神社がある。登山者は多く社務所に宿泊する。

柳澤から頂上まで約一四軒で、凡そ五時間を要する。柳澤から約六軒は極めて緩い傾斜をなす共同放牧地で

こゝから右手に一軒ばかり鑛滓狀熔岩礫の急斜面を登ると丘陵狀の火口壁に出る。この附近で夏季美しい駒草の花が多く見られる。またいわひげ、いわぶくろ、いわぎきょうなどもある。この火口壁を一軒半ばかり廻ると薬師岳の頂上に達する。即ち岩手山の最高點で三角測量標がある。中央火口丘妙高ヶ岳の麓に岩手山神社の奥宮がある。

山上の眺望は甚だよく、東に北上山脈が連り、近く姫神山との間から東南には北上川流域の平野が見え、南には小岩井農場などが見下される。西方には駒ヶ岳、西北には八幡平が望まれる。この山は高山植物の種類及發生狀態に特異のものがあるので高山植物帯として指定せられ、公益上必要止むを得ざる場合の外その採集及現状の變更は許されないこととなつて居る。

網張口は橋場線小岩井驛から網張温泉まで約一九軒の緩かな登りを落葉赤松や松の林の間に辿り全部徒歩による。網張温泉は登山者の良い足溜りである。網張から山頂は約一二軒、有根澤ありねさわを渡つて鎌倉山の屋根を

鈴蘭が多い。これを過ぎると馬留うまどめに着く。これより右手の谷へ急な坂を降る。そこには鐵の鎖が張つてある。これを解體坂と云ふ。その邊から少しく山道らしくなつて水楢の林に入り一軒餘の處に御改所おあらためしよの小屋がある。こゝでは夏季、信仰登山者に登山證を渡す。こゝに清水が湧出して居る。そのすぐ上に受取坂と云つて二〇米ばかり登り悪い岩場がある。そこからこがのふち、大なめりなどを過ぎて、凡そ二軒の間雑木林を登ると三合目の小屋に着く。登りは次第に急になつて眺望がよくなり、高山植物が現はれちんぐるまの大群落があり、えぞつゝじが見られる。三合目から七合目まで二軒半益々雄大な展望となり熔岩との間を登る。六合目の御藏石みくらいしを左に見て七合目に達すると偃松はいまつが密生して居る。八合目には御殘清水おのこりしみずが流出して居る。附近は廣々として、キヤムプをするには恰好な處である。こゝからは左手に鬼ヶ城に連る火口壁を見、右に岩手の山頂を間近に見て凡そ一軒を登れば九合目の不動平ふどうたいらの室に達する。こゝで雫石口、網張口の登山路と合する。

登るとぶなの美林がある。そこから五軒ばかり青森と松の針葉樹林が美しく、やゝ急な道を登ると、大倉山と鬼ヶ城山の鞍部に着く。そこから約一軒下ると大地獄がある。周圍約八〇米の硫黄質の熱湯を湛へた沼で、少しく噴煙して居る。そこから少しく澤に沿うて登ると、御釜おなわしろ、御苗代などの湖がある。附近一帯やゝ廣き平地をなして芝生があり、白樺と唐檜の混生林もあり良い風景である。右には鬼ヶ城の岩壁がそゞり立つて鋭い線を描き、岩手山頂に連る風景は登山者の歡喜する仙境である。殊に清水も流れてキヤムピングには絶好な處である。こゝから山頂までは凡そ四軒、偃松の間を過ぎて急な岩場が三軒ばかり續く、柳澤口に比して峻険であるが趣味多い登山路である。

鬼ヶ城の岩壁はロッククライマーを誘ふ處である。岩手山は網張口に山岳的特徴を有して居る。柳澤口から網張口へ、または網張口から柳澤口へ横斷する處にこの山の面白味がある。

瀧澤驛を出て原野を北に進み右の方北上川の峽流を
瞰下し、右に姫神山を、左に岩手山を眺め、松川を渡
り、好摩（九、五哩六）に着く。

好摩驛（一圖か） 岩手縣岩手郡巻堀村

盛岡から 二〇九一—一三哩

【姫神山】（二圖か） 山は海拔一、二五米、花崗岩より成
り山容甚だ美しい。驛から山頂まで一五、山頂には
姫神社の小祠がある。

花輪線

好摩 荒屋新町間 三七九一—二三哩三

好摩から松川の谷を西北に進み大更（九、五哩二）平館
四九七 岩手松尾（二、七哩一）赤坂田（七、七哩五）を過ぎ、荒屋新町
七九七 に着く。途上左窓外には絶えず岩手山の秀麗
な山姿が手に取る如くに仰がれる。

【松尾鑛山】（三二圖か） 大更驛の西北約一六、松
尾村にある硫黄鑛山で、鑛床には火成鑛床と沈澱鑛
床の二種がある。

められるものであつた。発見された遺物は彌生式系土
器、齋部土器、鐵器の破片、土製勾玉である。その年
代は明かには判らぬが、平安時代頃のものであらう。
【今松堅穴住居址】 驛の西方約八、一方井村今松に
あり、仙波堤堅穴群のある丘陵の南縁を更に西に進め
ば約四、今松堅穴址のある丘陵に達する。總數十數
個を數へ、大形のもの多く、周圍に土壘を廻らしたも
のあり、内部に爐の存在したものあり、直刀の殘片、
稻藁の形を印した土器の殘片などが発見された。南方
には一方井村蟹澤、鳴澤、浮島など、また北方では同
村輪台、葉木田その他にも堅穴の遺跡がある。

沼宮内から汽車は補助機關車を連ねて北に進み、
陸羽街道に竝んで山間を辿り、北上川の源流を横ぎり
陸奥國に入り奥中山（二、七哩七）を過ぎ、千分の二十五の勾
配を上り、十三本木峠（海拔五七〇米）のトンネルを通過す
る。これより北流する馬淵川の支流小繫川（二、七哩七）に沿ひ小繫
四八八 小鳥谷（七、七哩八）を過ぎ、一戸（二、九哩九）に至る。

好摩から北上川の狭き谷を東北に進み、川を右に渡
り、川口（五、三哩六）を経て左に七時雨山（海拔二、〇〇米）を望
み沼宮内（三、五哩一）に着く。

【巻堀神社（金勢明神）】 川口驛の南方約二、岩手
郡巻堀村にある。古來リンガの崇拜と關係してその名
遠近に聞え、陽形を奉納して祈願をなす者が多かつた
と云ふが今はすたれて居る。

沼宮内驛（一圖か） 岩手縣岩手郡御堂村

盛岡から 三二九一—一九哩六

▽乗合自動車 岩泉行

【仙波堤堅穴住居址】 驛の西方約四、御堂村仙波堤
にある。丘陵の頂上に約三十の堅穴住居址があり、よ
く舊態を存して居る。形態は主として正圓形で、數個
の小堅穴の附屬して居るものもある。これらの堅穴は
地表を掘り下げ内部に石組の爐を設け上部に簡単な屋
蓋を設けて居たものである。多くは半島狀に突出した
丘陵に群集して存在し、一種の城塞を兼ねた村落と認

一戸驛（一圖か） 岩手縣二戸郡一戸町

盛岡から 六四九一—三九哩八

青森から 一四〇九一—一八七哩一

【浪打峠】（二圖か） 驛の北四、海拔三三、頂上
に第三紀層の砂岩が露出して貝化石を藏して居る。峠
から峯傳ひに北に進めば、鳥越觀音（鳥越）の窟に出る。

【西方寺毘舍門堂】（二圖か） 驛の西方約半、古杉に
包まれた福聚山と稱する小丘の上に三間三面の小堂が
あり、その内陣の奥に毘舍門天（毘舍門天）の立像を安置して居る。
木彫で、その高さ約二米、頗る優秀な作で、鎌倉時代
のものであらう。この外に地藏菩薩の立像と阿彌陀如
來の坐像がある。地藏菩薩像は毘舍門天像と同時代の
もの、阿彌陀像は江戸時代のものであらう。内陣の前
には御幣を立て、外陣には奉納と題して劍先或は鳥居
などを現はした繪馬が多くあがつて居る。恰も神社の
拜殿のやうで毘舍門天を神様と稱し、拍手して拜むな
ど、今に神佛を混淆して居る。

一戸から西北に進み右に浪打峠を望み平糠川を渡り鳥越観音の下に通ずる延長一、〇五〇米のトンネルを北に通過し馬淵川を渡る。橋上より左方に男神岩、女神岩の屹立するを望み、やがて北福岡六軒三三哩九に着く。

北福岡驛 (一圖か2) 岩手縣二戸郡岩切所村

盛岡から 七〇軒三十四三哩七

青森から 一三三軒九一八三哩二

▽乗合自動車 長嶺行 輕米行 伊保内行 淨法寺行

【福岡城址】驛の東北約二軒、福岡町五日市の東に接する丘陵にある。東西五〇米、南北四〇米ばかり、自然の地形を利用して壘壁濠などを造り居館の形式を存して居る。城は天正十九年九戸政實が豊臣秀吉旗下の蒲生井伊淺野などの大軍に攻圍せられて敗死せし所、その後南部信直が三戸から來り治し、子利直の代に至つて盛岡に移るまでの居城であつた。

【横山石器時代遺蹟】驛の東方約四軒、福岡町横山にあり、土器石器などが畑地に散在して居る。石劍、土偶なども曾てこゝから發見された。尙隣村の爾薩體村蝦

法寺漆器を賣る。この漆器はもと寺房で製造したものと傳へ、後には村民の作る所となり、今に御山御器と稱して廣く用ゐられて居る。

寶殿安置の諸佛

- 一 聖觀音立像 一 軀 (國寶) 木造 銘作 平安時代
- 一 土面觀音立像 一 軀 (國寶) 木造 同上
- 一 吉祥天女像 一 軀 木造 同上
- 一 藥師如來立像 一 軀 木造 同上
- 一 阿彌陀佛立像 一 軀 木造 同上
- 一 毘舍門天立像 一 軀 木造 同上

外に舞樂面が十個ある。

【鳥越觀音】驛の南方約四軒、浪打村鳥越山にある。驛から馬淵川の溪流に沿うて山脚に通ずる國道を南行すること約三軒にして登山口に達する。この間山嶺の河岸に迫る所、自然の風光賞すべき所が少くない。登山口から東へ入り緩かな坂路を行くこと約一軒、それから北に折れ急坂を登ると觀音堂のある鳥越山に達する。山中松杉の古木繁茂し、その間多くの楓樹を交へその紅葉殊に鮮麗なるを以て名高い。觀音堂は絶壁の

夷森、大萩野、仁佐平からも各々遺物が發見されて居る。この地方は昔の爾薩體城で幣伊(閉伊郡地方)と共に東北に於ける蝦夷の二大本據地をなして居たが、弘仁二年文屋綿麿が陸奥、出羽兩國の兵二萬六千を率ゐてこれを征し、ついで出羽守大伴今人によつて遂に戮滅された。奈良時代以後の蝦夷攻略最後の地である。

【斗米村堅穴住居址】驛の西方約七軒。斗米村寺久保にある。堅穴群は東南に走れる半島狀の丘陵の突端に一行をなして居る。こゝから西に四軒で、立當堅穴群があり、その北には外中澤の堅穴群がある。

【天台寺(御山觀音)】(二圖か2)驛の西南約一六軒、二戸郡淨法寺村御山にあり、自動車の便がある。寺はもと天台宗の一大靈場であつたが、今はたゞ山上に觀音堂と四五の小堂を存するのみである。その觀音堂は桂泉觀音堂と稱し、明曆四年の再建である。本尊銘彫聖觀音像(國寶)は、形相圓滿優秀な作で寶殿に安置されて居る。祭日は舊四月十八日と舊六月十一日から十五日に至る間である。當日は境内の指定された場所で淨

中程集塊岩窟内にあり、階段によつて達せられる。堂の高さ約一米半、觀音の小像を安置して居る。江戸時代以前の作なるべく、この外に永正九年に觀光上人の納めた順禮札がある。

北福岡から北進して桑畑の多い馬淵川の谷を下り、十文字川を渡り、金田一の盆地に入り金田一七軒七を過ぎ、またも山峽に入り馬淵川を渡ること二回で、青森縣に入る。それより更にトンネルを抜けやゝ廣い河谷に出で、右に名久井山(海拔六五米)を望み三戸六哩六、吉五哩八北高岩六軒一を過ぎ平野に出て尻内三哩一に着く。

【舌崎石器時代遺跡】金田一驛の北方約四軒、舌崎部落の東方陸羽街道と鐵道の間挟まつた地域で、鐵道敷設の折に遺物を出したが、近年の改修工事の際にも種々の遺物が發見された。その土器は東北地方特有の津輕式のものである。遺物の若干は舌崎小學校に所藏せらる。

【糠部神社】〔縣社〕三戸驛の西南約三軒、三戸町の東に接する城山の上にある。舊南部藩祖南部光行を祀る。もと三戸城のあつた處で、城郭の遺址としてはたゞ僅に門址あるのみである。

尻内驛（一圖か2） 青森縣三戸郡上長苗代村

盛岡から 一〇八軒九一六七哩七
青森から 九五軒三一五九哩二

▽八戸線 尻内 八戸 陸中八木間 四三軒一三〇哩二
八戸 湊間 二軒七一哩七

▽乗合自動車 五戸行

【櫛引八幡宮】〔縣社〕（二圖か2）驛の南方約三軒半、館村八幡にある。杉森の中にあり、門前には昔流鏑馬を行つた馬場がある。今の社殿は慶安元年に南部重直の造營したものである。

古例祭は舊四月十五日と八月十五日に行はれ、社前に市が立ち、古來八幡駒、槍、弓矢、八幡宮などの玩具及淨法寺椀などを賣る。八月十五日と十六日には渡鳥子踊がある。近村の男女老幼集り、夜を徹して踊る。

▽乗合自動車 町内 久慈行

▽旅館 三八城ホテル 江渡 若松ホテル

【八戸町】 江戸時代南部藩の支藩を置いた處で、豊かな平野を控へ近く海港を有して、奥羽東岸北半の物資集散地となつて居る。殊に木炭、鮮魚の取引が盛である。人口約二萬。

【三八城城址】 驛の南方約三〇〇米、所々に内濠が残り城址の中央に縣社三八城神社がある。南部藩主の祖南部光行と南部直房を祀る。もと新羅神社と稱して居たが、明治十一年今の名に改めた。

【新羅神社】〔郷社〕 驛から南約一軒半、町の南端古杉の繁茂せる丘の上にある。境内廣く、今の社殿は文政九年の改築で素戔鳴尊と南部氏の遠祖新羅三郎義光を祀つて居る。九月一、二、三の三日の大祭日には同町内の鬮、神明の兩社と合同して、神輿の渡御、打球などの催がある。所謂八戸の三社大祭と云ふのはこれである。神輿の渡御は一日に行はれ、具足を着けた多數の騎士が扈從し、最後に新羅神社に集る。

十六日の夜は當社の氏子に限り男女の繼歌に合せて踊り古式を傳へて居ると云ふ。

寶物

- 一 大 鎧 赤絲威 一領〔國寶〕
- 一 大 鎧 白絲威妻取 一領〔國寶〕
- 一 大 鎧 紫絲威肩白淺黃 一領〔國寶〕
- 一 胴 丸 白絲威肩赤大袖付 一領〔國寶〕
- 一 兜 淺黃威肩赤大袖二枚付 一頭〔國寶〕
- 一 罽 口 應永十一年の銘あり 一個

八 戸 線

尻内 陸中八木間 四八軒六一三〇哩二
八戸 湊間 二軒七一哩七

尻内から水田の間を東方に進み馬淵川を渡つて八戸に着く。それからやゝ進み、湊に向ふ支線を左方に見、陸奥湊二を過ぎ、海岸に沿ひ鮫に着く。

八戸驛（一圖か2） 青森縣三戸郡八戸町
尻内から 五軒五一三哩四

打球は翌日當社の馬場で催し、町内では鉾、屋臺などを出し、全町擧つて賑ふのである。打球は明治十三年に復興したもので、同十四年明治天皇東北御巡幸の際には天覽に入れた。尙舊正月の十四、十五、十六の三日にはエンブリ（豊年祭）を行ふ。これは種蒔から收穫までの有様或は漁獵などの摸擬的所作を演ずるもので、摺方、松の舞、苗取、田植、萬歳、恵比壽、大黒、鳥刺などの種類があり、笛、太鼓、鐵鉞、鳴子などの樂器に合はせて踊り、野趣掬すべきものがある。先づ神前で演じ、後民家の庭前で踊る。町内の男子は大抵多少エンブリの心得があり、平常の宴會などには屢々演ぜられ、郷土藝術として獎勵されて居る。

【八戸公園】 驛の南一軒半、糠塚の長者山にある。競馬場があり、柳、櫻、梅、桃などが植わつて居る。園中に御覽打球の碑がある。明治十四年東北御巡幸の際打球を御覽に供した記念として御座所址に建てたものである。

【橋本農園】 八戸驛の西南二軒半、賣市にある。園内には草花が多く植ゑられ、殊にチューリップは四萬に及ぶと云ふ。

【是川石器時代遺跡】 驛の南約八軒、是川村中居泉山斐次郎氏邸内にあり、津輕式の多數の遺物を出土して居るが特、に注意すべきものは櫛、漆塗木製の腕環、籃胎漆器があることで、その他漆塗土器の破片も出て居る。こゝから四〇米南、清水寺の裏手字一王寺の畑地にも遺跡があつて、別箇の土器を出し、貝殻、骨角器、人骨などを出して居る。これらの遺跡から発見された遺物は悉く泉山邸と八戸町の泉山岩次郎邸に保存陳列されて居る。

【閉伊穴】 驛の東南約八軒、大館村松館にある石灰洞。

【金山澤洞窟】 驛の南約一二軒、階上村金山澤にある石灰洞で蛇拔穴と云ひ、溪流がその中より流出して居る。

▽旅館 本宮

【久慈製鐵所】 久慈町の東部にある、常盤商會の經營。原料の砂鐵は西南の一〇軒の小久慈に産し、平均一〇米の層をなして居る。採掘した鑛石は磁鐵鑛、褐鐵鑛を選り分け、専用軌道によつて工場に運び還元法により鐵鑛中の酸素を追ひ出し海綿鐵とし、これを製鋼の原料とする。

【穴平】 (二圖か2) 久慈町の西南一八軒、九戸郡山根村保禮羅の西にあるカルストで、大小數十の摺鉢状をなせるドリリーネ及藥研狀のポリエがある。

【岩泉の石灰洞】 久慈町の南四五軒、下閉伊郡岩泉町に赤穴、蝙蝠穴、大穴、瓢箪穴、明戸穴、湧口、五郎兵衛穴など數多の石灰洞がある。中には清水の夥く湧き出るもの、鍾乳石のあるものがあり、未だ探検されないものもある。また岩泉の北一三軒の江名にドリリーネ、更にその北六軒の元村に石灰洞がある。

尻内から東北に向ひ廣大な稻田の中を進み、右に分

ねこの蕃殖地である、うみねこは鷗の一種で、冬季は北方の海に棲んで居るが、春から秋にかけてこの島に来て産卵し、雛を育て島及附近の海面に幾千羽となく群棲する。

鮫驛を出て海岸に沿うて北進し、捕鯨會社の事業場を左に見、東に轉じ、とど島その他の岩礁を眺め、東南に向ひ、外洋を左窓に望み種差七軒九階上四哩九の二驛を過ぎ、次に小舟渡の漁村を經、一海角を横ぎつて岩手縣に入る。それより種市四哩二を經て陸中八木五哩五に着く、これらの驛は多く木炭、木材を發送する。また夏時は驛附近に海水浴場が設けられる。

陸中八木 (一圖か2) 岩手縣九戸郡種市村
尻内から 四八軒六一三〇哩二

▽乗合自動車 久慈行

【久慈町】 (三三圖か5) 驛の南二〇軒、岩手縣九戸郡の中心地である。

るる八戸線のかなたに八戸町の市街を望み、西北に折れて高館の丘陵地を過ぎ、右に太平洋の海岸を眺め、五戸川を渡りトンネルを過ぎて下田六一軒九に着く。間もなく十和田湖から流れて来た奥入瀬川を渡り、臺地の間を通過すること久しくして古間木六哩二に着く。こゝは十和田湖に行くもの、下車驛である。

古間木驛 (二圖か2) 青森縣上北郡六戸村

上野から 六六一軒一四一〇哩八 急行 一六時間
仙臺から 三一一軒五一九三哩六 急行 八時間
青森から 七四軒二一四六哩一 普通 二時間半
▽十和田鐵道 古間木 三本木間 一四軒八一九哩二
▽乗合自動車 三本木行 十和田湖子ノ口行

十和田鐵道

ふるまぎ 古間木 三本木間 一四軒八一九哩二

古間木から東北本線を左に見て、南に進み漸く西に向ひ臺地に出て西に折れ、七百、高清水の二驛を過ぎ澁澤農場を左に見て三本木に着く。

三本木驛 三本木町は三本木野の中央に位し、安政年間南部藩士新渡戸傳の經營した新開地の市街で、今は此處に軍馬補充部の支部が置かれ、商業が盛んである。町の太素塚には新渡戸傳の靈を祀つてある。此處から十和田湖の口、及古間木行の乗合自動車あり、旅館 世界公園館、安野。

【十和田湖奥入瀬口】（二圖か2及一五圖）三本木から西南奥入瀬の溪流に沿ひ十和田湖畔の子ノ口に達する。その間三八軒途中焼山、子ノ口間一四軒は溪谷の景色がよい。

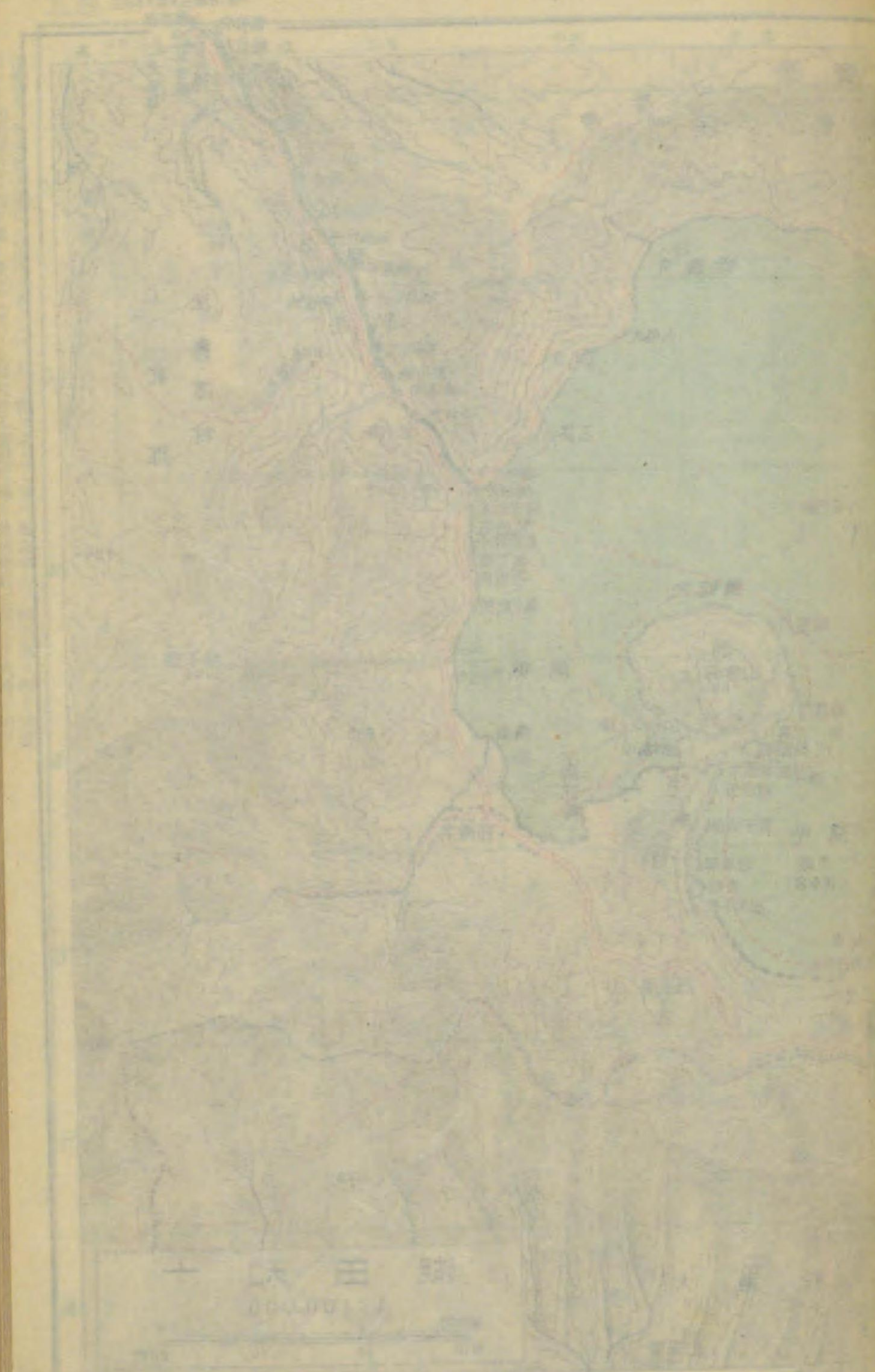
先づ三本木の市街を横ぎり、左に軍馬補充部の牧場を見て後二軒餘の間一直線をなすアカシアの並木道を行く、兩側には園圃が遠く連り、昔の三本木原の面影が見えないまでに開墾されて居る。暫くして右の方灌漑用水に沿うて進む。この用水は幕末に新渡戸傳が開墾したもので、三本木原の開墾されたのは一にこゝに通ずる水の力に由ると稱せられる。やがて用水と離れ臺地を下り奥入瀬川を渡る。この川

は十和田湖を出てこゝまで三二軒、更に流るゝこと三八軒、太平洋に注いで居る。橋を渡り西に折れ奥入瀬の河谷に進み入り再び川を渡ると法量の村落に出る。

右の方の丘陵上に指定の天然記念物である大公孫樹を望み、やゝ進んで左方川の中に石合砥の淵を見下し、更に西して焼山橋に達する。こゝは三本木驛から二四軒、蔦温泉への岐れ路にあたる。

奥入瀬川溪谷の美はこゝから始まる。對岸に蔦川の落口を望み、南に折れると右に紫明溪が眺められる。梢、ぶな、栗、ほう、楓などの潤葉樹林の中を過ぎ惣邊橋を渡る、これから上流は殆ど支流がなく、河水は常に同水位を保ち、こゝに特殊の植物景を示して居る。河中にある岩石のために水が三分して流れる處を三亂の流と呼ぶ。こゝは水際から緑の色が滴つて居る。

左手には不動岩があり、右の林間には「石けど」の窟がある。これより尙進めば對岸に屏風岩が連りこ



ル至二木馬古ヲ經ヲ本三



遊覽者ハ普通奥入瀬川ニ沿ウテ子ノ口ニ至リ船ヲ湖上ニ浮ベ御倉中山ノ兩半島ヲ經テ休屋
ヨリ十和田神社ニ詣テ更ニ生出ニ至リ上陸和井内轉脚化場ヲ見發荷峠ヲ越エテ大湯ニ向フ

湖田和十
1:100,000
米1000 0 2町
町10 0 10 20町

ル至二坂小

ル至二内馬毛ヲ經ヲ大

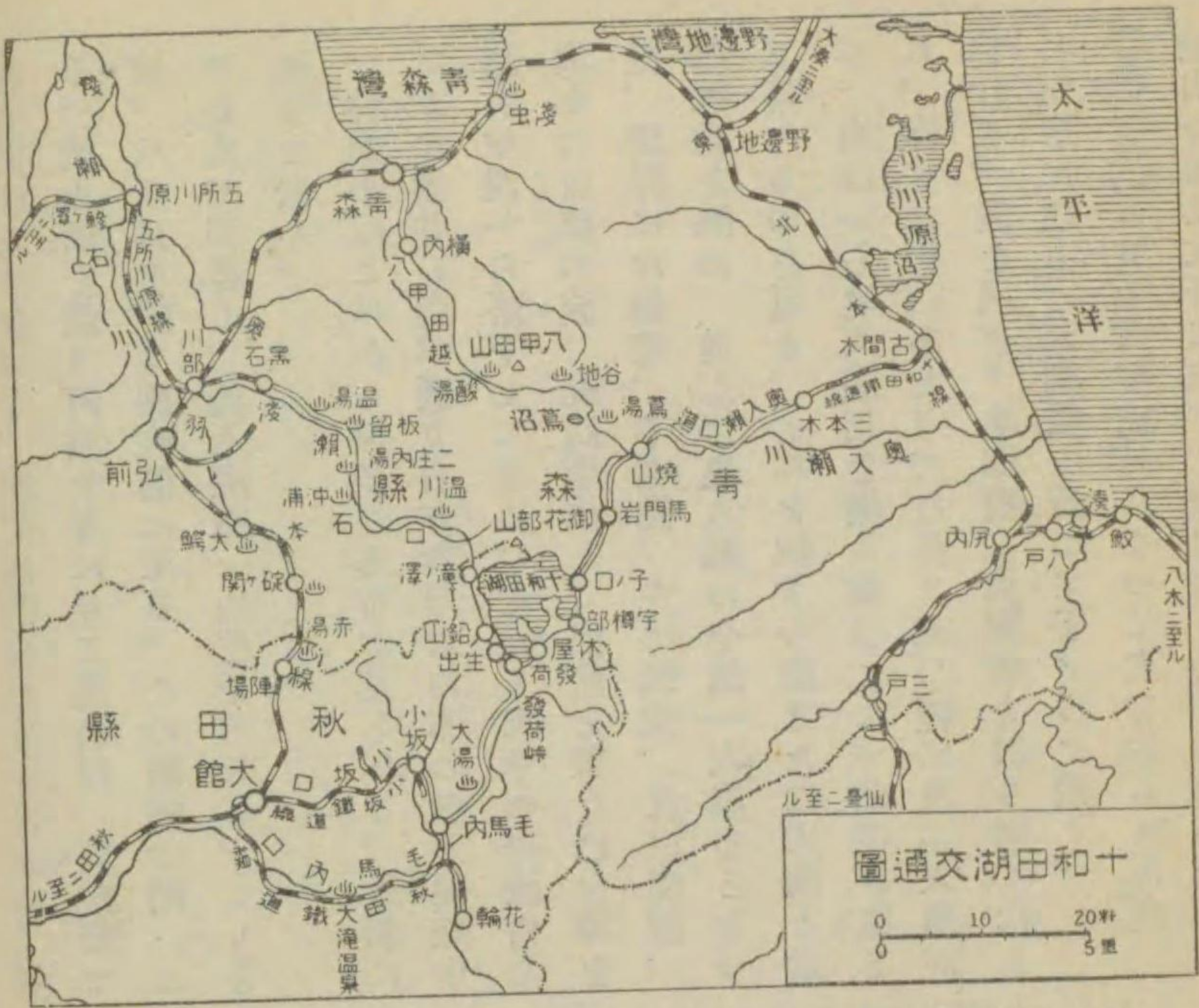
れと斜に向き合つて、左に馬門岩まかどがそより立つて居る。駒止橋を渡り河流を左に見て進めば、阿修羅あしゅらの流、八十島を経て裸渡橋に至る。この兩橋の間いたやかえでが多く、奥入瀬隨一の勝景である、こゝを楓谷と云ふ。

尙進めばこれから數多の瀑布が見られる。最初には左に雲井の瀧が懸り右方對岸に白布の瀧が絶壁中腹の空洞から落下して居る。やがて河水の奔流白く泡立つ白銀しろがねの流、旋回環流して巴狀を畫く巴ヶ淵を見、對岸に白絲瀧、不老瀧、左に姫瀧、友白髮瀧、姉妹瀧を眺め、進んで奥入瀬の全流一大瀑布となつて落ちるのを見る、これを銚子の瀧または大瀧と云ふ。海洋から奥入瀬川を溯る鱒はこゝで前途を阻まれ、瀧壺に近いあたりでは長さ五〇糎に及ぶ大魚が釣れる。瀧を過ぎて寒澤橋、荒瀬橋を渡り暫くにして湖岸に達し、天淵橋を渡つて子ノ口に着く。

【つた葛温泉】 文士大町桂月によつて名を知られた處、燒山の西北五軒に位す。燒山橋の北詰を西に向ひ奥

入瀬川を左にして進む、間もなく右に折れ岩石の累累たる葛川に沿うて上り、右に風穴を見、左の方その流に架する昇天橋を渡る。これより密林の中に入ると、ぶなの巨木が多く十和田山中第一と稱するものが路傍右側に立つ。いたやかえでまた甚だ多く、とち、ほう、なら、諸種のかえでなどが混つて秋季はとりどりの葉色を示す。漸く平坦になり、樹木のまばらな處、右方にやゝ離れて大町桂月の墓がある。そこから間もなく葛温泉に着く。温泉宿小笠原には千人風呂がある。湯は鹽類泉、泉量豊富で極めて清澄である。

葛沼は温泉の北半軒にある。長徑六〇米、周圍山をめぐらし湖畔には白かんば、ぶな、なら、いたやかえで、はんのき、とちなどの潤葉樹があり、下生えにはしだの類が多く、沼の水は清澄で深く極めて神祕的である。沼には船をうかべ、いわなをつることが出る。この他附近に密林に閉されて月沼、鏡沼、長沼など所謂葛十沼がある。秋季紅葉の頃が最



も美しく見える。

【十和田湖】(一五圖) 青森、秋田二縣に跨り、奥羽山脈中にあり、八甲田火山群の南に位し、四周山を繞らして居る。東西一〇軒、南北八軒、ほとり四角形をなし南岸には御倉、中山の二半島が突出する、ために湖の南部は東湖、中湖、西湖に分たれ、自餘の中部以北は北湖と稱せられる、湖岸線は延長四六軒、面積七八方軒、全國湖沼中第十一位の大湖である。水面は海拔四二米。最大水深は三三八米で、田澤湖、支笏湖に次ぎ全國第三位、水温は表面夏季二二度三、冬季零度、深層は一年を通じて五度、湖盆の成因については二つの假定説がある。或は桶狀陥落によるとし、或は水蒸氣その他の瓦斯の地中に爆發して生じたものとする。後説によれば十和田湖盆は先づマールをなしたもので後中湖を噴火口とする火山が生じ、その活動全く止んで全部に水を湛へ湖をなしたものである。

湖邊の連山密林に包まれ、かつら、いたやかえで、

とちのき、ほう、きはた、さわぐるみ、ぶな、みずなら、さわしば、つのはじばみ、はりぎり、ななかまど、こみねかえで、やまうるし、しゆりざくら、うわずみざくら、みやまかますみ、いぬがやなど多く、秋季は紅葉の美觀を呈する。

十和田湖にはもと魚類が棲んで居なかつたが、和井内貞行の努力によつて今は和井内鱒の産が夥しくなつた、もと北海道支笏湖原産のかばちえつぼと云ふ小さな鱒の卵を取寄せ、人工孵化を行つて明治三十六年その稚魚三萬尾を放流したことが始りて、爾後年々數萬尾の稚魚を放流して、今は年産百萬尾以上に及ぶ。

遊覽の季節は五月から十一月上旬まで、ある、五月は櫻、つゝじ、藤、六月は新緑の美あり、夏は湖畔の氣温最高二度、最低一二度で、避暑に適し、月夜の舟遊が甚だ興が多い。秋は満山の紅葉燃ゆるが如く樹種多きにより色に變化あり、その美觀多く類を見ない。特に十月中旬がよい。湖畔で旅館のある

は子ノ口、休屋、生出の三箇處である。

湖への到達路には奥入瀬口、三戸口、毛馬内口、小坂口、黒石口、八甲田越道の六つがある。その中奥入瀬口、毛馬内口は普通遊覽者の表口、裏口をなす。

【子ノ口】

▽乗合自動車 三本木行 三本木經由古間木行

▽モーターボート 休屋生出行(直行及遊覽)

▽旅館 世界公園支店

【十和田神話】 その昔十和田附近の山村は八郎太郎と云ふ勇者があつて、谷川の水を飲んだが、その間に自分の姿が龍身に化したので、山を割き岩を開き水を堰き止めて一大湖を作りその湖の主となり、常に水中に棲んで居た。

その後南祖坊と云ふ僧が紀伊熊野の山中に入り熊野神社に參拜して千歳死を免れんことを祈つて居たが、神靈が南祖坊の夢に現はれ、「山麓にある金の鞋を履いて諸國を巡りその緒の切れた處を住家とすれ

ば永生が遂げられる」と告げた。そこで南祖坊は山を下つてその草鞋を履いて東奔西走多年に及び、十和田湖畔に來た時草鞋の緒が切斷した。南祖坊は神の告によりこゝを永久の住家とすべく、身を龍身に代へて湖水に飛び込んだ。しかるに既に久しき以前に湖の主となつて住んで居る八郎太郎が南祖坊を拒んだので、こゝに大格闘が起り、七日七夜鎬を削つて争つたが、八郎太郎は深傷を負ひ力盡きて敗走した。湖岸の五色岩や蠟燭岩その他の赤いのは八郎太郎の流した血に染まつたためであると云ふ。八郎太郎は十和田湖を立退いて別に海岸に大湖を造つて住んだ、それが八郎湯である。南祖坊は希望通り十和田湖の主となつたと云ふ。中山半島にある熊野神社南祖坊の堂はこの傳説に由來して建てられたものである。

【湖上の遊覽】 普通の遊覽には子ノ口から御倉、中山の二半島を經巡り、休屋に立寄り生出に至る。或はその逆の路を取る。子ノ口から船に乗つて西南に

どで、黄色になるのはいたやかえで、それが特に麗はしく感じられる。半島の西北端を八雲崎と云ひ、湖上靜穩の日はこゝに霧立ち昇り風ある日は波浪が特に高く上る。半島の北端から一軒半で日暮岬に達する。こゝには水面から直立する火山岩の上に赤松が茂り、その下には平坦な岩礁がある。船を繋いで岩上に立てば中湖の大觀をすることが出来る。中湖は御倉半島の間に位する直徑二軒半の火口湖で、その西北の一面だけが缺けて北湖に通じて居るが、他の三面は傾斜の急な火口壁をなして、湖底の深度もその中央に於て最大を示し、三六米を算へ、十和田湖中最深のものである。

日暮岬から中湖の湖岸に沿うて進めば比翼松、神代ノ浦を過ぎ鴨眠崎に至る、こゝには赭色の岩の間に御室と云ふ洞窟がある。その次には赤色の酸化鐵を多く含む集塊岩より成る赤根岩がある。そのあたり高く見上げれば千丈幕岩が長く連る、これは同じく集塊岩でその上にはぶなの林があり、下には黄、

向ひ御倉半島の北端を目指して進めば先づ湖水の色の美しさを感じる。湖沼學者のフォーレルは水色を分類して十一種としたが、十和田湖の水はその第三號色にあたり濃藍色を呈して居る。右方には北湖を隔て、青撫山(海拔七三米) 御花部山(膳棚山)(二、〇二米)を望み、左方には東湖のかなたには御子嶽(二、〇四米)高山(七五米)を眺め、前面には御倉半島に聳える御倉山(五〇米)を仰ぐ。これらの山々は山頂から湖岸まで凡べて密林で被はれ、倒にその影を湖面に映して居る。

子ノ口から三軒進んで御倉半島の北端に近づき、それより半島の岸に沿うて西南より南に轉ずる。半島の北岸には直立の絶壁があり、また極めて急峻な傾斜面があつて、こゝに姫小松、赤松、ななかまど、いたやかえで、なら、はんのき、ほう、かつら、やまざり、やまざくらなどの樹木が生ひ茂り、水際の岩面にはいわつゝじ、どうだんつゝじなどがからむ。初夏には新緑が美しく、仲秋には紅黄とりどりの變色が見事である。葉の色の眞紅になるのはななかま

茶、紫、赤、黒などの色を呈する火山熔岩、火山灰の五層が見える。これを色割岩または五色岩と名づける。更に安山岩より成る烏帽子岩、屏風岩、火山岩の節理により上部の崩壊した劍岩などを見て千本松に至る。日暮岬からこゝまで二軒半は中湖の東岸にあたる。

これより一直線に西に進み、中湖の西岸中山半島の御占場に至る。この間二軒、途中湖水の最も深いあたりを過ぎる。その水色は特に藍色が濃く、凄愴の感に打たれる。中山半島に近よれば湖底まで澄みわたる水際に巨大な杉の樹が立つて枝を水上にかざし神祕的に覺える處がある。こゝが御占場で、その背後には大樹の鬱蒼たる陰に巨岩が重なり合つて絶壁を作り鐵の梯子が懸けられて居る。これによつて登つて行けば十和田神社に達する。昔からその神社に參拜するものはこゝに來て角孔のある一文錢を沈め吉凶を占つたもので、錢が平に見えて沈めば吉、斜になつて沈めば凶としたさうである。明治三十年

代に神社の神職が御占場の深淵から數萬の青錢を引揚げて見たが、その種類は二百餘に及んだと云ふ。

御占場から西北に向ひ中山半島の東岸に沿うて進めば、水際に近いあたりは赤紫色を呈する集塊岩が多く、その水に接する處は波浪に浸蝕されて凹み込んで居る。そこに波が入つて岩に打ちかゝると、その音が反響して美しい音色が聞こえる。高い處には姫小松の純林が見える。業平岩、千代の浦、小町岩、千代ヶ崎を過ぎ千鶴ヶ崎に至る。御占場からこゝまで一軒半、中湖の火口壁はこゝで終る。日暮崎からこゝまで直線距離二軒の間は中湖、北湖の境界である。

千鶴ヶ崎から中山半島の北岸を進み赭色の集塊岩よりなり赤松を戴く蠟燭岩を見る、更に西北千鳥ヶ浦に至れば、半島のくびれて船中から西湖の水面を望み得られる處がある。こゝを見越と云ふ。これより北進し半島の北端中山崎に至る。千鶴崎からこゝまで二軒。

あると云ふ。更に進んで柱狀節理の火山岩より成る惠比須大黒島を過ぎ休屋に着く。尾ノ上の松からこゝまで一軒半、子ノ口から遊覽しながら來れば一五軒、モーターボートで約二時間。

休屋には南北一軒半に連る砂濱があり御前ヶ濱と云ふ。その背後には奥行一軒の平地が横はり、南部に神田川が流れて居る。この川を境として南は秋田縣である。砂濱の中段に棧橋が突出する。

▽休屋の旅館 十和田ホテル 世界公園館 安野旅館

棧橋から上陸して北方に向ひ表參道の杉森の中を進むこと六〇〇米、十和田神社に達する。神社には日本武尊を祀る。その傍に熊野神社がある。また神社の右方の岩石の累積する間をよぢ登れば南祖坊の堂がある。それより更に右に下れば御占場に臨む斷崖の上に出る。休屋への歸途右に取つて裏參道を下れば左方に安山岩塊の間に存する洞窟數箇を見る。ここに山の神、風の神、火の神などを祀つてある。休屋から船で西に向ひ西湖を横切り直線に進むこ

中山崎で西に向へば右に黒石に通ずる瀧ノ澤峠や、銀山の西の岩岳(八〇米)が見え、正面には鉛山の西の白地山(二、三五米)が望まれ、左には小坂に通ずる鉛山峠が眺められる。こゝから西南に轉じ西湖に入り、中山半島の西岸に沿うて南進する。

見越を左に見て、夕暮松を眺め、葭野地と稱し蘆の生えて居る水の浅い處を過ぎる。それより更に權現崎、葉萸島、比翼松を経て暗黝色の複輝石安山岩の柱狀節理を示す六方石を望み、尾上松に至る。尾上ノ松の眺めは湖中比類少い佳景である。中山崎からこゝまで二軒半、半島の高き處には姫小松が生ひ繁り、湖岸には赤松が疎生し水際にはどうだんつゝじが岩にからんで居る。

尾上ノ松から東南に向ひ瓢箪崎、高砂浦、蓬萊島を過ぎ自籠の入江に入る。入口には鎧島と兜島がある。入江の中には巨大な岩石が直立して居る。鐵の梯子によつてその上に登れば平らな處に達する。こゝは十和田湖の傳説で名高い南祖坊が入定した處で

と三軒、途中左方に發荷峠(奇米)を仰ぎ見ながら、生出に着く。こゝは湖上遊覽の終點、休屋からモーターボートで二十分、こゝに和井内鱒の孵化場がある。

▽生出旅館 和井内ホテル

▽乗合自動車 大湯行

古間木から西北に進み右に姉沼を望み、やがて小川の農村を過ぐれば廣き小川原沼の水面が見え、その西隅湖岸平野の沼崎(一〇軒五、六哩五)に着く。

沼崎驛(一圖か二) 青森縣上北郡浦野館村

盛岡から 一四〇軒五―一八七哩三

▽乗合自動車 七戸行

【新館神社】(郷社)驛の東南約八軒、上北郡浦野館村八幡にあり、乗合自動車の便がある。七戸町に至る街道の南側に位し、境内には老杉が繁茂して居る。九月十五日の古例祭には流鏑馬の催がある。

寶物

- 一 胴丸 一領
- 一 懸佛 一個 天文二年源信經
- 一 鐵鉢 一個 永正十二年源盛經

【十三森古墳群】 浦野館村八幡、新館神社から東方約一料の地點にあり、圓形の小墳が十二基群集して居る。嘗てその内の一つからは炭手刀を發掘したことがある。

【盛喜山堅穴住居址】 驛の西南約一二料、七戸町字砂子田、蠶業試験場の南方にあたり、西より東に突出した半島状をなした丘陵にある。堅穴居住址數十個が群集して居る。堅穴は圓形を呈して地表や窪み、何れも直徑約一二米の大いさで、内一個よりは爐址が發見され、鐵滓、土器破片などを出した。土器破片は彌生式土器の系統に屬するものが多數でこの他齋部土器の破片もある。丘陵の南麓には小林川が流れ、また丘陵の西部には浅い空濠が南北の方向に掘られて堅穴群の存在して居る區域を限るやうである。蓋しこの丘陵は

堅穴住居址を包有した一種の保壘を以て護られた聚落遺跡の如き性質のものであらう。發掘遺物の上から見て石器時代以後の文化を有する住民の遺跡たるは明かである。かう云ふ遺跡は七戸町近傍に甚だ多く存在して居る。

沼崎から西北に向ひ左窓遙に八幡岳(海拔二〇〇米)を望み、七戸川を渡り右に甲田沼を見、赤川に沿うて丘陵の間を進み乙供(六哩九ちびき八料五)の野邊地川の流域に入り雪覆を通過し、北に折れて下り野邊地(五料六)に着く。

野邊地驛 (一圖か2) 青森縣上北郡野邊地町

盛岡から 一六一料五—一〇〇哩四
青森から 四二料六—二六哩五

▽大湊線 (一圖か1) 野邊地 大湊間 五八料四—三六哩三

▽乗合自動車 町内 七戸行

【馬門温泉】 (三圖あ2) 驛から西六料、鹽類泉で眼疾、創傷などに効くと云ふ。旅館 田中屋。

大湊線

野邊地 大湊間 五八料四—三六哩三

野邊地を出て東北に向ひ左窓陸奥灣を隔てて恐山を望みつつ東岸に沿うて下北半島の細長き頸部を進む。沿線はまだ開けず人口稀薄である。有戸(九料七)は驛のプラットホームの礫中に光澤の美しい玉髓が發見される。これはこの海濱の礫中に多いから自然に混じて居るので、土地の人は瑪瑙石と稱して居る。有戸から北に向ひ次驛陸奥横濱までは二〇料四(一二哩七)その驛間距離の大なることは本州に類がない。この間殆ど村落を見ず、海濱に濱茄子の群落、丘陵地に牧草を見るのみである。牛馬も稀に見えるに過ぎない。半島頸部の最高地點は横濱の東南にある吹越烏帽子(海抜五八米)。横濱からは近川(一二料七)を経て、漸く西北に轉じて田名部(一〇料五)に着く。これより西に向ひ右に釜臥山を望み大湊(五料二)に着く。

田名部驛 (一圖か1) 青森縣下北郡田名部町

野邊地から 五三料三—三三哩一

▽乗合自動車 田名部町行

▽馬車軌道 田名驛 田名部町間

【田名部町】 下北半島の中心商業地で、物資の集散が盛んである。斗南ヶ丘は町の中央から東一料、明治三年舊會津藩主は斗南三萬石に封ぜられたので、こゝに藩士四百戸を移して市街を經營したが、土地不毛のため他郷に轉ずるものが多く、後、藩が廢せられて再び荒蕪に委した。

▽乗合自動車 大畑 下風呂 大間行 恐山行 大湊行

▽旅館 鐘本 山理

【常念寺】 驛の北方約三料、町内明神町にある。慶長年間の創建と傳へ、今の本堂は元祿年間のもので云ふ。本尊阿彌陀佛は木彫の坐像で、高さ約九〇糎(三尺)、豐満優美な相好を有する藤原末期の作で、元祿時代に京都から迎へたもので、國寶に指定されて居る。

【恐山】 (二圖か1) 恐山は下北半島にある活火山で、

火口甚だ大きく、火口壁には起伏が多い。その東南の突起を屏風山と稱し、その南に北國山、更に南して小盡山、大盡山、西に丸山あり、北には著しい突起がない。火口壁の外側には二つの寄生火山がある。東南にあるのを釜臥山と云ひ火口を缺いて居る。西北には朝比奈岳（海拔六〇米）がある。これも火口を缺いた圓頂丘である。

恐山の火口内には恐山湖がある、直徑二軒弱の圓形で、東北方から流出して火口壁を破り火口瀨を作つて居る。これを三途川と云ひ、下流は正津川となる。

湖の北岸には火山活動の名残を留め、間歇噴泉、温泉及噴氣孔がある。その間歇噴泉及噴氣孔は地獄と稱せられ、麴屋地獄、鹽屋地獄、八幡地獄、金掘地獄、修羅王地獄などの名がある。

○修羅王地獄は大體に於て圓錐形をなし珪華が沈澱して珪華堆をなし、頂に噴孔があり、もと一定時間を置いて間歇的に温泉と水蒸氣を噴出したものである。

る時は、神秘的な山靈に接する思がある。更に下つて樹木の盡きた處に湖面が展開する。湖水の吐口をなす三途川を渡つて湖畔北岸にある恐山温泉に達する。田名部町からこゝまで一二軒、自動車を通ずる。恐山湖は東南に屏風山、南に小盡山、大盡山、西に丸山を廻らして火口の形體を具へて居る。これらの諸山には鬱蒼たる森林がある。また西方に見える寄生火山の朝比奈岳は安部城鑛山の煙毒のために全山の森林が立枯をなして居る。恐山温泉の泉質は酸性硫黄泉で、リウマチス、皮膚病、婦人病などに効くと云ふ。旅館 恐山ホテル。外に菩提寺でも湯治客を收容する。

温泉に近く、多くの地獄がある外、また極樂濱と稱する處があり、湖岸に石英の細砂が白く堆積して居る。これはこの火山を組成する石英粗面岩の風化により生じたもので、針の山も同じく石英粗面岩の浸蝕されたものである。

【恐山地藏堂】 恐山湖北岸菩提寺にあり、毎年七月

る。珪華は主として珪酸より成る、この珪華堆は底部の直徑七米、基底よりの高さ二米半、鱗狀波形的段階をなして居る。

田名部町から西進すれば道は恐山の東の斜面の山背に沿うて通じて遠近の景色を見ながら登られる。殊に安政年間に建てた里程表が一町毎に現存して居るため便利がよい。また處々に清水が湧出し湯を醫することが出来る。登るにつれて青森縣の誇りとするひばの林があり、谷間にはほう、なら、赤松なども繁つて居る。田名部から約六軒で、大湊からの道と出合ふ處に休み場がある。こゝは南の方陸奥灣と東北の方太平洋が同時に見え、その間に田名部町から南に續く田園、丘陵が遠くまで見渡され、珍らしい展望美を有して居る。それより進んで北海岸方面から登る道に合し、針葉樹と潤葉樹の混淆林を分けに行けば火口壁の頂に達する。このあたりで硫氣臭が感ぜられる。火口壁の内面に通ずる湯坂を北に下つて、樹木の間から恐山湖の碧色の水面を始めて見

十八日から一週間の緣日に地藏尊を祈れば死者の苦難を救ふと信ぜられ、血盆經を誦し、或はこれを紙に包んで血の池に投ずる風習が今に行はれて居る。平安時代には越中立山の地獄が廣く信仰されて居たが、近世になつて北のはての恐山が地獄の所在地として信仰されるやうになつた。

【藥研温泉】（三圖あ一） 田名部驛の西北二六軒、大畑まで自動車の便がある、大畑から九軒徒歩による。旅館 牧、古畑、自炊制を主とする。

【下風呂温泉】（三圖あ一） 田名部驛の西北三〇軒、自動車便あり、津輕海峡に面した海岸温泉、鹽類性硫黄泉で、リウマチス、皮膚病、婦人病などに効くと云ふ。旅館 角長、丸本、同支店、森脇、共同湯のみで内湯はない。

【佛ヶ浦】（二圖さ一） 下北半島の西岸佐井村福浦岬の南にある奇勝。凝灰岩が浸蝕を受けて種々の異形を呈したもので、親子岩、十三佛、地藏岩、如來ノ頭岩、天龍岩、片岩、五百羅漢、蓬萊岩、香爐岩、燭

臺岩、蠟燭岩等の名稱が附せられて居る。これに達するには汽船に乗つて函館から佐井に渡り、それから南へ徒歩二〇軒。

野邊地から西北に向ひ左に近く烏帽子岳、松倉山を望み、右に陸奥灣を隔て、遙に下北半島の恐山を眺め、野邊地灣岸に沿うて進み狩場澤六軒四を經て後、雪覆スノージェツドを過ぎること三回、左窓に鍋森山を見て西に向ひ小湊こみなと一〇軒六に着く。

小湊驛

(一圖さ2) 青森縣東津輕郡中平内村

野邊地から 一七軒一〇哩六

青森から 二五軒六一五哩九

【白鳥群棲地】 驛北約二軒、野邊地灣西岸の淺所の雷らい電宮附近の海面で、冬季は無数の白鳥が群棲し、天然記念物として指定されて居る。

【椿山】 (二圖さ1) 驛の西北約一二軒。夏泊半島の尖端に位し金山椿樹で掩はれ、花時極めて美觀を呈す。こは椿自生北限地である。こゝに椿山神社がある。

鳴島、裸島など大小の島嶼が散在し、その島廻りも面白い。夏は海水浴も出来る。旅館 東奥館、南部館、北見館、仙波館、椿館他數軒。

淺虫を出て西南に向ひ右窓に臨海實驗所、水族館から裸島、湯ノ嶋を眺めトンネルを過ぎる。右の方遠く陸奥灣口の平館海峡を望みトンネル二個をぬけて右窓に近く石油タンクを見、野内のち五軒一を通過する。これより青森平野に入り、左窓に近く大森山を眺め、野内川を渡り漸く西に轉じ、八甲田山の群峰及岩木山を左に仰ぎつゝ、浪打なみうち三軒二浦町二軒三を過ぎ、操車場を左に見、青森市の郊外を迂回して北に折れ青森二軒七に着く。

青森附近

青森驛

(一圖さ2及一六圖) 青森縣青森市

上野から(東北本線經由) 七三五軒二四五六哩九

急行 一七時間半

普通 二二時間半

盛岡青森間

小湊から夏泊半島の頸部を西に横ぎり、青森灣の東岸にある土屋の漁村に出で南に向ひ、灣岸を走れば右窓に茂浦島、鳴島、板の崎、白根崎が美しく眺められる。やがてトンネルを過ぎて近く湯ノ島を望み、遙に青森の市街及津輕半島の連山を見つゝ淺虫一〇軒二に着く。

淺虫驛

(一圖さ2) 青森縣東津輕郡野内村

上野から 七一九軒九四四七哩四

仙臺から 三七〇軒四一三〇哩二

青森から 一五軒三一九哩五

乗合自動車

水族館行 青森行

【水族館】 驛の北約二軒、裸島の近くにある、東北帝國大學理學部附屬臨海實驗所構内にある、陸奥灣に産する水産動植物及東北地方特有の淡水魚なる鐵魚が生育し、一般の觀覽に開放されて居る。

【淺虫温泉】 (三圖か2) 驛前、無色透明の硫化苦味泉でカルシウムを多量に含みて、腎臟病、婦人病、神經諸病に効くと云ふ。青森灣の煙波に臨み、近く湯ノ島、

同 (常磐線經由) 七四八軒七一四六五哩三

急行 一八時間 普通 二二時間

同 (奥羽本線經由) 七五六軒七一四七〇哩三

▽奥羽本線 青森 福島間 四八六軒四一三〇二哩三

▽連絡汽船航路 青森 函館間 青森 室蘭間

▽乗合自動車 市内 淺虫行 油川行 蟹田行 横内行 三厩行(蟹田接續)

▽旅館 [驛前] 鍵屋 鹽屋支店

[市内] 鹽屋本店 中島屋

一日平均

乗車人員 一、七五五人 降車人員 一、七六六人

發送貨物噸數 七六噸 到着貨物噸數 四三噸

主要發送貨物 木材類 石炭 活鮮魚 鹽乾魚 大豆粕 鹽 金銀

鑛 セメント類 魚肥 大豆

主要到着貨物 砂利 米 糞製品 硫黃 石材 活鮮魚 鹽乾魚

木材類 セメント類 鐵及鋼製品類

【青函連絡船と連絡船待合所】 青森函館間を連絡するため鐵道省の經營する青函連絡航路は約六二軒(100哩)の距離を有しこの間四時間半を要する。現在の就航船は翔鳳丸(三、四〇噸)飛鸞丸(三、四九噸)津輕丸(三、四四噸)

松前丸(三、四噸)の四隻で、これらの船は各々約九〇人の収容力を有する外に十五噸貨車二十五輛を積載することが出来る。

【青森市】(一六圖) 青森灣の南岸に位し、東北、奥羽兩線の終點にあたり、青森縣廳の所在地たと共に北海道渡航の要點を占める開港場である。商業が盛んで、また工業が行はれて居る。人口約七萬一千。

外國貿易

重要輸出品 食鹽 米 木箱 魚網 麻繩

重要輸入品 原油 生魚 鹽藏魚 豆粕 木材

▽官公廳 青森縣廳(長島) 青森市役所(新町) 營林局(沖館)

地方裁判所(長島) 測候所(同) 歩兵第五聯隊(市外筒井村)

▽銀行 青森銀行(大町一丁目) 安田銀行支店(大町三丁目) 五

十九銀行支店(大町三丁目) 勸業銀行支店(本町四丁目)

▽新聞社 東奥日報社(長島) 青森日報社(柳町)

▽病院 縣立病院(寺町)

▽會社工場 青森臨港倉庫(新安方町) 青森製氷會社(新濱町)

東北商船會社(濱町) 秋田木材會社青森製材所(沖館)

▽娛樂場 歌舞伎座(鹽町) 活動常設館(新町) 電氣館 文藝館 遊樂館 青森館

▽料理店 金森(濱町二丁目) 坂井屋(濱町三丁目)

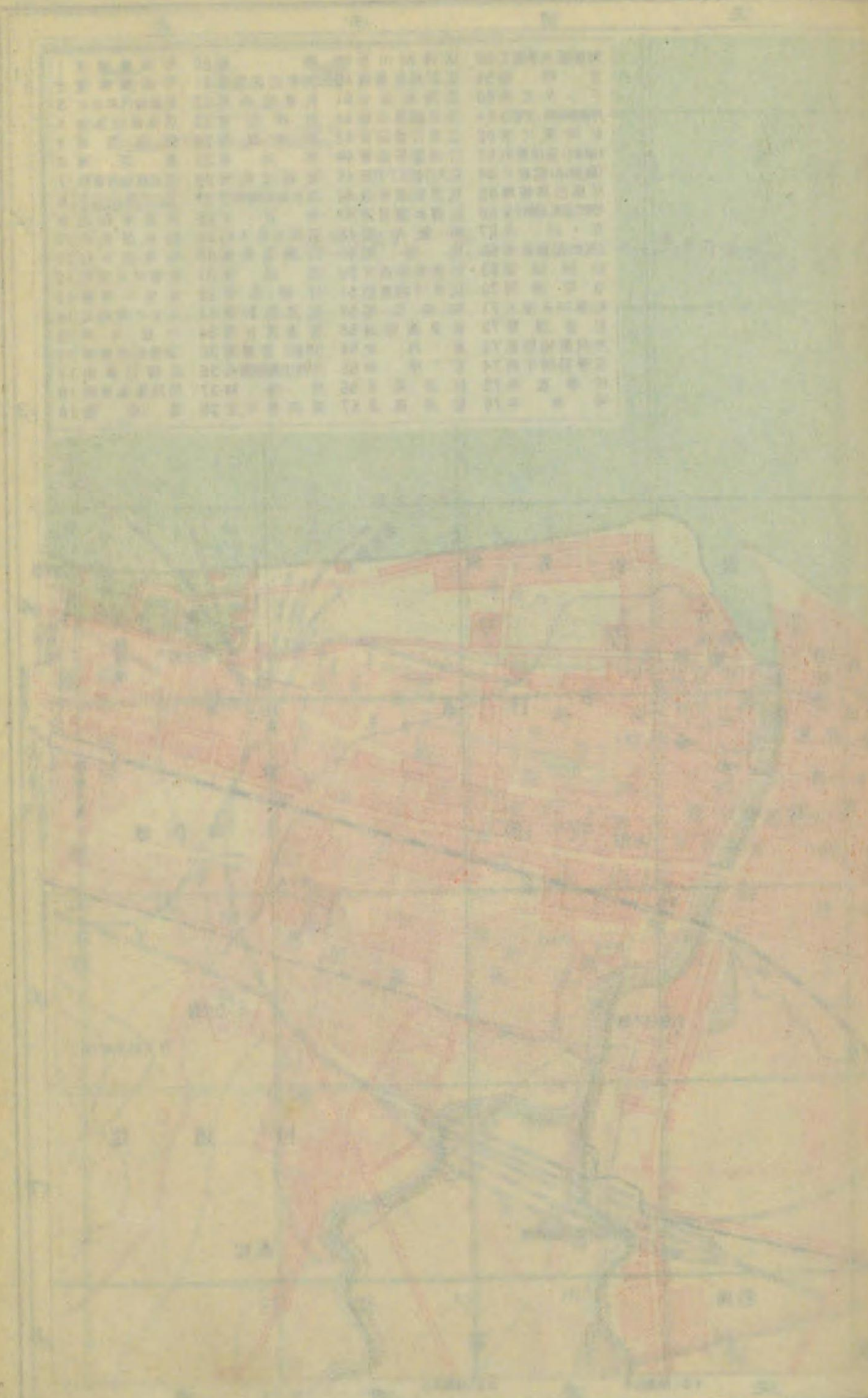
▽土産物 林檎

【遊覽順路】 驛—新町—縣廳—善知鳥神社—松木屋吳

服店—大町—濱町—公會堂—堤橋—合浦公園—國道通—驛。

【ねぶた祭】 舊七月の初一週間繼續して行はれる津輕地方特有の行事で、「ねぶた」と稱する張子の人物、鳥獸または武士、惡鬼などの繪姿を屋臺に載せ、中に燈火を點したものを或は車に載せ或は舁いで廻る。これに附添ふ男女は花笠を被り、美しく着飾り、または假裝をして笛、太鼓に調子を合せて市中を練り歩くのである。青森市弘前市では三四百の「ねぶた」が列をなして見物人雑沓を極める。

【善知鳥神社】「縣社」驛の東方約八〇米、市内安方町、市杵島姫命、多岐津姫命、多紀理姫命を祀る。青森市はもと善知鳥村と稱して居つたため、その鎮守の神を祀



れる神社を善知鳥神社と稱したのであらう。古くは南部氏の崇敬を受け江戸時代からは弘前城主津輕氏が代々藩費を以て社殿の造替祭典を行はしめて明治年間に及んだ。

【合浦公園】(一六圖あ4)驛の東約四軒浪打驛の北三〇米、青森灣に臨み、園内には相生松、傘松などと名付けられた老松がある。またこの海濱は海水浴場である。

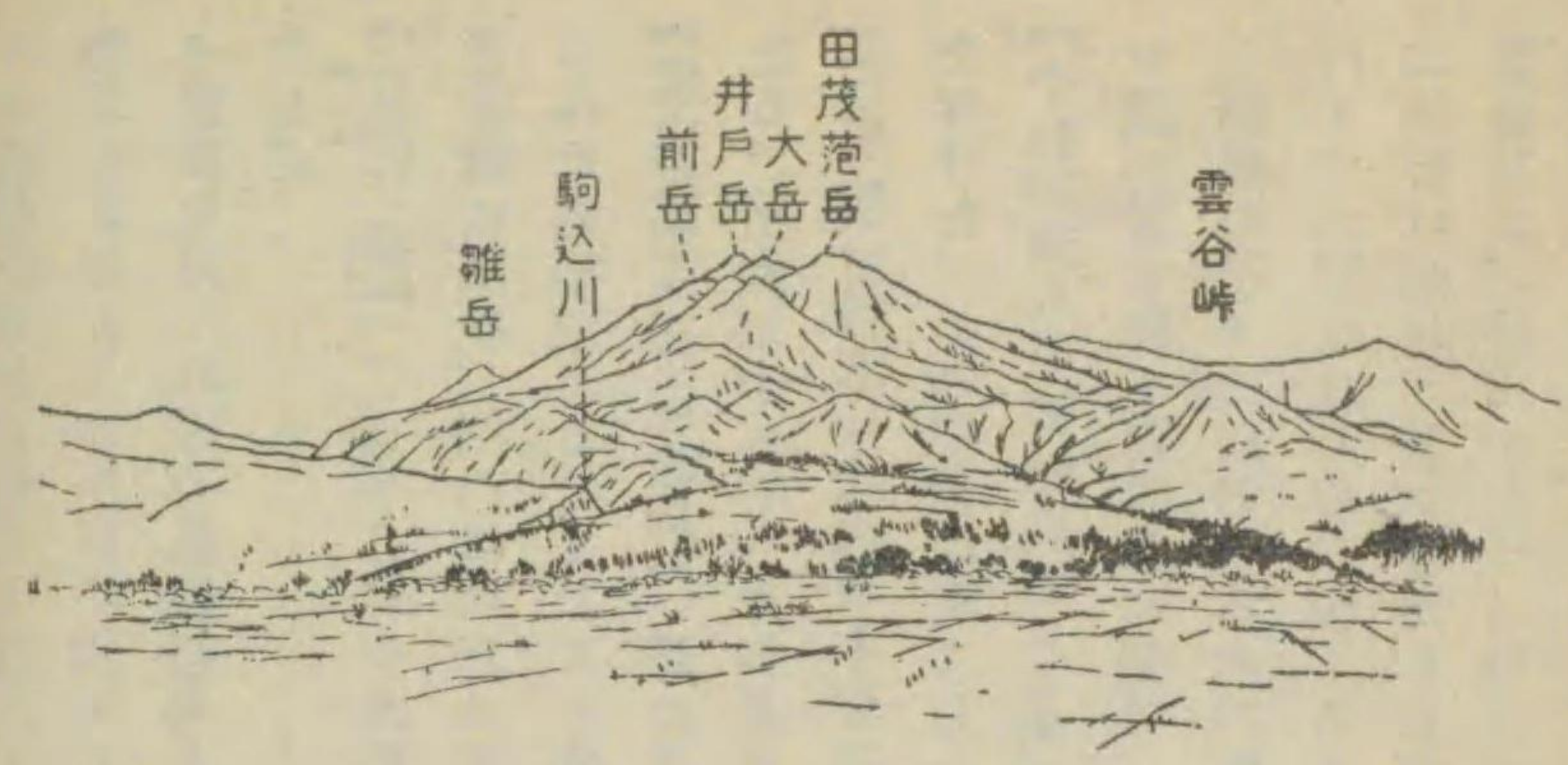
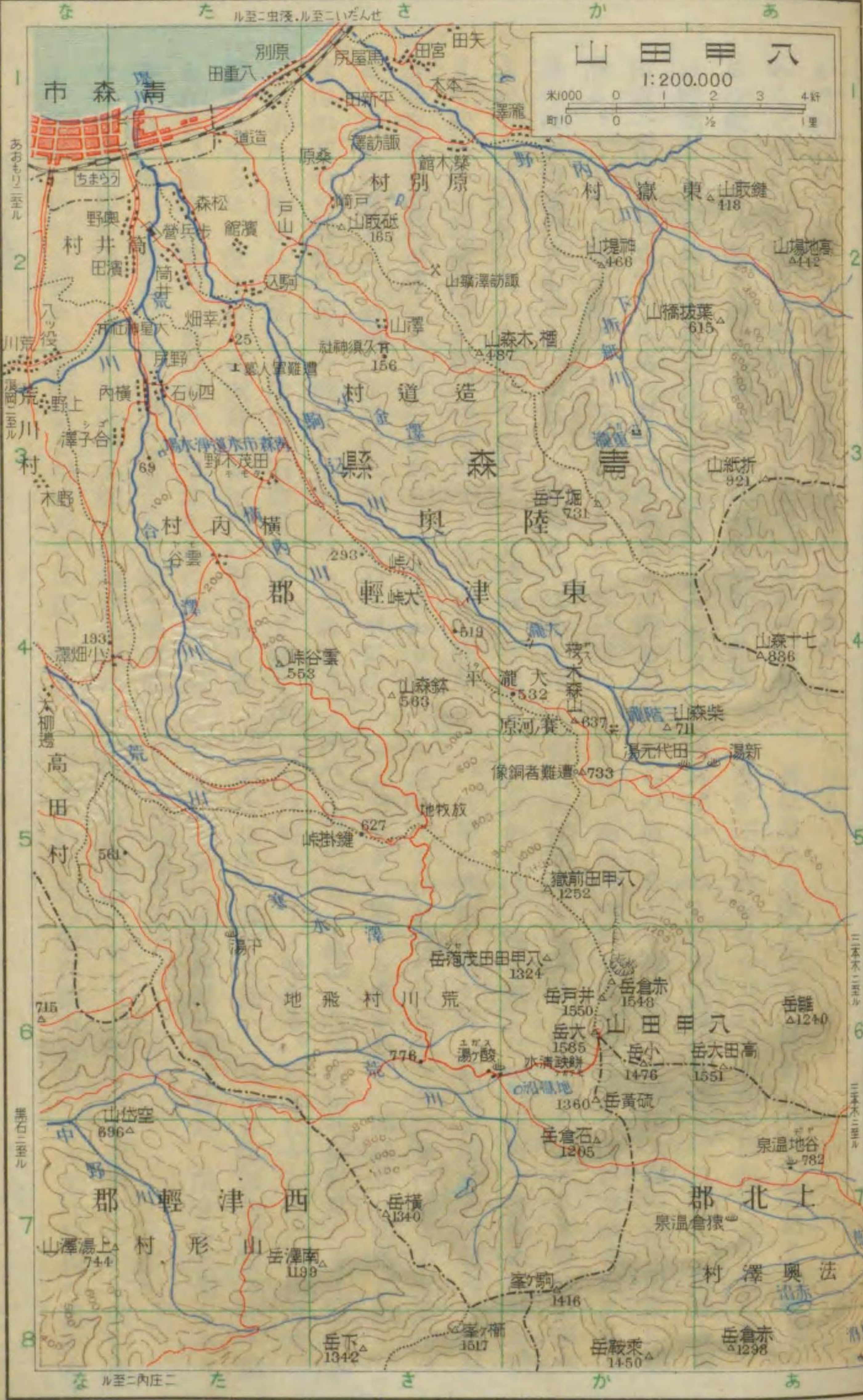
【雪中行軍遭難記念碑】驛の東南八軒、筒井村幸畑にある。明治三十五年一月歩兵第五聯隊の將校下士卒約三〇名雪中行軍の途次茂木野で大吹雪に遭ひ悲惨な死を遂げた。その記念に建てられたものである。

【十和田湖八甲田越道】(一五圖)青森市から八甲田山中の酸ヶ湯を経て葛温泉に出で、焼山にて奥入瀬口に合し湖畔の子ノ口に通ずる六二軒の山路。青森市から横内まで六軒は自動車の便がある。それより酸ヶ湯まで二四軒は駄馬、酸ヶ湯から葛温泉を経て焼山まで一八軒は徒歩、焼山から子ノ口まで一四軒は自動車。八甲田登山及温泉めぐりを兼ねて行くにはこの通路は興味

の多いものである。

【八甲田山】(一七圖)青森縣の中央部に聳ゆる火山群峰で、那須火山脈に屬する。東北本線で野内驛を経てから青森驛に入る手前まで左窓に山岳重疊の姿を示すものはこの山である。山上には前岳(海拔二、五三米)八甲田田茂池岳(二、三〇米)赤倉岳(二、四八米)井戸岳(二、五五米)大岳(二、五五米)小岳(二、四六米)高田大岳(二、五五米)雛岳(二、三〇米)などの諸峰がある。八甲田田茂池岳は外輪山の北部をはずすもので、赤倉岳は中央火口丘である、その間の火口原は今ほ沼澤地をなして居るが、嘗て噴氣孔の存して居た處で、こゝにある安山岩は噴出した硫氣のため變質して白色軽石狀になつて居る。赤倉岳の火口は著しく破壊せられて僅に南壁だけが殘存し、こゝに熔岩その他の堆積物の互層が露出して居る。山頂の東方に水を湛へた圓形の小爆裂火口がある。前岳は外輪山の北側に噴出した寄生火山で、秀美なる圓錐形を呈して居る。これは噴出の作用が緩かで長時期に互り漸次熔岩、火山灰を堆積したものである。頂上には火口が

登山者ハ普通青森市カラ横内及酸ヶ湯ヲ經由シテ大岳ニ向フ



盛岡青森間

八甲田山

ない。井戸岳は赤倉山の南腹に噴出した寄生火山で、その山頂に圓筒状の火口があり、直径約三〇〇米で、四壁が直立し深さ六〇米に及ぶ。この火口は井戸岳の成生後爆裂作用によつて生じたもので、岳の表面を掩ふ粗鬆の抛出物はこの火口から噴出したのである。大岳は外輪山の南に噴出した成層火山で、八甲田火山中の最

高峰である。山頂は鈍圓形を呈し集塊熔岩で掩はれて居る、山頂からやや東方に偏して圓形の火口があり、約一四〇米、深さ五〇米に及ぶ、火口の西壁は懸崖をなし、集塊岩及杏子状熔岩の好露出を示して居る。山頂から少しく西南に下つた處に爆裂火口址があつて、徑一〇米の小湖を湛へて居る、また西南山腹の酸ヶ湯附近にも硫黄噴氣孔が二個の圓状窪地となつて存し、徑五〇米に及ぶ、その一は熱湯を湛へて居る、これを大湯または地獄湯と稱する。他の一はその東南隅に小孔を有して、それから盛に蒸氣を噴出して居る。このあたりが八甲田山中最後に爆裂した處で、現時最も温泉に富んで居る。高田大岳は東方に位する成層火山で、八甲田山中第二の高峰である、その火口は破壊せられて北方に開いて居る。小岳はその西側にある熔岩丘で、岳は東北側に生じた寄生火山である。高田大岳の裾野は東南によく發達して居る。八甲田登山はこの連峰の盟主たる八甲田大岳に登るのである。登路には青森口と葛口がある。青森から八甲田頂上

まで約三三料で、途中横内まで六料の間自動車の便がある。横内から雲谷峠を経て酸ヶ湯まで二四料の間駄馬の便がある。酸ヶ湯から頂上までは凡そ五料で往復三時間半、雲谷峠は海拔三三〇米で廣い裾野の中にあり、附近一帯は放牧地で、牛馬の群が自然のままに遊んで居る。こゝから酸ヶ湯までは緩慢な登りである。酸ヶ湯には登山案内者も居る。小岳との鞍部までは小さな唐檜や白樺の林が美しく續いて四料ばかりは緩かな登りで鞍部から餅ヶ清水を経、林の茂みをくぐつて急な岩場を過ぎ偃松地帯に入る。それから五〇米ばかり登ると頂上に達する。周囲には高田大岳を始め八甲田の連山が連つて濃緑の唐檜の疎林が岳肌を包んで居る。山頂から眺むれば東は井戸岳、石倉岳を隔てて達く裾野を走らせ、低き山々の彼方に太平洋の海岸線が望まれる。北は青森市、青森灣から下北半島の恐山が一眸の内に集つて雄大である。西には赤倉岳、楯ヶ峯が連なり津軽平野を隔て、遙に岩木山が美しい山容を現はし、南には高田大岳から乗鞍岳を超え遠く山波が續い

盛岡青森間

て居る。

蕨温泉から酸ヶ湯までは約一八料、蕨沼を左に見て美事なぶな林を登つて行くと左手に赤倉岳が見える。四料ばかりのところ蕨川を渡り、三本木、淵澤方面からの道と合して少し登ると高田大岳の姿が眼前に現れる。蕨から六料の處を右に入れば谷地温泉がある。尙三料ばかり左に入ると猿倉温泉がある。猿倉温泉への追分からは道幅も狭くなつて唐檜や白樺の疎林が續く、八甲田連山と楯ヶ峰の鞍部を成す高原帯には沼地がある。それを過ぎると酸ヶ湯温泉に達する。途中キヤムピングに適する處が多く、興味多い山路である。

【八甲田山スキー場】 八甲田山の裾野はスキー家にとつては好スロープである。積雪は十二月から四月まで二米に及び、雪質も良い、年々青森縣體育會スキー部員が酸ヶ湯に合宿練習する。谷地、猿倉の温泉もスキーの根據地なる。

【酸ヶ湯温泉】 (三圖か2) 浦町驛の南約三〇料、途中横内まで約六料の間自動車あり、その先は駄馬の便があ

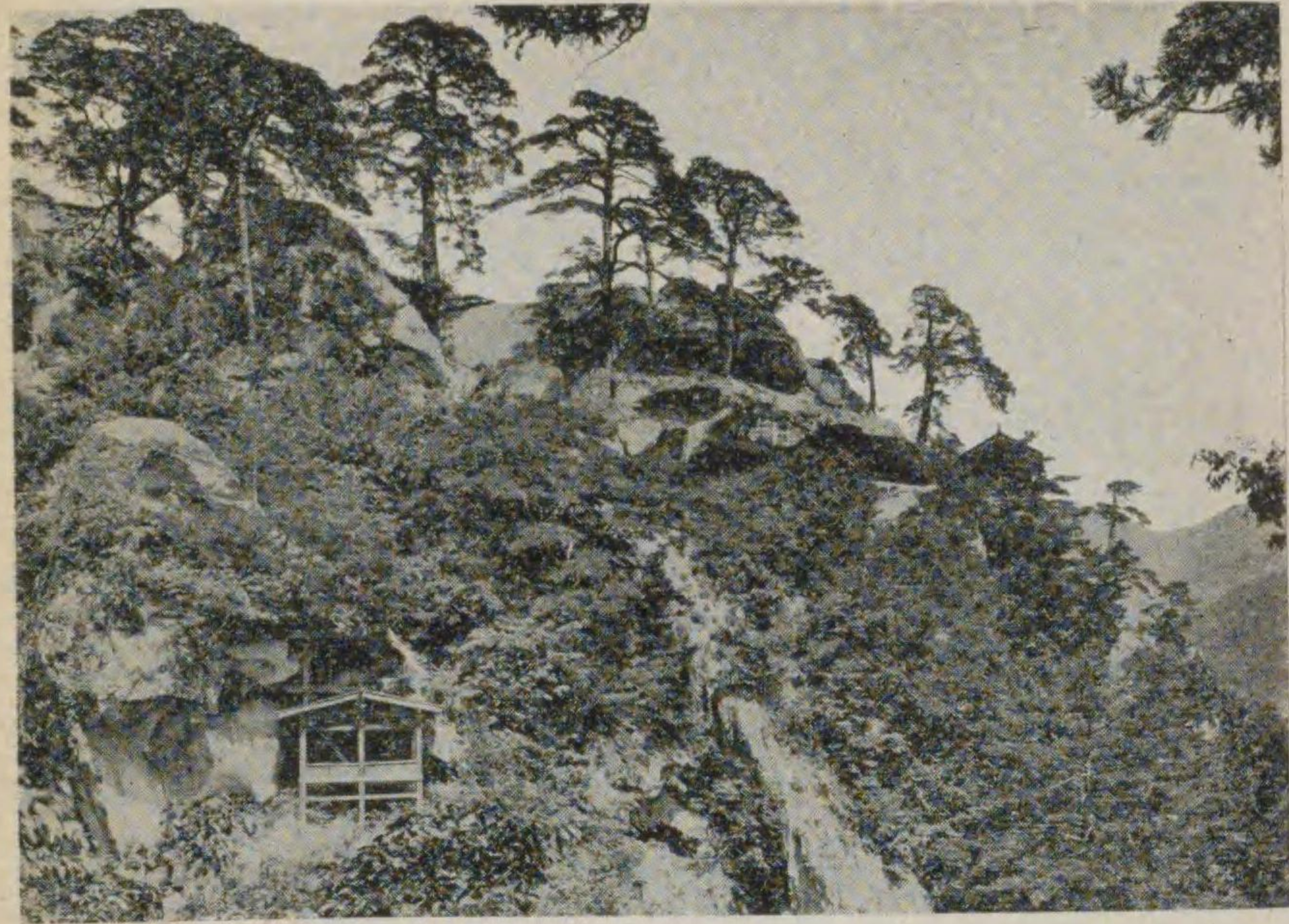
盛岡青森間

る、酸性硫黄泉で、呼吸器病、リウマチス、神経諸病、
婦人病、皮膚病などに効くと云ふ。附近には東北大學
高山植物研究所、地獄沼などがある。旅館 酸ヶ湯温
泉組合。

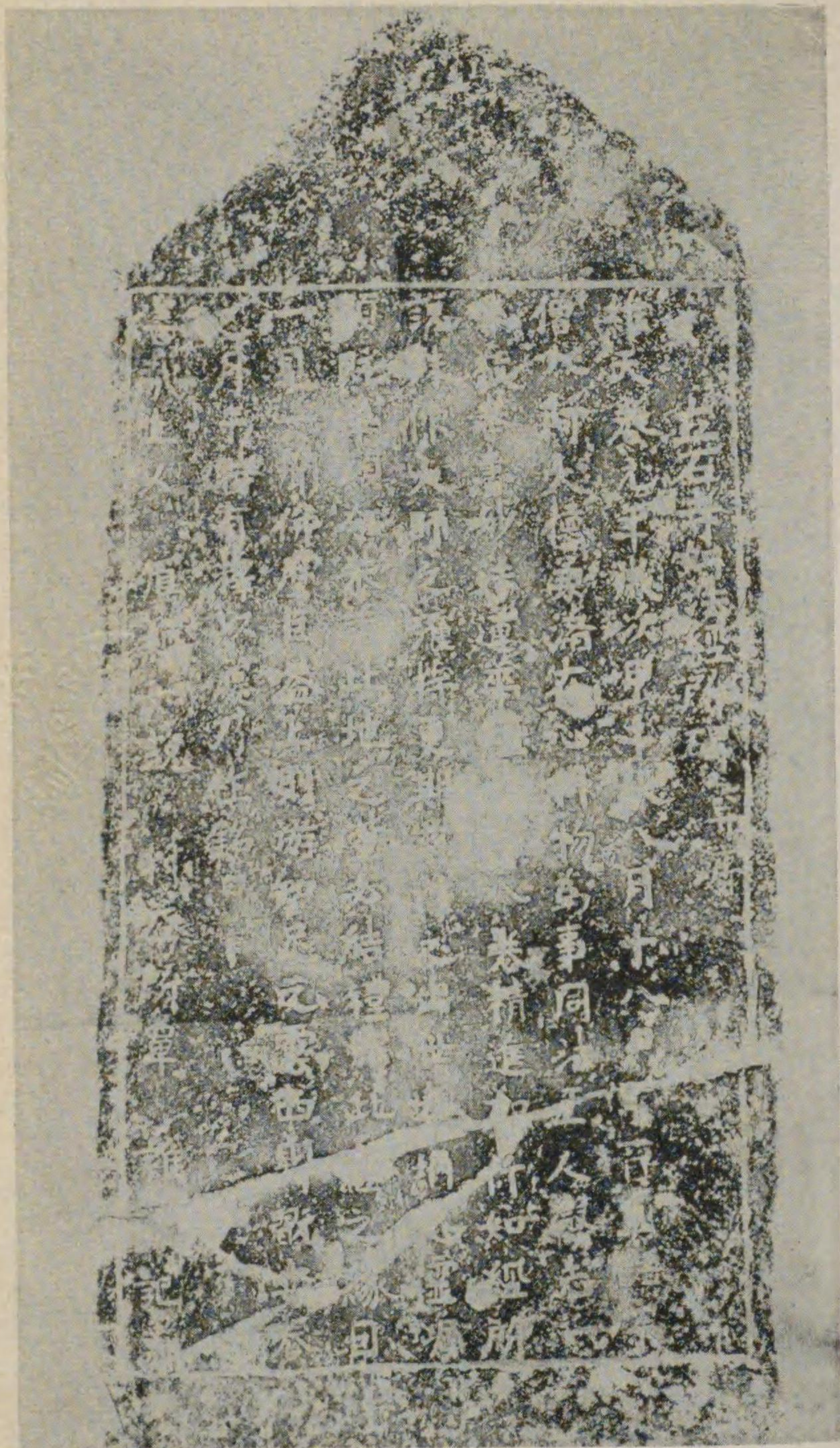


社 神 杉 上

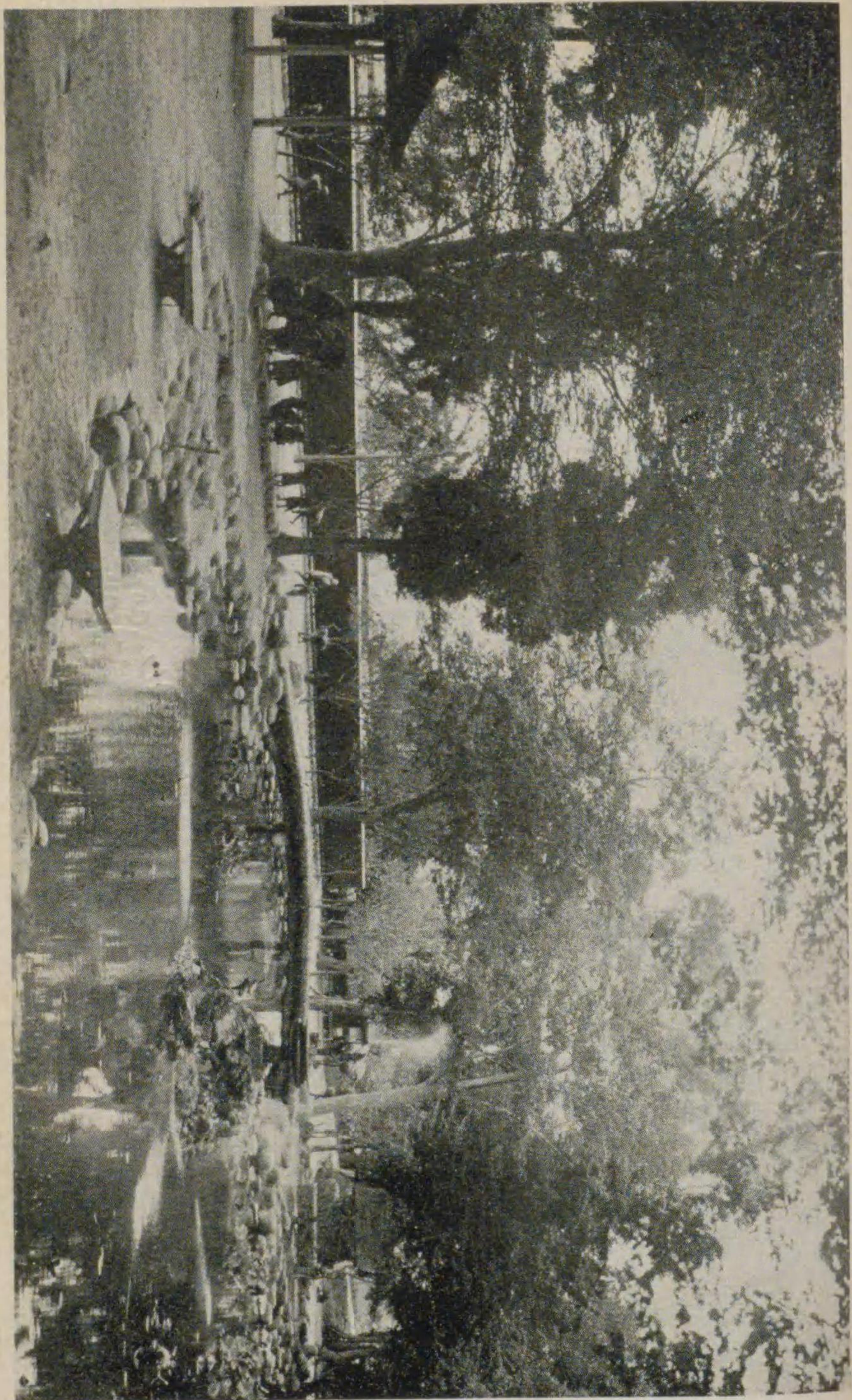
山 寺



大 沼 浮 島

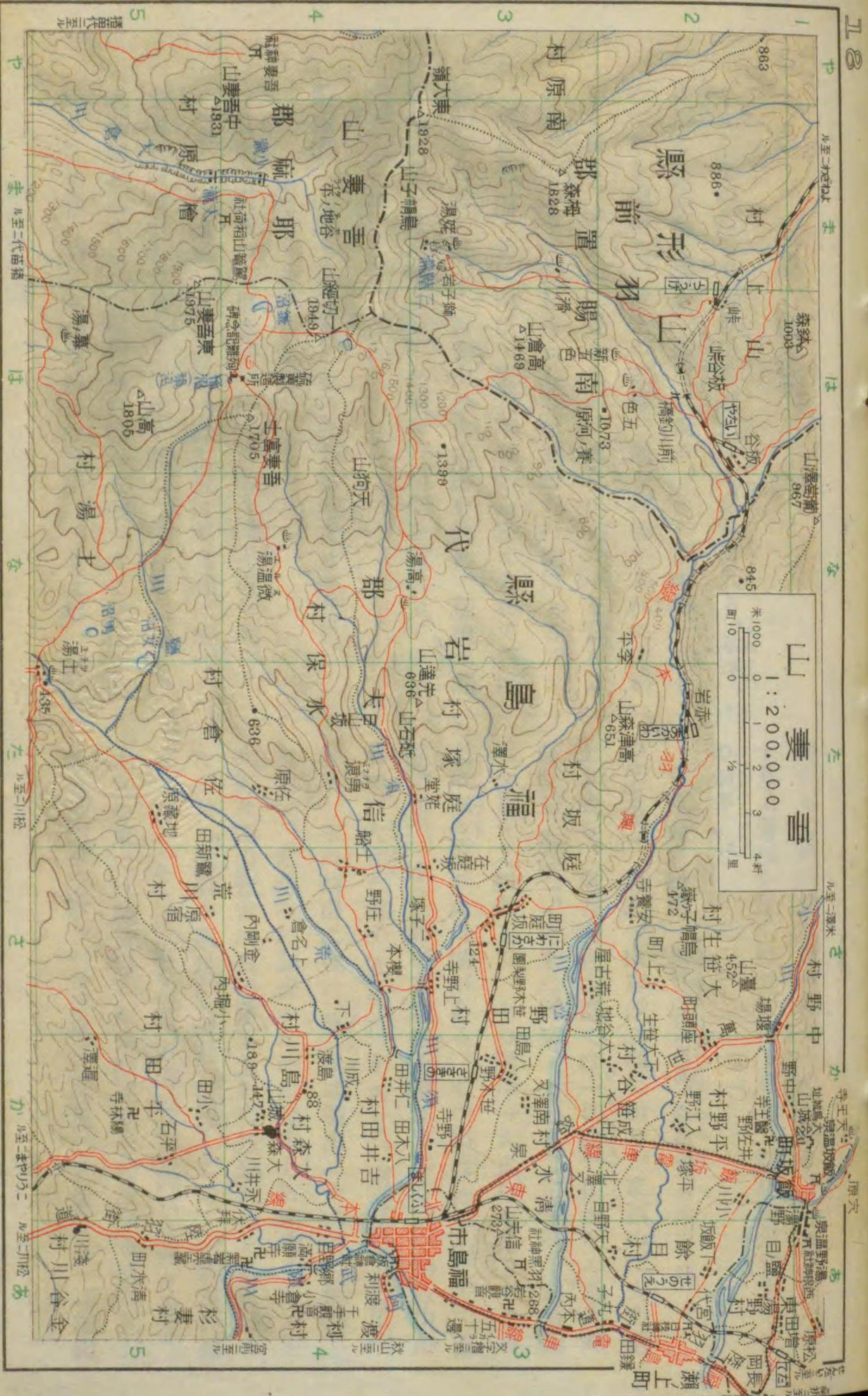


立石寺如法經所碑

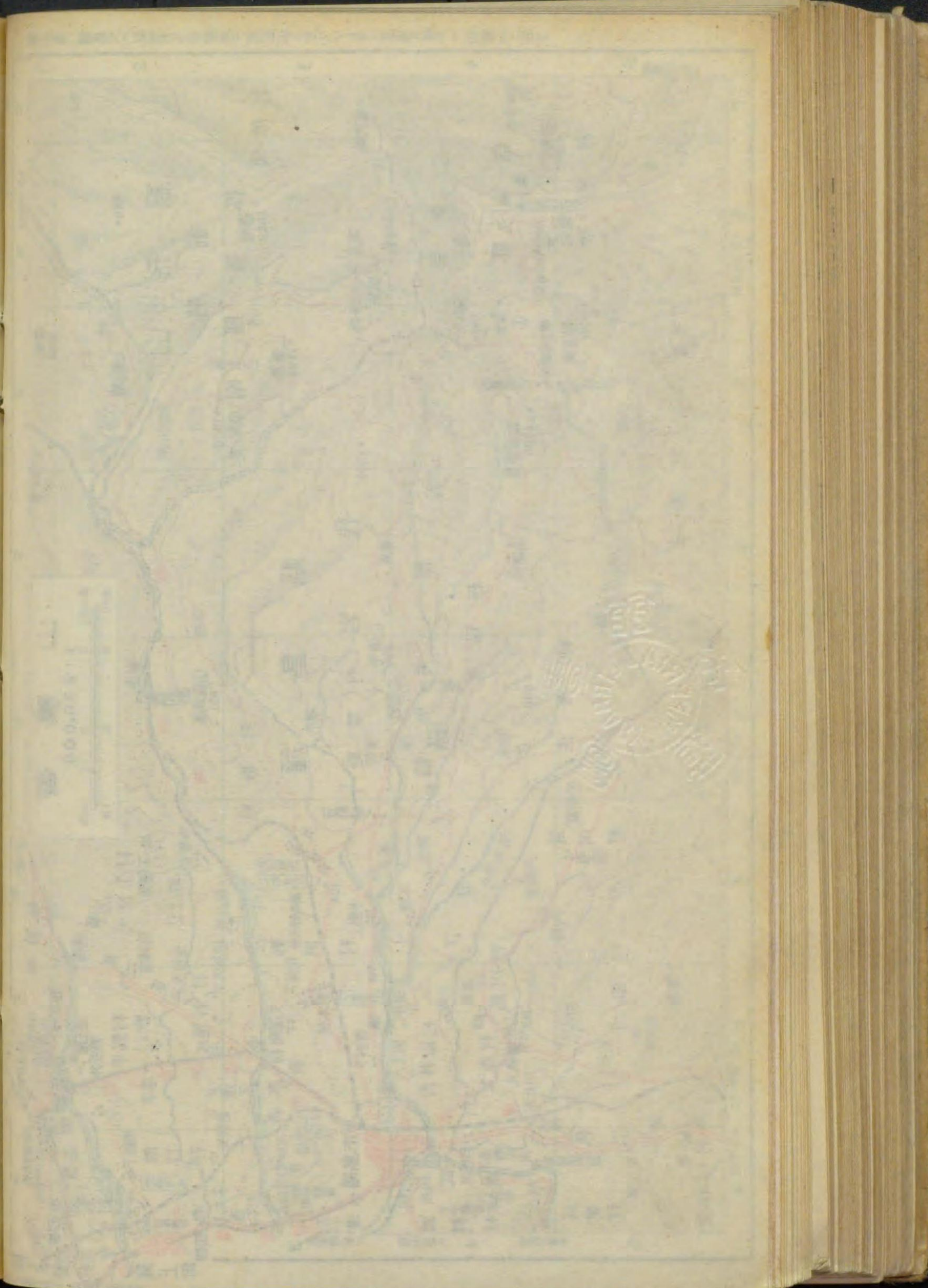


千 秋 公 園

THE UNIVERSITY OF CHICAGO
1901



登山者八福島又八庭坂乃自動車子砥石山に至り、七日湯湯を經て一切經山三回



福島 新庄間

奥羽本線により板谷峠を越えて山形縣に入り、米澤、山形の二盆地を過ぎ、新庄に至る、その間米澤、山形の二市を經由し、數條の支線、地方鐵道がこれに連絡して居る。吾妻山に登るもの、五色にスキーを試みるもの、山寺の奇勝を探るものなど皆この線による。

福島を出て北に向ひ、東北本線から左に分れて西に折れ、左窓に近づく吾妻山の火山群を眺め、稻田の間を進んで、笹木野三軒九を過ぎ、梨畑を右に見て庭坂三軒九に着く。

庭坂驛 (一圖さち及一八圖) 福島縣信夫郡庭坂村町庭坂

福島から 六軒九—四哩三

吾妻登山者の下車驛で、信夫高湯及微温湯(三圖から、一八圖)の二温泉への最近驛。驛附近は福島縣に於ける梨樹栽培の中心で早生赤、長十郎の二種を多く産し、本場梨と稱せられ品質優良。驛から發送する梨は年額約五百萬個、千五百噸の多きに及び、こゝは梨の發送

福島新庄間

驛として東北地方第一位を占めて居る。九月下旬から十月上旬にかけてはこゝに下車して梨畑を遊覽するものが多い。

▽乗合自動車 姥堂(信夫高湯、微温湯への途中)行

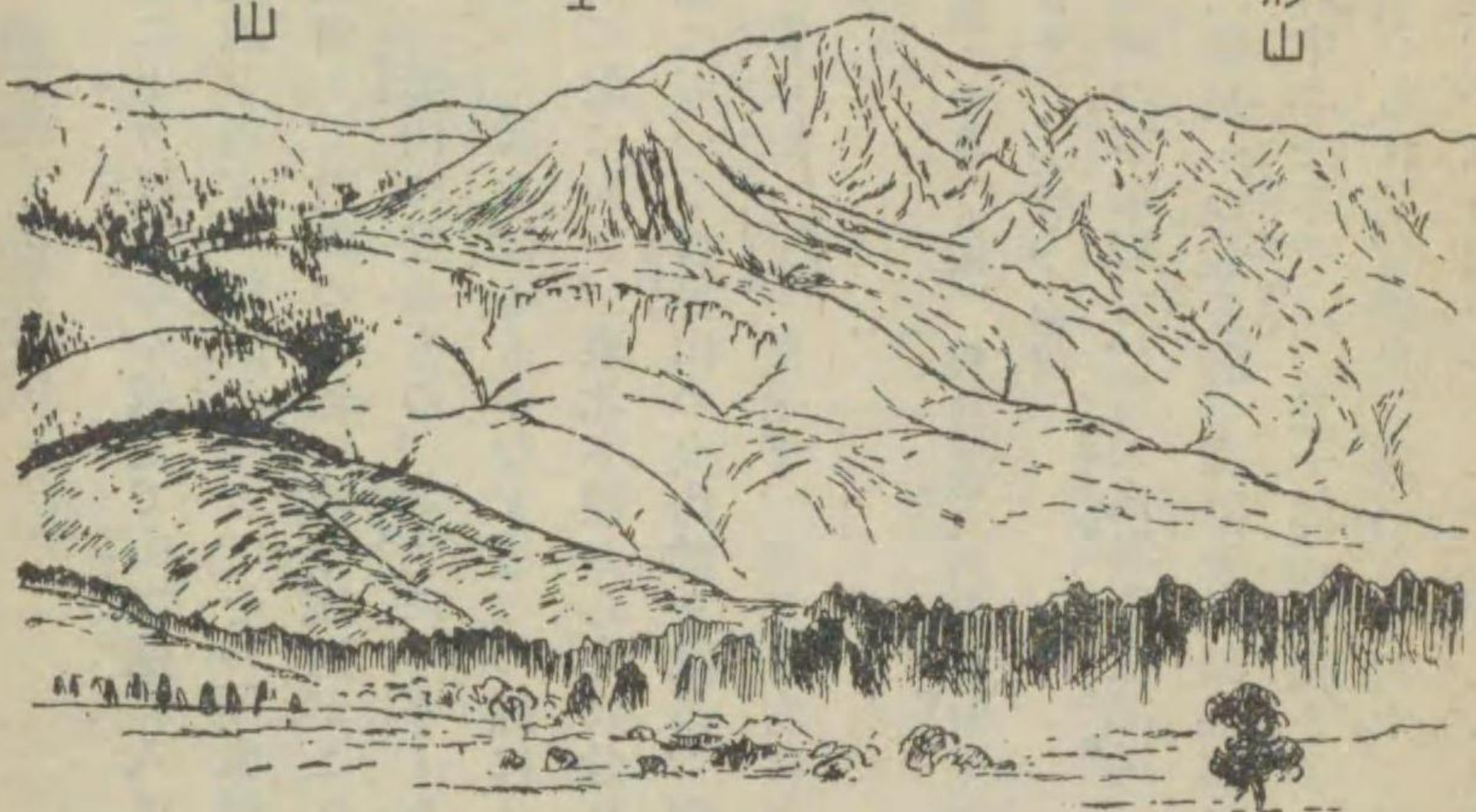
【吾妻山】 福島、山形の二縣に跨り、東西の二火山群より成る。東吾妻火山群では一切經山がその最高峰をなし、海拔一、九〇〇米に及び、その北に聳ゆる家形山(二、八〇米)と相對して、その間に一大火口を造り、その底に五色沼の火口湖がある。この沼はほゞ圓形で直徑三〇米、水は清澄で酸味を帯びて居る。一切經山の南には大穴と稱する火口があり、摺鉢狀で直徑約二〇米、その西南に近い、燕澤は明治二十六年に爆裂した處で、當時その調査のために登山した理學士三浦宗次郎及西山惣吉は噴出落下する岩片熱灰のために殞れた。この爆裂の遺址から盛に噴煙して居て、硫黄が採取される、そこに近く二氏の殉職記念碑が立つて居る。大穴の東には硫黄泉や亞硫酸瓦斯を發生する噴氣孔がある。山容の美しい吾妻富士(海拔一、七〇五米)は一切經山

家形山

一切經山

吾妻富士

東吾妻山



山妻吾た見らか川松

の東南に位して、山頂には徑^ミ〇米に及ぶ圓形の火口があり、摺鉢状で、内壁には集塊岩及熔岩の互層が見られる。その西には鹽野川を隔て、桶沼の火口湖がある、直徑^{一六〇}米、岸際から急に深く、水は藍青色を呈して美しい。沼の北には沼^平と稱する平地があり、東西^{六〇}米、南北^{五〇}米、その中央に泥湯温泉がある。また一切經山の西南に南北^{六〇}米に及ぶ狭長な鎌沼があり更にその西南に鈍圓錐形の東吾妻山^(二、七五五)米、吾妻富士の南に高山^(二、八五五)米が聳えて居る。これらの諸峰の西には大倉川の峡谷があり、小瀧及大瀧がそこに懸り、その北の谷地^平は高山植物の種類に富んで居る。西吾妻火山群はその西北に蟠り、東大嶺^(二、七六五)米、西吾妻山^(三、〇四)米、西大嶺^(二、七三)米などの高峰がある。中にも西吾妻山は最も高い。

吾妻山登山の根據地となる處は土湯、微温湯、信夫高湯の三温泉で、山上の硫黄採取場までは土湯から一二^二米、微温湯から六^六米、信夫高湯から八^八米である。土湯から北に向ひ急坂を登れば、約一^一米で右方には女沼

が見える、このあたりはキヤムピングに適する。これより眺望がよくなり吾妻山の諸峰が手に取るやうに見られる。その附近に男沼もある。更に六〇米ばかり進んで鹽野川を渡る。檜の植林を左に見て尾根に着き防火堤に沿うて一^一米半ほど登れば微温湯からの道に合する。これよりは道はや^々廣くなる。左に吾妻富士を見て

八^八米ばかり登ると硫黄採取場の小屋に達する、こゝは登山者の唯一の休憩避難所である。夏季には附近の爆裂の遺址で採取した硫黄はこゝで荷馬車に積み微温湯を経て福島の方に出す。吾妻富士へはこゝから一^一時間往復ができる。一切經山の頂上までは凡そ二^二米半。

その山頂の展望は廣大である。東には福島盆地を隔て阿武隈高原を望み、東北には雲表に聳ゆる藏王山を見る。北には脚下に五色沼を見下し家形山に對し、西北は西吾妻火山群から遠く月山、朝日岳を望み、西は飯豊山を見、西南は磐梯山、猪苗代湖、南は吾妻富士、高山、東吾妻山、安達太良山などが眺められる。

信夫高湯からは西に向ひ指定の天然記念物たる八重

福島新庄間

白山^{やましろ}石^{いし}南の自生地を右に見て五色沼に達し、それより西に折れて一切經山に登るのである。庭坂驛からの到達が便利なので、この道によるものが多い。

【信夫高湯】驛の西南一二^二米、吾妻山の南腹海拔^{七五〇}米の處にある、途中姥堂^{うばどう}まで五^五米の間自動車の便がある。凝灰岩中から湧出する硫黄泉で、泉量豊富、リウマチス、皮膚病、脚氣、神経諸病に効くと云ふ。旅館 安達屋、玉屋、自炊制を主とする。

【微温湯温泉】驛の西南一三^三米、吾妻山の南腹、海拔^{九〇〇}米の處にある。途中姥堂まで五^五米の間自動車の便がある。硫黄泉で眼病、神経病に効くと云ふ。旅館 二階堂、吾妻屋、信夫屋、自炊制を主とする。

庭坂からは東北地方の脊梁をなす奥羽山脈を横断して行くので、線路の勾配が加はり最急千分の三十三に及び、列車に補助機關車を連結する。驛を出て西北に向ひ、桑畑を過ぎると山地に近づく。こゝで漸く東北に轉じ、右に稻田を見下し、山腹に沿うて進み、更に

西北に折れ、福島盆地を辭して松川の峡谷に入り板谷峠いたやに向ふ。このあたりから先四驛の間は線路敷設工事の極めて困難であつた處で、奇景に富み峡流深く脚下に注ぎ、秋季は幽邃なる溪間に美しい紅葉を見る。五個のトンネルを過ぎて松川を渡り、更に二個のトンネルを經、スウィッチバックして赤岩あかいわ四哩八しりやちに停車する。これより西に向ひ左窓に河流を眺め、これに沿うて上り七個のトンネルを過ぎて松川の支流を渡り山形縣羽前はつぜんに入り、スウィッチバックして板谷四哩四いたやしりよに着く。

板屋驛 (一圖さち、一八圖) 山形縣南置賜郡山上村板谷

福島から 二一杆七一一三哩五

米澤から 二〇杆三一一二哩六

驛は海拔五三米、五色及新五色の温泉に行くものゝ下車する處。

【五色温泉】(三圖から、一八圖) 驛から西南約三杆、海拔九〇米、吾妻山の北側中腹に位する、途中一杆半は通路平坦、驛から駕籠の便あり、單純泉で、婦人病に効くと云ひ、子供の出来る湯として世に知られて居る。秋

温泉には近年スキークラブハウスとして設備の完全な六華俱樂部などが建てられたので、皇族方も毎冬練習に成らせられる。また學習院、慶應大學、第二高等學校、山形高等學校を始め諸學校の學生も多くこゝに合宿練習する。こゝは東京から週末旅行をする便利があるので、季節には數百人のスキー家が集まる。

板谷を出て雪覆スノーシエツドを過ぎ、左に五色温泉の谷を見、松川の本流に架する前川釣橋を眺め、西に轉じて松川の峡谷を辭し、板谷第一、第二の大トンネルを通過する。この第二トンネルは海拔八六米の分水嶺の中腹に穿たれ延長一杆半、その東口は海拔六〇米、これを出れば峠とうげ二哩五にに着く。

峠驛 (一圖さち、一八圖) 山形縣南置賜郡山上村大澤

福島から 二五杆七一一六哩

米澤から 一六杆三一一〇哩

驛は海拔六六米、東北地方に於ける諸驛中最高地點を占めて居る。松川の上流に位する滑川及姥湯の温泉

季紅葉の美あり。旅館 宗川。

【新五色温泉】(三圖から、一八圖) 驛の西南約三杆半、駕籠の便あり、五色温泉への途中から右に折れて行く、アルカリ性の炭酸泉で婦人病に効くと云ふ。旅館 金子屋、佐藤館。

【五色温泉スキー場】 明治四十三年横濱のアルペンスキー俱樂部員ウエンクラ、クラツツアなどの開發にかゝる古い歴史を有するスキー場で、雪質が理想的で且つ附近にスキー登山向の山が多い。初身者の練習には多少斜面が急に過ぎる嫌がないが、山岳スキーの練習には最も良い處である。一日行程のスキー登山には鉢森山(海拔二、〇〇米)、高倉山(一、〇〇米)などがあり、熟達した人を誘ふものには吾妻火山群を廻る幾つもの興味多いコースがある。温泉から西へ八杆登ると家形山の中腹に立派なスキー小屋がある。こゝを根據とすれば家形山、一切經山、吾妻富士、東大嶺、西吾妻山、榊森山などへ往復が出来、この山群を廻る信夫高湯、微温湯、土湯などへ山越しも企てられる。五色

に行くものはこゝで下車する。

【滑川温泉】(三圖から、一八圖) 驛の南約四杆、駕籠の便あり、炭酸泉で、胃腸病、脚氣、リウマチスに効くと云ふ。秋季紅葉が美しい。旅館 福島屋。

【姥湯温泉】(三圖から、一八圖) 驛の南約八杆、泉質、効能滑川に同じ。秋季紅葉が美しい。附近は奇岩怪石に富む。旅館 枅形屋、自炊制を主とする。

【松川源流の瀑布】(一八圖) 吾妻山の北斜面にあたり松川の源流には瀑布が多い。滑川温泉の西南約一杆に大瀧、その下流に五階瀧、姥湯の南方に三階瀧、西方一杆半に潛瀧がある。凡て深山幽谷の間に位して壯觀を呈して居る。

峠を出てスウィッチバックをなし最上川の支流羽黒川に沿うて西北に下り、大澤三哩一杆の前後數個の雪覆を過ぎ、山間を離れて海拔三〇米の關根三哩七せきねに着く。

關根を出てからは米澤盆地を北走する。右窓には畑地を隔て、早坂山(海拔五三米)が見え、左窓には線路に

近く防雪林の落葉松が續く。やがて左右の展望が廣くなり、福島からの國道萬世大路を横ぎつて米澤に着く。

米澤附近

米澤驛 (一圖さ5) 山形縣米澤市花澤

米坂線乗換驛

東京上野から 三二二粒三—一九四哩一

八時四〇分乃至一〇時五〇分

福島から 四二粒—二六哩一

二時三〇分乃至二時四〇分

山形から 四七粒—二九哩一

一時二〇分乃至一時四〇分

▽米坂線 (一圖さ4) 米澤 羽前小松 今泉間

二三粒—一四哩三

▽乗合自動車 市内 小野川行 小松行 赤湯行 高島行 船

坂峠 (白布高湯途中) 行

▽旅館 驛前 あかねや 音羽屋 東洋館

市内 あかねや 音羽屋 武藏屋 丸萬(以上凡べて立可)

平均一日

乗車人員 八〇人 降車人員 八〇人

發送貨物噸數 三噸 到着貨物噸數 一〇噸

主要發送貨物 清酒 木材 米 陶器類 味噌及醬油 鹽乾魚 木

炭 機械類 煙草 絹織物類

主要到着貨物 石炭 木材類 セメント類 大豆粕 藥品類 鐵及

鋼製品類 砂糖類 乾魚類 麥類

【米澤市】(一九圖) 米澤盆地の南部に位し、最上川の支

流松川に跨り、もと上杉氏十五萬石の城下で、その臣

直江兼續が殖産興業を圖り、後有名なる上杉治憲(鷹

山)が養蠶機織を奨励した結果、産業大に發達し、明

治年間に至り絹織物の製織特に隆盛を極めた、その他

清酒、醬油、味噌、鐵器などの産も少からず、従つて

商取引も活潑で、銀行、會社、商店なども多く、人口

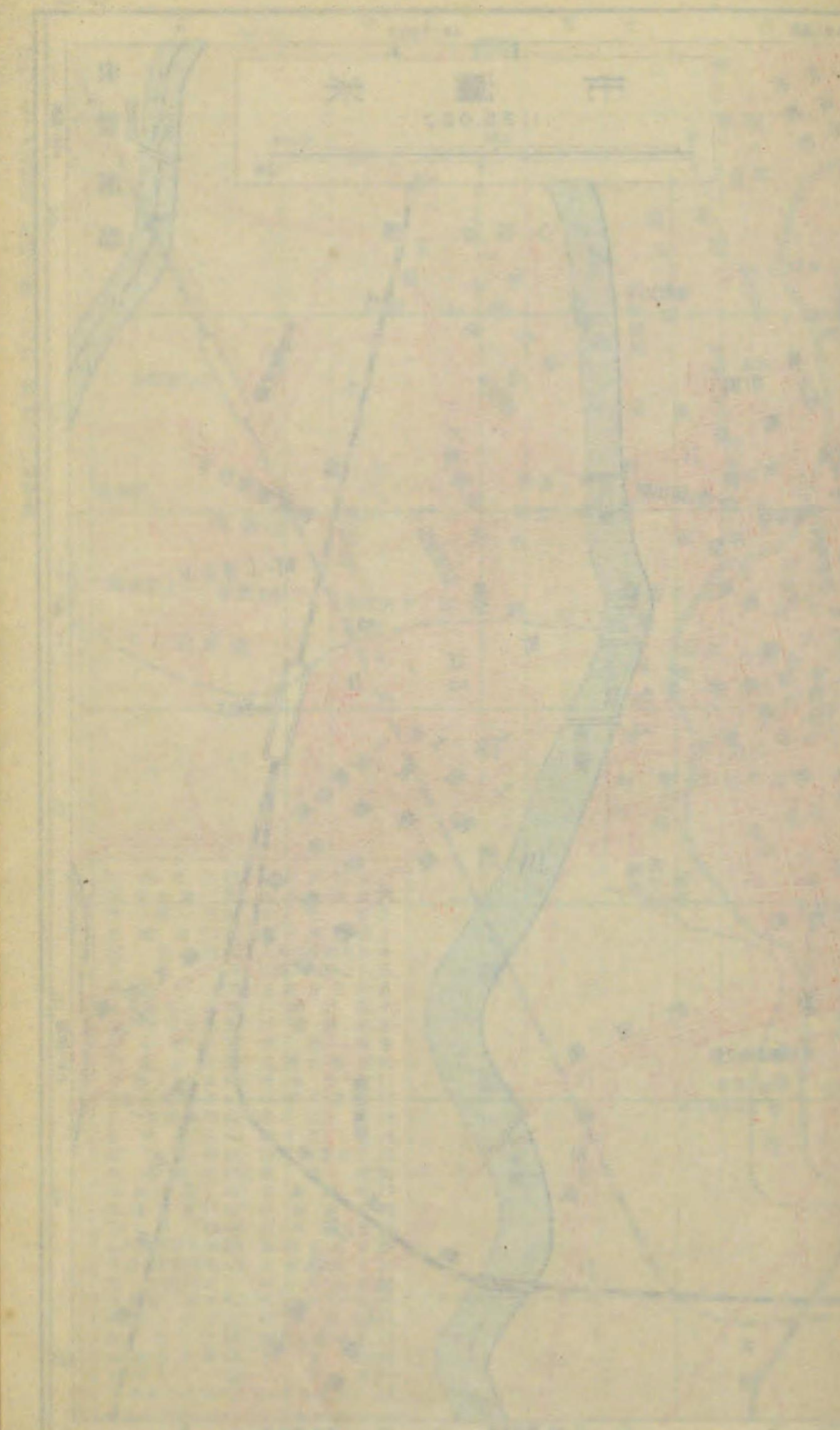
四萬七千に及ぶ。市内は町家と家中に分れ、最も繁華

な街路は大町、停車場通、立町、桐町で、官公廳、銀

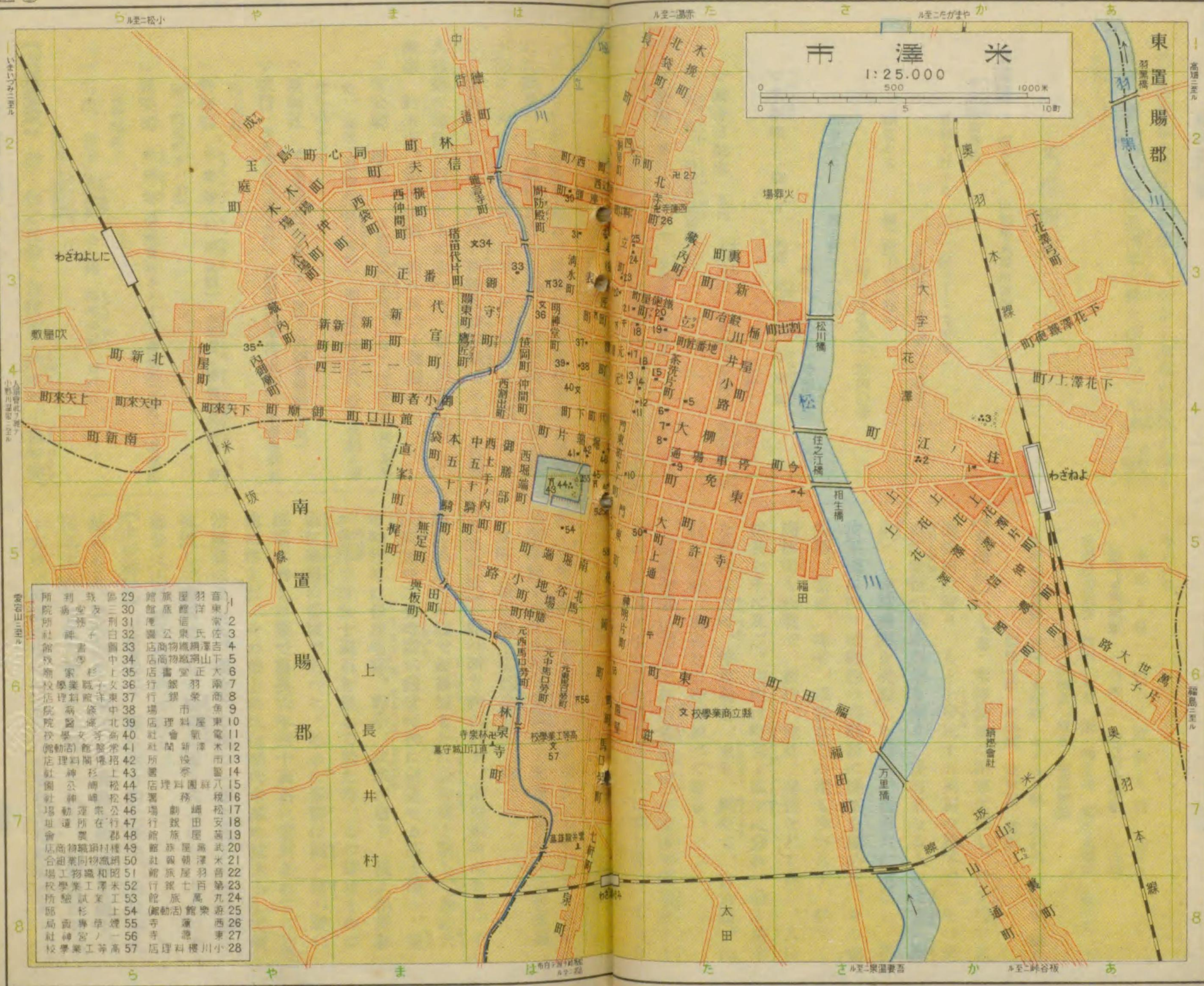
行、會社、商店など軒を並べて居る。

絹織物業は藩主上杉治憲(鷹山)が安永年間越後小千

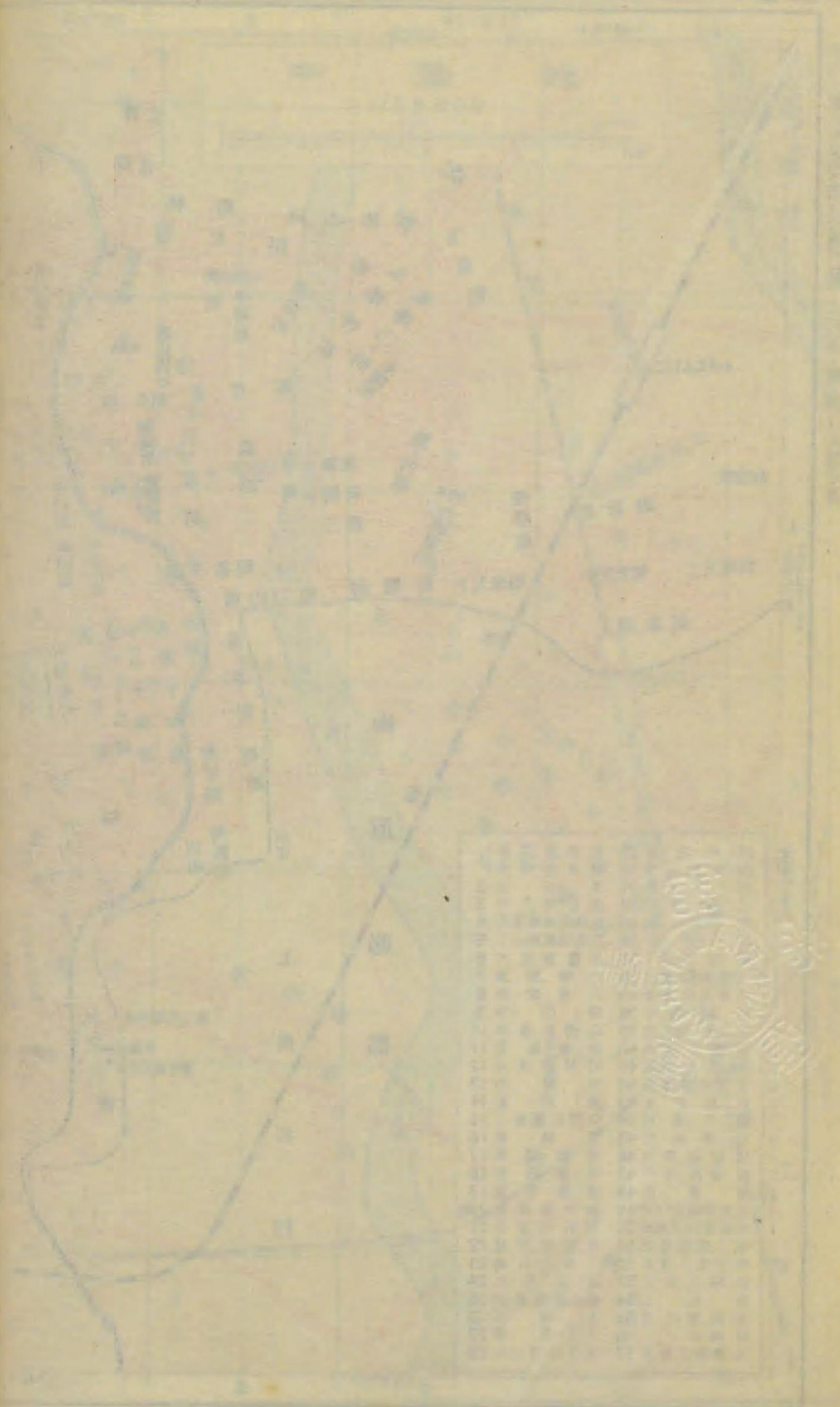
谷から織師を招いて傳習させたに起源を發し、藩主自



市内ノ主要ノ遊覽地ハ松岬公園上杉家ノ廟直江山城守墓



1	音東	羽洋	屋信	旅館	29
2	家佐	氏澤	信樂	旅館	30
3	吉下	網山	公物	商店	31
4	大正	正山	商店	商店	32
5	兩高	羽榮	銀行	銀行	33
6	魚東	市榮	銀行	銀行	34
7	米羽	屋榮	銀行	銀行	35
8	市羽	屋榮	銀行	銀行	36
9	米羽	屋榮	銀行	銀行	37
10	米羽	屋榮	銀行	銀行	38
11	米羽	屋榮	銀行	銀行	39
12	米羽	屋榮	銀行	銀行	40
13	米羽	屋榮	銀行	銀行	41
14	米羽	屋榮	銀行	銀行	42
15	米羽	屋榮	銀行	銀行	43
16	米羽	屋榮	銀行	銀行	44
17	米羽	屋榮	銀行	銀行	45
18	米羽	屋榮	銀行	銀行	46
19	米羽	屋榮	銀行	銀行	47
20	米羽	屋榮	銀行	銀行	48
21	米羽	屋榮	銀行	銀行	49
22	米羽	屋榮	銀行	銀行	50
23	米羽	屋榮	銀行	銀行	51
24	米羽	屋榮	銀行	銀行	52
25	米羽	屋榮	銀行	銀行	53
26	米羽	屋榮	銀行	銀行	54
27	米羽	屋榮	銀行	銀行	55
28	米羽	屋榮	銀行	銀行	56



ら令して粗製濫造を戒め、優美精巧の絹物産出を奨励した結果、その聲價が古から高く、廢藩後も交通の便が開けて大に販路が廣くなり、その隆盛を繼續して居る。製品の主なるものは平絲織及綾絲織である。近時人造絹の製造が行はれるに至つた。製造戸數約六百、機臺 約五千、製品價額 約八百六十萬圓。

- ▽官公廳 學校 市役所(門東町下ノ町) 工業試験所(花岡町) 高等工業學校(馬口勞町) 圖書館(御守町、直江兼續の遺書を藏する)
- ▽新聞社 米澤新聞社(門東町下ノ町) 米澤新報社(立町)
- ▽銀行 安田銀行支店(立町) 兩羽銀行支店(大町) 米澤商榮銀行(大町)
- ▽料理店 招僊閣(松岬公園) 小川樓(越後番匠町) 東屋(門東町下ノ丁)
- ▽娛樂場 松岬劇場(門東町下ノ丁) 遊樂館(立町) 常盤館(北堀端町)
- ▽名産 菓子—甘露梅 のし梅 時雨の松 ゆべし 玩具—笹野彫

【遊覽順路】 驛—住之江橋—市役所—門東町—松岬神

福島新庄間

社—松岬公園—米澤城址—上杉神社—上杉伯邸—高等工業學校—直江山城守兼續墓—北堀端片町—上杉家廟—立町—松川橋—佐氏泉公園—驛。

【米澤城址】 驛の西方約二軒半、南堀端町にあり、平地に築かれた城で舞鶴城または松岬城と稱し、初め大江廣元の二男時廣が鎌倉時代に創築せる所と傳へ、室町時代には伊達晴宗、輝宗、政宗が居り、後上杉景勝が會津で百三十萬石を領して居た時、この地はその臣直江兼續の居城であつた。然るに景勝は關ヶ原の戦に西軍に與した廉で慶長六年三十萬石に削封されてこの地に移され、その後上杉氏は歴代米澤の城主として明治維新に及んだ。明治六年濠の一部を残して他は悉く破毀し、遊園地として松岬公園と名づけた、今その大部分は上杉神社の境内である。

【上杉神社】 「別格官幣社」 驛の西方約二軒半、舊城本丸址にある。明治四年の創建で、藩祖上杉謙信を祀り、同三十五年別格官幣社に昇格せられた。祭禮は四月二十九日。社殿の向つて右側には寶物館稽照殿があり、

古文書、武器、佛畫、經卷など五十餘點を陳列して居る。そのうち國寶が十一點ある。次に列舉せるはその主なるものである。

寶物

- 一 綜藝種智院式并序「國寶」一卷 傳弘法大師筆
- 綜藝種智院と云ふのは天長五年弘法大師が庶民教育のために設けた學院で、この巻物はその創立趣意書並に學則と見るべきものである。
- 一 太刀「國寶」一口 銘助宗 拵草柄草包(上杉景勝所用)
- 一 太刀「國寶」一口 傳倫光 表に備前國 裏に興國二年云々の銘文あり。
- 一 劍「國寶」一口 無銘 (傳上杉謙信所持) 梵字及七星金象眼 鞘十二支詩繪
- 一 太刀「國寶」一口 無銘 傳元重
- 一 長卷「國寶」一口 無銘 傳則包 拵付
- 一 長卷「國寶」二口 無銘 傳片山一文字 拵付
- 一 鑑「國寶」十本 銘城州埋忠作 文祿二年十二月四日
- 一 絹本着色金剛薩埵像 一幅 平安時代
- 一 絹本毘舍門天像 一幅 鎌倉時代
- 一 紺紙金泥 兩界曼荼羅圖「國寶」二幅 鎌倉時代

し、福島、米澤を連ねる萬世大路にあたる。全長八七六米、明治九年から四年を開鑿、明治十四年東北御巡幸の際御通過あらせられ、その功を賞し、街道に萬世大路の名を賜はつた。

【笹野觀音】 驛の西南四料、笹野山の東麓にあり、縁日は舊六月十七日と十二月十七日で、後者は年越と稱し人出が多い、その折賣り出される笹野彫と稱する玩具は一刀彫の野趣に富んだものである。

【籍田遺跡碑】 驛の西四料、上長井村遠山にあり、上杉治憲が自ら鋤を執つて耕耘した處を記念するものである。

【小野川温泉】 驛の西南九料、自動車の便あり、弱鹽類泉で胃腸病、婦人病、皮膚病に効くと云ふ。小野小町の發見との口碑がある。旅館 扇屋、小野川ホテル 登府屋、坂本屋、外十數軒。

【白布高湯温泉】 驛の南一八料、途中舟坂峠まで自動車の便あり、舟坂から坂路徒歩による。西吾妻山への登山口にあたる。泉質は鹽類泉で温度六三度、婦人病、

- 一 絹本着色當麻曼荼羅
- 一 絹本着色涅槃像

一幅 鎌倉時代
一幅 室町時代

【松岬神社】「縣社」上杉神社の入口にあり、上杉景勝及治憲を祀る。もと上杉神社に合祀されて居たが、大正元年こゝに社殿を造營して遷し祀つたものである。例祭は九月八日。

【上杉家廟】 驛の西方三料半、御廟町にあり、板垣を廻らした杉林の中にある。中央の高き所に上杉謙信の墓があり、その前面左右に景勝以下累代の墓が並んで居る。

【直江兼續墓】 驛の西南約三料、林泉寺墓地内、墓は五輪塔で石造の小堂内に納められ、夫人の墓と並んで石柵が設けられて居る。

【佐氏泉公園】 驛の西三〇〇米、佐藤清水とも云ふ。園の中央に泉水湧出し、その傍に老松がある。傳説によると、こゝは佐藤莊司正信の別荘とした處で、その子繼信、忠信の産湯の泉であると云ふ。

【栗子トンネル】 驛の東南一五料、福島縣の境上に位

皮膚病、胃腸病に効くと云ふ。秋季紅葉が美しい。附近には赤倉瀧、白布大瀧、人形石、天狗岩、いろは沼、佐原澤温泉、火焰瀧などがある。旅館 東屋、中屋、西屋。

【西吾妻山】 吾妻火山群の最高峯で海拔二、〇三〇米、西には西大嶺(二、七三米)東鉢山(一、五三米)を連ね、檜原峠(二、〇四米)にその尾根を走らせて居る。東には東吾妻の諸峰が聳立する。北の山腹には白布高湯温泉、新高湯、吾妻温泉などを抱いて居る。

白布高湯温泉から西吾妻頂上まで約六料、温泉から南へ暫く雑木林の急な登りを狭い尾根について行くと三料ばかりで草地の平に出る、こゝからは西大嶺と西吾妻の山頂が目近に見える、そこから東南の屋根について暫く急な登りを行くと柵やとゞ松の針葉樹林にしゃくなげなどを見、三料ばかりで山頂に達する、山頂はほど平らで柵、偃松などが疎林を成して居る。

山嶺からは、北は米澤盆地及米澤市街、遠く藏王、月山、朝日岳などを望み、東は東吾妻の群峯に森林帯の

緑が美しく、南は檜原三湖が點々として輝き、磐梯の雄姿から猪苗代湖まで望まれる。西には檜原峠から遙に飯豊の山容が望まれ、西南には會津盆地が見られ、頗る雄大な眺望である。

こゝから西大嶺を経て檜原湖畔早稻澤まで七料の間近年登山道が開かれた、このコースにより檜原三湖の勝を探り沼尻、中ノ澤温泉を廻つて磐越西線に出る旅も興味多いことであらう。

尙夏季は歸途人形石を見て吾妻温泉に出て米澤に降るのもまた面白い。

米坂線

米澤 今泉間 二三料一四哩三

米澤盆地の南部及西部を廻り、長井盆地の今泉に出て、長井線に連る。將來今泉から小國を経て新潟縣に出て、羽越本線の坂町に達する豫定である。

米澤驛を出て南に向ひ奥羽本線を左に見て西南に折れ、米澤市の郊外を廻る、先づ松川を渡り、南米

澤一哩九を經、西北に轉じて西米澤二哩二に着く。その間、左に笹野山、愛宕山、羽山の山列を見る。それより米澤市を離れ鬼面川を渡り、米澤盆地の西隅を北進し右に廣大な稻田を望み、中郡三哩七を經て羽前小松二哩七に着き、更に進んで犬川一哩六を過ぎ今泉二哩二に至る。こゝで長井線に連續する。

【成島公園】西米澤驛の西北二料、廣幡村成島、八幡神社背後の丘上にある。米澤盆地と四周の山岳を望むによく、舊藩時代には上杉家の遊覽所であつた園内に花樹が多い。

【小松町】(一圖三) 羽前小松驛の所在地、養蠶業の中心で良繭の産で名を得て居る。また交通の要地を占め物資の集散が盛である。こゝに眞言宗の大光院がある。

米澤驛から稻田桑畑の間を北進する。先づ松川を渡り、右に近く戸塚山を望み、置賜三哩四を過ぎ、龜岡の文殊山を右に見て、黒井堰を横ぎり、糠ノ目二哩七に

赤湯驛 (一圖三) 山形縣東置賜郡沖郷村郡山

米澤から 一六料一〇哩
山形から 三〇料九一〇哩二

▽長井線 赤湯 荒砥間 三〇料六一九哩

▽乗合自動車 赤湯温泉行

【赤湯温泉】(三圖三) 赤湯驛から一料半、自動車の便あり、冬期積雪の際は箱櫃で行く、鹽類泉で胃腸病、婦人病、痔疾、脚氣などに効くと云ふ。借樂園、白龍湖、二色根山薬師などの名所がある。旅館 御殿守、丹波館、丹泉ホテル、大文字屋、櫻湯、外十數軒。

【借樂公園】(二圖三) 赤湯温泉背後の烏帽子山にある西南は米澤盆地を一眸に收め、遙に吾妻、飯豊の諸山を望み、東北は眼下に盆地最終の瀦水たる白龍湖を見下し、展望を有して居る。櫻樹數千、觀櫻の名所としては山形縣下第一と稱せらる。また園内に縣社八幡神社がある。

【取上坂スキー場】赤湯温泉の北約一料、雪は一月から三月まで一米乃至一米半積み、二十餘人を收容する

着く。

糠ノ目驛 (一圖三) 山形縣東置賜郡糠野目村福澤

米澤から 九料八一六哩一

▽高島鐵道 糠ノ目 高島 二井宿間

▽乗合自動車 高島行 龜岡行

【灌田紀功碑】驛の西北一料、福澤の喜多院にある。

米澤藩士黒井半四郎が寛政年間に松川の水を引いて灌漑用の黒井堰を作つた功績を記念するために、享和元年附近三十三箇村の協力で建てたものである。

【龜岡文殊堂】驛の東南四料、龜岡村文殊山の西腹に位し、本堂、仁王門、鐘樓などがある。鐘は伊達政宗が永祿年間に奉納したものである。本尊の文殊菩薩は大和の安倍及丹後の切戸にあるものと共に三文殊と稱せらる。四月二十五日と九月二十五日の縁日には參詣者が多い。

糠ノ目から北進して右に廣き稻田を眺め羽州街道を横ぎり屋代川を渡り、やがて赤湯三哩九に着く。

休憩小屋の設備があり、練習場として適して居る。

長井線

赤湯 荒砥間 三〇糎六一九哩

奥羽本線の赤湯驛から分岐して米澤盆地の北部を西進し、長井盆地に出て北に轉じ最上川に沿うて下り長井を経て荒砥に至る。

赤湯から西北に進み左窓に稻田を見、宮内町(二糎九)に至り、西南に折れ、梨郷(二糎九)を過ぎ經塚山の麓を廻る。これより西に向ひ、松川を渡り西大塚(二糎四)を経て米澤盆地を辭し、丘陵の間を過ぎ長井盆地に入り今泉(一糎九)に着く。こゝは兩盆地の接觸點で現今米坂線の終點にあたる。こゝから北に折れ白川を渡り、時庭(一糎七)を過ぎ長井(二糎四)に至り、更に羽前成田(一糎七)蠶桑(二糎二)鮎貝(二糎一)を経て、東に轉じ荒砥(一哩六)に着く。

【雙松公園】 宮内町驛の東北一糎半、慶海山にある。南方米澤盆地を瞰下し眼界廣潤、園内櫻樹が多くそ

て日影を過ぎ尖山(七〇米)を右に見、頭殿山(二、三〇米)の北を廻はり朝日川の谷に下り、朝日鑛泉に着く。こゝには宿が三棟ある。從來の登山路は鑛泉から鳥原山へ通じそれから小朝日岳を経て大朝日岳に至る。近年別路が鑛泉から直接大朝日岳へ開かれた、この登路は最短距離を取つたので鑛泉から一〇糎である。先づ朝日川の溪流を溯つて行くとぶなの原生林と溪流が美しく、鑛泉から四糎の處で黒俣澤と朝日俣澤が合流する、それから大朝日岳の急な尾根に登つて行く、三糎ばかりはぶなや水檜などの森林の狭い尾根である、次第に灌木地帯に入るとひねくれた岳樺などがある、右手には黒俣澤を隔て、鳥原山から小朝日岳が間近に迫つて美しく望まれる、海拔一四〇米あたりから偃松帯となつて殆ど一直線に登つて行くと花崗岩の岩塊が露出しやがて大朝日岳の山頂に達する。

山頂からは狭小な尾根をなして連嶺が東北、西南、

の間に相生松がある。園名はこの松に基いたものである。

【日坂鑛山】 宮内町驛の北方八糎、吉野村にある鑛山、凝灰岩中の黒物鑛床である。

【朝日岳】 (三三〇圖な4) 山形、新潟の兩縣に跨り、鳥原山(二、四〇米)小朝日岳(一、八〇米)大朝日岳(一、八〇米)西朝日岳(二、八〇米)などより成り、西北寒江山(一、六五米)以東ヶ岳(二、七〇米)に連り、大鳥池を抱きて連峯凡そ三〇糎に亘る。大正十一年山形高等學校生徒その他登山により紹介せられ、近來東北アルプスの名を以て知られて居る、主に花崗岩より成る。この山に源を發する幾多の溪流は甚だ美しく、大鳥池は周圍四糎に及び、附近はキヤムピングに適して居る。

朝日岳登山口には大井澤口、朝日鑛泉口などがあるが、朝日鑛泉口が最も便利とされて居る。鮎貝驛から朝日鑛泉までは約一三糎である、驛前に朝日鑛泉案内所がある、驛から道を東北に進むと約四糎で黒鴨の部落に達する。それより道は急に登りとなつ

西北の三方へ遠く走つて居る。

山頂に立てば、東に遠く山形盆地を隔て、藏王山を見、東南は吾妻火山群を望み、北には月山が近く聳え、西は越後莊内の平野から日本海を見下し、西南には飯豊の山姿が壯麗に望まれ、附近一帯は深山幽谷をなし眺望實に雄大である。

大朝日岳から西朝日岳、寒江山を縦走して以東ヶ岳までは約二〇糎、一日行程である。以東ヶ岳から大鳥池までは六糎、大鳥池には鮎が多い。

歸路は朝日鑛泉から道をかへ朝日川に沿うて下り立木、曲淵などを経て夏草まで二〇糎の間溪谷の美を賞するのも興味がある、夏草から宮宿まで四糎、宮宿から最上川に沿うて左澤まで一二糎の間は自動車の方がある。

【伊佐澤の久保櫻】 (二圖さ4) 長井驛の東南四糎、伊佐澤村上伊佐澤の蜂屋敷にある巨木。西大塚驛からは北方四糎半。一にお玉櫻とも云ふ、白彼岸櫻で蕾及花の咲立は遠望淡紅、満開になれば白色、根元の

周囲約八米、樹高約一二米。指定の天然記念物である。

赤湯驛から北進し長井線を左に見、東北に折れて吉野川を渡り、更に東南に向ひ赤湯町の北に接する烏帽子山丘陵の裾を廻り東北に進む、右窓に赤湯の人家を見て後二つのトンネルを過ぎ、右方葡萄園を越して白龍湖を稻田の間に望む。湖中には浮島が見える。米澤盆地はこゝで終り、山地に入り北流する前川に沿うて進む。中川石の出る中川五哩一を過ぎ、掛入石から東に折れて秋季雑木の紅葉美しき山峽を経て、上ノ山盆地に出て、東北に轉じ右に藏王山を望み上ノ山六哩六に着く。

上ノ山驛 (一圖さ4) 山形縣南村山郡上ノ山町

福島から 七六籽九一四七哩八
山形から 一二籽一七哩五

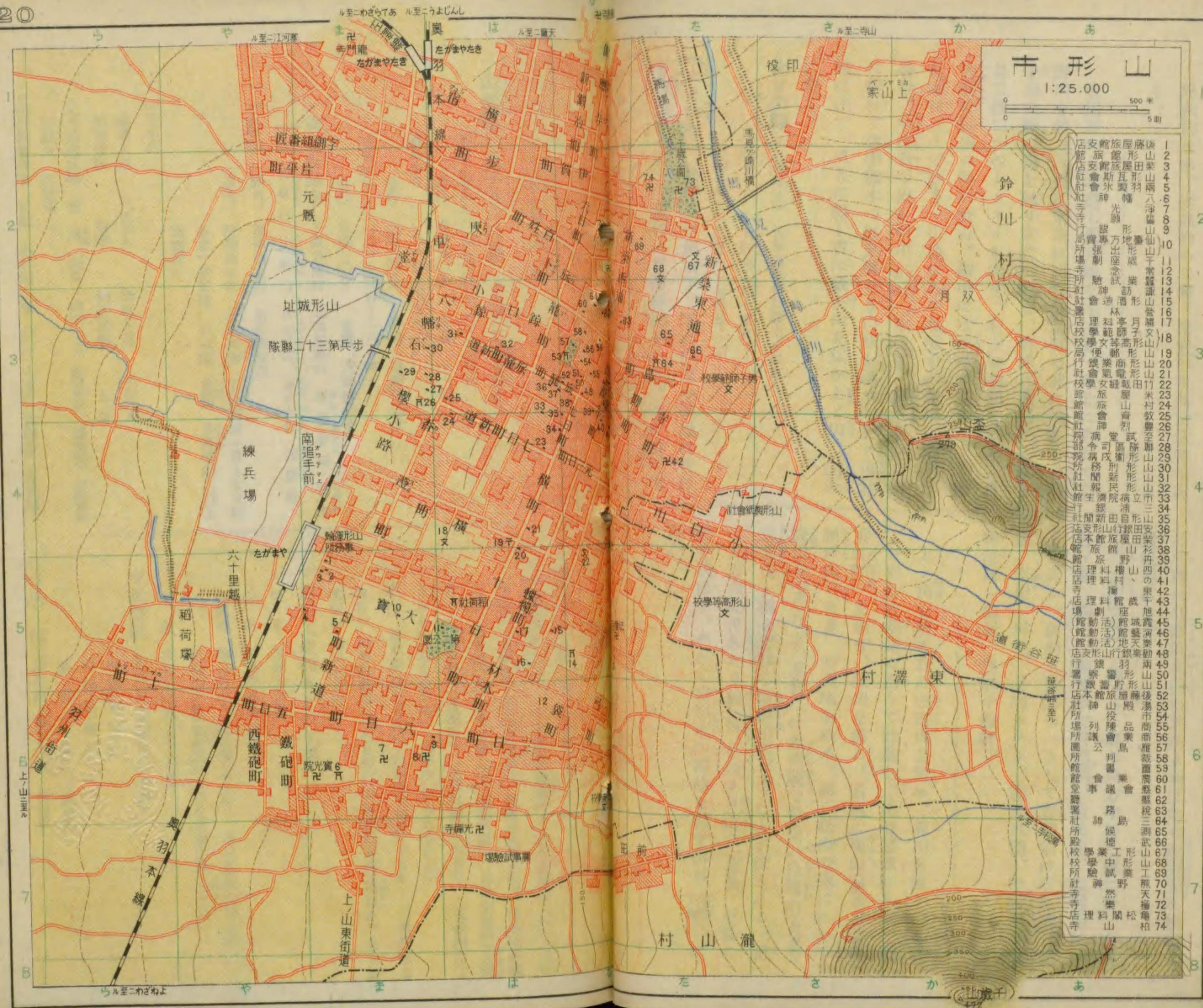
【上ノ山町】 松平氏の舊城下、町の中央の城址は今は月岡公園となり、園内に月岡神社がある。この他町内

の名所には澤庵和尚の舊蹟と云はれる春雨庵及松山御殿址がある。

【上ノ山温泉】 (三圖か4) 驛の西方半籽乃至二籽、古鶴脛ノ湯と稱し、鹽類泉で胃腸病、貧血症、皮膚病に効くと云ふ。奥羽三樂郷の一として古來唄はれた處。旅館 米屋、村尾、月岡ホテル、湯元五助、中村屋、寒河江屋、龜屋、外二十餘軒。

上ノ山を出て右に三吉山を望み、前川を渡り、これより右の方須川に沿うて北進し、山形盆地に入り、金井六籽八を過ぎ、須川を渡る。右窓に瀧山(海拔二、三哩米)雁戸山(二、三哩米)の高峰を始め、黒く松樹で掩はれた千歳山(四、五哩米)など、左窓には虚空藏で名高い白鷹山(九、六哩米)三角山と稱せられる富神山(四、三哩米)などが望まれる。更に左方西北にあたり鈍頂を示す月山(二、九哩米)が遙に姿を現はす。やがて山形市の南部を過ぎ山形三哩三に着く。

市内ノ主なル遊覽地ハ千歳公園・雁島公園・第二公園・光禪寺・八幡神社



- 1 山形市立第一中学校
- 2 山形市立第二中学校
- 3 山形市立第三中学校
- 4 山形市立第四中学校
- 5 山形市立第五中学校
- 6 山形市立第六中学校
- 7 山形市立第七中学校
- 8 山形市立第八中学校
- 9 山形市立第九中学校
- 10 山形市立第十中学校
- 11 山形市立第十一中学校
- 12 山形市立第十二中学校
- 13 山形市立第十三中学校
- 14 山形市立第十四中学校
- 15 山形市立第十五中学校
- 16 山形市立第十六中学校
- 17 山形市立第十七中学校
- 18 山形市立第十八中学校
- 19 山形市立第十九中学校
- 20 山形市立第二十中学校
- 21 山形市立第二十一中学校
- 22 山形市立第二十二中学校
- 23 山形市立第二十三中学校
- 24 山形市立第二十四中学校
- 25 山形市立第二十五中学校
- 26 山形市立第二十六中学校
- 27 山形市立第二十七中学校
- 28 山形市立第二十八中学校
- 29 山形市立第二十九中学校
- 30 山形市立第三十中学校
- 31 山形市立第三十一中学校
- 32 山形市立第三十二中学校
- 33 山形市立第三十三中学校
- 34 山形市立第三十四中学校
- 35 山形市立第三十五中学校
- 36 山形市立第三十六中学校
- 37 山形市立第三十七中学校
- 38 山形市立第三十八中学校
- 39 山形市立第三十九中学校
- 40 山形市立第四十中学校
- 41 山形市立第四十一中学校
- 42 山形市立第四十二中学校
- 43 山形市立第四十三中学校
- 44 山形市立第四十四中学校
- 45 山形市立第四十五中学校
- 46 山形市立第四十六中学校
- 47 山形市立第四十七中学校
- 48 山形市立第四十八中学校
- 49 山形市立第四十九中学校
- 50 山形市立第五十中学校
- 51 山形市立第五十一中学校
- 52 山形市立第五十二中学校
- 53 山形市立第五十三中学校
- 54 山形市立第五十四中学校
- 55 山形市立第五十五中学校
- 56 山形市立第五十六中学校
- 57 山形市立第五十七中学校
- 58 山形市立第五十八中学校
- 59 山形市立第五十九中学校
- 60 山形市立第六十中学校
- 61 山形市立第六十一中学校
- 62 山形市立第六十二中学校
- 63 山形市立第六十三中学校
- 64 山形市立第六十四中学校
- 65 山形市立第六十五中学校
- 66 山形市立第六十六中学校
- 67 山形市立第六十七中学校
- 68 山形市立第六十八中学校
- 69 山形市立第六十九中学校
- 70 山形市立第七十中学校
- 71 山形市立第七十一中学校
- 72 山形市立第七十二中学校
- 73 山形市立第七十三中学校
- 74 山形市立第七十四中学校

山形附近

山形驛 (一圖さ4、二〇圖) 山形縣山形市香澄町

東京上野から 三五九軒三一二三哩三

急行 九時五〇分 普通 一一時

福島から 八九軒一五五哩三

急行 三時三〇分 普通 四時二〇分

秋田から 二二一軒六一一三一哩五

急行 五時三〇分 普通 六時四〇分

▽乗合自動車 千歳公園行 北山形驛行 専稱寺行 釋迦

堂行 宮町行 上町行 山寺行 上ノ山行 天童行

▽旅館 [驛前] 後藤屋支店 柴田屋支店

[市内] 後藤屋本店 杉山旅館 米屋旅館(以上七日町)

新道) 柴田屋 村山館 葛屋 丹野旅館(以上

旅籠町)

一日平均

乗車人員 三、六五五人 降車人員 三、六六八人

發送貨物 九四噸 到着貨物 三九九噸

主要發送貨物 鹽 繭 煙草 清酒 米 陶器類 鹽乾魚 果物類

活鮮魚 生野菜

主要到着貨物 石炭 木材類 鹽 煙草 木炭 活鮮魚 砂糖類

福島新庄間

鹽乾魚 大豆粕 セメント類

▽官公署その他 山形縣廳(旅籠町) 地方裁判所(同) 市役

所(同) 日本赤十字社支部(同) 商業會議所(同) 商品陳列場

(同) 圖書館(同) 歩兵第三十二聯隊(同) 運輸事務所(香澄

町) 保線事務所(香澄町) 工業試驗場(六日町) 測候所(同)

大日本武徳會支部(同) 高等學校(市外小白川)

▽銀行 兩羽銀行(七日町) 山形商業銀行(十日町) 三浦銀行(七

日町) 山形貯蓄銀行(七日町) 安田銀行支店(旅籠町) 日本勸

業銀行支店(七日町)

▽重要工産物とその工場

煙草 專賣局工場

生絲 山口製絲場(横町)

絹織物 歌丸合名會社工場(香澄町) 武田染織工場(肴町) 三

浦機業工場(旅籠町) 藤井織物工場(六日町)

鐵瓶 保壽堂鑄物工場(銅町)

▽新聞社 山形自由新聞社(七日町)

山形新聞社

山形民報社

新山形社(以上香澄町)

▽病院 濟生館 縣立病院 至誠堂

福島新庄間

▽料理店 四山樓(七日町) 千歳館(柳町) 嘯月亭(材木町)

のの村 龜松閣

▽娯樂場 千歳座(七日町第二公園内) 旭座(七日町) 霞城

館(七日町) 演藝館(七日町) 樂天地(七日町)

▽名産 山形織 山形鐵瓶 のし梅 甘露梅 やたら漬 櫻

桃の罐詰

【遊覽順路】

驛—十日町—七日町—縣廳—三島通—千歳公園—山寺—專稱寺—高等學校—兵營—練兵場—驛。

【山形市】(二〇圖)

山形盆地の東南部に位し、馬見ヶ崎川は市の東北部を流る。山形縣治の中心で、工業が榮え、七日町、旅籠町は市内目貫の場處である。人口約五萬九千。この地はもと最上と稱し驛家が置かれ、出羽の主要地であつた。吉野時代斯波兼頼が出羽按察使としてこゝに鎮して以來子孫相繼ぎ最上を氏とし地名を山形と改め、義光の時に至り隆盛を極めた。江戸時代に入つて元和八年鳥居忠政封をこゝに受け、爾後保科、松平、奥平、堀田、秋元、水野などの諸大名が

相次いで入部し、その城下町として榮え、一時は幕府が直轄したこともあつた。

【山形城址】驛の北約八〇〇米にある。霞ヶ城とも稱し今二ノ丸址を存し郭内は歩兵第三十二聯隊の兵營となつて居る。外濠、土壘などが遺存して尙當年の面影を残して居る。

【最上義光墓】驛の東南一軒半、市内三日町曹洞宗光禪寺の境内にある。墓は五輪塔で光禪寺殿玉山白公大居士と刻されて居る。最上義光は最上氏中興の祖である。光禪寺は慶長年間義光の草創に係り、義光、家親、義俊三代の菩提寺である。もと七日町にあつたが元和年間現在の地に移したのである。墓は大正二年山形市に於て義光の三百年祭を舉行した際に改築したもので爾來毎年十月十七日に義光祭を行つて居る。

【第二公園】驛の東半軒、停車場前通にある。泉水築山あり、園外の戦捷記念碑は東北地方の異彩と稱せられる。

【雁島公園】驛の東二軒、市役所の裏にある、園内に

湯殿山神社がある。

【八幡神社の榎】驛の東南二軒、市内鐵砲町にあり、境内に榎の大木が多く、その最大なるものは根廻り十四米、幹は地上約十五米の高さまでは枝を分たず直立して居る。

【千歳公園】驛の東北三軒、馬見ヶ崎川に沿ふ、公園の中央に國分寺藥師堂があり、五月八日の縁日が賑ふ。

北部には招魂社、競馬場などがある。

【鳥海月山兩所宮】〔縣社〕驛の北二軒、市の北端宮町。

【千歳山】驛の東方三軒。海拔三四米、石英粗面岩より成り、満山松樹に掩はる。山上は所謂阿古耶の松の名所である。夫木集の

陸奥の阿古耶の松の木かくれていづべき月の出でやらぬかな

の古歌はこゝを詠じたものと云ふ。松は數百年を閱し枝幹高く聳えて偉觀を呈し、阿古耶姫この松を愛し雅懷を寄せて居たと云ふ傳説がある。文學博士井上頼因の撰文、侯爵徳川頼倫篆額の阿古耶松の碑がこゝに建

福島新庄間

てられ、その附近を拓き不老園と名づけて遊覽地となし、若木を植ゑ第二阿古耶松と稱し千歳の遺跡を表はして居る。東北麓の萬松寺は慈覺大師の開基と傳へ山門には細井廣澤筆の「千歳山」の額を掲げ、佛殿には毘沙門を安置する。また阿古耶姫の碑があつて、消志世濃跡問松能末掛而名能已者千歳能秋能月影と刻してある。更に境内には藤原實方の墓と稱するのがある。

【釋迦堂、唐松觀音】驛の東方五軒、東澤村にあり、馬見ヶ崎を隔て、相對して居る。

【最上高湯温泉】金井驛の東南一軒、山形驛からは同約一六軒、自動車の便あり、藏王山の西腹海拔九三〇米に位し、藏王登山の根據地である。酸性硫黄泉で神經諸病、子供の瘡、呼吸器病、眼病、關節病、皮膚病などに効くと云ふ。硫氣が盛んで、「東北の草津」の稱あり、こゝはもと爆裂火口であつた處で、今も附近に噴氣孔を存して居る。旅館 柏屋、山形館、海老屋、山形屋、外十數軒。

【最上高湯スキー場】(八圖)温泉附近は十二月下旬から三月上旬まで一米乃至二米の積雪があり、主に粉雪で、龍湖、三度川附近に好練習所がある。温泉から藏王山を越えて青根温泉への縦走は近年スキー家によつて試みられて居る。

【吉祥院】「天台宗」東村山郡出羽村千手堂、漆山驛の西南約二軒半、山形から自動車の便がある。羽州街道に面する千手堂部落を西へ入ると部落の西北の杉森の中に三間三面寶形造茅葺の観音堂がある。正平年間山形の城主斯波兼頼の再建と傳へ最上三十三観音の一として名高い。今本堂の後に鐵筋コンクリートの小堂を設けて本尊觀音菩薩の立像「國寶」を安置して居る。頗る優秀な作で平安時代の木彫である。この像と共に菩薩像が二軀安置されて居る。觀音像と較べて磨損の程度は多いが、同じく優秀な作で同時代のものがある。

【山寺立石寺】「天台宗」山形驛から東北一五軒、天童驛からは東南九軒、兩驛から自動車の便がある。山

る。軒には木割の雄大な繁樑を用ゐ、桁組は莊重な三斗より成り、太い圓柱が立つて居る。左右兩側面及後面には隨所に棧唐戸をたて、その他は板壁となつて居る。内部は床總拭板敷で、天井は未成のまゝであるが前方二間を外陣とし後方を内陣とし、内外陣の區別を嚴にして天台佛堂の古式を傳へて居る。内部の裝飾、手法などに多少桃山式の特徴を現はして居るが、全體としては粗大な建築である。右脇の間に安置せる傳教大師の木像は優秀な作である。向拜にかゝつて居る大なる鰐口は慶長十三年に源光直が最上義光のために寄進したものである。

根本中堂から西に進むと、先づ右に清和天皇の供養塔がある。天皇の遺徳を慕うて山寺の衆徒が建てたものである。その次の日枝神社はもと山王権現と稱し一山の守護神として鎮座その前庭に巨大な公孫樹の神木がある。念佛堂、鐘樓を過ぐれば蟬塚がある。壺中と云ふ俳人が芭蕉の「しづかさや岩にしみ入る蟬の聲」の句を石に刻したものである。これを見て西北に折れ

形驛から市街の中央を通過して馬見ヶ崎を渡り平野の東邊を北に走り更に荒谷橋を渡つて東に折れ立谷川の流に沿ひ左右の風光を賞しつゝ進めば、溪谷の狭くなつた所に山寺の部落があり、立石寺は川の北岸に聳ゆる寶珠山の山腹にある。貞觀二年慈覺大師の開基と傳へ、古來比叡山延曆寺の別院として東北に於ける天台宗の大寺院である。高橋を渡つて川向から寶珠山を仰ぎ見ると、或は岩上に或は樹木の間には大小種々の建物が隠見して全山の景を見渡すことが出来る。秋季紅葉の頃は風景が極めてよい。

境内は極めて廣大、第三紀の凝灰岩は浸蝕を受けて奇岩の勝景を作つて居る。河流に沿ふ對面石は慈覺大師が狩人警司と會見した古蹟と傳ふ。對面石から人家の間を東に進んで登山口より左に向つて登ると根本中堂に達する。

根本中堂(特別保護建造物) 天正年間、斯波兼續の再建で、桁行五間、梁間五間、高さ六米(六丈)前面に一間の向拜がある。單層で、屋根は入母屋造柿葺である。

山路を登る。姥堂の内にある三途川の尊衣婆の木像を見、笠投石を過ぎ左の横道を進むと、香岩がある。慈覺大師が香を焚いたと云ふ處で、岩上からの展望がよい。

本道に引返して隘路を辿り東瀧を見、彌陀洞、琵琶石を過ぎ仁王門に入る。それより觀明院、性相院、金乘院を過ぎ、右に折れ横道に入り、胎内くゞりを過ぎ、行者戻りを鐵鎖によりて進み、松林の中の釋迦堂に達する。こゝは東南に向つて斷崖をなす巖頭に位し、遠山近水眉間にあり、寸馬豆人一眸に入るの壯觀を恣にする處である。松林の間を左に取つて中性院、最上義光の靈屋を過ぎ本道に戻り、更に登れば濡佛地藏、飛梅、獨鉈水、鐘樓を見て奥院に達する。山麓からこゝまで約一軒、こゝには傳教大師が支那天台山から傳へて比叡山の根本中堂に點せる燈火を移して常燈として居る。奥院からやゝ下つて右に切れ横道に入り華藏院、東宮御休所、把翠亭、茶寮、帝釋天祠を過ぎると如法經所碑(國寶)がある。

銘文

立石寺如法經所碑并序

維天養元年、歲次甲子、秋八月十八日丁酉、眞語宗僧大阿大德兼濟在心、利物爲事、同法五人凝志一味、敬奉書妙法蓮華經一部八卷、精進加行、如經所說、殊仰大師之護持、更期慈尊之出世、奉納之靈嘯頭、既畢願、令參詣此地之輩必結禮拜、此經之緣(因)一見一聞併慶巨益、則游知足之雲、西則旣安養之月、于時有釋以慶、乃作銘曰、

善哉上人 寫經如說 利益所覃 誰疑記別。

これは今開山堂の前にある小堂に納められて居るがもとは開山堂の右手の岩上に建つて居る納經堂の傍にあつたと云ふ。さてこの碑は平安時代の末葉天養元年僧大阿大徳が同法の五人と志を一にして法華經一部八卷を書寫し岩頭の靈窟に埋納して自他の幸福、極樂往生及佛教の弘通を祈つた由來を記したものである。この種の信仰は平安時代に盛んに行はれたもので、藤原道長が大和の金峰山に納めた金銅製の經筒〔國寶〕は最も有名であるが、その銘文の主意はこれと同様である。その他にも多くの例があるが、何れも法華經を納

を要する。

寶物

- 一 木造大日如來坐像 平安時代
- 一 金銅觀音立像 推古式
- 一 絹本着色李白圖 明畫
- 一 銅印 印文(立石倉印)

【面白山】 山寺から東北十餘軒、宮城縣の境上に聳え全山輝石安山岩より成り、海拔一、三〇四米、こゝに至る間紅葉川の溪谷には石英粗面岩より成る材木岩その他奇岩の時つ處が多く、天然の石橋は長さ四五米、高さ二〇米、また面白四十八瀧の勝景がある。

【白鷹山】 山形驛の西方一五軒、荒砥驛の東北八軒に位する、輝石安山岩とその集塊岩より成る火山で、山頂には巨樹が繁茂して居るから、山形附近より見て他の山と容易に識別することが出来る。この山の山頂に雲がかゝれば天氣は悪くなるので、その地方の晴雨計と見られて居る。山頂に近く虚空藏の堂があつて山形、荒砥の兩方面から參詣者が多く登る。その北方は嘗て

めた經筒に銘文を記するのが普通で別に碑を立て、願文を刻したものはこの碑のみで、他に未だその例が見られない。もとこの碑のあつた納經堂は古來奥院で書寫した法華經を奉納して供養する所で今日尙繼續されて居る。納經堂の眞下にある岩窟は入定岩と稱し、慈覺大師入定の處と傳へ、その入口は幾重にも塞がれて居る。

碑の左の方には慈覺大師の坐像を安置する開山堂がある。一月と七月の十四日には開帳する。左方に向ひ狭い岩間を登れば五大堂があり、その傍の巖窟は地主の神として祭られて居る磐司の祠がある。これを過ぎ進めば天狗岩の上に達する。この岩は西南に向ひ絶壁をなして屹立し、岩上に立てば近く立谷川の谷から山形盆地を距て、月山を始め數多の山峰が眺められ展望が絶佳である。こゝから引返して山を下り蟬塚の處から右に折れて蛙岩を仰ぎ見、那伽犀那尊者の噴水、立石寺の僧坊、稻荷岩、神樂岩を見て坂を南に下り河畔の對面石の處に歸る。巡覽には全部徒歩、二時間

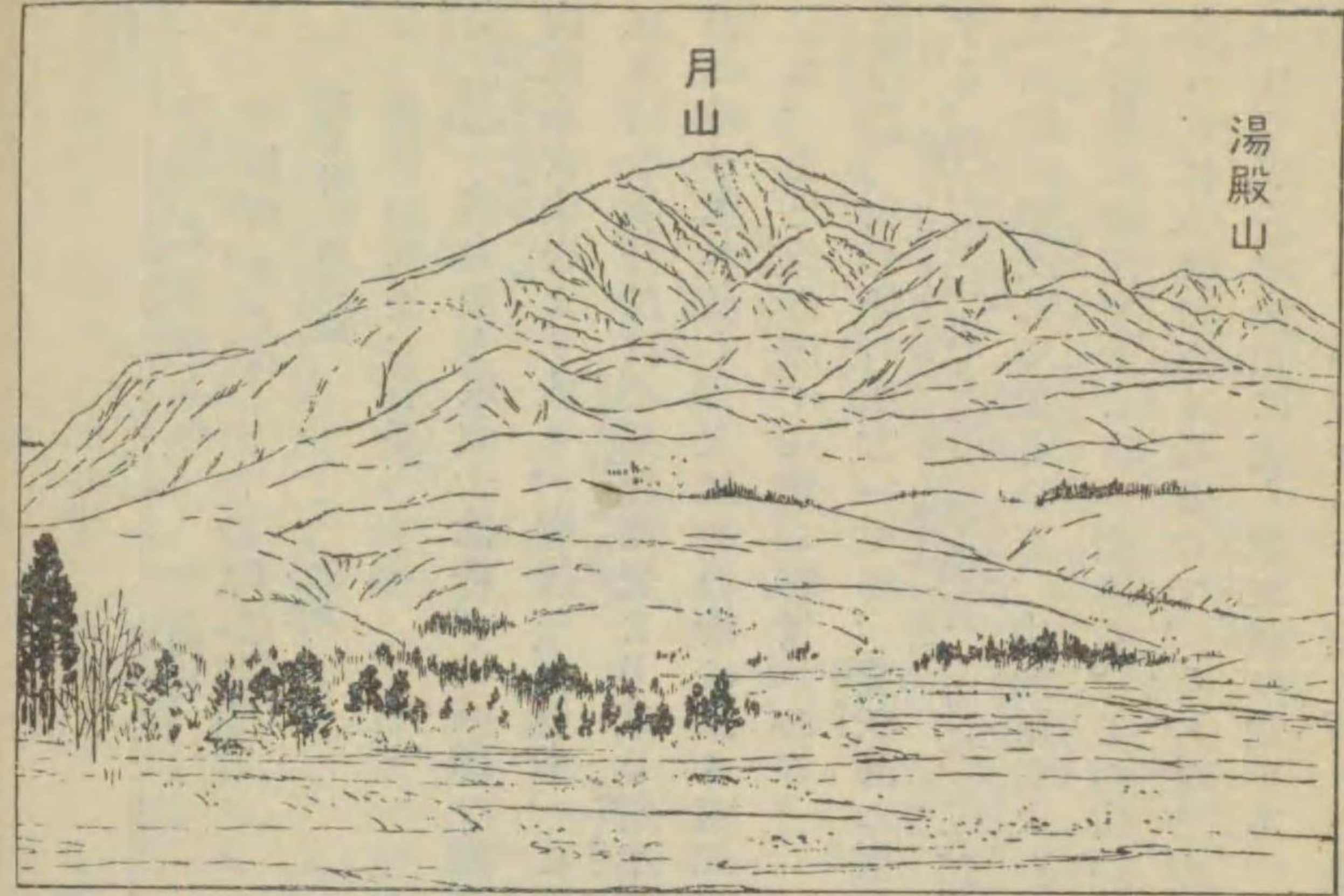
大爆裂をした址である。今に樹木が繁茂して居るが、巨岩の累々たる間に數個の湖沼を造り、また幾多の小火山が聳えて居る。

左澤線

山形 左澤間 二四軒三一六哩三

山形から北進し北山形一軒九で奥羽本線と分れ、西北に折れ山形盆地の中央を横走し須川を渡り北に向ひ羽前山邊四哩羽前長崎四軒八を経て最上川を渡り、寒河江四軒三に至り、更に西に折れて羽前高松四軒一を過ぎ最上川に沿うて上り、左澤三哩一に達する。出羽三山に登山するもの、大沼に浮島の奇勝を探るものなどはこの線による。

【慈恩寺】〔天台、眞言兩宗〕西村山郡醍醐村、羽前高松驛の北方約四軒半、三山電氣鐵道の新田驛で下車、寒河江川に架つて居る見晴しのよい臥龍橋を渡つて山麓を東へ廻り慈恩寺山に登ると寺の境内に入る。

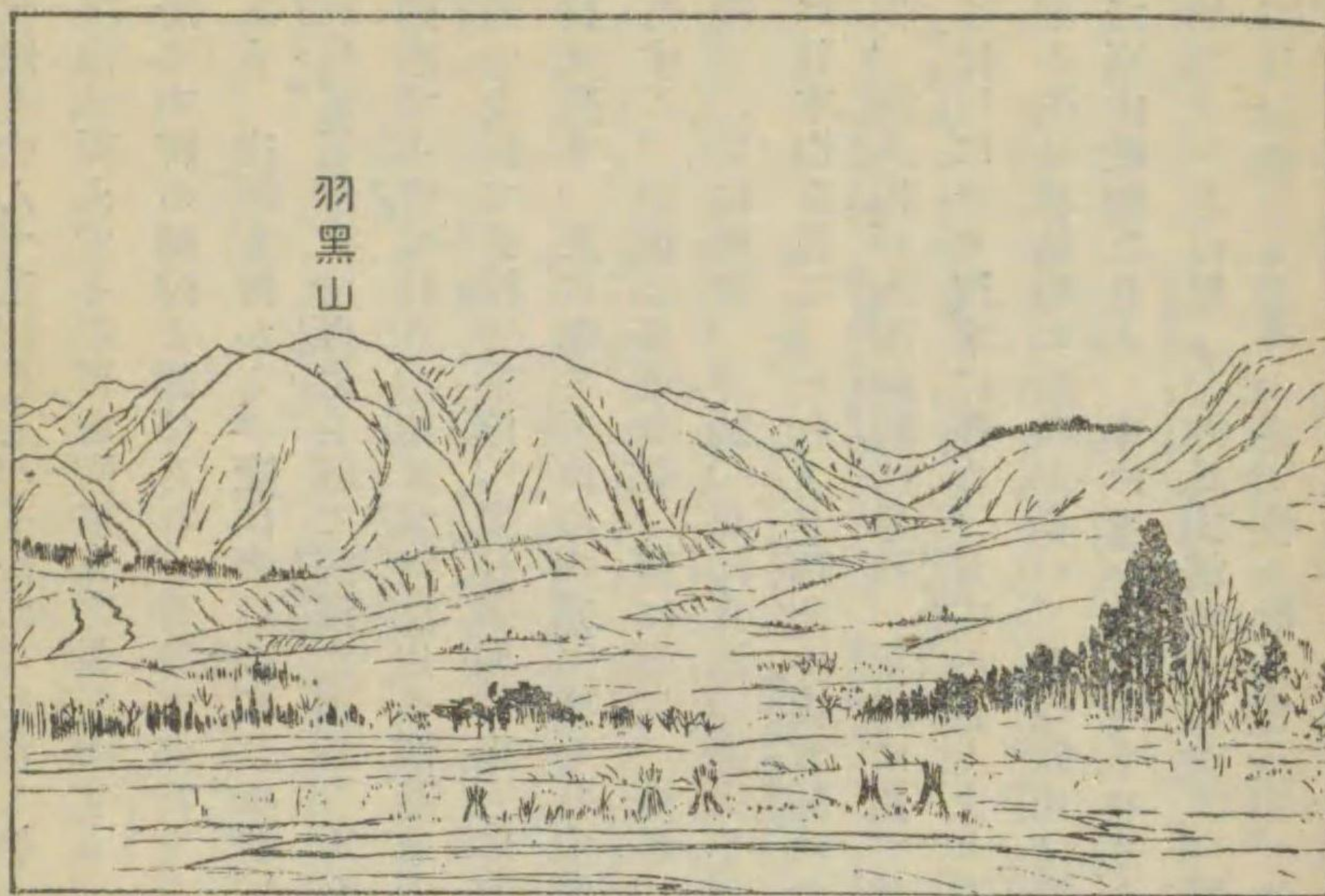


(一其) 山三羽出

寺は天平年間てんひやうの創建と傳へ、鎌倉時代には若干の莊園を有して居たが、元和年間げんわに至り最上家改易かいかいの後、は朱印地しゆいんちを有して明治維新に至つた。本堂は元和四年最上義俊もがみよしのぶの再建したもので、特別保護建造物に指定されて居る。この堂は細部の繪様彫刻などに多少桃山式特徴を有して居るが、雄大と云はんよりは寧ろ粗大な建築である。本堂の東側にある阿彌陀堂あみだどうには木造阿彌陀如來坐像あみだにょらいざそう「國寶」一軀が安置されて居る。形相豐滿にして藤原時代の特徴を有する優秀な作で漆箔が大部分残つて居る。本堂の西には文政年間の建築にかゝる三重塔がある。

【幸生鑛山】羽前高松驛うぜんたかまつの北一八軒、白岩町熊野川の上流にある古河鑛業會社經營の鑛山。地質は石英粗面岩、安山岩、凝灰岩、頁岩より成り、鑛床は裂罅充填脈、採鑛は主として階段掘、鑛石は索道により永松鑛山へ送る。

【永松鑛山】羽前高松驛の北二六軒、大藏村にある古河鑛業會社經營の銅山。鑛床は凝灰岩、粘板岩



(二其) 山三羽出

及石英粗面岩中に胚胎せる鑛脈で、鑛石は合金銀銅鑛、採鑛は階段掘を主とし、粒鑛、粉鑛を燒熔壺により燒結鑛とし熔鑛爐に装入し、更に眞吹爐で製鍊し粗銅を作る。

【出羽三山】(二六圖) 月山、湯殿山、羽黒山を云ふ。月山は山形縣羽前の中央に聳ゆる著名の火山で、輝石安山岩より成り、海拔一、九四米、鈍頂圓錐狀をなす。山頂に官幣大社月山神社がある。累々たる石垣の中に奉祀されて居る。

祭神は月讀尊つきよみのみことで延喜式内名神大の社、例祭は七月十五日、參拜者が多い。神社所在地から北方行者石、佛池に連る山背と神社の南から西方に走る齋藤ヶ森は半月形になつて火口壁の一部をなし、東及南に向ひ緩斜して居る。火口はこの火口壁に東及南を圍まれ、西及北の火口壁は削磨せられ、金剛澤は齋藤ヶ森の北を過ぎて西流する。湯殿山は月山の西南山腹一局部の稱で、こゝに輝石安山岩の塊片を混ぜる泥流の中から温泉が湧出し、その沈澱物は水酸

化鐵を含んで黄褐色を呈し附近の岩塊を被つて居て、温泉は絶えずその面を潤ほし奇景を呈する。こゝは湯殿山神の神體と認められ、参拜者が行をなす處である。山形方面からの登山者は羽前高松驛で下車、三山電氣鐵道で白岩を経て間澤に至る。それより自動車で水澤に行き、徒歩寒河江川の溪谷を上り、本道寺を経て志津で宿泊、翌日未明に東方に向ひ湯殿山に登り、東に轉じ月山の山頂に達し月山神社に参拜する。山頂は展望廣濶、南に朝日、飯豊、吾妻、藏王、東に船形、栗駒、北に鳥海の諸山を望み、西に日本海を見る。それより西北の山背線に沿うて下山、羽黒山の出羽神社に参拜、手向に出で鶴岡または狩川に至り汽車に乗る。月山の頂上より羽黒山に至る間は植物帶の變化が多い。先づ御田ノ原の草原で高山植物を見る、中にもみやまうすゆきそうは歐洲アルプスの標式的高山植物であつて、飛驒山脈では海拔三、九〇〇米の邊で往々散見するが、こゝでは一、九〇〇米に過ぎぬ高原狀の山頂一面に咲き亂れて居

瓦斯を發生する。浮島は小なるは長さ三〇糎より大なるは長さ一米、その数が五十餘に及び、蘆の根が集結した上に植物の腐敗したものが重なり、つゞじ、かきつばた、山吹、藤、蘆などがその上に生えて居る。太陽が昇ると日光のために湖面上の空氣が熱せられ、その局部的に氣温の變化が起り、これがために起る氣流に伴ひ湖流が出來、浮島はこれにつれて移動する。その動く方向は様々で或は陸を離れて橢圓周の軌道を取つて沖合に出て後出發點に歸着するものもあれば或は餘り進まないで岸から小距離の處を徘徊して居るものもある。微風が起ればその方向が變る。風が強くなれば岸に附着する。浮島の移動は多く朝または夕方では日中は少いからこれを十分に見んとするものは湖畔に近い浮島稻荷神社の宿坊で一泊するがよい。

山形から北に向ひ、左に城址を見る。右には屋敷町の畑に六月頃累々たる櫻桃の鈴生が見える。次に北山形

るのが夏季に見られる。また食蟲植物やもうせんごけが珍らしく眺められる。そこからぶなの森林に入り合清水、冷清水を過ぎ曠野に出る。前面に鳥海山の火山圓錐が見える。一望茫漠たゞ放牧の馬群を見るのみである。これより喬木帯に入り老杉の鬱蒼たる間を過ぎ、羽黒山に至るのである。別に月山へ直接登る本道寺口及湯殿山から直接鶴岡に下る道もある。

左澤驛 (一圖さ4) 山形縣西村山郡 左澤町

△乗合自動車 貫見行 宮宿行

△旅館 松村、枳屋

【大沼の浮島】(二圖さ4) 左澤驛から西南一五糎、大谷村大沼部落の東北にある指定の名勝、驛から八糎の大谷まで自動車の便がある。それからは徒歩。沼は第三紀層の臺地に横はり、南北三〇米、東西は二〇〇米乃至二五〇米、水深は二米乃至三米、湖底の沈澱物は植物の半分解して生じた腐泥で、その中からメタン

一糎九を過ぎ、左に分る、左澤線を見、田圃の間に出て一哩二を過ぎ、左に分る、左澤線を見、田圃の間に出て馬見ヶ崎川の長橋(延長二料)を渡り、羽州街道を横り、その右に沿うて進み、右に大岡山、大森山を望み、左に千手堂の吉祥院を見て漆山三哩六を過ぐ。やがて立谷川を渡ればその河谷にある山寺の天狗岩が右窓に見える。間もなく愛宕山下の天童の市街を右に見て天童五糎六に着く。

天童驛 (一圖さ4) 山形縣東村山郡天童町

△乗合自動車 町内行 山寺行 關山行

【天童町】もと織田氏の城下で、町の南にある愛宕山には城址、縣社愛宕神社及織田信長を祀れる縣社建勳神社がある。町は將棋の駒の産地として名高い。【天童温泉】(三圖か4) 驛の東北約一料、自動車の便あり、鹽類泉で胃腸病、神経痛に効くと云ふ。旅館二見館、天童ホテル、山本館、新庄館、外十數軒。【若松觀音堂】(二圖さ4) 驛東方四料、津山村山元にある、本尊は聖觀音、最上三十三箇所觀音第一番の札

所で二月の縁日には雑沓する。境内からは鳥海山、月山を望み、山形盆地が脚下に見え、眺望がよい。

天童を出て羽州街道に並行して北走し神町三哩六を経て東根二哩七に至る。この間の線路は全く屈曲なく桑畑、稻田の間を直進する。神町からは谷地軌道が西の方最上川を渡り谷地町に通ずる。

東根驛（一圖さ4）山形縣北村山郡東根町宮崎

山形から 一三三九一四哩六

▽乗合自動車 東根温泉行 關山行 楯岡行

【東根温泉】（三圖か4）驛の東南約一籽半、鹽類泉で胃腸病、リウマチスなどに効くと云ふ。旅館 龜屋、本郷館、常磐屋、東根ホテル、外十餘軒。温泉の東に近く山のスキー場がある。一月から三月まで一米内外の積雪があり、練習に適する斜面が多い。

【東根の大樽】驛の東南約二籽、東根町の小學校構内にある。根元の周囲二〇米、橋高約三〇米、全國屈指の大樽で指定の天然記念物である。

褐色、全國に稀に見る淡水産魚類で指定の天然記念物である。

大石田から北に進み丹生川を渡り、蘆澤六籽八を経て丘陵地に入り、五個のトンネルを過ぎ、左に猿羽根峠を見、平野に出て亞炭を積出す舟形六籽六に至る。これより小國川の鐵橋（延長約三〇米）を渡り右に陸羽

東線の來り合するを見、丘陵の間を過ぎ新庄盆地に出る。左窓には稻田の間に數個の孤丘の散在するを望み市街を眺めて新庄五哩一に着く。

新庄驛（一圖さ4）山形縣最上郡新庄町

福島から 一五〇籽四九三哩五

山形から 六一籽五三三哩二

秋田から 一五〇籽一八九三哩三

▽陸羽東線 新庄 小牛田間 九四籽一五八哩五

▽陸羽西線 新庄 余目間 四三籽一六六哩七

▽乗合自動車 市内 金山行 肘折行

▽旅館 新庄ホテル 庄内館 柳沼館

東根から楯岡一哩八を過ぎ右に飯岳（海拔二〇六米）の火山圓錐を望み、左に葉山（一哩三米）を仰ぎ、漸く丘陵の間に入り袖崎四哩九を過ぎ、右窓に接する最上川を見、トンネルをぬけて西北に折れ、臘氣川を渡り大石田三哩五に着く。このあたりは奥羽本線沿道中冬季積雪の最も深い處である。

大石田驛（一圖さ4）山形縣東村山郡大石田町

山形から 三九籽九一四哩八

▽尾花澤鐵道 大石田 尾花澤間 一籽六一哩六

【銀山鑛泉】驛の東北約一五籽、尾花澤までは汽車、それより先は自動車の便がある。アルカリ性泉で胃腸病、皮膚病、疝痛などに効くと云ふ。旅館 能登屋、永澤屋、藤屋、笹原、外八軒。

【魚取沼の鐵魚】沼は驛の東方約二四籽、宮城縣加美郡宮崎村田代岳の山奥にある。尾花澤まで汽車により、それより徒歩宮澤村押切を過て縣境の吹越峠を越えて到達する、沼に産する鐵魚は形態金魚に類似し普通煤

【新庄町】羽州街道の要路にあたり、鐵道四方に通じ米、木材など物資の集散が多く、人口約一萬四千。この地はもと沼田と云ひ、最上氏の一族の居りし處と傳へ、元和八年戸澤政盛は常陸から轉封して、この地の北

一六籽の眞室（眞室川驛附近）に據つたが、寛永二年ここに移り新庄城を創め、眞室の新庄として新庄の地名が起つた。戊辰の役東軍のため攻略せられて城市共に焼亡した。城址には縣社戸澤神社、同天満神社がある。

【東山公園スキー場】驛の東方一籽餘に位し、十二月中旬から三月まで一米餘の積雪があり、練習に適する。

【肘折温泉】驛の西南三〇籽、自動車の便がある。陸羽西線古口驛からは二〇籽、途中角川まで自動車、それより駄馬六籽。炭酸泉と鹽類泉がある、リウマチス、神経諸病、胃腸病などに効くと云ふ。地は出羽三山の月山東北麓、登山路の一にあたり、地藏倉の奇岩、小松淵の蛇窟などの名所がある。また西北約四籽に今神温泉がある。旅館 三浦屋、若松屋、三春屋、松井屋、外十數軒。

陸羽東線

新庄、小牛田間 九四軒一五八哩五

陸羽東線は奥羽本線の新庄驛から東方奥羽山脈を横ぎり宮城縣に出て東北本線の小牛田驛に通ずるのである。瀨見、鳴子、川渡の温泉に浴するもの、中山平の紅葉を賞するもの、鬼首間歇泉の奇勝を探るものなどはこの線による。

新庄を出て南に向ひ稻田の間を進み、丘陵の間を温き奥羽本線から左に分れ、東に折れ小國川の谷に向ふ。線路は丘陵の麓、河成段丘の上に通じ、右の方河谷の南部に數段の標式的段丘の發達せるを見、トンネルを過ぎ、長澤七、一軒三、哩を経て、間もなく右窓外に小國川の大屈曲を見る。それより川を渡つて東北に折れ、やがて峡谷に入る。秋季にはこの峡谷の前後を通じて雑木の紅葉が極めて美しい。峡谷の中で川を渡りトンネルを過ぎ、瀨見温泉を對岸に見て瀨見四哩八に着く。

り、苦味泉でリウマチス、婦人病、脚氣に効くと云ふ。温泉の南に聳ゆる大森山にはスキーの好適地がある。旅館 高橋、阿部、鶴屋、外三軒。

富澤から明神川に沿ひ山峡に入つて東進する。トンネルを過ぎ左窓に三角形の美しい糠塚山(海拔六五米)を望み、右窓には奥羽山の麓の傾斜緩やかな扇状地の牧場が映る。秋には牧場一面にすすきの穂が風に靡く。やがて崖をなす河流を右に見下して堺田三哩六に着く。

(堺田 小牛田間の記事は三五頁)

陸羽西線

新庄、余目間 四三軒一三六哩七

奥羽本線の新庄驛から西に向ひ最上川の横谷を下り羽越本線の余目驛に達する。出羽三山に登るもの最上峡谷の勝景を探るものなどはこの線による。

新庄から北に向ひ、奥羽本線より左に分れ、新庄市

瀨見驛

山形縣最上郡西小國村瀨見

新庄から 一九軒一〇一哩八

【瀨見温泉】(三圖か四) 驛の西南約一軒、自動車の便あり、鹽類泉、硫黄泉の二種あり、リウマチス、皮膚病、胃腸病に効き、特に痔疾と婦人病には特効があると云ふ。湯前神社、荏岩、瀧淵、龜割觀音、山神堂、辨慶硯など石の名所がある。旅館 觀松館、喜至樓、やく屋、ゑびす屋、外數軒、自炊制を主とする。

瀨見からや、長きトンネルを過ぎ向町の盆地に入れば眼界廣く、右に熊ノ返山(海拔六六米)金山(七三米)大森山(八七米)左に權現山(五〇米)小鏡山(二、三米)小柴山(二、〇五米)大柴山(二、八三米)が眺められる。東に進んで白川を渡り、東南に折れ羽前町向町五哩九を経て富澤二哩八に着く。

富澤驛

山形縣最上郡東小國村富澤

新庄から 三三軒一三〇哩五

【赤倉温泉】(三圖か4) 驛の南約二軒、自動車の便あり

街の北を廻り西南に轉じ稻田の間を進む。左窓には傾斜の緩かな月山が遠く望まれる。升形四哩七を過ぎ丘陵の中に入り、トンネルを過ぎ升形川を渡りまたトンネルをぬけて更に鮭川を渡り津谷三哩三に着く。左方には秋季紅葉の美觀を呈する八向山が望まれ、鮭川の最上川に合する處を越えて最上温泉が見える。驛を出て河成段丘に沿ひ下つて最上川の第一鐵橋(長さ約四〇〇米)を西に渡り、やがて古口四哩六に着く。

古口驛

(一圖か4) 山形縣最上郡古口村

新庄から 一七軒一〇一哩六

【最上温泉】(三圖か4) 驛から東南六軒、自動車の便あり、津谷驛からは三軒に過ぎないが車馬の便が無い。炭酸泉で胃腸病、神經諸病、痔疾などに効くと云ふ。旅館 最上ホテル、八向館、外二軒。

古口から次驛清川までは最上川峽流の南岸に沿うて下る。新緑、紅葉共に甚だ麗しい。途中トンネルを通過すること十回、その中第二番目(延長九六九米)

と第十番目(同九五六巻)が特に長い。古口を出て間もなく左から来る支流の角川を渡り、右に黒森山を望み、對岸の絶壁に數條の瀧を見る。二個のトンネルを過ぎると、外川神社が川向ふに見える。このあたり秋は紅葉の絶景を呈し、最上の急流もこの邊からは漸く緩かに、來往する帆影が望まれる。それから四個のトンネルを経て線路に近く草薙鑛泉を見下し、對岸に峡中第一の稱ある白絲瀧を望む。瀧の附近には檜ぶな、椎、枌、松、杉などが多い。更に四個のトンネルを過ぎ立谷澤川の鐵橋(延長約三〇米)を渡る。左窓より後方を見れば山の崖に第三紀凝灰岩、砂岩の互層が見える。右方の杉林に近く清川八郎の墓所の松を見て清川八哩七に着く。古口からこゝまで驛間距離の大なること稀に見る處である。

清川驛

(一圖さ4) 山形縣東田川郡清川村

新庄から 三二軒一―一九哩三

この驛で下車して出羽三山に登るものは先づ立谷澤川に沿うて進み羽黒山に登る。

新庄 秋田間

奥羽本線により早坂峠(雄勝峠)を越え秋田縣に入り、雄物川の平野を下り秋田に至る。その間二三の支線、地方鐵道に連絡する。

新庄から北進して、左の方陸羽西線の西北に分れるを見、泉田川を渡り上り勾配となり、稻田の次第に少くなり行く處、左に防雪林を見て泉田三哩五を過ぐ。

これより西北に轉じ新庄盆地を辭し、丘陵の間を過ぎ、最上川の支流鮭川の谷に出で、左に稻田を見て北に折れ、左窓に烏海山の雄姿を望み羽前豊里四哩四に着く。

羽前豊里驛

(一圖さ4) 山形縣最上郡豊里村

新庄から 一二軒七―七哩九

【羽根澤温泉】(三圖か4) 驛の西南九軒、駄馬の便あり、陸羽西線津谷驛からは一二軒、アルカリ性炭酸泉で神經諸病、皮膚病、婦人病などに効くと云ふ。旅館 出羽屋、加登屋、外三軒、自炊制を主とする。

新庄秋田間

(三山の記事は三三頁参照) 【草薙鑛泉】 驛の東三軒、硫黄泉で火熱を加へて居る。皮膚病、婦人病などに効くと云ふ。旅館 瀧澤屋、大和屋、外二軒。

清川を過ぎて後は河谷は喇叭狀に開いて右窓の展望が廣くなり、莊内平野との接觸地點に位する狩川三軒九に出る。

狩川驛

(一圖さ4) 山形縣東田川郡狩川村

新庄から 三四軒九―二哩七

乗合自動車

手向行 鶴岡行 余目行

【出羽三山登山】(二六圖) この驛で下車するものは自動車で南進二〇軒手向に至り、羽黒山の出羽神社に参拜、それより月山、湯殿山を経て志津に下るを順路とする。

(三山の記事は三三頁参照)

狩川から右に烏海山の雄姿を眺め、稻田の間を西北に進み余目八軒五哩に着く。

羽前豊里から北進、眞室川に沿うて溪谷を上ること

やゝ久しく、左右の窓に秋季雜木の紅葉を見る。眞室川一哩七を過ぎ、右から来る支流金山川を渡り右方六軒の距離に屹立する藥師山を望み、更に眞室川を越えて西岸に沿ひ三個の雪覆、一個のトンネルを過ぎ、

左窓常に防雪の落葉松林を眺めて右方四軒のかなたに傾斜極めて急峻なる下高堂の火山岩瘤を仰ぎ、釜淵五哩七に至る。更に進んで東北に向ひ秋季雜木の紅葉美しき大瀧信號場のあたりを過ぎ、トンネルを抜けること三回、及位七哩八に着く。こゝは海拔三六〇米。

及位から兩羽の境界をなす海拔四七〇米の早坂峠(雄勝峠)に近づき、谷を隔て、後に林業試験所の苗圃を見、峠を貫通するトンネル(延長二、三七米)を過ぎ、秋田縣羽後に入り東南に下り六個の雪覆、一個のトンネルを過ぎ、雄物川上流の溪谷に出て院内五哩四に着く。

院内驛

(一圖さ5) 秋田縣雄勝郡院内町上院内

新庄から 四五軒九―一八哩五

新庄秋田間

秋田から 一〇四哩三六四哩八

【院内鑛山】 驛の西方三軒、大仙山の東北麓にあり、古來全國屈指の銀山で、慶長年間の發見にかゝり、爾後三百年に亘り稼行を繼續した。鑛脈は第三紀の凝灰角礫岩の間に噴出せる火山岩中に存し、鑛石は硫安銀鑛及輝銀鑛である。明治天皇東北御巡幸の際親しく鳳駕を枉げられし鑛坑は御幸坑と稱せられて居る。今は産出大に減少した。

【湯の澤温泉】(三圖か3) 驛の南約三軒、自動車の便あり、單純泉でリウマチス、脚氣、皮膚病、婦人病などに効くと云ふ。旅館 日勝館。

驛を出て左窓に石材の採掘場を見、役内川を渡り横堀二哩四に着く。

横堀驛(一圖さ3) 秋田縣雄勝郡小野村小野

新庄から 四九軒七一三〇哩九

▽乗合自動車 秋宮行(湯ノ岱、稻住、鷹ノ湯經由)

【湯ノ岱温泉】(三圖か3) 驛の東南六軒、自動車の便あり。

である。

【湯ノ又温泉】 驛から東南二二軒、湯ノ岱まで自動車の便により、それから六軒の間駄馬による。鐵性泉で胃腸病、リウマチス、脚氣、痔疾などに効くと云ふ。旅館 紅葉館 自炊制を主とする。

横堀から東北に進み高松川を渡り北に折れ直進し、谷間を離れ稻田の連る雄物川平野に出て、左窓丘陵の上には山頂を現はす鳥海山を望み、湯澤七哩五に着く。

湯澤驛(一圖さ3) 秋田縣雄勝郡湯澤町

新庄から 六一軒八一三八哩四

横手から 一八軒一一哩二

▽雄勝鐵道線 湯澤 西馬音内間 八軒八一五哩五

▽旅館 高田屋 柳澤本店

【湯澤町】 雄物川平野の南隅に位し、百年來養蠶の中心をなして居る。今は商工業が榮え、生絲、眞綿の外に絹織物、清酒、曲木細工などを産し、製材業も行はれて居る。

新庄秋田間

リ。アルカリ性鹽類泉で胃腸病、婦人病、リウマチスなどに効くと云ふ。旅館 新五郎湯、自炊を主とする。【稻住温泉】(三圖か3) 驛から一七軒、自動車の便あり、單純泉で神經諸病、脚氣、リウマチス、婦人病などに効くと云ふ。附近にスキー場がある。旅館 旭昇館。【鷹の湯温泉】(三圖か4) 驛の東南一七軒、自動車の便あり、虎毛川の清流に臨んで風光美を有つて居る。鹽類泉で、胃腸病、リウマチス、婦人病などに効くと云ふ。旅館 八明館、自炊を主とする。

【秋宮の珪華】 驛の東南一八軒、稻住温泉からは東方約一軒、山居澤と云ふ長さ半軒の溪谷のほと中央で、西岸に存する。こゝは往昔高温度の熱泉が多量に噴出した址で、今も數個の明白な噴孔を存する。珪華はその沈澱物で、噴孔の周圍に堆積し、巨大な噴泉丘が形成され、その中に繡狀珪石を含むものがあり、全國稀に見る珍らしいものである。その噴泉丘は厚さ六米以上の珪華で出来、木葉の印痕を有するものが多い。その他にも噴泉丘が數個ある。これは指定の天然記念物

【湯ノ原鑛泉】 驛の東七〇米、硫黄泉で胃腸病、皮膚病などに効くと云ふ。旅館 飯塚。

【佐藤信淵の生地】 驛の西北一四軒、雄勝鐵道西馬音内驛の北四軒、新成村郡山、明治三十二年その五十年祭にあたり建設した記念碑がある。

湯澤を出て左窓に廣き平野を望み、東北に向ひ、岩崎町を過ぎ皆瀬川を渡り十文字四哩六に着く。

十文字驛(一圖さ3) 秋田縣平鹿郡十文字町十文字

横手から 一〇軒六一六哩六

▽乗合自動車 増田行 田子内行 稻庭行 川連行 植田行 浅舞行

【増田町】 驛の東南四軒、商工業盛に行はれる。町の東方三軒に眞人山がある。全山松樹に被はれ奇岩怪石その間に起伏し山腹には不動瀧があり、發電所がある。そのあたりから皆瀬川の眞人橋にかけて風景がよい。【吉乃鑛業所】 驛の東八軒、西成瀬村吉野にある銅山、驛と鑛山の間には索道が架設せられて貨物を運搬して居

新庄秋田間

る。地質は第三紀層及石英粗面岩で鑛床は網狀鑛床、選鑛の上日立その他の製鍊所へ送る。年産價額約三十六萬圓。

【川連の漆器】 驛の東南一〇軒の川連村は三百年來漆器の産出で名を得て居る。その製品は堅牢で販路が廣い。

十文字から進んで右に明澤岳を望み、左に鳥海山を望み、丘陵の間に入り、柳田六軒六を過ぎ、左窓に横莊鐵道の線路を、右窓に横黒線を見て横手二哩五に着く。

横手驛 (一圖さ3) 秋田縣平鹿郡横手町

福島から 二二〇軒二一四三哩一

秋田から 七〇軒三一四三哩七

黒澤尻から 六〇軒三一三七哩五

▽横黒線 横手 黒澤尻間 六〇軒三一三七哩五

▽横莊鐵道東線 横手 二井山間 二六軒一一一六哩二

▽乗合自動車 大森町行 角間川町行 大澤行

幡神社の境内に接し、數千の櫻樹は淺舞街道まで一軒の間花時花のトンネルをなし、遊覽者が多い。

横手を出て西北に向ひ直進、旭川を渡り右方の丘陵中に黒く樹木の繁る金澤柵址を望み、戦役に因んで名づけられた後三年三哩九を過ぐ。源義家の戦蹟を探るに徒歩するものはこの驛から下車、自動車を利用せんとするものは横手驛で下車する。後三年から飯詰三哩一を過ぎ、右の方線路に接する古四王神社を望み、鞠子川を渡つて大曲四哩四に着く。こゝは田澤湖、抱返りに行くもの、乗換驛。

【金澤柵址】 (一圖さ3) 驛の東方四軒、金澤町根小屋部落の東の丘上にある。今八幡神社のある處を二ノ丸址と稱しその北に北ノ丸址、東に本丸址、西に西ノ丸址と呼ぶ館址があつて、何れも丘の頂上を平削し、山腹に數段の平地が造られて居る。こゝは清原武衡、家衡などが據つて奥羽を亂した處で、應徳年間陸奥守源義家がこれを攻め三年を閲して寛治元年に及び平定した

新庄秋田間

▽旅館 [驛前] 平源支店 平利支店

[町内] 平源本店 平利本店 小坂本店

主要發送貨物 米 鹽 製材

【横手町】 雄物川の支流旭川に跨り四通八達の要點を占め、商工業が盛に行はれ人口約一萬七千に及ぶ。もと小野寺氏の城邑で慶長五年最上氏のために亡され、その後佐竹氏が秋田に移封せられてよりその家臣をして治せしめた處、戊辰の役に城は東軍のために陥れられた。

横莊鐵道東線

横手 二井山間 二六軒一一一六哩二

横莊鐵道は奥羽本線の横手と羽越本線の羽後本莊を連絡せんとするもので、兩端から工事を始め、その横手側の東線は雄物川平野に半圓周を描き樋ノ口淺舞羽後里見、沼館、館合を経て雄物川を渡り羽後大森、八澤木を過ぎ二井山に通じて居る。

【淺舞町】 淺舞驛所在、農蠶の中心、その公園は八

所謂後三年役の戦蹟である。八幡神社「郷社」は源義家が石清水八幡宮をこゝに勸請したものと傳へ、後慶長年中に至り佐竹義宣が秋田に遷さるゝ際一時この地に住し社領を寄附せることがある。山麓參道口社務所前に寶物を陳列して居る。

【西沼壑穴住居址】 後三年驛の東一軒、飯詰村西法寺、大森山の南麓、西沼の西岸に臨んだ處に存する。住居址は方形の平面で、出土の石器、土器などは、同地の井畑氏が保管して居る。

【後三年驛附近スキー場】 經塚森の斜面に續いて二個所の初心者向の練習場がある、十二月下旬から三月まで、一米位の積雪があり、毎冬秋田や横手方面からのスキー家で賑つて居る。

大曲驛 (一圖さ3) 秋田縣仙北郡花館村鍋倉

福島から 二四八軒八一五四哩六

秋田から 五一哩八一三二哩二

▽生保内線 大曲 生保内間 三五軒六一二二哩二

▽乗合自動車 町内 角間川行 横澤行 神宮寺行

新庄秋田間

▽旅館 仙北ホテル 枕流館

【大曲町】 稲田の間にある標式的の街道町で、市街の延長二軒に及ぶ。商工業活潑に行はれ、仙北銀行、秋田林産會社、大曲製材所、仙北倉庫、仙北酒造會社などがあつた。

【古四王神社】 驛の東南四軒、大曲町古四王、鐵道線路の東側に接し、大彦命を祀る。今の社殿は元龜元年の造營と傳へ、様式また年代と合致して秋田縣下唯一の特別保護建造物である。社殿は一間社、屋根入母屋造柿葺妻入となし、前面に唐破風造の向拜を附し軒二重繁檼、桁組は唐様二手先を用ひ、外形屋根急にして反少く、一見奇なる如く見ゆるも、大膽なる軒廻りの手法を以て諧調を保たしめ、殊にその放縱磊落なる意匠は、桃山藝術の先驅を示した貴重なる遺構である。

生保内線

大曲 生保内間 三五軒六一二哩一

季スキーが行はれる。

【角館の白枝垂櫻】 驛の西北一軒餘、龍泉寺内の丘上に立つもの最も大きく、幹の周圍六米、町内には同種の櫻が多く、城山にもこの櫻の大木がある。

神代驛 (一圖三三) 秋田縣仙北郡神代村

大曲から 一二軒八一四哩二

【抱返り】 驛の西南三軒にあたる抱返神社に始まり夏瀬温泉、八木澤口を経て長内澤口に至る間の玉川峽流の勝景である。神代驛から八木澤口までは日曜、祭日には林間軌道の手押し便乗することが出来る。それから先は徒歩で生保内驛へ出る。峽中奇岩峙ち、瀑布懸り、急流、深淵あり、兩側の山には松、杉、櫻、つじ、楓、檜、藤などが密生し、四季おの／＼その趣を見るも、特に秋季の紅葉が絶佳である。

神代驛を出て稲田の間を東南に進み、雜木林に入り、抱返口のキヤムピング場を過ぎ、東に轉じ、玉川に沿うて抱返神社に至る。こゝから東北に見え

新庄秋田間

奥羽本線の大曲から分岐し、雄物川平野の北部を東北に進み羽後四ツ屋三哩四、羽後長野三哩五を過ぎ、玉川を渡り角館三哩六を経て、山地に入り神代三哩八、刺卷五哩二を過ぎて、田澤湖附近の生保内二哩七に至るもので、將來奥羽山脈を横ぎり岩手縣に出で橋場線に合し、東北奥羽兩線を連ねる筈。抱返り、田澤湖の探勝者、駒ヶ岳登山者、澁黒北投石産地の研究者などはこの線を利用する。

角館驛 (一圖三三) 秋田縣仙北郡角館町岩瀬

大曲から 一六軒七一〇哩四

▽乗合自動車 横澤行

▽旅館 石川 小林

【角館町】 江戸時代に秋田藩の支藩を置いた處、京都の高倉家から佐竹家に入りこゝの城主となつた義隣は土地の形勢が京都に似て居るのを見て、小倉山、加茂川などと命名した處がある。今は農蠶林業の中心地となり、また樺細工、春慶塗、木通葛細工、菅笠などを産する。町の東方にある大威徳山では冬

小影山には大尺ノ窟(奥行約八米)がある。神社から神ノ岩橋と稱する釣橋を南に渡る、橋上から巫女岩、鞍掛松、山伏岩などが見える。玉川の南岸を發電水路に沿うて東に進む。河中の莫崖岩、對岸の白絲瀧を眺め、右に柱狀節理を示す安山岩を見る。發電用水の取入口を造るために河中に堰堤を設けた處が二個處ある、こゝに人工の瀑布が懸かつて居る。トンネル四個を経て、河水面から遙に高き斷崖の中間を通り、見かえり瀧、見下し瀧を望み、更に河流の屈折する處に善知鳥中島を見る。このあたり秋季には川を隔て、小影山の紅葉が特に美しく眺められる。それより北に轉じ東北に折れると行田澤が右から来る。これに沿うて登ること一軒にある百尋瀧は抱返り峽中最も雄大な瀧である。更に北に進めば黒淵の淀が見える。玉川のU字形を畫いて居る内側に珍らしくも稲田を見て、右に大岩壁を仰ぎ左に若峽ノ急流を瞰下し、大影山の翠色を望み、夏瀬温泉に着く。これより小玉澤、堀内澤、部名垂澤の落口

遊覽者ハ普通神代驛カラ抱返リヲ經由シテ田澤湖畔ニ出テ船ニテ湖上ヲ一周シ歸途ハ生保内驛テ乗車スル



新庄秋田間

を過ぎ、八木澤口に着く。神代驛からこゝまで一六
軒、徒歩四時間、トロ三時間を要する。これより長
内澤口を経て柱石トンネルを過ぎ、生保内盆地に入
り、村落の間を通過して、生保内驛に至る。その間
七軒、徒歩一時間半。

【夏瀬温泉】(三圖か3) 驛の東八軒、前記抱返りを経
由すれば一〇軒、アルカリ性の鹽類泉で浴場は河岸
の自然石の間に設けられた甚だ原始的である。皮膚
病、胃腸病、婦人病、リウマチス、眼病などに効く
と云ふ。抱返り遊覽者の足休めによい。旅館 北田
屋、自炊制を主とする。

生保内驛 (一圖さ3) 秋田縣仙北郡生保内村

大曲から 三五軒六一二二哩一

▽乗合自動車 田澤湖畔白濱行

▽旅館 兒玉旅館

【田澤湖】(二一圖) 生保内村の西方に位し、湖面は海
拔三〇米、東西六軒、南北五軒八、周圍二〇軒、面積
二五方軒あり、殆ど圓形をなし四圍に低き山地を廻

らして居る。等深線は湖岸線に平行して數多の同心
圓を描き縦断面はU字形を呈し、最深點は四五米に
及び、全國湖沼中その深度に於て第一位を占め、湖
底は海面下一五米に位し、これと同じ深さの海底は
日本海の岸より五〇軒以上の沖合にある。湖の水色
は非常に美しい瑠璃色を呈し、フォーレル水色標準
液の第一號にあたる。透明度はセーキ圓板三九米、
世界に比類が稀なものである。自然の排水口は西南
岸の湯尻にあり、湯尻川となり流出、檜木内川に合し
玉川に入る。人工の小排水口は東北岸の春山附近
にあり、春山堰と云ひ、流出して石神部落附近の灌
漑用水となる。

▽湖畔旅館 白濱館(春山にある)

驛から西北六軒の春山からモーターボートで湖上
を一周することが出来る。そのあたりの湖岸には石
英粗面岩の分解によつて生じた石英質の砂が堆積し
て極めて白く美しい、こゝを白濱とも云ふ。背後に
笹森山(海拔四二米)を見る。西に進めば、右の方東北

八籽にある荷葉岳(二、三畝米)の火山が望まれ、その左に玉川の谷を隔て、高森(七畝米)が仰がれる。湖の北隅に進めば高鉢山の麓、湖岸に大樹の繁るあたりに近く、水中僅かの深さに灰白色を呈する凝灰岩の岩盤が長く湖中に突出して小半島状になつた處がある、これを御座の石と云ふ。その邊緣は直立の斷崖になつて、極めて深く紺碧の水が神秘的に湛ひ、懐愴の感を起さす。水際に鳥居が立つて、陸上木立の中に御座石神社がある。こゝには綿津見神、大國主命の外に舊藩主の佐竹義隆、同義和、及龍子姫を祀る。

龍子姫は田澤、十和田、八郎瀧の三湖傳説の女主人公である。姫は水を求めてこの山間に入り、高鉢山まで来たが、俄に天變地異が起り、暴雨雷電の間に谷に陥つて大湖を生じ、姫の身は蛇體に化し、この湖の主となつた云ひ傳へられて居る。

神社の傍には極めて冷かな清水の滾々と湧出して居る處がある。これを延命水と云ふ。湖の西北隅に相内瀉の部落を望み、西岸を南下すれば小杉澤に到

新庄秋田間

る、このあたりは湖水が急に深く紺碧、藍よりも濃く、渚を距る僅かばかりの處に古木が湖中に倒立して恰も龍の蟠るが如く見え、波の立つ時はさながら生動飛躍するやうに思はれる。榎木神社はこれに因んで祀られたものである。更に南して湖の排水口にある瀉尻に達する。こゝには疊を敷いたやうの岩盤があつて、一年の大部分水面下にある。その岩上に湖の神を祀つた漢槎宮と云ふ社があり、社殿から岸へ橋が架せられて居る。附近にははんのきの大樹が枝を水面に垂れて居る。社頭に立つて東方を見れば湖面を越えて駒ヶ岳(二、三畝米)の靈姿が一五籽の可なたに仰がれる。瀉尻からは瀉尻川に沿うて下り角館に通ずる道がある。こゝより湖上東南に向ひ、院内岳の麓、湖岸一帯老杉の樹々枝を交へ波浪の樹根を洗ふ處を過ぎる。こゝを南祖坊と云ふ。三湖傳説の主人公の一人の名によつて命じたものである。更に東に向ひ、湖畔の最大部落大澤を眺め、湖に迫る霧森山(三畝米)を右に仰ぎ、田子ノ森の部落、八森山、山

新庄秋田間

伏峠を見て東北に轉じ、大森山の芝山、大森鼻を過ぎ北に向ひ春山堰、蓬萊松を見て春山に歸る。

田澤湖は日出、日没、雨後、月夜時として佳ならざるはなく、また四季とりどりの眺めがあり、特に秋は隅から隅まで紅に黄に彩られる。湖中に産する國鱒、口黒鱒、背黒鯉などにも一種の風味がある。

【駒ヶ岳】(二圖さる、二圖)生保内村の東方、岩手縣の境上にあり。輝石安山岩より成るれ火山で、ほぼ完全な截頭圓錐形をなし、山頂に橢圓形の噴火口がある。その大き長徑一、四〇〇米、短徑九〇米、火口内には更に二個の中央火口丘がある。一を女岳と稱し、一を横岳と云ふ、共に頂上に火口を有して居る。尙火口原の西部にも一小丘がある。舊火口は西部が開放してこゝに檜木内澤の火口瀨がある。外輪山は西北部が最も高く、その最高點を男岳(海拔一、三三米)と云ひ、火口壁が懸崖になつて内部の成層構造を示して居る。東部及南部は削裂崩壊して樹林がこれを被ふ。外部の傾斜は概ね二〇度位の緩かさで西面には

峻になる、それよりぶな林の中を進み約一軒の處に白瀧を望む。そこから横岳を右に見つゝ女岳の頂を自指して二軒ばかりは緩い斜面を登る。そこから女岳の火山圓錐の急斜面を一軒ばかり登り、その北側に出る。この附近は熔岩礫の道で夏季はこまきさなどが美しい、こゝから左右に火口壁の美事な岩層を見つゝ三〇〇米ばかり登り、男岳の頂上に達する。女目岳はその東北に屹立して居る、男岳の頂、附近は概ね偃松が生ひ茂つて黒い熔岩礫の間を縁に飾つて居る。

山頂からは東は岩手縣、石小岩井方面の谷間が見下され、東北には高倉山、小高倉山及岩手山の雄姿を望み、北は烏帽子岳その他の山々を眺め、西には近く田澤湖が手に取る如く山間に輝き、遠く太平山から秋田平野、日本海を望み、西南には遙に鳥海山の靈峰が見える。

男岳より横岳に出て南へ下り國見温泉を経て國見峠から角館街道に下り生保内に出る道がある。スキ登山に興味の多い道である。國見温泉から東へ約

新庄秋田間

美しい裾野を曳いて居る。北面は往時噴氣孔のあつた處で今は破壊して北に向つて開いて居る。その東北に聳ゆる寄生火山の女目岳(二、三三米)は駒ヶ岳の最高峰である。それより東北には湯ノ森山(二、四三米)烏帽子岳(二、四六米)などの火山が連なつて居る。登山は七月中旬から九月までの間に行はれ、生保内驛から登りに五時間、下りに四時間を要する。駒ヶ岳は山麓に森林帯があり、七合目には熊笹、八合目には白樺がある。更に九合目に至ればお花畑があり、東北地方固有の高山植物に富み、殊にこまきさ、むしとりすみれの大群落の存するにより著はれ、駒ヶ嶽は代表的高山植物帯として指定せられ、公益上必要上止むを得ない場合の外高山植物の生育を阻害する行爲を禁ぜられて居る。

生保内驛から田澤湖畔へ通ずる道を北に一軒半ばかり中生保内に達する、それより駒ヶ岳頂上まで約九軒。中生保内から東へ針葉濶葉の混生林帯の緩斜面を二軒ほど進めば狭い谷合に入つて道は次第に急

一一軒下れば橋場線橋場驛へ出る。

【駒ヶ岳山麓の温泉】(三圖か三)生保内驛の東北約一六軒、徒歩による。鶴の湯、蟹の湯、孫六湯、黒湯などがある、鶴の湯は鹽類泉で、神經諸病、皮膚病に、蟹の湯は鹽類泉で、胃腸病、皮膚病、婦人病、神經痛に、孫六湯は硫黄泉で、呼吸器病、神經痛、皮膚病に、黒湯は硫黄泉で、中風、呼吸器病、婦人病、皮膚病に効くと云ふ。附近に、小白森、大釜の湯、一本松湯などの名所がある。旅館は何れも自炊を主とする。【澁黒温泉、北投石、毒瓦斯】(三圖か三)澁黒温泉は仙北郡の北境にある焼山火山の西斜面に位し、田澤村澁黒澤にあり、一に鹿の湯と云ふ。こゝに到達するには南北の二路がある。南方から行くものは生保内驛から玉川に沿うて北進する、里程三七軒、途中玉川の部落で一泊を求めることが出来る。北方から行くものは秋田鐵道の花輪驛から南に向ひ、坂比平を經、焼山を越えて西に下る、この里程三四軒、途中坂比平で泊る。共に山道が相應に険しい。

泉源は海拔六八七米、爆裂の址に存し處々に酸性の強烈なる熱湯を噴出し或は泥湯が煮沸して居る。中にも大噴は毎秒五〇個の熱湯を最高一米に噴出し温度は攝氏九五度乃至九八度、これを浴舎に導き水を和し入浴用に供する。泉質は酸性泉で鹽酸、硫酸、硫酸鐵、硫酸アルミニウム、食鹽などを含む。浴舎一戸、五月から十一月までの間のみ客を容る、自炊制。この温泉は全國稀に見る北投石の産地で、臺灣の北投温泉と共にこの點に於て世界的に有名である。北投石は二箇處に産し、一は浴舎の東に近く、舊時温泉の流れた河床の圓礫を被うて皮殻をなして居る。皮殻は臺灣産に比し著しく厚く、かれの最大二粒に對しこれは普通三粒乃至六粒、往々一〇粒に達する。皮層は褐色層と白色層が交互に相重り、表面は柱狀結晶が明瞭で、柱の長さ最大二粒に及ぶ。ラヂウムエマナチオンの放射能〇・三-10 キュリー、一は浴舎の西北約一〇〇米、温泉の多量に流れる河の河床にあり、岩塊の表面に皮殻をなし、高さ五米の瀧の處があり、人もこれに近づいてその厄に遭ふことがある。

大曲から西北に進み、左に姫神山(海拔七七米)、神宮寺岳(二六米)の屹立するを見、玉川の鐵橋(延長六三米)を渡る。この川は河水清澄であるが、源流に近い澁黒温泉の毒水を受けて本流には魚類の産がない。次に西に折れ神宮寺岳を左窓正面に望み、神宮寺三哩八に着く。更に西北に進み、雄物川平野を後にして刈和野四哩七を過ぎ左窓に雄物川を見、小平澤出口から川と離れ北に折れ丘陵地を進み、荒川銅山より來る荒川を渡り羽後境七-一三哩に着く。

秋田から 一三哩四-一八哩三

【筑紫森】(二圖三三) 驛の東北一六粒、岩見三内村砂子淵の東北に位する海拔三九二米の山で、その中腹までは緩傾斜であるが、それより上の極めて急斜して居る部分は石英粗面岩の岩脈から成り、柱狀節理を示し、四角乃至六角の柱狀をなし水平に配列して天然の階段のやうに見える。土地の人はこれを千本垂木と稱する。

秋田から 一三哩四-一八哩三

【荒川鑛山】 驛の東方一〇粒、荒川村にあり、東北地方有数の銅山で、三菱鑛業會社の經營。驛から鑛山まで専用の馬車軌道がある。鑛床は第三紀の頁岩及輝石

その層殊に厚く、今尙北投石の沈澱を繼續して居る。その皮殻の厚さは普通六粒で、淡黄褐色のものと白色のものが互層をなしラヂウムエマナチオンの放射能〇・九〇乃至一・五-10 キュリー。この北投石の成分は酸化バリウム六〇%、磷化バリウム四%、鐵三三%を主なるものとし、その成分重晶石に近く、また硫酸鉛を含有して居る。

澁黒温泉の泉源地には毒瓦斯の發生地が二箇處ある。一は浴舎から東南約三〇〇米にある殺生と名づける場處で、凹地になつて西に向ひ口を開き、その東部に二箇の噴氣孔が南北に並び、その南の方のものが猛毒を有する。噴出の瓦斯は硫化水素が多量で、これに炭酸瓦斯、砒化水素を混じ、その砒化水素が有毒である。一は浴舎から東南約二〇〇米に位する噴氣孔で、孔口に硫黄と赤鐵鑛の昇華がある。噴出瓦斯は多量の炭酸瓦斯及硫化水素に砒化水素を混じ、その炭酸瓦斯と砒化水素が有毒である。これらの噴氣孔附近には昆蟲、鳥類及獸類の斃死して居るもの

安山岩に胚胎せる鑛脈で、主鑛物は黄銅鑛である。採掘した鑛石は選鑛の上能力一日約七〇庇の熔鑛爐で製錬し、型銅として羽後境驛に出し日光精銅所へ送る。鑛夫約九百、年産額約百二十萬圓。

羽後境から西北に進み丘陵の中を迂回し、岩見川の河谷に出る。それから川を渡つて西に向ひ、右方に太平山を仰ぎ和田八哩四に着く。

秋田から 一三哩四-一八哩三

秋田から 一三哩四-一八哩三

【筑紫森】(二圖三三) 驛の東北一六粒、岩見三内村砂子淵の東北に位する海拔三九二米の山で、その中腹までは緩傾斜であるが、それより上の極めて急斜して居る部分は石英粗面岩の岩脈から成り、柱狀節理を示し、四角乃至六角の柱狀をなし水平に配列して天然の階段のやうに見える。土地の人はこれを千本垂木と稱する。

更に西進して雄物川の下流に沿ふ秋田平野に出て、北に折れ四ツ屋四哩三を過ぎ、秋田四哩に着く。

新庄秋田間

秋田附近

秋田驛

(一圖ささ) 秋田縣秋田市橋山長沼

東京上野から 五七〇軒九一三五四哩八

急行一五時間 普通一八時間

福島から 三〇〇軒六一一八六哩九

急行八時間半 普通一〇時間

青森から 一八五軒八一五哩五

普通六時間

▽羽越本線

秋田 新津間 二七二軒八一六八哩九

▽乗合自動車

市内 土崎港行 新屋町行

平均一日

乗車人員 二、四七五人

乗車人員 二、四七五人

發送貨物噸數

七噸

到着貨物噸數

三六噸

主要發送貨物

木材類 米 鐵及鋼 石油類 繭 鐵及鋼製品 石

灰 馬 活鮮魚 小麥粉

主要到着貨物

木材類 木炭 薪 砂糖類 米 石炭 石材 活鮮

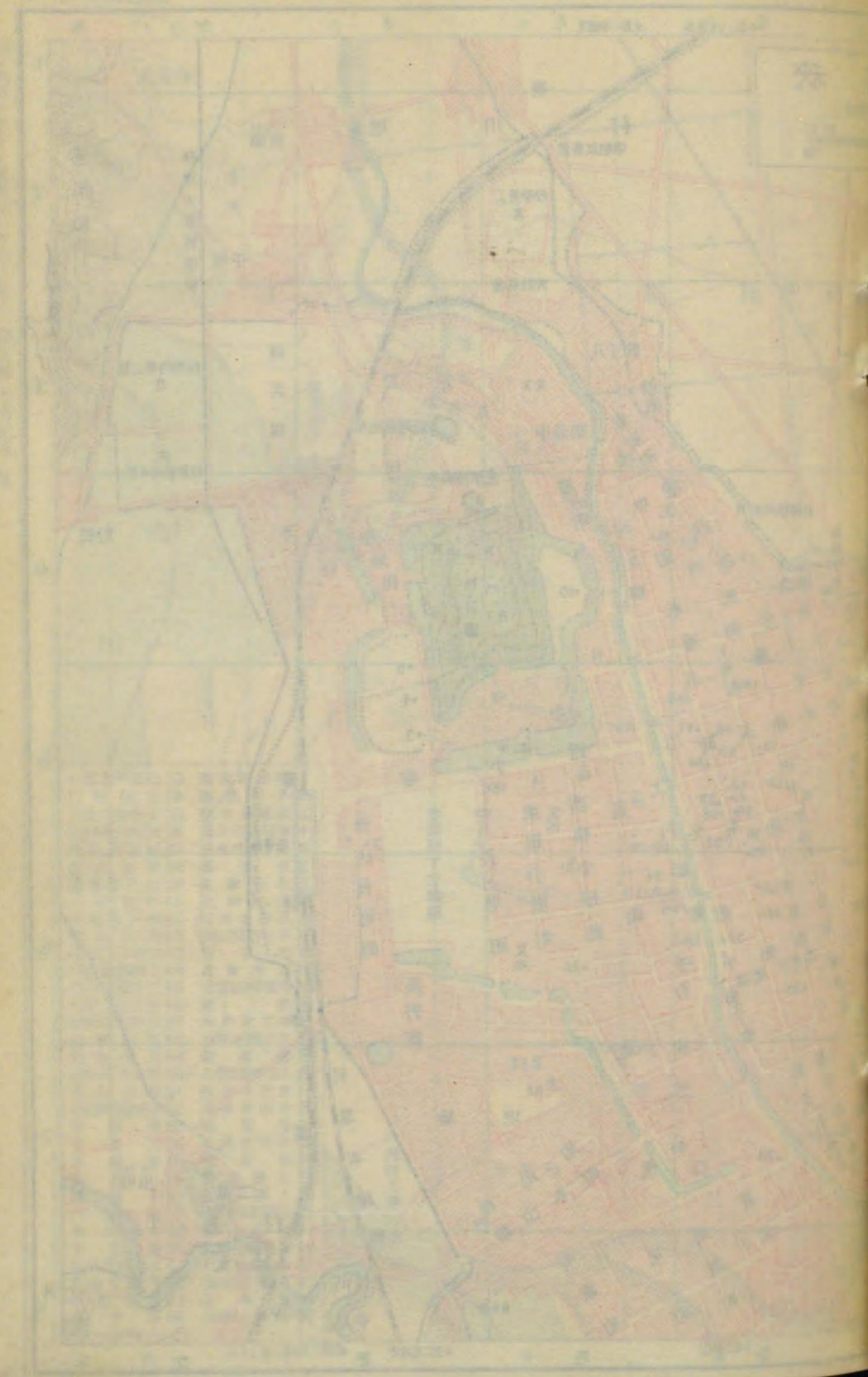
魚 小麥粉 セメント類

▽旅館 (驛前) 關根屋 木村屋

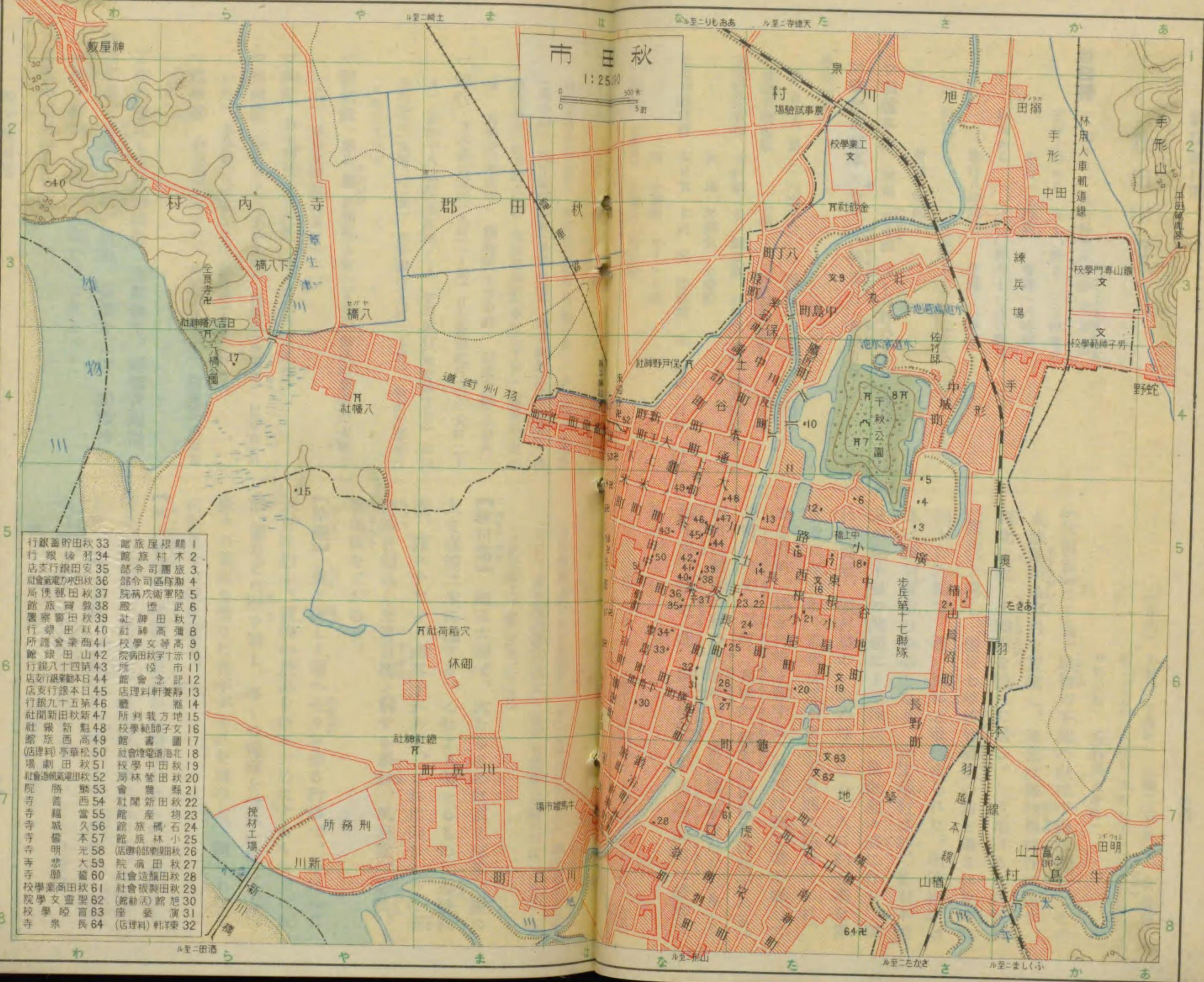
〔市内〕 小林(土手長町) 石橋(土手長町) 敦賀屋(本町三丁目) 山田屋(本町三丁目) 金谷旅館(保戸野川町) 高西屋(上着町)

【秋田市】(二圖) 雄物川下流の秋田平野に位し、その支流旭川は市内を貫流し、東南は雄物川河谷に連り、西北に近く土崎港を控へて居る。この地はもと久保田(窪田)と稱し、慶長七年佐竹義宣の封を遷された時に開かれた街で、後に秋田と改稱せられた。明治維新以降は秋田縣治の中心となり、商工業行はれ、奥羽本線及羽越本線の開通により物資の集散愈々盛になり、現に石油業、製材業の一中心地をなし、人口約五萬を算するに至つた。市街は旭川を以て東西に區分せられ、東を外町、西を内町と稱する。外町は商工業が盛んで通町、大町、茶町、馬喰町、横町は殷賑な街路である。内町は舊藩時代の武家町で、官公廳、學校などが多く、廣小路、長町、通、根小屋町、牛島橋通町は繁華である。

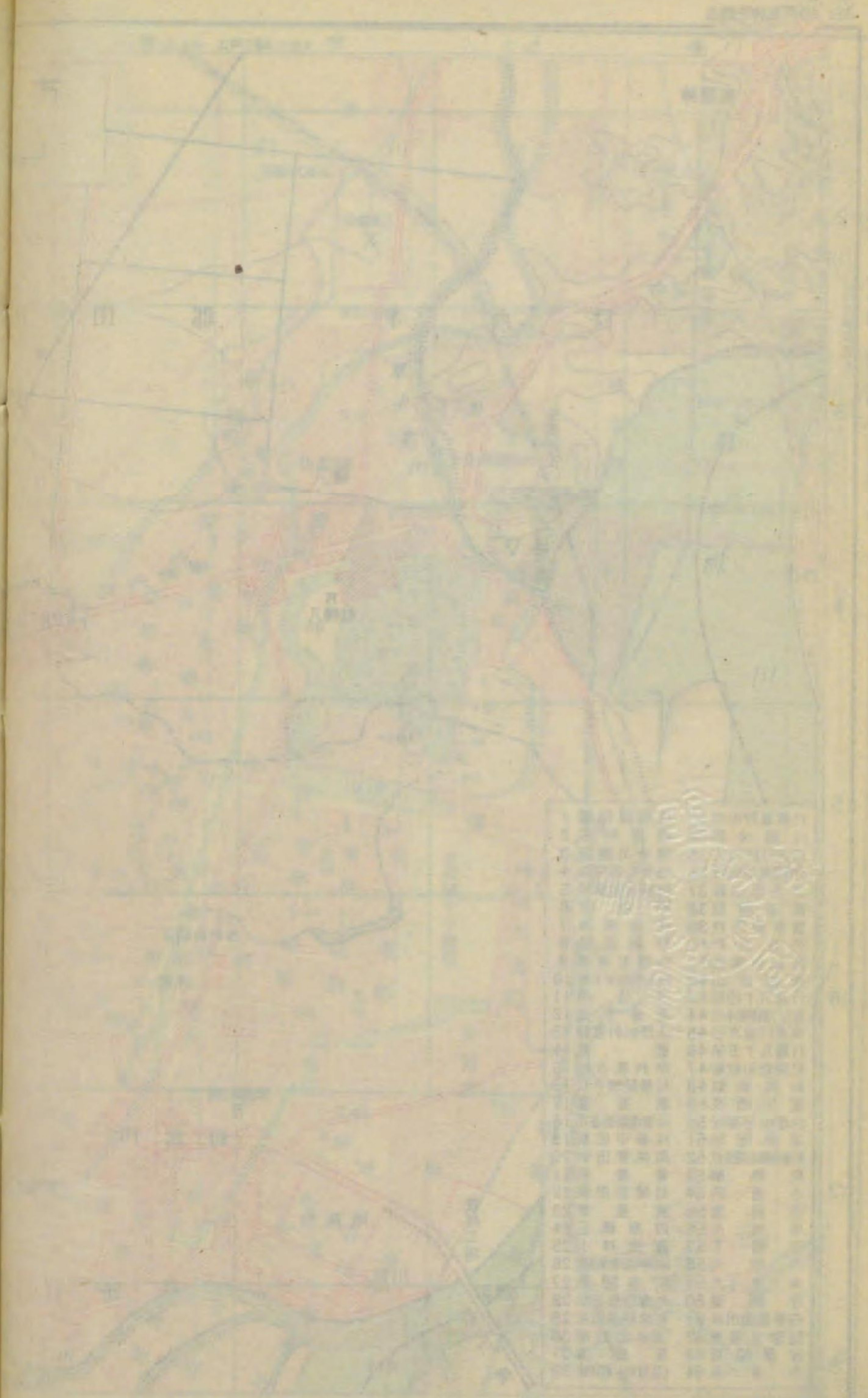
▽官公廳その他 縣廳(土手中町) 市役所(土手上町) 營林



市ノ内外ノ主ナル遊覽地ハ千秋公園・八橋公園・平田萬胤ノ墓



行銀善野田秋 33	館旅屋根 1
行銀後羽 34	館旅村木 2
店支行銀田安 35	部令司團旅 3
社會電力水田秋 36	部令司區隊聯 4
局僕郵田秋 37	院病戎衛軍陸 5
館旅賢敷 38	殿成徳武 6
署察警田秋 39	社神田秋 7
行銀田秋 40	社神高強 8
所議會業商 41	校學女等 9
館銀田山 42	院病田秋字十赤 10
行銀八十四第 43	所役市 11
店支行銀本日 44	館會念記 12
店支行銀本日 45	店理料軒養靜 13
行銀九十五第 46	廳所判裁方地 15
社聞新田秋新 47	校學範師子女 16
社報新魁 48	館書圖 17
館旅西高 49	社會燈道海北 18
(店理料)亭華松 50	校學中田秋 19
場劇田秋 51	局林營田秋 20
社會通朝萬田秋 52	會農縣 21
院勝 53	社聞新田秋 22
寺普 54	館産物 23
寺福 55	館旅橋石 24
寺城 56	館旅林小 25
寺藝 57	(店理料)部業田秋 26
寺明 58	院病田秋 27
寺悲 59	社會造田秋 28
寺願 60	社會振興田秋 29
校學業商田秋 61	(館勸活)館想 30
院學文聖 62	座藝演 31
校學岐盲 63	(店理料)軒東 32
寺泉長 64	



局(東根小尾末町) 歩兵旅團司令部(廣小路) 歩兵第十七聯隊

(廣小路) 鑛山専門學校(手形山崎) 地方裁判所(廣小路) 農

事試験所(保戸野八丁) 商業會議所(本町三丁目) 圖書館(廣小

路) 測候所(牛馬町) 物産館(土手中町) 記念會館(公園内)

▽銀行 日本銀行支店(大町二丁目) 日本勸業銀行支店(大町二丁

目) 第四十八銀行(茶町菊ノ丁) 安田銀行(本町四丁目) 山口

銀行支店(大町三丁目) 秋田銀行(大町三丁目) 秋田貯蓄銀行

(本町五丁目)

▽新聞社 秋田魁新報社(大町一丁目) 新秋田新聞社(大町二

丁目) 秋田新聞社(中長町)

▽病院 秋田病院(土手長町) 赤十字社病院(城内)

▽料理店 秋田クラブ(土手長町) 松風亭(公園内) 松華亭(田

中町) 東洋軒(川反五丁目) 靜養軒(土手上町)

▽娛樂場 秋田劇場(田中町) 旭館(十人衆町) 演藝座(川反五

丁目)

工産の重なるものは絹織物、金銀細工、銅器青銅器、

鑄物鐵器、挽材、指物、清酒、醬油などで、絹織物に

は畝織、絲織、八丈、八端などである。

工場の著名なもの

新庄秋田間

秋田製板工場(外張南新村) 野田製材所(中川口) 鈴木製材所(中

川口) 廣島製材所(中川口) 竹谷金銀細工工場(川反一丁目) 濫

谷金銀細工工場(反川三丁目)

【秋田落】 頗る大形で、大なるものは高さ三米、葉の

大き直徑二米に達する。これより製せるものに落砂糖

漬、落ステッキ、落菓子があり、これに因むものに落

模様を摺込んだ富貴摺と稱する服紗、風呂敷、唐紙、

畫箋紙などがある。

【竿燈】 眠り流しと稱へ七夕を祭る行事で、今は八月

六日に行ふ。穀物の豊熟を祈るためにするもので、太

鼓、笛などの囃を附し、多くの提燈を竹竿に結び下げ、

様々の装束を着けた青年がそれを肩の上、額の上など

に据ゑその技を競ふ。

【秋田音頭】 手振は柔道から變化したものと云はれて

居る、花音頭、笠音頭、組音頭の別があつて、三味線、

太鼓、笛、小鼓、摺金などで囃し立て、囃の中に音頭

の口數と稱する地詞の文句を述べる。その口數は

秋田名物八森 ハタハタ、男鹿では男鹿ブリコ

新庄秋田間

檜山納豆、能代春慶、大館曲伊ワツパ
太平山から四方の景色を窺いて見たれば
大漁に萬作、舟は澤山、秋田は大繁昌

【秋田萬歳】 謠ふところは古雅で、地の文句は繁榮を祝福するものである。一段終れば太夫と才藏の世間譚が始まる。舊藩時代には正月五日城中で數番を奏するこ

とを例として居た。地の文句は
御國も榮えておはします、御城造りの結構は門々は九つ、櫓々のその數は玉を連ねし如くなれば極樂淨土に異ならず、かほごめでたき御城に名ある町は三十六丁、その外數知れず、寺の數は三百三十三寺なれば、北にありて天徳寺、香の煙は雲に上がる、何時も絶えせぬ御燈明、光輝く御靈屋、さて水上には藤倉觀音、水際には古四王權現、海の面を眺むれば天竺の方よりも綾や錦を帆にかけて、數多の寶を御船に積みて、秋田の港へ船が着くぞや、誠にめでたく候へ。

【遊覽順路】

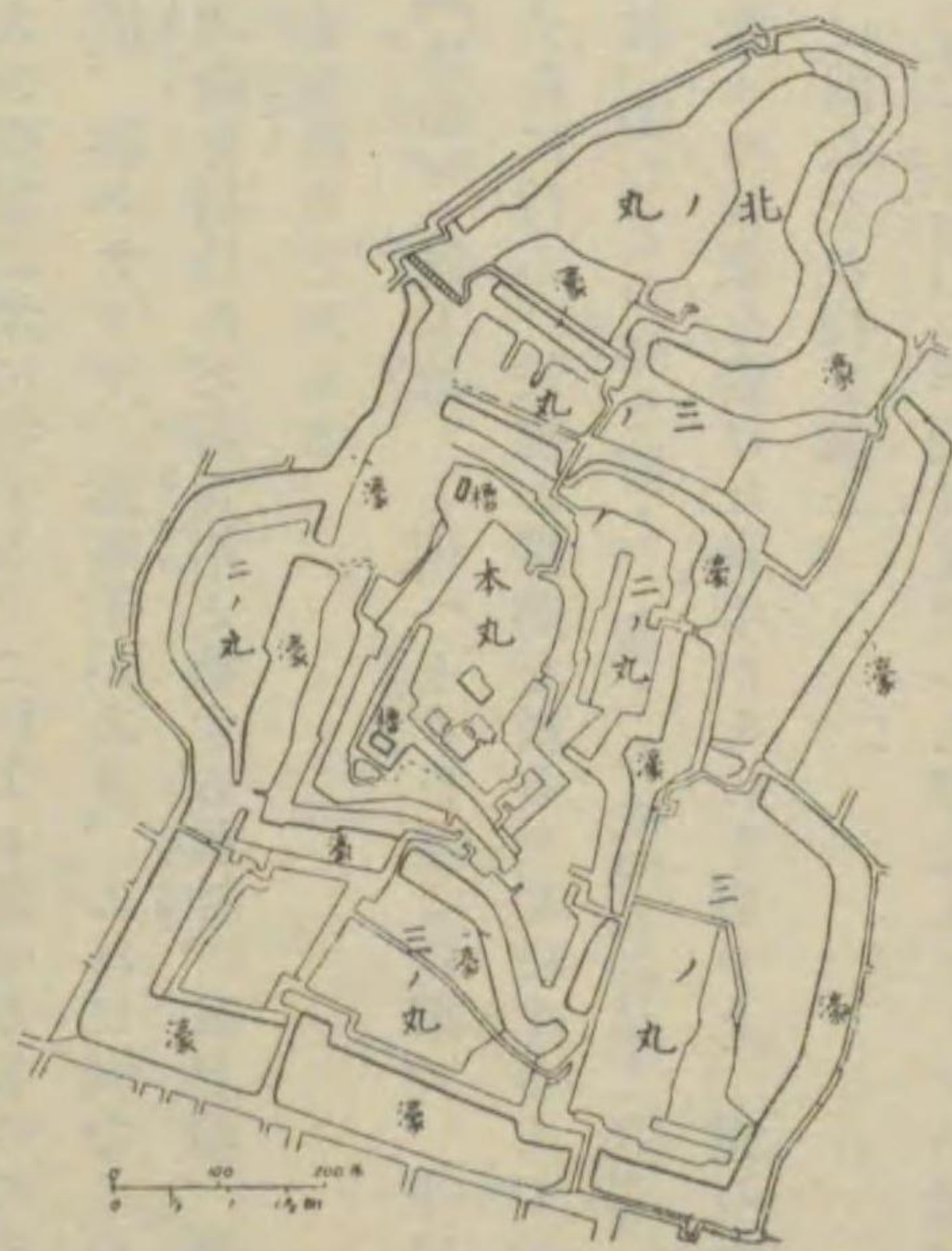
秋田驛—廣小路—土手長町—物産館—大町二丁目—一丁目—上通町—廣小路—中土橋—記念館前—千秋公園—手形山平田篤胤墓—農事試験場—日吉神社—全良寺戊辰官軍戦歿者墳墓—寺内村古四

り屈曲した石段を上れば本丸址に出る。この城は慶長年中佐竹義宣の創築にかゝり、市街の東北なる丘陵を利用して築造され、土留の外石垣を用ゐず土壘のみである。本丸、二ノ丸は最もよく舊態を保ち、その外側にある捨曲輪、別郭、上中城、下中城の濠もまた舊態を存して居る。本丸の西北隅に高く隅櫓址あり、その下に招魂社〔縣社〕がある。西南隅に八幡秋田神社〔縣社〕を存し、中央には明治戊辰勤王の記念として藩主佐竹義堯の銅像が立つて居る。本丸の東方一帯の高處は秋田市街を一時の中に収める。更に一段高く舊藩當時の物見櫓、隅櫓址に登れば展望が最も遠くに及ぶ。本丸の南方には靈泉臺址がある。馬場跡の傍には平田篤胤、佐藤信淵を合祀した彌高神社〔縣社〕がある。信淵は雄勝郡郡山に生れ、江戸に學び幕末多事に際し諸國を歴遊して經世濟民に志し或は西洋砲術の基を開き海防外交の大計を説けるなど終世國事に心を盡し、嘉永三年江戸に歿した。著書三百餘部に及ぶ。この彌高神社の邊に特に秋田蓀が栽培されて居る。

新庄秋田間

王神社—高清水公園—土崎港町—土崎驛。

【千秋公園】 驛の東一軒、舊久保田城の本丸、二丸及帶曲輪を範圍とし、自然の勝景に庭園花卉など人爲の技巧を盡し、運動具などの設備も完備して居る。園内



久保田城址

には櫻樹が繁茂し花時の眺めが殊に華かである。廣小路から中土橋を渡り、記念會館と武徳殿の間を進み濠を左右にして坂道を登れば緑の陰に小瀑がある。これを松下瀧と云ふ。その上に舊大門の址がある。これよ

その外兵庫址の花菖蒲、路傍の萩、山吹、内濠の白蓮、外濠の紅蓮など四季とりどりの眺めがある。

【平田篤胤墓】 驛の東北二軒、手形山の西腹にある。石玉垣を廻らした中に自然石の墓碑が立ち、「平田篤胤之墓」と題し、天保十四年に建てたものである。その傍に大正元年に建てた「平田大人之略傳」の碑がある。篤胤は江戸時代に於ける有名な國學者で、且神道家、安永五年秋田城下に生れ、天保十三年歿した。明治十六年正四位を贈らる。著書百餘部に及ぶ。

【天徳寺】 「曹洞宗」驛の西北三軒半、旭川村にあり、佐竹氏累代の菩提寺である。

【日吉八幡神社】 「縣社」驛の西約三軒、寺内村八橋にあり、自動車の便がある。秋田市の西郊羽州街道の沿道南側にあり。日吉、八幡兩社を合祀し、本殿の左座は日吉、右座は八幡、拜殿の前に三重塔がある。境内廣く八橋公園となつて居る。

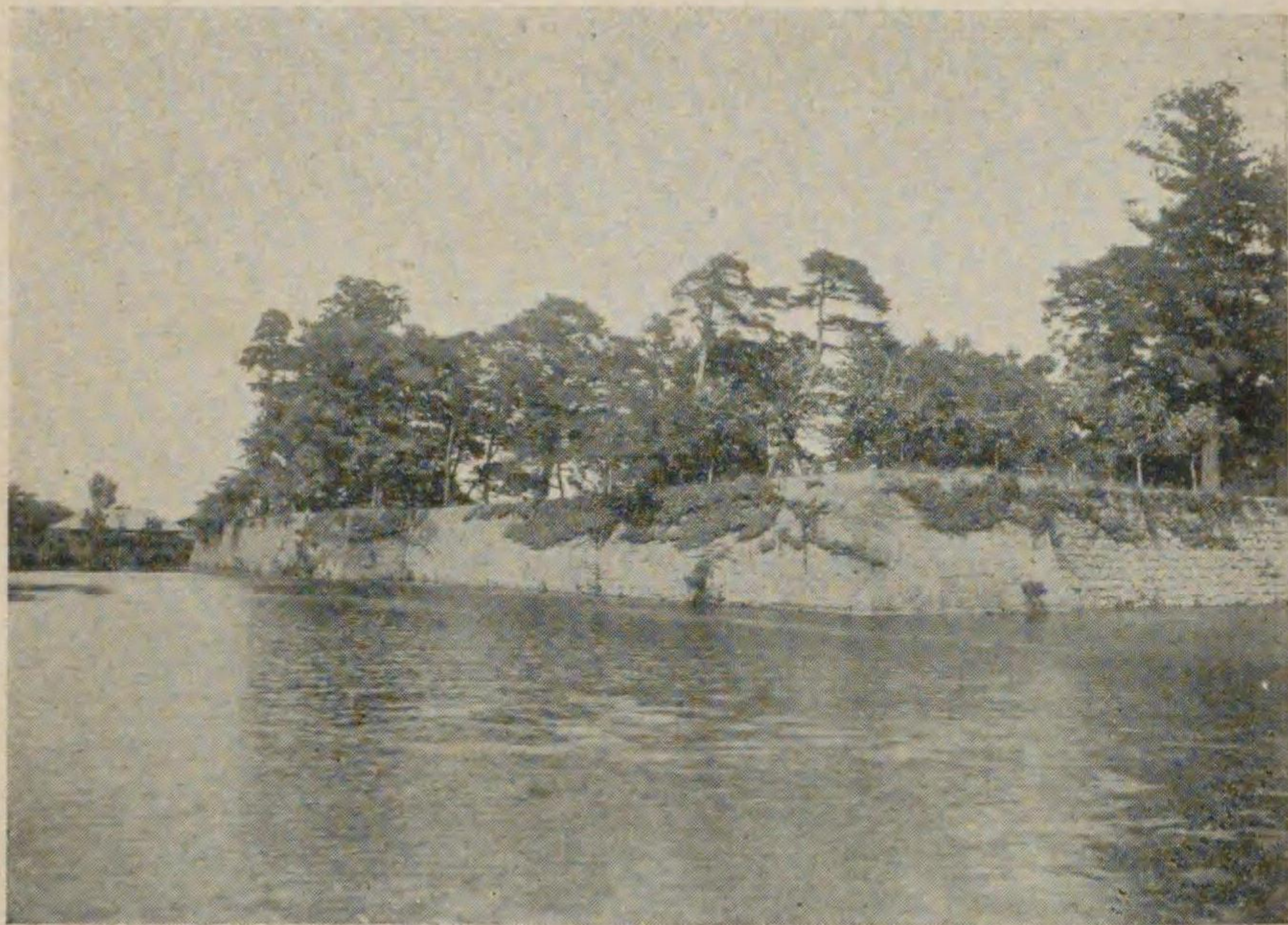
【全良寺戊辰戦歿者墓】 驛の西約四軒、寺内村八橋にあり、自動車の便がある。寺は臨濟宗妙心寺派、羽

新庄秋田間

州街道の沿道にある。門前に「戊辰役戦歿者官修墳墓」の標石があり。墓地は境内の小高い丘の上にある。墓碑は約三百基あり、秋田藩を主としその他新庄、鏡前、肥前、薩摩、長州、因幡等諸藩の戦死者を葬る。尙その北方羽州街道の西側に「仙臺藩殉難碑」がある。

【秋田城址】秋田驛の西北四軒半、土崎驛の東南三軒、寺内村高清水岡たかしみずおかにあり、自動車の便がある。遺跡は羽州街道に貫通せられ、北邊の一小區は高清水公園となつて居る。城域は寺内村丘陵の北半を占め、東西、南北共に一軒餘に及ぶ。遺跡の大半は破壊湮滅いんめつしたが、尙北邊その他に土壘が残存した處々古瓦土器などの残片を出す。聖武天皇の時蝦夷地の經略進歩して天平五年出羽でわの柵を今の莊内地方から一躍この地に移し天平寶字へいひょうほうじの頃城郭整備し國府また次いでこゝに移されたが、その後の形勢はこゝを保ち兼ねて寶龜年中河邊かわべ（最上河口附近）に移り退嬰たいえいの止むなきに至つたが、その後出羽介でわのすけをこゝに置いて經營にあたらしめた。延暦二十三年には一時停廢されたが後再興した。元慶げんけい

若松城址

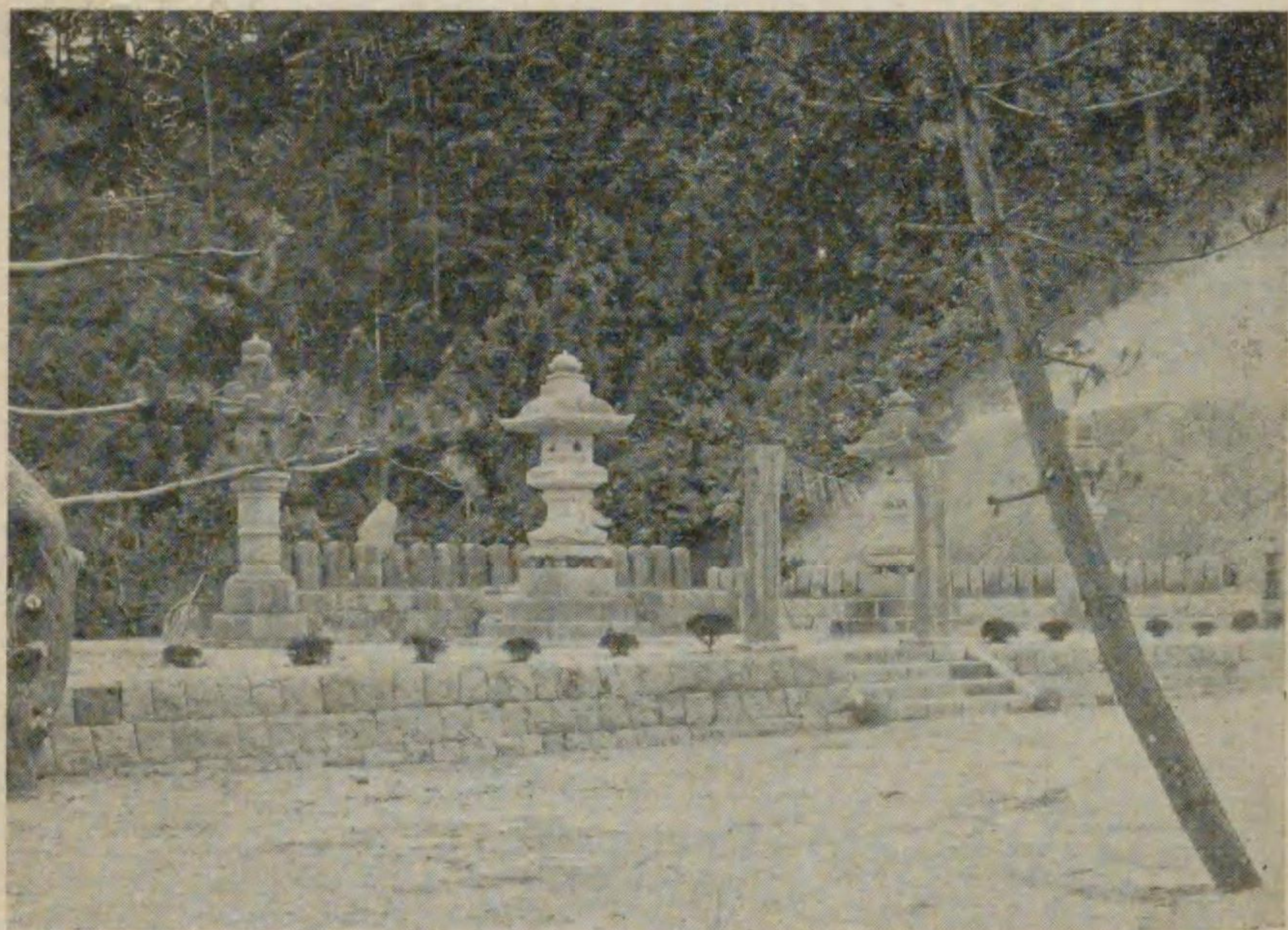


二年には蝦夷が反して兵火に罹り、藤原保則ふじのりがこれを討つて復し、城郭また完備したが、その後停廢の時期は明かでない。

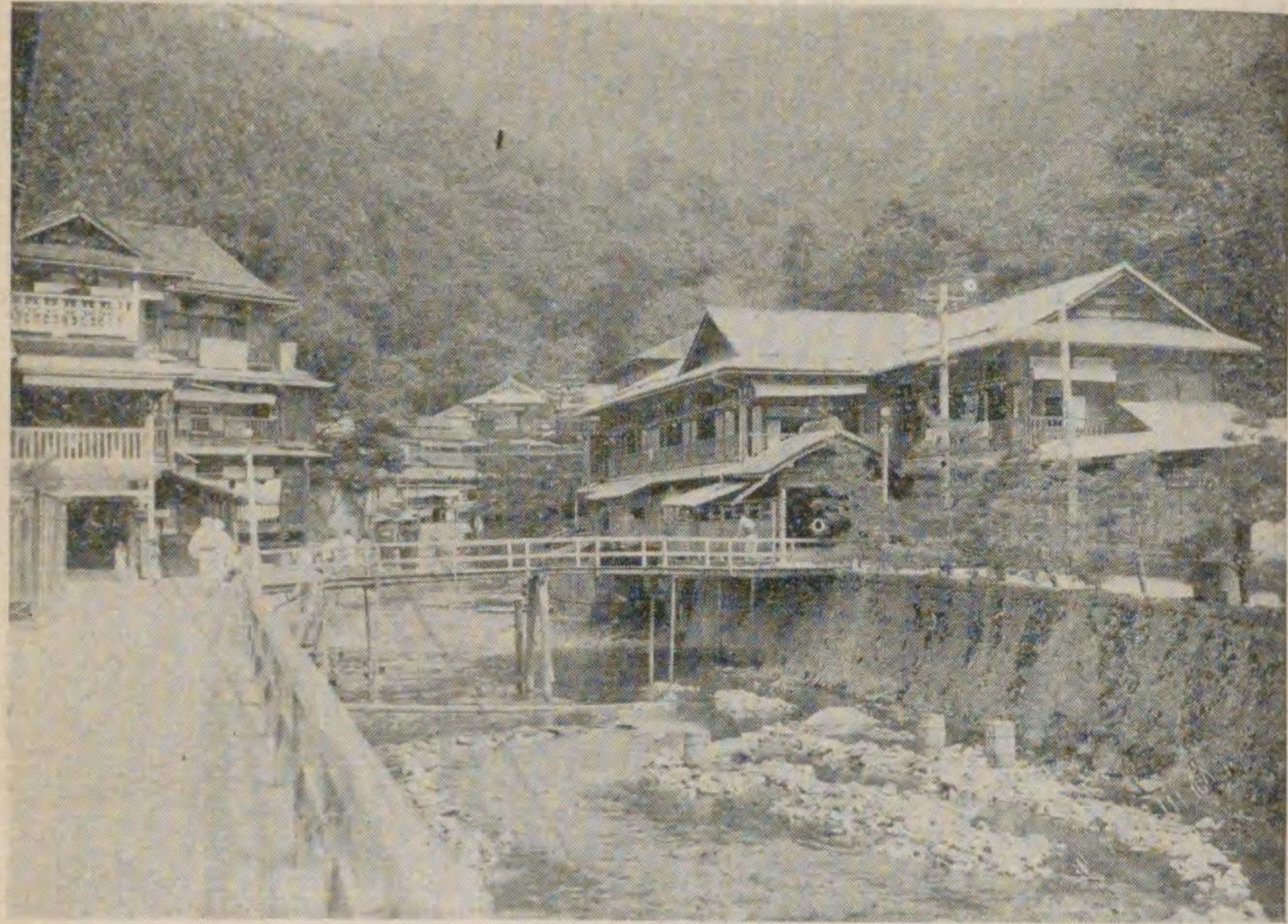
【古四王神社】「國幣小社」寺内村高清水岡、秋田城址の南端附近寺内部落内にある。祭神は武甕槌命たけみかづちのみこと、大彥命おほひこのみことの二座で、社殿は丘上にあり、明治十九年炎上し、後の再興に成るが、もと秋田城鎮護のために建立せられ四天王寺の遺影を傳ふるものとされて居る。丘の下に坂上田村麿を祀れる末社と社務所がある。社務所には秋田城址出土の遺物を藏する。

【手形山スキー場】秋田驛から東へ一軒半で手形山の斜面に達する、餘り廣大ではないが初心の練習に適するスキー場である。主に秋田市内の各學生その他のスキー家で賑ふ。秋田縣のスキー大會などが催される、十二月下旬から二月末まで一米内外の積雪がある。

白虎隊墓



東 山 溫 泉



柳 津 虛 空 藏 尊



郡山 新津間

東北本線の郡山驛と信越本線の新津驛を連ねるものは磐越西線で、線路は安積平野から猪苗代湖畔に出で會津盆地を貫き阿賀川の峽流に沿うて越後平野に出る。磐梯山に登るもの、東山温泉に浴するもの、阿賀川の勝景を賞するものなど皆この線路による。

郡山を出て北進し、間もなく東北本線より左に分れ西北を折れ稻田の間を過ぎ、喜久田七軒二、安子ヶ島三軒九を経て岩代熱海二哩三に着く。

岩代熱海驛 (一圖さ五) 福島縣安達郡高川村高玉

郡山から 一四軒八一九哩二

▽乗合自動車 郡山行 本宮行

【熱海温泉】(三圖から) 驛前、弱鹽類泉で加熱して居る。胃腸病、神経諸病、婦人病、皮膚病などに効くと云ふ。附近の稻荷公園に上ると安積平野の展望がよい。旅館一カホテル、信夫屋、紙屋、松本屋、外數軒。

【高玉温泉】(三圖から) 驛の北約一軒、自動車の便あり、

郡山新津間

鹽類泉で胃腸病、婦人病、リウマチスなどに効くと云ふ、五百川の清流に臨める山光水色の勝地、秋季は紅葉が美しい。旅館 蓬萊館、春山館。

【高玉鑛山】 驛の東北四軒、高川村にある久原鑛業會社經營の金銀山。鑛床は第三紀層の頁岩及凝灰岩中に胚胎せる石英脈で、鑛石は日立製鍊場へ送る。

岩代熱海を出て左に安積疏水による發電所の鐵管を見、五百川の峽流に沿うて進み、左に高塚山を望み、中山宿二哩八でスウキツチバックをなし中山峠を右に見て、左に轉じ、疏水の落差を利用せる東邦電力の第一發電所を望み、トンネルにより分水界を越え、日本海斜面に入り雪覆を過ぎ、發電用水取入口を見、疏水を右にして猪苗代湖畔の上戸四哩六に着く。

上戸驛 (一圖さ五) 福島縣耶麻郡月輪村山湯

郡山から 二六軒七一六哩六

▽汽船 長濱行

【猪苗代湖】(二三圖) 東西一六軒、南北一八軒、面積

郡山新津間

方二三籽、琵琶湖、八郎湯、霞ヶ浦に次ぎ本州第四位の大湖で、その水面は海面上五四米、最大深度は二三米湖岸線五六籽、四周概ね山を廻らし、北方の磐梯山はその姿を湖水に浸し、南方からの眺望がよい。湖の水は大に發電に利用せられ、東京市内で需要される電力にもこのあたりから供給されるものがある。

上戸を出て西北に向ひ疏水を渡り猪苗代湖を眺め、小坂山のトンネルを過ぎ、右に鞍手、成澤二山間の鞍部に中山峠を望み關戸二哩三を経て川柵二哩五に着く。【小平湯天神】(二三三圖) 關戸驛の西一籽半、猪苗代湖畔にあり、境内附近一帯は白砂青松長く連り湖水を越えて遙に磐梯山を望み、湖岸屈指の佳境である。川柵驛(一圖さち、二十三圖) 福島縣耶麻郡長瀬村川柵

郡山から 三三籽八二〇哩四

會津若松から 二九籽四一八哩三

▽耶麻軌道 川柵會津樋ノ口沼尻間 一五籽六一九哩七

【川上温泉】(二三三圖さち) 耶麻軌道、會津樋ノ口驛の西

されて以來、わが國に於ける有数のスキー場として、その季節には多数のスキー家が訪れる。ジャンプ臺や、貸スキーの設備もあり、こゝを中心として熟達者の一日行程のスキー登山には、船明神岳(一、六四一米)安達太良山(一、七〇〇米)東吾妻山(一、九七四米)などがある、その他東大嶺(一、九二七)西吾妻山(二、〇二四米)など一〇籽近い大斜面がある、三月下旬まで三米以上の雪が積つて居るので、沼尻を根拠にして一兩日のスキー旅行を試みると頗る興味が深い。

【横向温泉、野地温泉】(三三圖から) 耶麻軌道沼尻驛から横向温泉は東北六籽、野地温泉は同一〇籽、横向は含鐵炭酸泉で胃腸病、婦人病、神經諸病に、野地温泉は硫黄泉で胃腸病、皮膚病などに効くと云ふ。旅館(横向)瀧川屋(野地)加藤屋。

【野地温泉の噴氣孔】 野地温泉の湧口には噴氣孔の群集があり、その中には二つの泥火山がある、その一は活動を中止しては居るが、他は二個の小噴口を備へ、交互に短週期で間歇的に泥珠を噴出する。また別に水

郡山新津間

北五籽に位する鹽類泉で、リウマチス、胃腸病、神經諸病などに効くと云ふ。地は磐梯登山の北口で、旅館には案内人の用意がある。旅館 瀧ノ湯、湯ノ本。【中ノ澤温泉】(三三圖から) 耶麻軌道沼尻驛の東約一籽、酸性硫黄泉で胃腸病、皮膚病、創傷、火傷などに効くと云ふ。旅館 白城屋、花見屋、西村屋、外四軒。

【沼尻温泉】(三三圖から、二十三圖あち) 耶麻軌道沼尻驛の東二籽、安達太良山の北側に位する高原にあり、温泉場と云ふよりも寧ろ沼尻スキー場として近年世に知られて来た。温泉は酸性硫黄泉。皮膚病、胃腸病、婦人病、創傷、火傷などに効くと云ふ。附近に湯沼、白絲瀧の名所がある。旅館 田村屋、新花見屋。

【沼尻、中ノ澤温泉附近スキー場】 沼尻、中の澤の兩温泉は東に安達太良山、北に吾妻の山群を廻らし、西南には磐梯の雄姿を望み、冬から春にかけて積雪が多く、附近一帯はスキー場として初心者にも熟達者にも適する多種多様な斜面があり、殊に雪質が非常に良い、こゝは大正九年早稻田大學のスキー部員によつて開拓

蒸氣と熱湯を噴出するものが多く、泥泉を二〇糧の高さに噴出する小規模の間歇噴泉もある。

【沼尻硫黄山】 耶麻軌道沼尻驛の東北六籽、安達太良山にある、日本硫黄會社の經營。鑛床は噴氣交代、坑道により探掘、索道により西南三籽を隔つる製鍊所に送る。こゝで製鍊して後または鑛石のまま沼尻驛を経て東京、新潟などへ仕向ける。鑛夫約二百五十、年産價額約四十四萬圓。硫黄探掘場に近く硫黄泉の豊富な湧出口がある、沼尻、中ノ澤の兩温泉はこゝから引湯して居る。

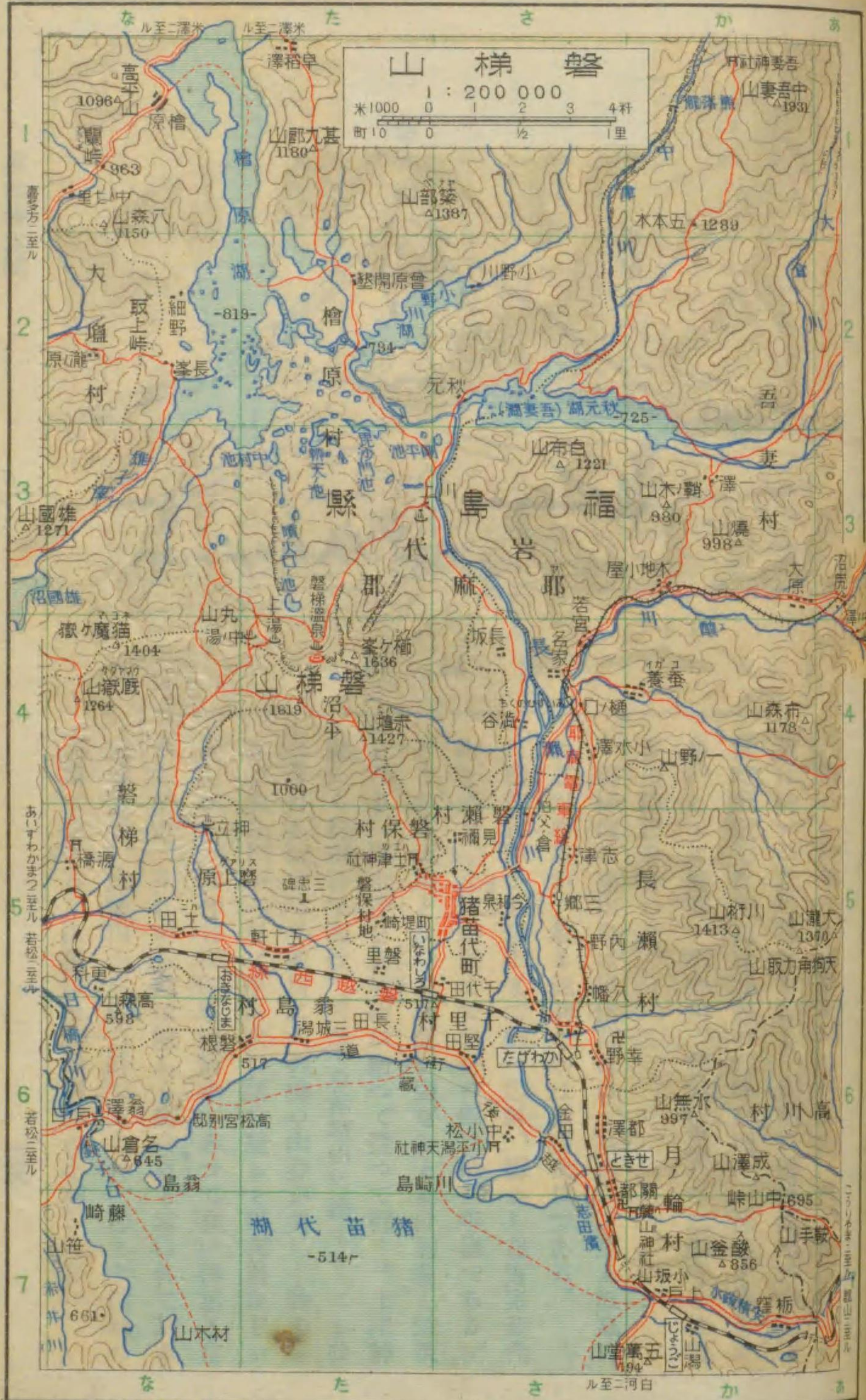
川柵から西に進み、長瀬川を渡り、湖岸平野の稻田を越えて左に湖面を眺め、右に磐梯山の秀峰を仰ぎ、猪苗代二哩を過ぎ、翁島四籽三に着く。

猪苗代驛(一圖さち) 福島縣耶麻郡千里村

郡山から 三六籽一二二哩四

會津若松から 二六籽二一六哩三

【猪苗代城址】(二三三圖) 驛の北方約二籽、猪苗代町にあ



郡山新津間

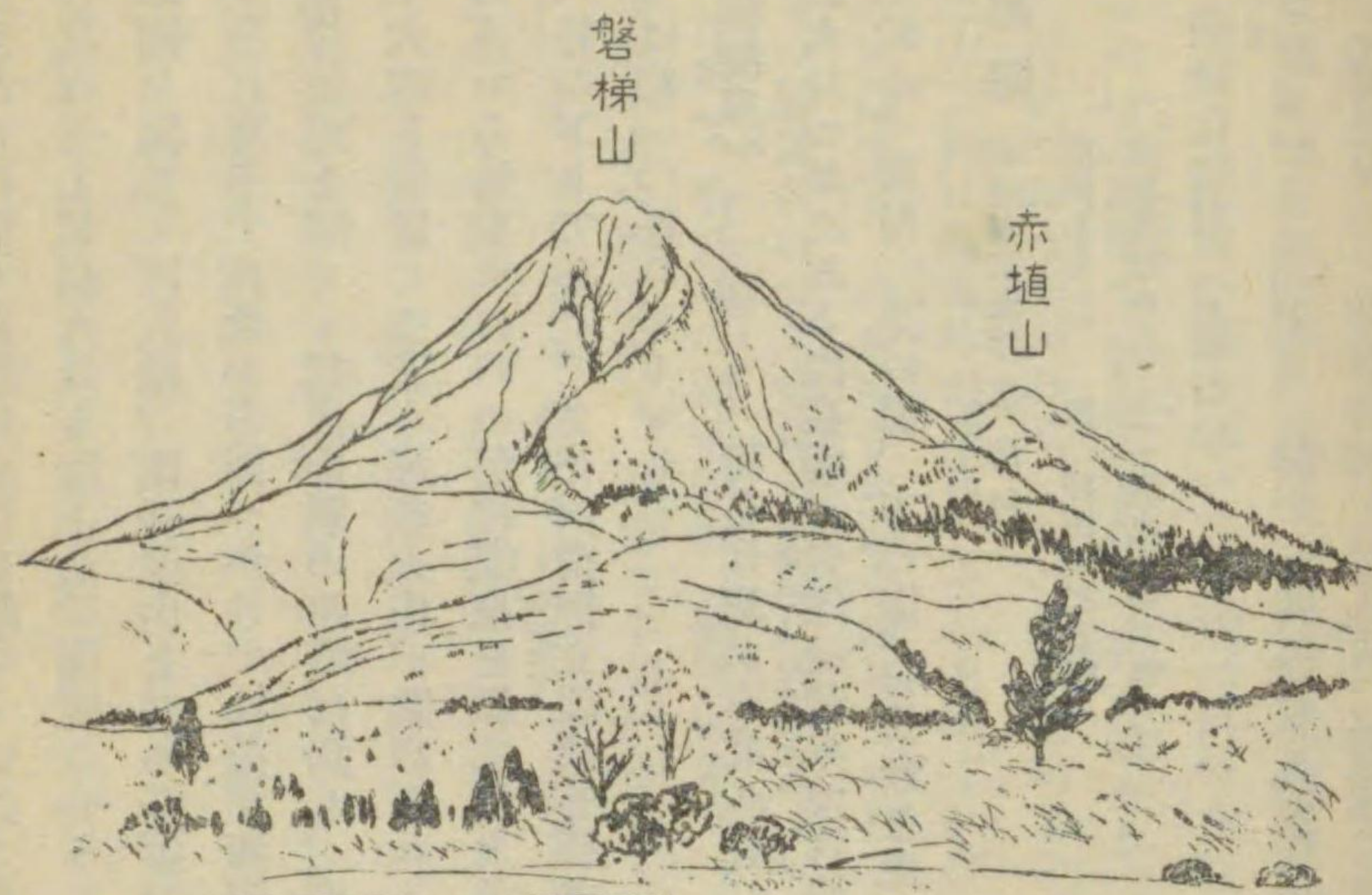
り、自動車の便がある、市街の中央から西に折れると間もなく城址の入口に達する。左右に残つて居る石垣を見て丘陵を登ると、頂上に長方形の土壘に圍まれたる本丸址がある、西北に磐梯山の秀峯を仰ぎ、その裾野には伊達氏と蘆名氏の戦つた摺上原古戦場の東端が見え、南方は近く猪苗代湖を望み山水の風光に富んだ形勝の地で、今遊園地となり猪苗代公園或は龜ヶ城公園と云つて居る。この城は龜ヶ城とも呼び、鎌倉時代に佐原経連が築城した所と傳へ、天正以後は會津若松の支城として蒲生氏以後歴代の藩主何れも城代を置いて會津の東門を扼して居たが、明治戊辰の役に城郭全部を焼失した。

【土津神社】(縣社)(二三圖た五) 猪苗代町西見禰山、猪苗代城址の北約一軒半、磐梯山の登山口にあたる。山腹を削つて三段の平地を造り、櫻松を植ゑ、前方に猪苗代湖を見はらした形勝の地で、社殿は一番奥にあり、會津若松藩主松平氏の祖、保科正之を祀つて居る。社殿の東側から六〇〇米ばかり登つた所に正之の墓碑がある。

また社殿の前方一段下の平地には山崎闇齋撰文の「土津靈神碑」と題する大なる碑が龜の形をした臺石の上に立つて居る。正之は徳川家光の第二子で保科正光の養子となり正保元年會津に封ぜられた。中年以後山崎闇齋に師事した吉川惟足の神道説を信じ、生前に諡を撰んで土津靈神と稱した。

土津神社の境内から山麓を小川に沿うて東北へ一軒程廻つて行くと延喜式内の古社磐梯神社があり、大山祇神を祀つて居る。

【磐梯山】(二三圖) 猪苗代湖の北方に聳ゆる火山で、その輪廓富士山に類するにより一に會津富士と稱せられる。その南側及東側には長く裾野を曳き、山上には沼ノ平の舊火口と爆裂火口がある。沼ノ平は北に櫛ヶ峰、東南に赤埴山、西南に大磐梯山を圍らし、大磐梯山は海拔一、八九米に及ぶ、その沼ノ平に臨む絶壁には熔岩及岩屑の互層を示して居る。爆裂火口は沼ノ平の西北に位し、もと小磐梯山のあつた處である。有名なる明治二十一年の破裂により山體を破壊飛散して北



山 梯 磐

に開いた蹄鐵狀の爆裂火口を形成し、東、南、西の三面は約五百米の懸崖をなし、底部に磐梯温泉がある。當時飛散した灰泥は北麓の溪谷を埋め、流水を堰き止め、こゝに檜原、小野川、秋元(吾妻)の三湖その他數多の池沼を作つた。

磐梯山の登山口には猪苗代口、翁島口、川上温泉口などがあるが、最も便利なのは猪苗代口である。猪苗代驛から頂上まで約一〇軒、驛から北方猪苗代町を過ぎ、土津神社まで三軒の間は殆ど平坦である、そこから坂路となつて馬返を過ぎると道は屈曲し急坂となり、灌木帯を赤埴山に向つて登つて行く。土津神社から約四軒で海拔一、四七〇米の赤埴山に達する、こゝは二合目と云はれて前面に大磐梯の山容が美しく眺めらる。三合目から沼ノ平の火口壁を登ると天狗岩などが見られる、四合目には弘法清水があつて良い休場となつて居る。それから道は險しく胸突坂と云はれて居る處がある、赤埴山から約三軒で五合目、即ち大磐梯の山頂に達する、山頂には磐梯明神の小祠がある。



山頂からは東方長瀬川の谷を隔て、安達太良山を望み、北は近く爆裂火口を瞰下し、明鏡のやうに輝く檜原三湖を隔てて西大嶺、西吾妻山を初め吾妻の火山群は一眸に集る。西北から西へかけては遠く飯豊山を望み會津盆地を隔て、越後山脈の諸峰に對し、南は猪苗代の大湖を俯瞰して遠く那須火山が眺められる。

山頂から爆裂火口内の磐梯温泉を経て川上温泉まで約八軒の下りである。また西南押立温泉を経て翁島驛までは約一〇軒の下りである。

【磐梯温泉】(二三圖た3) 猪苗代驛から北八軒、磐梯山爆裂火口の址にある温泉場、含鐵硫黄泉で胃腸病に効くと云ふ。旅館 上の湯、下の湯。自炊制を主とする。

翁島驛 福嶋縣耶麻郡翁島村

郡山から 四〇軒四一二五哩一
會津若松から、二二軒九一一三哩六

△乗合自動車 長濱行

【押立温泉】(二三圖た5) 驛から北二軒、磐梯山の裾野にある炭酸泉で、神經諸病、婦人病、創傷に効くと云

堰で、起工後二十八年を経て元祿六年に出来上つたもの、水路の延長三〇軒に及び、會津盆地西部の灌漑に充て兼ねて若松城の壕に導いて防禦に供せられた。東にあるのは布藤堰で、猫魔山麓の平野に導かれて居る。吐口には十六橋水門があり、この邊風景がよい。こゝから西方六軒に瀧澤峠がある、それを過ぐれば二軒で飯盛山に達する。白虎隊の史蹟を探るものは、戸ノ口からこの通路を取つて會津若松驛に出るがよい。

【赤井谷地】 翁島驛の西南四軒、湊村にあり、東西一軒、南北二軒の沼澤地で、沼野の中部にはよしの外にこおにゆり、みずぎく、みずぎぼらうし、さわぎきよう、さぎそら、みずとんぼ、くされだま、ひめしろね、のあざみ、りんどう、ありのとうぐさ、むかごにんじんの類雑生し、またやまどりぜんまい、しよりまなどの羊齒群落あり、赤井谷地の北部みずごけの群落中には、もうせんごけが発生し、またほろむいいちごが生じて居る。尙春季にはざぜんそうが開花する。これらの沼澤植物群落は指定の天然記念物である。

ふ。磐梯登山者の發足點の一である。旅館 鷺ノ湯、山形屋。

附近を磨上原と稱し、天正十七年伊達政宗がその將片倉小十郎景綱、伊達藤五郎成實と共に蘆名義廣を敗つた古戰場で、こゝで忠死した蘆名氏の三勇士金上盛備、佐瀬種常、同常雄を弔ふため嘉永三年に建てた三忠碑がある。このあたりはスキー場として變化のある斜面が多い。

【西ノ澤温泉】 驛の東六〇米、鹽類泉、旅館 西ノ澤。

【長濱】 驛の南五軒、湖岸の景勝地、高松宮家の翁島御用邸がある。これより西南約三軒に名倉山、翁島などの遊覽地がある。汽船は上戸との間を往復する。旅館 長濱、港屋

【戸ノ口】 驛から西南六軒半にあり、自動車を通ずる。猪苗代湖の自然の排水口である。湖水はこゝから流れ出て日橋川となり、後に阿賀ノ川と名づけられ、新潟縣に入り日本海に注ぐ。この吐口の左右には各一箇の用水堰の取入口がある。西にあるのは、有名な戸ノ口

翁島から西に向ひ丘陵地に入り右に磨上原を見、長雪覆二個を過ぎ、大寺五哩三を経て驛に接する大寺製鍊所を望み右方に猫魔岳を仰ぎ、その麓の有名な惠日寺を眺め、左に東京電燈會社の猪苗代發電所の鐵管を望む。それより日橋川を渡り、南に折れ會津盆地に入り、廣田五哩四を経て左窓に飯盛山を眺め會津若松二哩九に着く。

大寺驛 (一圖た5) 福嶋縣耶麻郡磐梯村

郡山から 四八軒九一三〇哩四

【惠日寺】 「眞言宗」 驛の北約一軒半、大寺村にある。弘仁年間の創建と傳へ、江戸時代には寺領多く盛大な寺であつた。寶物中に永祿七年の鑄出銘ある鐵鉢を藏して居る。また寺の後方にある磐梯神社には鎌倉時代の紺紙金泥古寫經大雲輪請雨經及法華經の殘簡を藏して居る。

【大寺製鍊所】 共立鑛業會社經營の亞鉛製鍊所で、亞鉛鑛は宮城縣の高田鑛山その他より輸送し來り、電力

は南方二五軒を距つる大川發電所に仰ぐ。型亞鉛年産額六百六十疋、價額約三十萬圓。

廣田驛 (一圖た5) 福島縣河沼郡日橋村

郡山から 五七軒六一三五哩八

【延命寺】 驛の南二軒、藤倉部落の西端鐵道線路に接する。藤倉二階堂と稱せられ、延久の頃の草創と傳へ、今は地藏堂一字を存するのみである。堂は重層四注造本瓦葺、方三間の小堂なれども、周圍に裳層を附し、柱間を悉く開け放ち庇の間を造りたるため、外觀頗る變化に富む。内部は中央二本の來迎柱を立て前面に佛壇を安置する。唐様の手法を用ゐ、純然たる室町時代禪宗佛殿の様式を示し、今特別保護建造物に指定せられて居る。

【八葉寺】〔新義真言宗豊山派〕 驛の北二軒、堂島村冬木澤部落の北端にある。俗に會津高野と呼ぶ。空也上人の開基と稱し、境内阿彌陀堂の西北に上人の墓と傳ふるものがある。現存の阿彌陀堂はその様式室町末期の特徴を現はし、特別保護建造物に指定されて居る。

堂は三間三面、單層、千鳥破風妻入の優麗なる茅葺屋根を軒深く大膽に突出し桁組は三斗を用ゐ、各部の比例よく整ひ巧に屋蓋との調和を保ち、外觀の美會津地方古建築物中隨一のものである。内部中央二本の來迎柱を建て前面に須彌壇を設け厨子を安置し、その上部のみは天井鏡板他は化粧屋根裏を表はす、手法すべて唐様である。毎年舊七月朔日から十一日まで死者のためにその遺齒を五輪小塔に入れてこの堂に納める風習がある。數千の古き五輪小塔は堂の後方にある奥院に保存せられ、中には慶長の年號を書せるものもある。

會津若松驛 (一圖さ5) 福島縣若松市

郡山から 六二軒三一三八哩七 二時間

福島から 一〇八軒三一六七哩三 四時間

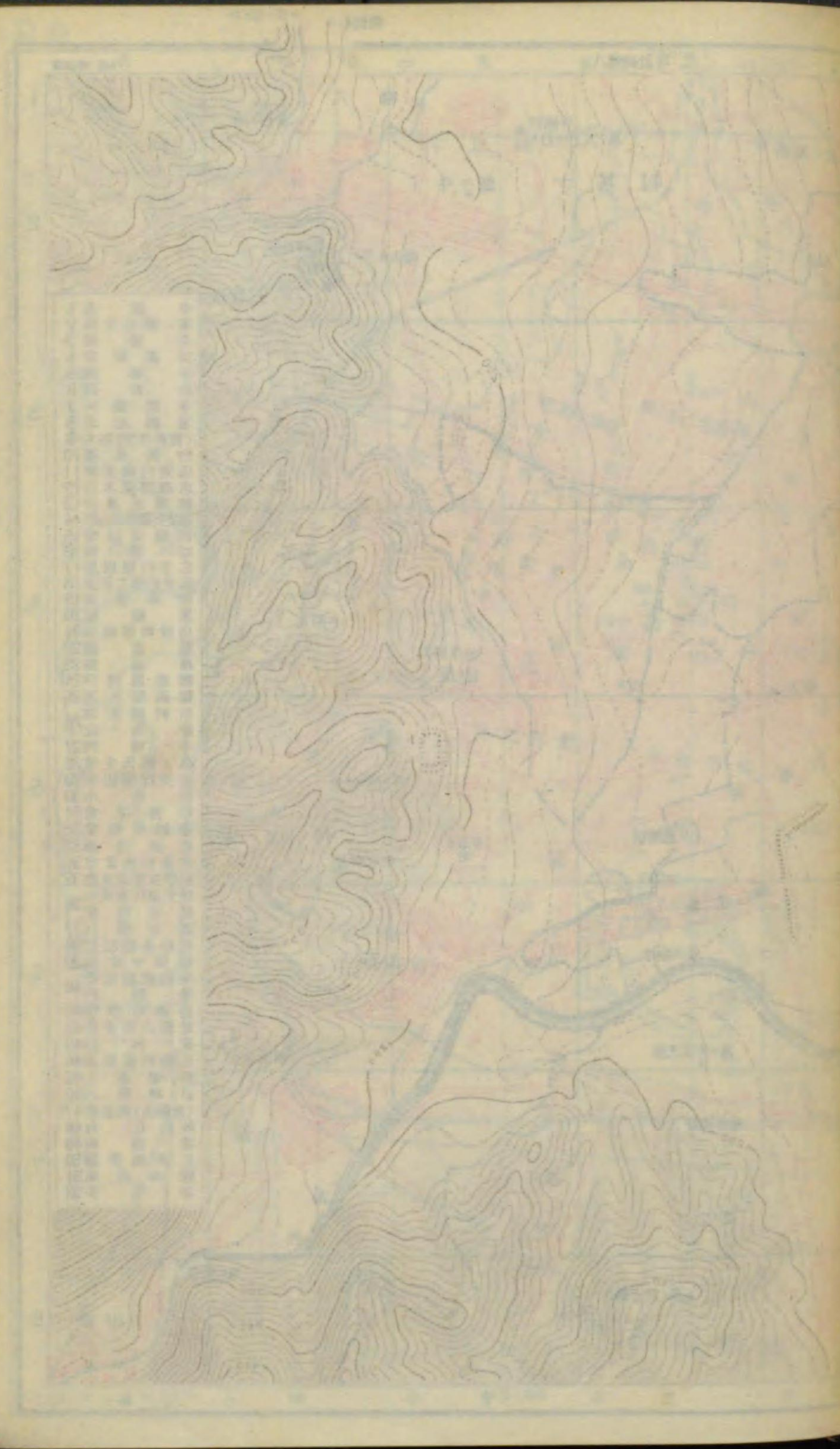
東京上野から 二八六軒六一一七八哩一 九時間

新潟から 一八八軒九一八〇哩一 三時間半

▽會津線 會津若松 會津柳津間 三三軒一一二〇哩六

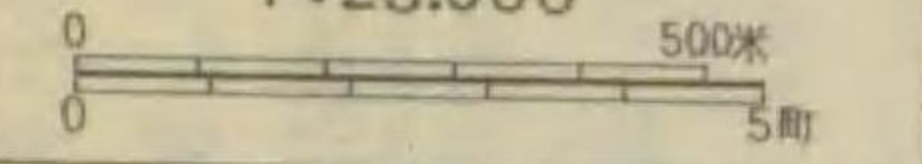
西若松 上三寄間 一〇軒五一六哩五

▽乗合自動車 市内 東山行

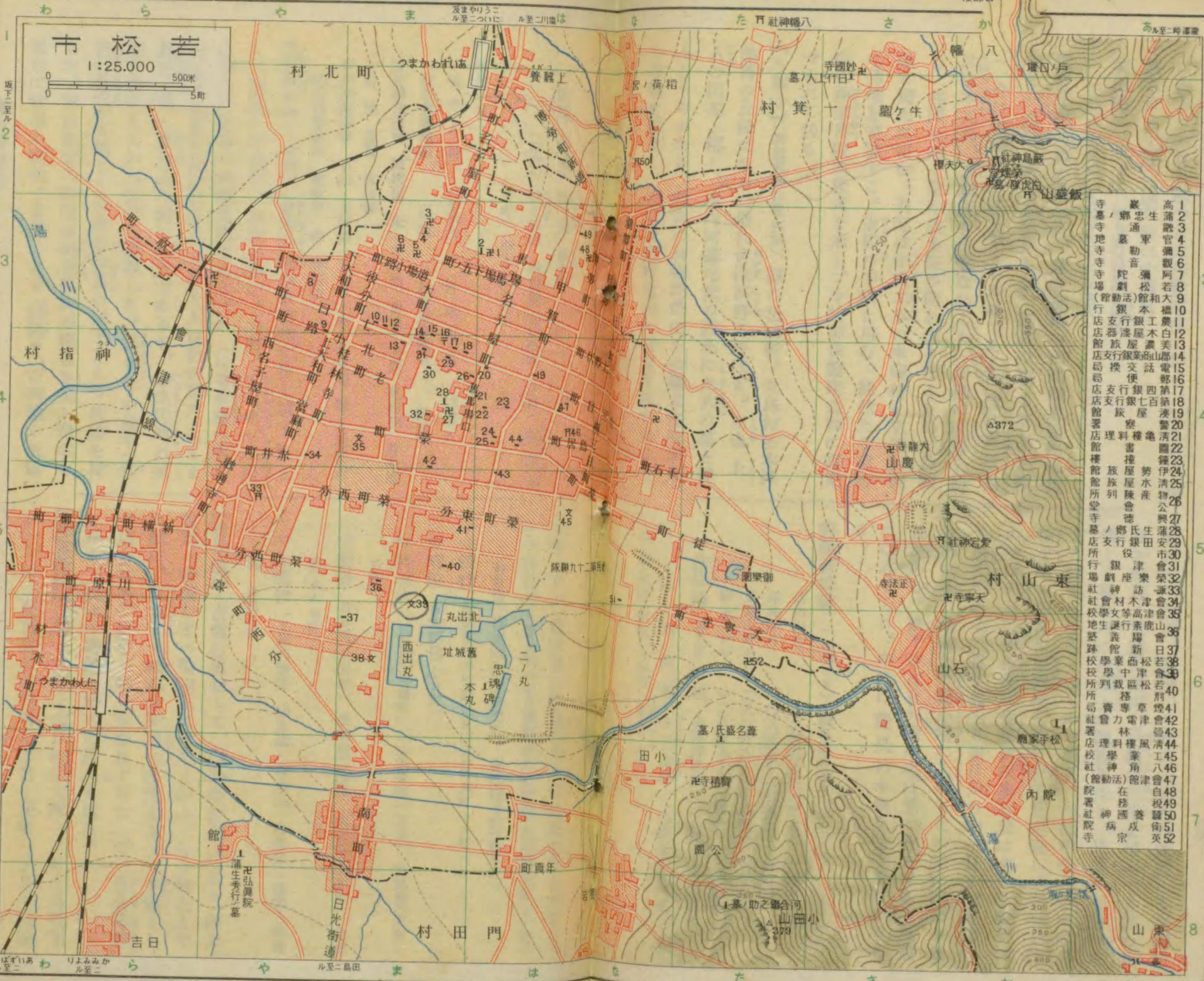


若松市

1:25,000

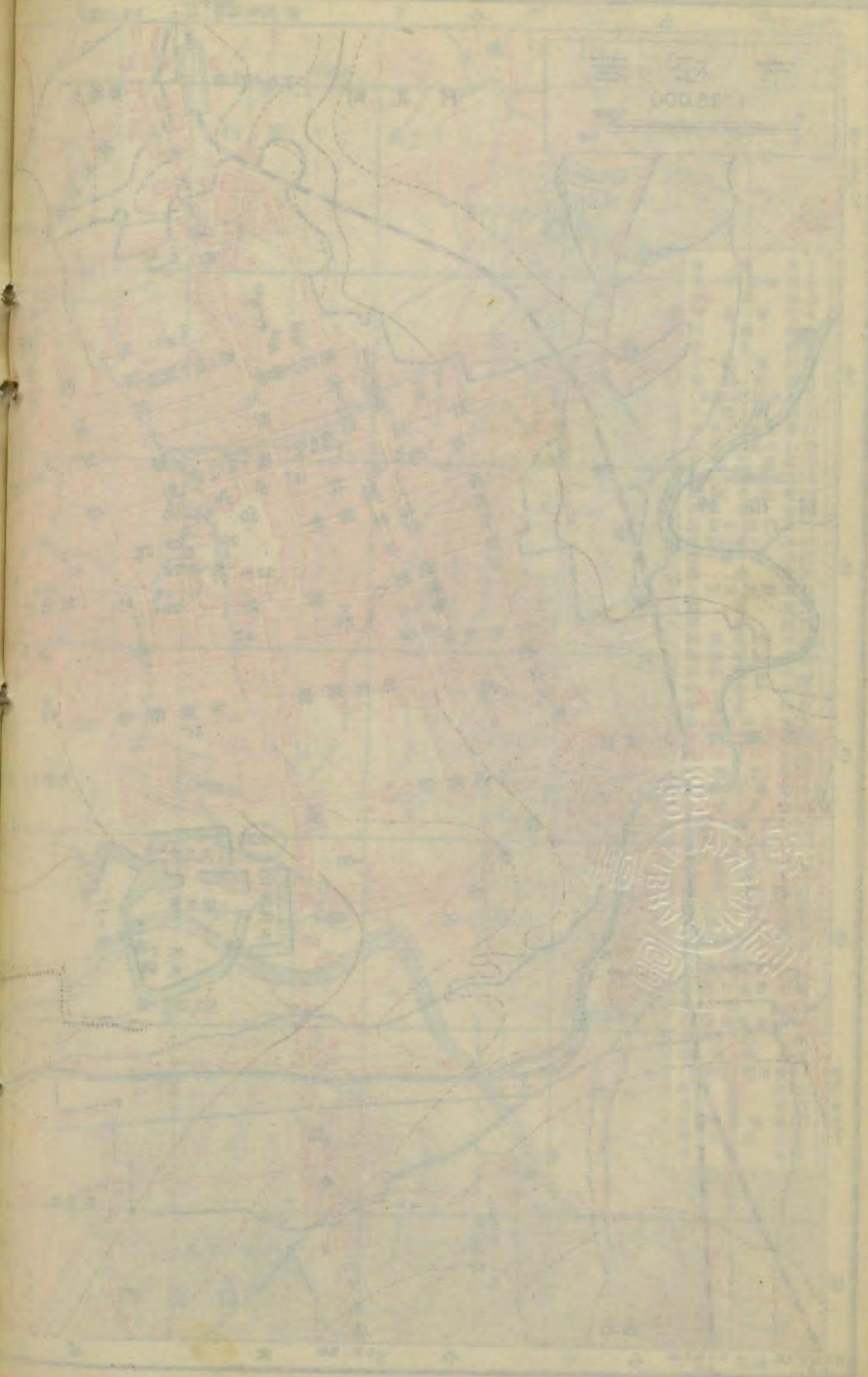


市ノ内外ノ主ナル遊覽地ハ舊城址・白虎隊ノ墓・東山温泉
坂下ニ至ル
高田ニ至ル



- 1 高浦
- 2 生田
- 3 官軍
- 4 彌觀
- 5 阿若
- 6 大橋
- 7 農白
- 8 工木
- 9 美山
- 10 本工
- 11 銀屋
- 12 山部
- 13 電話
- 14 郵便
- 15 第17
- 16 第18
- 17 第19
- 18 第20
- 19 第21
- 20 第22
- 21 第23
- 22 第24
- 23 第25
- 24 第26
- 25 第27
- 26 第28
- 27 第29
- 28 第30
- 29 第31
- 30 第32
- 31 第33
- 32 第34
- 33 第35
- 34 第36
- 35 第37
- 36 第38
- 37 第39
- 38 第40
- 39 第41
- 40 第42
- 41 第43
- 42 第44
- 43 第45
- 44 第46
- 45 第47
- 46 第48
- 47 第49
- 48 第50
- 49 第51
- 50 第52

げんぼすいあ わ りよみみか ル至ニ ら かに 島田 ル至ニ 田 門 村 山 東 山 石 村 山 東 寺 天 正 法 寺 御 樂 園 小 田 寺 掃 眞 公 園 山 田 小 河 合 之 助 墓 1 373



▽旅館 [驛前] 湊屋 信夫軒

[市内] 清水旅館 伊勢屋(共に榮町一丁目) 湊屋(七日町) 伊勢半(大町)

平均一日

乗車人員 一、七七人

降車人員 一、七六人

發送貨物噸數 一〇三噸

到着貨物噸數 一四三噸

主要發送貨物 鑛物類 米 木材類 清酒 木炭 果物類 味噌醬

油 鹽 漆器 馬鈴薯

主要到着貨物 石炭 木材類 セメント類 大豆類 鹽 人造肥料

【若松市】(二四圖) 會津盆地の東南部に位し城下町として發達した處で、史蹟が多い。大町、七日町、榮町

は市内の繁華な商業地區である。こゝは會津塗の本場で、その製造が盛に行はれて居る。人口約四萬六千、もと黒川と稱し蘆名氏の據つた處であるが、蒲生氏郷が城郭を新にしてから若松と改稱した。寛永年中松平(保科)正之が入國して以來會津藩の城下として殷盛を極めた。明治維新の際藩主容保幕府の恢復を策し賊名を受けて官軍の攻伐する所となり、城陥り、市街悉く灰燼

郡山新津間

となつたが、後次第に恢復して今日に至つたのである。

▽官公衙 歩兵哩六十五聯隊(榮町字堀内) 市役所(大町一ノ町)

公會堂、物産陳列館(新榮町) 會津圖書館(新榮町)

▽銀行 會津銀行安田銀行支店(共に大町一ノ町)

▽病院 會津病院(七日町)

▽料理店 清龜樓(馬場町) 二葉(榮町一丁目) 清風樓(榮町一丁目)

▽劇場 若松座(七日町) 榮樂座(榮町) 大和館(大和町) 會津館(本六日町)

▽土産物 五郎兵衛飴 柿羊羹 會津豆 白虎飴 漆器 繪蠟燭 白虎人形

【會津塗】 古來有名にして、明治維新前に於て既に支那、和蘭などへ輸出して居たと云ふ。その特色とする點は、豆柿より搾取せる澁に漆液を加へて下地として居るため、堅牢で耐久性を有すること、消金蒔繪を用ひて種々の蒔繪を精巧に現して居る。

【遊覽順路】 驛—大町—七日町—大町一ノ町—馬場下一ノ町—舊馬場口—榮町二丁目—榮町一丁目—舊城

—東山温泉—白虎隊墓—驛

【蠶養國神社】〔縣社〕驛の東南約一軒半、市内蠶養町にある。社は平地の杉森に包まれ、保食神、稚産靈神、天照大神を祀る、延喜式内の神社で、古來農業養蠶の守護神として名高い。

【御薬園】驛の東南二軒半、市内徒之町松平家控邸内にあり。東山の眺を取り入れ、風致に富んだ小庭園と畑が残つて居る。その畑は支那の古事を學んで藩主自ら鋤を執つて民の勞苦を察したものであると云ふ。

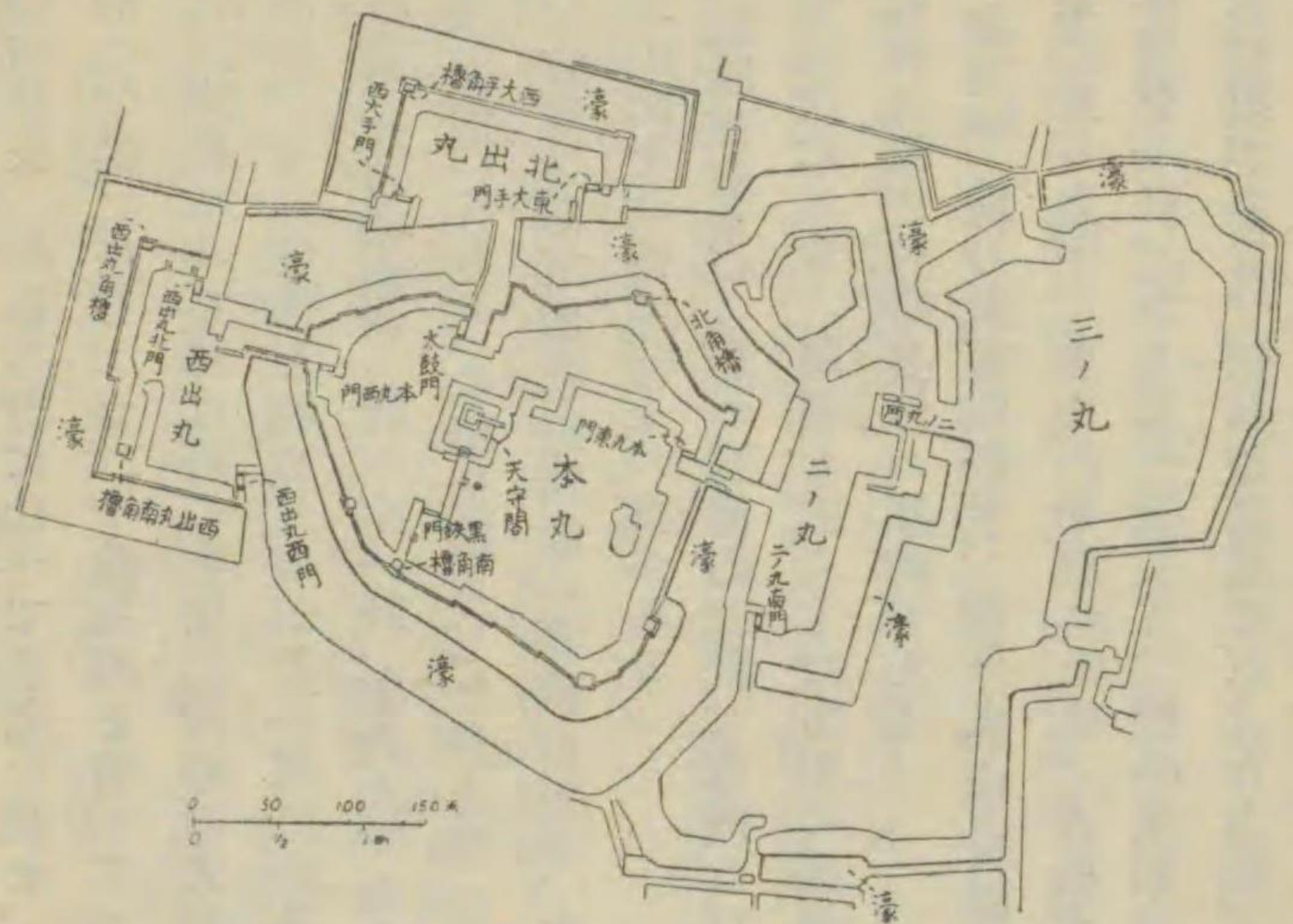
【宗英寺】〔眞宗〕驛の東南約三軒、市内天寧寺町にありしが、後衰微して今僅に一草庵となる。堂内には小厨子に納めた蘆名盛氏の像「國寶」がある。木造、着色の坐像で高さ約三〇糎、厨子の背面と扉裏に天正八年庚六月十七日云々の銘がある。

【蘆名盛氏墓】市外門田村小田宗英寺の南三〇〇米の處にあり、塋域東西五〇米、南北三〇米、周圍に土壘を繞らし、中央に盛氏の墓がある。圓墳にて塚の上に五

輪塔を建つ。天正八年六月云々の銘がある。盛氏は永祿の頃黒川城に據つて仙道の諸將を従へ、武威を四隣に輝した。塚の東隣に盛氏の子盛興の墓があり、更に西方には盛興幼死の後二階堂氏より入つて城主となつた盛隆の墓がある。何れも盛氏のものと同様な塚である。

【若松城址】驛の南方約二軒、鶴ヶ城とも稱し内郭の大部分即ち本丸、帶郭、北出丸、西出丸などの濠壘、石垣、城門址など整然として遺存し、殊に太鼓門の石垣、天守の宏壯なる石壁を始め、本丸内には大書院、小書院、茶室などの残礎、庭石を存して、尙よく宏壯雄大、全國屈指の名城たりし當年の規模を追想せしめる。もと黒川城と稱し、至徳元年蘆名直盛の築城以來その子孫が在城したが、天正十七年伊達政宗のために攻略せられ、翌年豊臣秀吉はこれを收めて蒲生氏郷に與へ、氏郷が更に規模を改めて若松城と稱した。慶長三年上杉景勝これに代り、石田三成と策應して徳川家康を除かんと圖つたが關ヶ原敗戦のため志を遂げず、同五年

米澤に移され蒲生秀行が復封した。寛永年中には加藤嘉明がこゝに據り、後松平(保科)正之が山形より入部



若松城址

して子孫相繼いで明治に至り、戊辰の役に官軍の攻撃

を受けて開城した。今残存せる内郭は市の公園として市民遊樂の地となつて居る。

【日新館址】驛の南二軒半、舊城址の西出丸に沿うた榮町四丁目の通から西へ通ずる新道を行くこと二〇〇米にある。藩學の址で商業學校を中心としてその南北に亘つた區域である。今は僅に天文臺址と苑池が遺つて居る。もと松平正之が桂林寺町に士民共學の稽古所を設けたのに起り歴代多く意を藩學に用ゐ、容頌更に改革を試みこゝに饗舎を完成したが戊辰の際兵火にかゝつて焼燼した。

【山鹿素行誕生地碑】驛の南約二軒、市内榮町一之丁通の南側にある。日新館址の東北約三〇〇米にあたる。石玉垣中に自然石の記念碑あり、大正十五年に建てたもので、題して「山鹿素行先生誕生地碑」と云ふ。素行は江戸時代初期の有名な軍學者で、殊に山鹿流兵法の創始者として知られ、貞享二年江戸に歿した。

【蒲生氏郷墓】驛の南一軒半、市内榮町興徳寺境内本堂の後方に位し、方形の積石塚で、上に五輪塔を建つ、

塔の地輪に文祿四年乙未二月七日云々の銘がある。氏郷は織田信長、豊臣秀吉に仕へて勇名を馳せ、天正年中奥羽の守護に任じ、百二十餘萬石を領してこの地に據つた。文祿四年京都に於て卒去し紫野の大徳寺に葬られたが、その分骨を納めたのがこの墓である。

【戊辰役戦死者墓地】 驛の南一軒、市内大町名古屋町、融通寺の境内にあり、木柵を繞らした長方形の墓地で、中央に官軍諸道軍監牧野茂敬の墓碑があり、その周圍に薩長土肥その他の藩士の墓がある。

【戊辰役戦死者墓】 驛の西南約二軒、市内七日町、阿彌陀寺境内にあり、鐵柵を廻らした方形の墓域に會津藩戦死者及家老萱野長修の墓碑がある。

【松平家墓】 驛の東南四軒半、市外東山村院内、東山温泉に至る途中、東山の中腹にある。古松老杉の茂つた參道を一軒ばかり東へ登ると、松平正頼以下松平家歴代の墓がある。何れも墓前に巨大な方柱形の碑が龜形の臺石の上に建てられ、その碑文は多くは林家の學者が撰したものである。明暦三年正之の子正頼が死

【榮螺堂】 驛の東三軒、市外一箕村飯盛山麓、白虎隊の墓に至る途中にあり、圓通三匠堂と稱し、宗形祠の境内に設けた六角形三層樓で高さ一六米、旋回して、昇降道を異にし、恰も榮螺の殻中の如くである。

【蒲生秀行墓】 驛の南方約三軒、門田村館、日光街道南町部落の西半軒の弘眞院境内南隅にある。堂中に五輪塔を建て地輪に慶長十七年壬子文月五日云々の銘文が刻まれて居る。秀行は蒲生氏郷の子、父の死後宇都宮に移されたが、關ヶ原役の功によつて慶長六年再びこの地に封を受け、同十七年に卒した。

【東山温泉】 驛の東南約五軒、自動車の便あり、古來奥羽三樂郷の一と稱せられる。旅館は山峽を流れる湯川の兩岸に並び立ち、溪聲を枕下に聞き、秋は紅葉の眺めが美しく、上流には兩降瀧、傘岩、金壺瀧、屏風岩等の佳景がある。泉質は鹽類泉で、婦人病、リウマチス、神經諸病などに効くと云ふ。旅館 向瀧、新瀧、不動瀧、福住、二八屋。外十數軒。

んだ時始めてこの山を開いて累代の墓地と定めた。【日什上人墓】 驛の東二軒半、市外一箕村妙國寺境内、本堂の後にある。墓は石玉垣に圍まれた小堂の中にある、五輪塔である、日什大聖人明徳三王申年二月二十八日と刻されて居る。日什は正和三年こゝに生れ、始め天台僧となり後法華宗に歸依し京都に妙滿寺を開創し日什派(妙滿寺派—顯本法華宗)の開祖となる。晩年會津に歸りて寂し當所に葬らる。

【白虎隊墓】 驛の東三軒、市外一箕村、飯盛山の中腹會津の平野と市街を見下して眺望のよい所にある。明治元年戊辰の役に死力を盡して官軍に抗した會津藩士が朱雀、青龍、玄武、白虎の四隊を編成して戦つた時十五歳から十七歳までの少年が白虎隊となり、八月二十三日死を決して戦つたが、力及ばず最後まで踏み留つた十九名は瀧澤村から退却して飯盛山に登り城を拜して自刃し悲惨な最期を遂げた處である。昭和三年こゝにイタリヤの首相ムツソリニから寄贈した記念碑が建てられた。

會津線

會津若松 會津柳津間 三三軒一〇哩六
西若松 上三寄間 一〇軒五・六哩五

會津盆地の南部を廻るもので、會津若松を出て西南に向ひ、左に若松の市街を望んで、西若松一哩九に至りそれより西南に進み、稻田桑畑の間を過ぎ大川の鐵橋(延長七〇米)を渡り、會津燒の産出多き會津本郷三軒四、會津高田三哩八を経て北に轉じ、右窓に磐梯山を仰ぎ新鶴三哩四を過ぎ會津坂下三哩八に着く。更に塔寺二哩八、會津坂本二哩二を経て會津柳津二哩二に至る。途中西若松から南に向ふ支線は門田三哩八を経て大川の河谷に入り上三寄三哩五に達する。

【蘆の牧温泉、小谷温泉】 上三寄驛から南三軒、大川の曲流する處にあたり、風光の美を占め流を隔てて相對して居る、更に南一三軒、大川の溪谷に沿うて湯の上温泉があり、その上流四軒に塔の梯の奇勝があり、何れも上三寄から自動車の便がある。

【龍興寺】〔天台宗〕 會津高田驛の南約半軒、大沼郡高田町中町にあり、屢々焼失して今假堂に阿彌陀佛を安置して居る。永祿年間の住職舜幸は天海僧正の師であつた。境内の墓地には舜幸の墓及天海の兩親の墓がある。尙天海僧正誕生の地は町役場の構内に保存されて居る。當寺の寶物中に紙本墨書の妙法蓮華經が附屬の經と共に九卷ある。何れも國寶で每字その下に彩色された蓮座が描かれて居るので一字蓮臺法華經と呼ばれて居る。頗る珍しい藤原時代の古寫經である。

【伊佐須美神社】〔國幣神社〕 會津高田驛の南約一軒半、高田町の南端にある。境内は廣大な平地で大木が茂り、その東側は宮川の清流が流れて居る。今の社殿は明治三十三年の造營であるが、延喜式内の名神大の社で大彦命、建沼河別命を祀つて居る。古來奥州二宮と稱し、殊に會津地方の總鎮守であつた。會津藩主蘆名氏及松平氏は歴代深く當社を崇敬して居た。特殊神事として砂山祭(舊五月五日)、御

【勝常寺藥師堂】 會津坂下驛の東方四軒半、磐越西線廣田驛から西方六軒半、勝常村、勝常部落の北端にある。俗に會津中央藥師堂と稱へ、藥師堂(本堂)及觀音堂あり。藥師堂は室町時代の造營に成り、特別保護建造物である、桁行梁間共に五間單層の大宇で寶形に近い四造注屋根は茅葺、軒の出深く、反強く、桁組は三斗出組を用ゐて居る。内部分一間通りの入側を外陣となし、内陣方二間葺格子を以て仕切り床疊敷にて後一間通りに須彌壇を設け壇上千鳥破風屋根形の厨子を造付け、その中に本尊藥師如來及脇侍日光月光の二菩薩を安置して居る。皆木造漆地金箔塗、本尊は丈六の坐像で二重蓮座の上に結跏趺坐し、舟形光背を負ひ、姿態頗る端麗の趣があり脇侍は立像で豐麗典雅の風がある。共に藤原時代のものである。また須彌壇上、厨子の右に二天及地藏の立像を、左に聖觀音及二天の立像を安置して居る何れも木造で聖觀音及地藏は丈六、四天王の高さは四尺ある。これらの群像中地藏はその製作最も優秀

田植祭(七月十二日)、渡御祭(舊六月十四日十五日)などを傳へて居るが、御田植祭は遠近に名高い。その神事は獅子追と稱する一定の服を着けた童子が社前で獅子、馬、鹿、牛の假面を授かり、同じ服装の童子數百名これに従ひ、何れも洗足で太鼓の音に和して社殿を三回廻つた後町の北端にある攝社御田神社に至り、神田を踏みならして本社に戻つて來る。その後神輿の渡御があり、童子の踏みならした神田に於て當社傳來の催馬樂を唄ひながら御田植の神事を行ひ、五穀の成就を祈るのである。

【田子藥師堂】 新鶴驛の東北約一軒、新鶴村の新屋敷、高田町から坂下町に至る街道の西側にあり、常福院の管理に屬する。この堂は室町時代のもので三間三面屋根は寶形造で頂上に寶珠露盤を置いた茅葺である。外觀頗る高雅で、全部の構造に唐様佛堂の手法を使用し、須彌壇及厨子など優美にして、よく室町時代の特徴を存し、特別保護建造物になつて居る。

にして漆地に金箔を施し、容姿頗る端麗神韻に富み藤原時代を下らざる傑作である。聖觀音及四天王はやゝこれに劣るも尙よく藤原時代の特徴を存して居る。これらの諸像皆悉く國寶である。本堂は外觀莊重で殊に内部の木割整然として莊麗を極め優秀なる諸像と相和しその莊嚴は東北地方佛殿中の稀觀である。尙觀音堂内には木造の十一面觀音立像〔國寶〕があり、古來祕佛として厨子に納められて居る。

【塔寺石器時代遺蹟】 塔寺驛の東北一軒、越後街道の北側、塔寺村役場背後の長谷川富士太郎氏宅地附近が遺蹟である。石器、土器など遺物の多くは長谷川氏が保管して居る。尙街道を距つる南方の葉山丘陵の東腹にも遺蹟がある。

【塔寺立木觀音堂】 塔寺驛の東北一軒餘、塔寺村役場の東北にある。惠隆寺の管理に屬し、鎌倉時代の建築で特別保護建造物になつて居る。堂は五間五面で正面に一間の向拜がある。單層で屋根は四注造茅葺である。軒は雄大なる二重檼で、桁組和様三斗

を用ゐ、柱は莊重なる圓柱を建て、居る。全體の權衡軒や、高きに過ぎたる感はあるが一般の木割雄大にして鎌倉時代の豪放な氣風が現はれて居る。内陣には後壁に接して高さ八米半(二丈八尺)の木造千手觀音の立像「國寶」が安置されて居る。その刀法に古拙な所あるも形相の雄大なるは堂の建築と共によく鎌倉時代の特徴を發揮して居る。

【調合寺】塔寺驛の東北四軒、川西村上宇内にある。藥師堂、鐘樓、仁王門を存し、東方約二軒廣瀨村青木にある淨泉寺の管理に屬して居る。藥師堂安置の本尊は會津五藥師の一と稱し、もと同郡高寺の廢寺から移されたと傳へて居る。高さ四米二(一丈四尺)の坐像「國寶」木造にして漆箔を存し、形相雄健典雅の趣あり、鎌倉時代優秀なる作である。

【柳津虚空藏】會津柳津驛の東南半軒、圓藏寺と稱し、會津地方屈指の大寺である。戰國時代には蒲生、上杉などの諸氏の信仰を得て興隆を致した。參詣人常に多く、二月八日及四月十四日の緣日には雜沓を

會津若松から 一七軒四一〇哩八
▽乗合自動車 熱鹽溫泉行 北山熊倉行 鹽川町行

【喜多方町】會津盆地北部の商工業地で、人口約一萬二千、製絲、酒造及漆器製造が盛んに行はれて居る。旅館 笹屋。

【熱鹽溫泉】驛の北一一軒、自動車の便あり、三面山に圍まれ、秋は紅葉が美しい。鹽類泉で、リウマチス婦人病、胃腸病などに効くと云ふ。名所には那須の殺生石の物語で有名な玄翁和尚の開基と傳へられる示現寺があり、寺内に瓜生岩子の銅像がある。旅館 笹屋、海老屋、枡屋、吉田屋、倉田屋、外數軒。

【日中溫泉】(三圖さち) 熱鹽の東北四軒餘、押切川に臨む、鹽類泉と炭酸冷泉の二種あり、皮膚病、眼病、創傷、婦人病などに効くと云ふ。旅館 湯本屋、中屋。

喜多方から西に進み濁川を渡り左に會津盆地の稻田を見送り、山地に入り、長きトンネルを過ぎ、一ノ戸川を渡り山都六哩一に着く。この驛は飯豊山登山者の

極める。本堂は風光絶美なる只見川の碧潭に臨み、高き巖上に建てたる舞臺造の大堂宇で壯大を極めて居る。その東北三〇米に奥ノ院あり、その辨天堂は今特別保護建造物となつて居る。三間三面四注造茅葺の小堂宇で純然たる唐様の手法に成り、外部柱、組物、小壁などに飛龍寶相華文の彩色を施し内部また極彩色を施し天井には鳳凰を描いて居る。建築の様式全く室町時代禪宗佛殿の特色を發揮して居る。

【沼澤沼】會津柳津驛から西南一八軒に位する。東西二軒半、南北二軒、最大深度九六米、湖面は附近の只見川の水面より高さこと二三米、四周山を廻らす神祕的の湖水である。

會津若松を出て稻田の間を西北に進み日橋川を渡り鹽川七哩を経て右に猫魔山を望み西に折れて喜多方六哩一に着く。

喜多方驛 (一圖さち) 福島縣耶麻郡喜多方町 郡山から 七九軒六一四九哩五

下車驛である。

【飯豊山】(三三圖さち) この山群は福島、新潟、山形の三縣に跨り、飯豊山(三、〇五米)を主峯として西ヶ岳(三、〇三米) 大日岳(三、三六米) 種蒔山(二、五二米) 三國岳(二、三三米)などの連峯を連ねて、東北有数の深山地帯を成して居る、磐越西線で會津若松から新潟縣に向ふ列車の窓から遠く西北にこの廣大な山稜が眺められる。尙羽越線で北行すると、新發田方面からもこの山が仰がれる。

登山路は磐越西線では、山都驛から一ノ戸川に沿うて約二〇軒、相川、一ノ戸を経て川入より登るものと徳澤驛から彌平四郎を経て登るもの、二途がある、羽越線では新發田驛から分岐する赤谷線の赤谷驛で下車加茂川の溪流に沿ひ、湯ノ平溫泉を経て登る。その他山形縣米澤方面よりする東口もあるが、山路が遠いから不便である。

山都驛から飯豊山頂まで三二軒、全部徒歩による。縣道を東北に進むこと六軒、相川の部落に達する。こ

こから一ノ戸川に沿うて五料で一ノ戸に達する、こゝには縣社飯豊神社遙拜所があり、旅館もある。これから一ノ戸川はやゝ深い谷合となる、その溪流に沿うて森林軌道が八料ばかりの間敷設されて居る。その軌道を行くと一ノ戸川は處々に美しい溪流を見せて山奥深く入り込んだ感じがする。軌道の七料の處に一つの橋があつて、その橋の手前から右に凡そ八〇米入ると山間の一部落川入に達する。川入は十餘戸の寒村で、普通の民家が兼業する木賃宿が二軒ある。この地の人々は木地職を本業として居る。

飯豊登山にはこゝを根據とするが便利である、食料品その他の物資の供給は出来ないが、案内者は十人ばかりある。それらの人は皆狩人で山には相當精通して居る、川入から山頂までは約一二料大白布澤に沿うて二料ばかりやゝ平坦な澤を西へ行くと御澤に達する、こゝには周圍約八米の杉の大木が四本あり、御神木として保存されて居る。そこから道は急な登りとなつて北に折れ美しいぶな林の中を進む。途中に下十五里、眺め、南は近く大日岳遠く越後山脈の諸嶺が望まれる。

こゝから北に小玉川温泉を経て小國に出て村上方面へ、湯ノ平温泉を経て新發田方面へ、岳谷を経て米澤方面への山路がある。最近登山者の増加につれて次第に登山路も修理されて居る、殊に冬から春にかけてのスキー登山は専門家の研究に興味あるものである。

山都から馬下まで十一驛六七料の間に阿賀ノ川の峡谷を下る。その間新緑紅葉共に美觀を呈する。先づ山都を出て左に岸の高き河流を見、二個のトンネルを過ぎて萩野三哩八に着く。阿賀ノ川から流下する木材は過半この地から鐵道によつて各地に發送される。

萩野から相ノ瀬の激流、河底及河岸の岩層、釜淵の深潭を見、架橋工事の困難なりしを以て知らるゝ釜ノ脇鐵橋(延長二〇三米)を渡つてまた二個のトンネルを過ぎ野澤五哩六を経て上野尻三哩一に着く。

野澤驛 (一圖たし) 福島縣河沼郡野澤町
會津若松から 四二料三二二六哩三

中十五里、上十五里の小屋場があり、尙登ると横峯の小屋場を過ぎ、地藏山(二、四三米)に達する、この間を長坂と云つて居る。こゝまで登ると磐梯山から會津盆地、猪苗代湖などが望まれ、飯豊山は指呼の間に迫る、地藏山から西に向ひ少しくタルミへ降ると兩側の谷は深く、狭い尾根を西へ進む、こゝを劍ヶ峯と稱し處々に岩石が屹立し、道は少しく難場となつて三國岳(二、三三米)に達する、こゝを箸ノ王子と稱して小祠と小屋場がある。德澤口の彌平四郎からの登路とこゝで合する。こゝから山稜を西北に向つて進むと種蒔山(二、五二米)を経て道は少しく上下しつゝ飯豊山頂(三、〇五米)に達する。山頂には縣社飯豊神社の本社と避難小屋がある。草本帯の岩場には珍奇な高山植物が多く、偃松の緑も美しい。

山頂から展望すれば東南には磐梯山、猪苗代湖、東には吾妻火山群のやゝ緩やかな廣大な山列及米澤盆地があり、北には朝日岳の雄姿が間近に迫つて遠く續く深い谷を包んで居る、西は越後平野から日本海の紺碧を

新津から

六九料五二四二哩一

【野澤町】 阿賀ノ川の南岸、赤羽根山の北麓にあつて越後街道の名邑である。新潟縣方面から柳津虚空藏に參詣するものはこゝで下車し、この町から南一〇料歩徒による。

【大山祇神社】 驛の西南八料、河沼郡野澤村正中にあり、途中驛の南二料餘に結構莊麗なる拜殿がある。十月十四日から二十四日までの祭禮が賑ふ。

上野尻驛

(一圖たし) 福島縣河沼郡上野尻村

會津若松から 四七料三二二九哩四
新津から 六四料五二四〇哩一

【西光寺】 驛の西南一料、上野尻部落の南端にある。蒲生氏郷の畫像を藏して居る。紙本著色の掛幅で、黒袍を着し冠を戴いた正装の肖像を描き上部に元和七年五月七日逸傳の書いた「奥州會津郡大守」云々の贊がある。氏郷の卒後二十餘年を経た時供養のため作られたもので國寶に指定されて居る。

【寶坂の蛋白石産地】 驛の西南八料、寶坂村屋敷にあ

り、産出の蛋白石は眞珠岩の中に卵状をなして介在し淡青色半透明のものが多し

上野尻を出ると右窓に阿賀ノ川の銚子ノ口の勝景を見る。兩岸の巨岩は相迫つて河幅甚だ狭く、河流はその上に瀕をなし、その下に激流をなして居る。こゝで鮎、鱒、はやなどの大きなものの漁獲がある。徳澤四哩二を過ぎて間もなく河を渡り、新潟縣越後に入り、右岸に沿うて下り、トンネルをぬけ、豊實二哩二を過ぎ、またトンネルをぬけ右から来る支流實川を渡り日出谷七哩二を経て本流を渡る。それより引入澤山のトンネル(延長二哩)をぬけまた本流を渡り、鹿瀬三哩二を経て對岸麒麟山を望み、津川二哩二に着く。

津川驛

(一圖たし) 新潟縣東蒲原郡湯川村

會津若松から 七三籽二一四五哩五
新津から 三八籽六一二四哩

旅館 菱屋

津川町 江戸時代には會津藩に屬し、その代官所を

これから阿賀ノ川と離れ平野に出て桑畑、稻田の間を過ぎ早出川を渡り五泉七籽二に着く。

小山田の櫻

馬下驛から西南の四籽、菅名嶽の麓にある。越の小吉野と稱せられる。この櫻は指定の天然記念物である。

五泉驛

(一圖たし) 新潟縣中蒲原郡五泉町

新津から 一〇籽一六哩二

蒲原鐵道線

五泉村松間 四籽二一哩六

五泉町

袴地五泉平で有名な處、その昔仙臺平に倣つて新意匠を加味したもの、今は仙臺平を凌駕する産額があり、その他生羽二重、生紹、八橋、斜子などを産し市況活潑である。

村松町

驛から南四籽餘その間電車が通じて居る。奥田氏三萬石の城下であつた處。歩兵第三十聯隊の所在地で、古來村松縞の産に名を得、今は生絹、輸出向廣幅綿縮をも産する。町の東南に風趣に富む公園がある。

置き、山の港と稱せられ、會津街道唯一の都會として旅客の親しんだ處。常浪川の阿賀ノ川に會する處に位し東に麒麟山を仰ぎ、江山の景致が絶佳である。

赤崎山スキー場

驛の東北半籽。

麒麟山 驛の東南二籽、海拔一畝米、もと津川城のあつた處。その形状麒麟に似て東方は屏風を立てたやうな高い絶壁をなし、紅葉の勝地である。

小花地

津川の西北四籽にある阿賀川の峽流、兩岸

峻峻、水清く松青き處、本藏岩、經岩、衣岩、大黒岩、惠比壽岩などの巨巖があり、秋季は紅葉の美景が見られる。これを觀賞するには津川から馬下まで舟で下るがよい。

津川

津川から下つて對岸に燒山を見、奇岩の勝ある本藏

岩の下をトンネルで過ぎ河を隔て、砥石山を眺め白崎七籽六に着く。それより河を渡りトンネルをぬけて五十島二哩六を經、十四個のトンネル及六個の雪覆を通過して馬下六哩一を過ぎる。

五泉から西北に進み稻田の間を過ぎ、第三紀層の丘陵地を左に見て石油井の櫓を處々に見ながら新津六哩に入る。

新津驛

(一圖たし) 新潟縣中蒲原郡新津町

新津から 一七籽一一〇哩六

郡山から 一七四籽一一〇八哩二

信越本線

新津-新潟 一七籽一一〇哩六

羽越本線

新津-高崎 三二〇籽四一九三哩

羽越本線

新津-秋田 二七二籽八一六八哩九

旅館

〔驛前〕 美好館

一日平均

〔町内〕 梅屋 森清

乗車人員

一、四四八人

降車人員

一、四六八人

發送貨物噸數

三六〇噸

到着貨物噸數

九六噸

主要發送貨物

石油類 米 繭 鐵及鋼製品類 葦製品 鐵及鋼

木材類

機械類 陶器類 肥料類

主要到着貨物

石炭 鐵及鋼製品類 材木類 木材 セメント類

藥品類

繭 薪 大豆粕

【新津町】 東南に秋葉山を負ひ、三面平野を廻らし能

郡山新津間

代川に跨り、新津油田を控へ、信越、磐越、羽越の三鐵道線の連絡地點をなし、物資の集散盛に行はれ、人口約二萬、運輸、保線の兩事務所がこゝに設けらる。

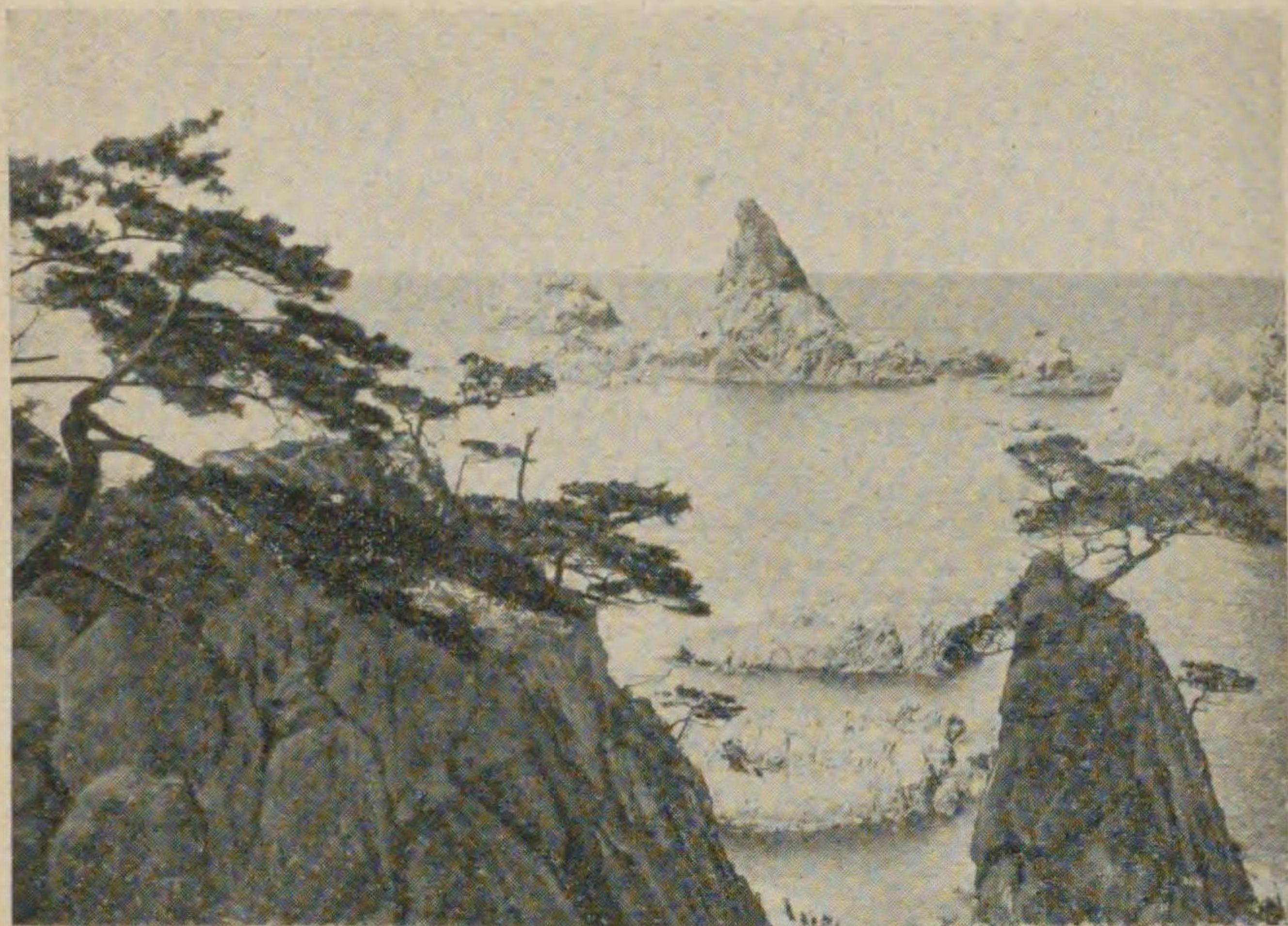
【新津油田】 新津町外四個村に跨り、延長八軒に及ぶ大油田で、日本石油會社の經營。明治七年から手掘を行ひ、二十六年に上總掘を使用し、大正二年廻轉式鑿井機を用ゐ、同年第二號井に日産千石に及ぶ大噴油を見、爾來發展を來し今日に及ぶ。油井は概數水壓循環掘九十、綱掘五百四十、上總掘百八十、手掘十に及ぶ。原油は各油井から鐵管で製油所へ送る。その鐵管の總延長は一五軒。鑛夫千百人。原油年産約三十三萬石、價額三百四十萬圓。

【田家の煮壺】 驛の南一軒半、秋葉山下にある舊き油泉、六角形の小池で深さ一二米、水面に天然瓦斯を發生し恰も水の沸騰する狀をなし、昔は越後七不思議の一とせられて居た。

【秋葉山】 町の背後に屹立、海拔九一米、驛から東南三軒で山頂に達する。櫻の名所。山上の秋葉神社は眺

望美に富む。山麓には町民の飲用水の源泉幸清水がある。

流 川 笹



櫻 の 堤 川 治 加

新津 秋田間

羽越本線は信越本線の新津から分岐し、ほど日本海に沿うて北進し、鶴岡、酒田を経て秋田に至り奥羽本線に連る。沿線には笹川流、象潟の勝景、烏海山の秀峯、瀬波、温海、湯野濱の温泉などがある。

新津を發し北に向ひ、信越本線から右に分れ、東に折れて能代川を渡り、越後平野の稻田の間を走り阿賀ノ川の鐵橋にかゝる。この鐵橋は延長約一、三〇〇米、東海道本線の天龍川鐵橋より長きこと六〇米、本州最長の鐵橋である。これより漸次東北に轉じ、水原六哩三に着く。

水原驛 (一圖たち) 新潟縣北蒲原郡水原町

▽乗合自動車 杉村温泉行 保田行

【水原町】 江戸時代に天領六萬石を支配した陣屋のあつた處で農産物集散の一中心である。驛の東方二軒弱の瓢湖には蓴菜を産し、湖畔は櫻の名所である。

【八房梅】 驛の東南五軒半、京ヶ瀬村小島の梅護寺境

新津秋田間

内にある。花は薄紅八重、一輪の花に八つの實を結ぶ指定の天然記念物である。また寺内には枝垂海棠がある。これを珠數懸櫻と云ふ。

【三度栗】 水原驛の東南六軒半、笹岡村福井新の風除林にある。その葉は矢筈狀をなすより矢筈栗とも云ふ。毎年七月上旬、八月下旬、十一月頃三回花が咲くので三度栗と稱せられる、指定の天然記念物である。

【出湯温泉】 (三圖さち) 驛の東九軒自動車の便あり、今板、村杉と相連つて一つの温泉郷をなして居る。鹽類泉で皮膚病、胃腸病に効くと云ふ。旅館 大石屋、清廣館、白根屋、洞春臺、外五軒。内湯は洞春臺と白根屋。

【今板温泉】 (三圖さち) 驛の東九軒、出湯と村杉の中間にあり、鹽類泉で、胃腸病、リウマチスに効くと云ふ。旅館 湯本館、長谷川館、外五軒、

【村杉温泉】 (三圖さち) 驛の東一一軒自動車の便あり、鹽類泉で、リウマチス、婦人病、胃腸病などに効くと云ふ。旅館 荒木、長生館、角七、荒清、外十數軒。

内湯は長生館のみ。

水原を出て左に整理された廣き稻田を見、間もなく左窓に福島湯の湖面を眺め、天王新田七軒六を過ぎ新發田八軒四に着く。

【月岡温泉】(三圖さち) 天王新田驛の東四軒半自動車の便あり、食鹽性硫黄泉で、皮膚病、リウマチス、胃腸病に効くと云ふ。旅館 月岡館、青木館、菅名館、木村屋、外六軒、内湯は月岡館のみ。

新發田驛 (一圖たち) 新潟縣北蒲原郡新發田町

新津から 二六軒一―一六哩二

▽赤谷線 新發田 赤谷間 一四軒二―八哩八

▽乗合自動車 菅谷行 月岡温泉行

▽旅館 長谷川 村甚

【新發田町】 加治米産地の中心市場で、溝口氏十萬石の舊城下、城址には歩兵第十六聯隊の兵營がある。人口約二萬。

【加治川堤の櫻】 加治川の水害を豫防するため新發田

また水垢離を取る小瀧もある。一月十二日、五月三日、九月十三日の祭日には参拜者が講中を組織して近村から集る。更に登れば一王子神社があり、頂上には三王子神社の奥ノ院がある。山頂は展望がよい。

【小戸の七瀧】(二圖たち) 赤谷驛の東北九軒、二王子岳の南斜面内倉川の上流に懸る鬚瀧、樋瀧、不動瀧、赤熊瀧、曲瀧、赤瀧、飛込瀧の總稱。中にも不動瀧が最も壯大である。

【赤谷鑛山】 驛の東南九軒、赤谷村上赤谷にあり、地質は古生代の石灰岩、粘板岩及花崗岩より成り、鑛層は石灰岩と花崗岩の接觸部に存し厚さ二米半乃至四米半、鑛石は雲母鐵鑛で、黄銅鑛と黄鐵鑛を混じて居る。

新發田を出て東北に進み右の方二王子岳(海拔二、四三米)を眺め、櫻花で名高い加治川を渡り、加治四軒二に着く。

の西北なる眞野原から次第濱まで延長五軒の分水路を開鑿し水閘を設け洗堰を造り水量を調節するやうにした。その竣工記念として右岸堤上延長一五軒、左岸堤上延長一七軒の間に五千五百株の染井吉野櫻を植栽した。それが成育して北越の一勝地となつたものである。觀櫻の中心は眞野原の水閘附近で、新發田驛から西北七軒、加治驛から西方五軒半、花期自動車が行く。

赤谷線

新發田 赤谷間 一四軒二―八哩八

新發田から東南に向ひ、五十公野四軒二を過ぎ加治川に沿ひ米倉四軒三を経て赤谷五軒六に着く。こゝは飯豊山登山者の一根據地で途中湯ノ平温泉があり、驛から山頂までは約三〇軒。

【二王子岳】(三三圖なち) 五十公野驛の東方、直線距離一二軒半、海拔一、四三米、西麓の田具は登山口にあたり驛の東七軒半、これより一本杉を経て二王子神社まで三軒、こゝに参拜者の参籠する龍堂があり、

加治驛

新潟縣北蒲原郡加治村 新津から 三〇軒二―一八哩八

【菅谷のあきになれ】 驛の東北一三軒、菅谷村溝足の米澤街道南側路傍にある。俗に「お木」と云ふ。本幹は枯死し、皮部のみ生存、これより枝葉を出し地上一〇米ばかり。分布上その南限にあるものと認めらる。

【菅谷不動】(二圖たち) 驛の東方八軒半、新發田驛から東北九軒半、菅谷村菅谷にある明王護國寺、一に菅谷寺と云ふ。建久年間護念上人の創建にして、當時は結構壯麗を極めたものであつたが、火災に罹つて後は昔日の俤がない。本尊不動尊の頭首だけは最初のもので今に存して居ると云ふ。新潟縣下著名の靈場として参詣者極めて多く、堂内に参籠する眼病者が常に絶えない。参詣者は凡て境内の小瀧と垢離場に田螺たしを放生するが例である。

加治を出て東北に向ひ櫛形山脈を右に見、稻田の間を過ぎ、金塚五軒五ノ條三軒九を経て胎内川を渡り、

平木田^{五軒六}を過ぎ、坂町^{三軒二}に着く。

【大峰山の櫻】 金塚の東南四軒。

坂町驛 (一圖た4) 新潟縣岩船郡保内村坂町

新津から 四七軒九—二九哩八

この驛は米坂線の終點と豫定せられて居る。同線は目下米澤より今泉まで通じ、將來これより西方に向ひ宇都峠を経て荒川の谷に出で、小國を過ぎ新潟縣に入り、鷹ノ巣温泉より西北に折れて平野に出で坂町に達する筈である。

【乙寶寺】 (眞言宗) (二圖た4) 驛の西方五軒、乙村^{きつと}にあり。本堂には本尊、胎藏界大日如來坐像の外に阿彌陀如來坐像、藥師如來坐像がある、何れも木彫で國寶となつて居る。境内の三重塔は元和六年の建築で、特別保護建造物に指定されて居る。丑の年、未の年の開帳の際は大に賑ふ。

【湯澤温泉】 (三圖さ4) 驛の東南一三軒、自動車の便あり、鹽類性硫黄泉で皮膚病、痔疾、リウマチスなどに効くと云ふ。旅館 高橋館、桂屋、山城屋、他に内湯

を經た椿の原生林がある。こゝは昔磐舟柵の置かれた跡と云ひ傳へて居る。

村上驛 (一圖た4) 新潟縣岩船郡村上町

新津から 五九軒四—三六哩九

▽乗合自動車 瀬波温泉行

【村上町】 門前川の左岸、臥牛山の麓に位し、もと内藤氏五萬石の城下で、その城址は臥牛山の上にある。町家の村上町と舊藩中の村上本町を合して、人口約九千、特産には堆朱、堆黒などの漆器があり、東北に接續する山邊里村には山邊里平を始め絹織物が出來、北方の三面川には鮭を産する。この川は古來その名が高く舊藩士の共同事業で村上鮭産養育所を設けて人工孵化を行つて居る。

【瀬波の噴騰泉】 驛の西南二軒餘、瀬波町松山にある丘陵の北斜面海拔六〇米、海岸より五〇米に位す。明治三十六年石油井鑿掘の目的でこゝに高さ二〇米の櫓を起し、鑿井機を以て掘井に着手したが、深さ二〇米に達した頃から瓦斯が噴出し、火を點することが出來

なきもの五軒。

【高瀬温泉】 (三圖さ4) 驛の東南一四軒、自動車の便あり。アルカリ性食鹽泉で、神經諸病、胃腸病、婦人病などに効くと云ふ。旅館 升屋、米澤屋、大黒屋、外四軒、皆内湯なし。

【鷹ノ巣温泉】 (三圖さ5) 驛の東南一六軒、自動車の便あり、荒川の清流に臨む。鹽類泉で、神經諸病、婦人病、リウマチス、胃腸病などに効くと云ふ。秋季紅葉が美しい。旅館 鷹巢館。

坂町を出て荒川の鐵橋(延長三米)を渡り北に向ひ、右に要害山を望み、岩船^{七軒二}を過ぎ岩船湯址の稻田を經、越後平野を辭し、山居山の丘陵を横ぎり村上^{四軒二}に着く。

【岩船町】 岩船驛の西方二軒半にある漁業地、北西方栗生島の内浦と三五軒の間に定期航路が開けて居る。町の北方琵琶川の對岸に明神山と稱する砂丘に式内の石船神社がある。今縣社で、境内には松の外に數百年

た。その後尙も掘井を繼續し翌年深さ二五〇米に達した時轟然たる音響と共に熱湯が噴騰し高さ二〇米に及んだ。爾來絶えず噴出を繼續して今日に至る。現今は噴騰の高さ十餘米。瀬波温泉はこの噴騰泉から引湯して入浴に供する。

【瀬波温泉】 (三圖さ4) 驛の西南二軒、自動車の便あり。食鹽泉で、リウマチス、皮膚病、胃腸病などに効くと云ふ。日本海に面し、栗生島、佐渡ヶ島が眺められる。旅館 萩野屋、養眞亭、三島屋、赤小、大和屋、臨海ホテル、外六軒。

【葡萄鑛山】 驛の東北六軒、葡萄峠の麓に位する亞鉛及鉛鑛山、鑛脈は中生統の頁岩中に岩脈をなす石英斑岩の裂罅を充填するものである。鑛石は閃亞鉛鑛、方鉛鑛で、福島縣の大寺製鍊所へ送る。

村上を出て左方に遠く瀬波噴騰泉の蒸氣濛々たるを望み三面川を渡り、二個のトンネルを過ぎ日本海岸に出る。これより北に向ひ左に岩礁多き海岸の奇景を眺

め、海上遙に粟生島を望み幾多のトンネルをぬけて進む。間島四七軒一越後早川三哩一の二驛を過ぎ、四個のトンネルをぬけて桑川六六軒八に着く。笹川流を遊覽するものはこゝで下車する。

桑川驛（二圖た4）新潟縣岩船郡下海府村桑川

村上から 一八軒八一―一哩七

温海から 三一軒七一―九哩七

▽遊覽船 笹川流經由勝木行

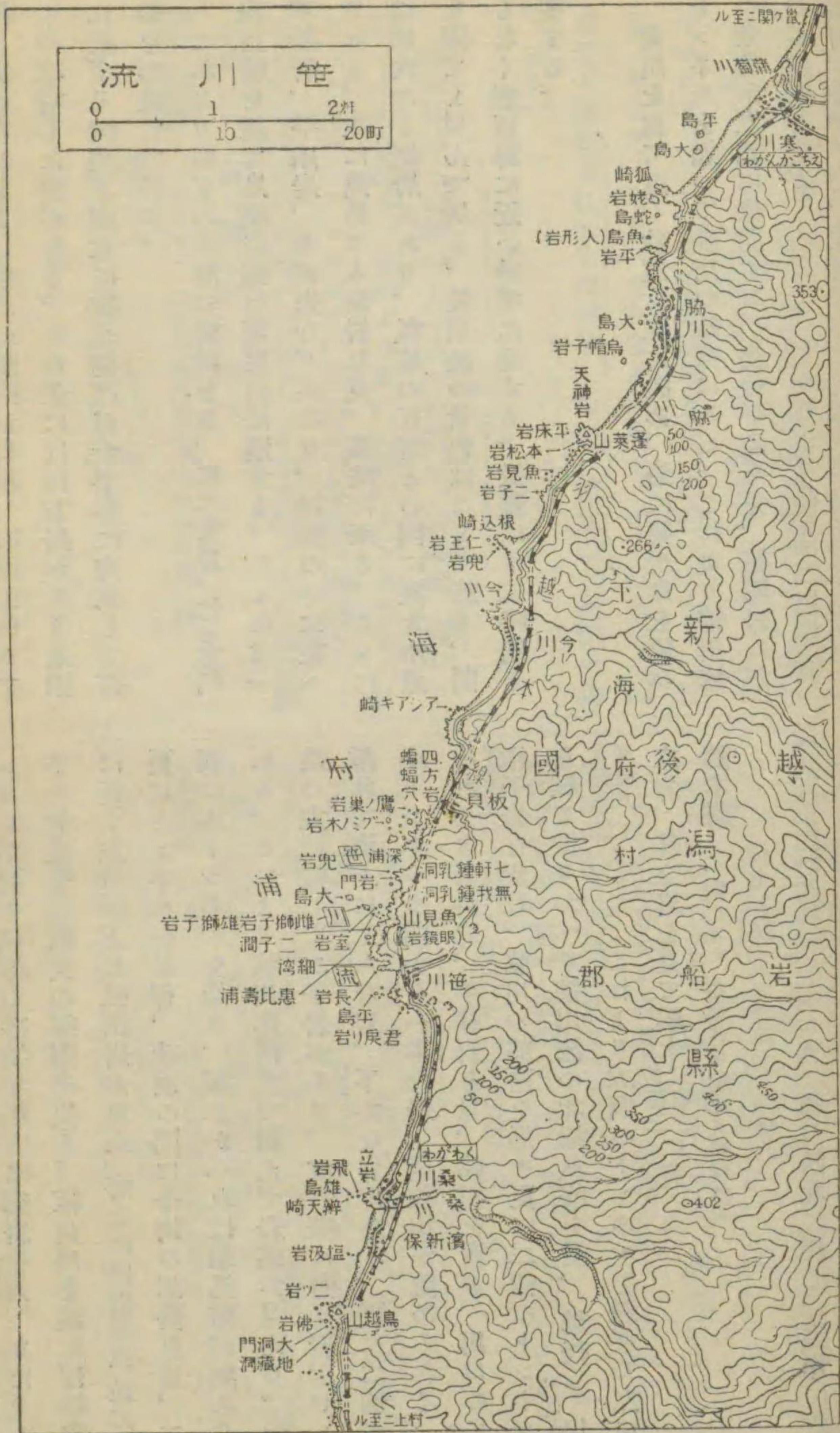
▽旅館 笹川ホテル 龜屋

【笹川流】（二圖た4）海府浦の中心部をなし、桑川驛の南方一軒半の鳥越山から北の方寒川驛の西南半軒餘の狐崎に至る延長九軒の海岸を海上遊覽區域とする指定の名勝である。白砂の濱邊を點綴する花崗岩の岬角岩礁が海波の浸蝕を受けて珍奇なる形態を呈し、その上に青松が生えて勝景をなして居る。

桑川驛に近い濱邊から船で南に進めば立岩、飛岩、雄島、辨天崎などを眺め、更に鹽波岩を見、二ツ岩を経て鳥越山に至れば、大洞門、地藏洞などがある。大

洞門は長さ五〇米、中に支洞が五個ある。その中鍾乳石の見られるものがある。地藏洞は奥行四米酸化鐵華から成る鍾乳石、石筍、石柱様のもの及六段の酸化鐵華堆がある。

鳥越山から引返し、海上に列をなし平島に及ぶ數多の岩礁を見、長岩を経て細灣に入る。灣は長さ一〇米に及ぶも幅は一〇米に過ぎない。それより二子澗を経て恵比壽浦に出る。その海岸には魚見山の半島があり、室岩、雌獅子岩、雄獅子岩、大島などが列を造つて連なる。こゝは笹川流中の第一勝である。魚見山の眼鏡岩には二つの洞門を有し、室岩には洞窟がある。次に海岸に沿うて進めば陸上に無我鍾乳洞がある。奥行三〇米、洞窟内は天井、周壁など炭酸石灰の皮殻蔽はれ、鍾乳石、石筍には笹川流の諸洞窟中最大のものがあり、長さ一二種に及ぶ。更に岬角をなす處に出れば七軒鍾乳洞がある。これに隣る兜岩には延長一米の洞門がある。この附近は景色が勝れて居る。次に深浦の砂濱を過ぎ、ぐみのき岩、鷹ノ巣岩を



經、蝙蝠穴を見る、中には蝙蝠が群棲し底面にはグアノの堆積した處がある。その先には四方岩があり東西に通ずる洞門と南北に貫く洞門が十字形に交叉して奇勝を形成して居る。

これよりあじあき崎の岩礁を見、更に兜岩、仁王岩、根込崎を経て島臺に似た蓬萊山に達する。こゝには一本松岩、平床岩、天神岩などがあり、絶勝の一に數へられる。次に魚島の人形岩を見、狐崎に至る。こゝには巨大なる姥岩があり、狐崎の巨岩との間に狭き水道を隔て、並んで居る。笹川流の景色はこゝで終り、間もなく寒川驛に近い砂濱に達する。遊覽には三時間を要する。

桑川を出て近く砂濱を左に眺め、遙に粟生島を望みトンネルを通つて笹川の部落に入る。これより笹川流の景色が左窓に展開する。先づ平島を見、花崗岩の割目の細灣を過ぎ、トンネルをぬけ、惠比壽浦の眼鏡岩、室岩、雄獅子岩、雌獅子岩、大島などを望む。更にト

岩より成り、北部には玄武岩が露出して居る。山上に八幡宮があり、全山の原始林は神社の森林として保存せられて居る。樹種はもち、杉、けやき、ぶな、いたやかえで、かやの大木を始めもみ、赤松、とち、つばき、あさだ、しな、ならなどがある。中には樹齡三四百年と推定されるものが少くない。指定の天然記念物である。

勝木驛から三個のトンネルを過ぎ、府屋驛三軒一を經、大川を渡る。これより更に三個のトンネルをぬける。その第二のトンネルは明治戊辰戦役の戦場として有名なる鼠嚙岩を貫いて居る。さて後間もなく山形縣羽前に入り鼠ヶ關三哩二に着く。

鼠ヶ關驛 (一圖た4) 山形縣西田川郡念珠ヶ關村鼠ヶ關

新津から 一〇一軒一六二哩八

鶴岡から 三八軒五二二三哩九

汽船 溫海 加茂經由酒田行

旅館 村上屋 丸長

新津秋田間

ンネルを過ぎ深浦の砂濱の彼方に兜岩を見、またトンネルを過ぎて板貝の部落に出る。板貝川を渡れば線路に近く左の砂上に弘法岩が見え、海上には岩礁が並ぶ。更にトンネルを過ぎ、砂濱の間に今川の部落を見、二個の小トンネルを通り、振りかへれば根込崎が眺められる。これより脇川部落まで絶えず岩礁が見える。線路の左に接して二子岩があり、波打際に魚見岩、やゝ離れて海上に上かな岩、下かな岩がある。更に二個の小トンネルの間から一本松岩、蓬萊山が眺められる。それより天神岩、平林岩を見、脇川を渡り、川口の烏帽子岩を望む。脇川の部落を過ぎ更に二個のトンネルを経て振りかへり笹川流の北端狐崎を見、越後寒川かんがわ五哩八に入る。これより五個のトンネルを過ぎて左に立岩、鉾立岩を見て勝木がつき三哩三に着く。

勝木驛 (一圖た4) 新潟縣岩船郡八幡村勝木

村上から 三三軒五二二〇哩八

【八幡山原始林】(二圖た4) 驛の西北に接し、海岸に屹立する八幡山は海拔八〇米の小丘で第三紀の頁岩及礫

【鼠ヶ關】 辨天島の擁する鼠ヶ關港に面し、小市街地を形成して居る。風光明媚の地で、海水浴場があり、北端に古の念珠ヶ關の址と稱するものがある。

【辨天島】(二圖た4) 驛の西北八〇米、砂嘴によつて連ねられた半島でその西南端に燈臺があり、北側にある嚴島神社は老松に圍まれ展望がよい。

【孝子慶玉の墓】 驛の北二軒、草田の大龍寺にある。慶玉は天明五年に死んだ盲孝子である。

鼠ヶ關を出て鼠ヶ關川を渡り、左に辨天島を望み、草田の部落を過ぎ、左方海濱に海蝕の結果平になつた岩石の広い面積を占めて居るのを見、數個のトンネルを経て溫海川を渡り溫海あつみ五哩五に着く。

溫海驛 (一圖た4) 山形縣西田川郡溫海村溫海川

村上から 五〇軒五二二一哩四

鶴岡から 二九軒六一八哩四

乗合自動車 溫海溫泉行

【溫海海岸】 驛の南五〇〇米に平島海水浴場、北三〇〇米に